

地域コミュニティのための改修によるコモンスペースに関する研究  
- アクションリサーチとケーススタディを通して -

2019 年度

井上 岳

学位論文 博士（工学）

地域コミュニティのための改修によるコモンスペースに関する研究  
- アクションリサーチとケーススタディを通して -

2019 年度

慶應義塾大学大学院理工学研究科

井上 岳



# 目次

<b>第一章 序論</b>	<b>5</b>
1.1 研究背景	6
1.1.1 公共性の変化	6
1.1.2 コモンズ	7
1.1.3 コモンスペース	8
1.1.4 建築ストック	9
1.1.5 CSに関わる建築家	10
1.1.6 アクションリサーチ	10
1.2 既往研究における本研究の意義	14
1.3 研究目的	15
1.4 研究方法	15
1.5 研究構成	16
1.6 用語の定義	16
<b>第二章 CSの実践に関する研究</b>	<b>18</b>
2.1 研究方法	19
2.1.1 対象地	19
2.1.2 アクションリサーチのサイクル	20
2.1.3 一人称研究の方法論の応用	21
2.2 結果と考察	25
2.2.1 展覧会 (C1)	25
2.2.2 蔵の改修 (C2)	34
2.2.3 展覧会 (C1) と蔵の改修 (C2) を通して得られた知見	43
<b>第三章 CSの設計と運営に関する研究</b>	<b>46</b>
3.1 研究方法	47
3.1.1 対象事例の選定	47
3.1.2 分析方法	47
3.2 結果	50
3.2.1 各事例の概要	50

3.2.2 空間操作 .....	55
3.2.3 建築家の役割の拡張 .....	62
3.2.4 プログラム .....	63
3.2.5 建築家の関わりへの評価 .....	63
3.2.6 CS への評価 .....	64
3.3 考察 .....	65
3.3.1 設計 .....	65
3.3.2 運営 .....	66
<b>第四章 考察と結論 .....</b>	<b>67</b>
4.1 CS に関わる建築家の意義と課題、展望 .....	68
4.1.1 CS をつくる際に建築家が関わる意義 .....	68
4.1.2 CS をつくる際に建築家が関わる課題 .....	70
4.2 結論 .....	72
4.3 展望 .....	73
4.3.1 建築的ファシリテーションの設計からの独立 .....	74
4.3.2 CS に関する展望 .....	74
<b>注 .....</b>	<b>76</b>
<b>参考文献 .....</b>	<b>78</b>
<b>謝辞 .....</b>	<b>83</b>
<b>付録 .....</b>	<b>85</b>
第2章インタビューローデータ .....	86
第2章アンケートローデータ .....	91
第3章インタビューローデータ .....	96
第3章データシート1 .....	130
第3章データシート2 .....	191
第2章展覧会図面 .....	208
第2章蔵改修図面 .....	215

## 要旨

公共サービスは行政によって市民に提供されてきたが、バブル崩壊後の資金不足から行政による公共サービスの縮小を背景に、市民が集会場の運営など独自の公共サービスを展開する、公共性の変化が起きている。この中で、広がりを見せているのが、地域コミュニティのための多目的な共有空間としてのコモンスペース（以下 CS）である。近年、持続性に対しての意識の高まりから使われていない建築ストックの改修によって CS がつくられる事例が増加している。そこで、本研究では建築設計の視点から改修による CS に関する実態把握と建築家が CS に関わる意義と課題を明らかにすることを目的とする。方法として、研究者自らが実践型研究手法であるアクションリサーチ（以下 AR）を用い一事例の CS を実践し、異なる地域状況の複数事例を対象としたケーススタディを行う。最後に、AR とケーススタディによって得られた知見を総合することで建築家が CS に関わる意義と課題をまとめる。

第一章においては本研究の目的とその社会的背景、研究構成について述べた。

第二章においては、地方小都市で CS への改修を実施した。本論の研究者が建築家として住民へのインタビューを行い、地域への共有空間の要望を確認し、CS への改修を行った。そして、AR の 4 フェーズである現状確認、計画、実施、評価と省察のサイクルを用い、インタビューから改修までのプロセスを分析し、本事例についての効果と課題を明らかにした。

第三章においては、AR で得られた知見をもとに 8 事例の改修による CS に文献調査、実地調査、建築家と運営者への半構造化インタビューを行い、共通する空間操作をまとめ、設計以外にも運営や広報など建築家の役割を確認した。その結果、共通する設計の特徴として、開放性と柔軟性、地域状況への対応、利用者の CS に対しての愛着形成が認められた。また、建築家による運営の特徴として、設計以外の役割の拡張を明らかにした。

第四章では、第二章と第三章によって得られた知見を総合し建築家が CS に関わることの意義と課題をまとめた。意義として、設計によって意匠性を高めるだけではなく、通常建築家に関われない資金の獲得、用途、敷地などの条件設定や竣工後の運営にも建築設計の技術を用いて関与し、住民との視覚的なコミュニケーションや利用者と CS の関係をつくるための部分的なセルフビルドを計画するなど、創造的な運営方法を生んでいることを明らかにした。課題として、設計の際に CS の利便性への考慮不足や、竣工後の運営への継続的な関わりの困難を確認し、課題解決のための示唆を考察した。本研究は CS に建築家に関わるニーズが高まる中で、建築家の役割の広がりの方角性を明らかにした一方、それに伴う課題も示した。

## 第一章 序論

## 1.1 研究背景

### 1.1.1 公共性の変化

従来、公共サービスは行政によって提供されるものとされてきたが、近年では、これまで一方的に公共サービスを受けるだけであった市民が、自らその一部を担い、提供する側にまわるという、公共性の変化が起こっている（今村ら 2013）。これまでの官による公共サービスでは市民のニーズに迅速に対応することが困難であったり、地域性や個別性がないがしろにされる傾向がある。現在それに対応する形で市民自らがニーズや地域性に則した公共サービスを展開していこうとしている。

ここで公共性の歴史について見ていく（図 1.1）。戦後、公共性という言葉は多くの人にとって否定的な響きを持っていた。それは公共事業を推し進める政府が、それらに対して異議申し立てを唱える市民を公共の福祉の名のもとに受忍を強いる言葉として使われていたことが理由にあげられる。例えば 1960 年代半ばには水俣病や四日市ぜんそくなど高度経済成長に伴う環境問題公害闘争の公共政策への抗議が行われていた。この頃市民は、抗議を行うことで公共サービスへ参加していた。そして 1971 年になるとコミュニティに対する対策要綱、コミュニティセ

	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010
社会背景 (日本)	● 第二次世界大戦		● 高度経済成長 ● 東京オリンピック ● 第一次産業の衰退			● バブル崩壊	● 阪神淡路大震災 ● 東日本大震災	●
公共性の 変化			● 公共建築がハコモノと呼ばれる ● 公共政策への異議申し立てが始まる ● 市民団体・NPO・NGO に注目集まる ● 地域コミュニティの重要性が認知され始める					
公共性の 変化に関する 法規		● 公民館の設置基準設定 (1949)		● コミュニティに対する対策要綱 コミュニティセンター構想施策 (1971)				● 「新しい公共」 円卓会議 (2010)
コモン スペース	● 日本初の公民館 (1941)	● 公共事業として公民館普及					● みんなの家プロジェクト	●

図 1.1 コモンスペースに関連する項目についての年表 斎藤 (2000)、石塚 (2004)、今村ら (2013)

ンター構想が施策され、地域の在り方の模索が行われ始めた。地域の拠り所として建てられた公民館が、公民館の設置基準の設定によって制度化され公共政策として普及し、公共建築がハコモノと呼ばれるなど公共政策への不満が溜まってきた。そんな公共性という言葉が肯定的に捉えられ始めたのは1990年代からだと言われている（齋藤 2000）。さらにバブル崩壊によって国家の財政破綻が露呈していくにつれて公共政策への批判的な問題意識が市民に共有されるようになった。1995年の阪神淡路大震災では救助、避難、復興という過程が、多くの部分で地域コミュニティのつながりやボランティアの活動によって成立しており、これは行政の財源の限界を示し、行政の力だけですべてが出来ると思っていた時代が幻想だったということ、全国に目に見える形でアピールした出来事となった（石塚 2004）。また、同じ頃ボランティア団体、NPO（非営利組織）、NGO（非政府団体）など市民によって自発的に形成される組織にも注目が集まるようになってきた。こうした動きを「市民的公共性」として要約できる（齋藤 2000）。さらに2011年の東日本大震災でもNPOやボランティア団体の活動が多様な役割を果たし、市民が自ら発意し公共サービスを提供するという構造が明確となった。現在において、公共性は国家と市民の対等な関係を見直し、具体的なニーズに配慮することによって成立する。

さらに、公共空間は、各アクターが共同・協働する以前に、他なるものとしてお互いに「現われ」ることが必要である。このとき公共性は自由であるか否かという点が問われる（権 2018）。このような歴史をみたとき、公共性を持つ建築の位置づけも再考する必要があると考える。公共性を持つ建築は、地域に開かれていたり、公共的なプログラムを持つだけでなく、自由であることが重要であり、利用者が主体的に建築に関わっていくことができる主体性が必要であると考えられる。

### 1.1.2 コモンズ

コモンズとは共同で管理運営される制度およびその資源そのもののことである。コモンズは特殊な種類のものや資産、あるいは社会過程ではなく、不安定で可変的な社会関係である（Harvey 2012）。コモンズはコモンズの悲劇（Hardin 1968）という論文によって注目された。これは有限の資源に対して、各人が自己の短期的利益を追求すると各自の存続が危機に陥るという社会的ジレンマのことを指す。ハーディンはこのジレンマを解消するためには、共有地の分割化、私有化による市場的解決か、共有地の利用ルールを中央政府が管理する集権国家的解決かのいず

れかを選択しないといけないと述べている (Hardin 1968)。

これに対して、オストロム (Ostrom 1990) はコモンズの事例調査から、上記以外の方法でコモンズが持続する場合があることを示し、持続するための条件をまとめた。また現在、国家の供給する公共財が減少する中、可能な対応策は住民が自身のコモンズを供給すべく自己組織化することである (Harvey 2012) とされ、注目されている。

また、エントロピー経済学の観点からはコモンズは、「私」と「公」を支える非商品化経済部門と定義され、工業化社会においては「共」の部分が小さくなり、「公」と「私」が大きくなっていると指摘している。本研究においても地域コミュニティへの貢献という点からは、縮小した「共」を再びつくっていると考えられる。

本研究におけるコモンスペースは地域に開いた建築空間であり、「市場」もしくは「行政」に管理されていないコモンズであり、またエントロピー経済学の観点からも工業化によって縮小した「共」、コモンズを再びつくるをつくる空間であるとする (図 1.2)。

### 1.1.3 コモンスペース

以上からコモンスペースは、市民による公共サービス提供のひとつに市民団体や NPO 法人など、公共性の変化を背景としてつくられ、また CS は「市場」や「行政」に管理されていないコモンズの一つであると考え。そこで、本研究ではコモンスペース (以下 CS) を以下のように定義する。CS とは、1) 地域住民を中心に誰でも利用でき、2) 利用者が空間や運営の一部の変更を行える可能性があり、3) 行政や企業以外によって管理が行われている建築空間とする。

これらのコモンスペースは私有の建築や空いている土地を自分以外の人に使ってもらうことで成立しており建築家が関わっていない例も多くみられるが、近年の建築家のまちづくりや人々の交流活動への参入 (松村 2016) から建築家が関わるコモンスペースが建築雑誌に掲載されるようになっている。そこで本研究では運営に加えて建築家による設計の観点からも分析・考察する必要があると考える。

また、運営については、運営者の判断で柔軟かつ迅速に実行へと移される点に特徴があり、制度的に上位から指定するために固定的になりがちな公共施設の運営とは大きく異なるといえる。これらの NPO 法人や任意団体、個人が設立運営するコモンスペースが各地で増加してお

り、それらの設立背景は、地域のかかえる問題によってさまざまであるとされている（小松ら 2007.1）。

#### 1.1.4 建築ストック

近年、使われていない建築を改修し活用している事例が増加している。1945 年から 1950 年は第一次ベビーブームにより人口増加率は高かったが、その後出生率の減少により人口増加率も減少した。さらに 2016 年には国勢調査開始以来初めての人口減少となり、今後も人口が急激に増加することはないと予想される。一方で、第二次世界大戦後、空襲による住居の破壊と植民地からの引き上げにより住宅不足が発生し、政府主導による大量の住宅供給が行われ、それに伴い商店街などの小売業も発展してきた。このような背景のなか、現在は建物の需要は下がり、建築ストックは次第に増加するといわれている。建築ストックの増加は社会的に悪影響をもたらす。例えば、建物の老朽化による倒壊の危険性、外壁への落書きや庭が荒れるなどの景観悪化、放火や不審者の侵入による治安の悪化が挙げられる。

このように増加した建築ストックを再利用するため、改修を行う事例が見られる。改修のなかでも、リノベーションとは既存の建物に大規模な工事を行うことで、性能を新築の状態よりも向上させたり、価値を高めたりすることをいう。リフォームが以前あった機能の回復を意味するのに対し、リノベーションは新たな機能や価値を与えるといった意味がある。また、住宅にオフィススペースを設けるなど、用途変更を伴うリノベーションのことをコンバージョンという。消費者の視点から見ると、新築と比較してリノベーションを行うと主に 3 つのメリットが挙げられる。1 つ目は消費者が自分の生活に合ったかたちに建物を変えることができる点、2 つ目は立地の選択肢が広がるという点、3 つ目はコストを抑えることができるという点である。リノベーションはただ建物を直すだけでなく、まちづくり手法の一つとして社会的効果も期待されている。

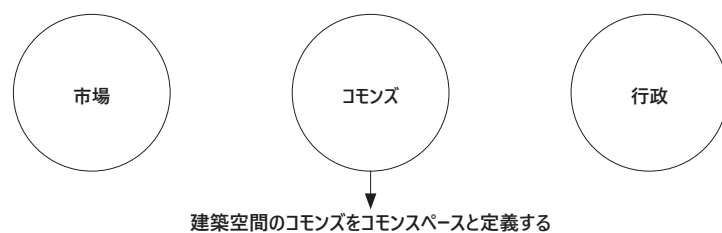


図 1.2 行政、市場ではない資源としてのコモンズ



1990 年半ばまでは古い建物は取り壊し新しい建物に建て替えるスクラップ・アンド・ビルドを繰り返すことが当たり前とされてきた。背景には、新しい建物へは高い価値が与えられるが消費された古い建物には低い価値しか与えられないなどの「商品化した建物」として消費対象となっていることが挙げられる。現在でもその傾向は続いているが、1990 年代の終わりにになると建物をできるだけ長く使い続けるために古い建物を改修したり、保存再生をして建物が有効活用される事例が徐々に増えていくようになった。地域コミュニティを見直す傾向が現れるとともに古い建物を有効活用する考えは少しずつ大きくなり「リノベーションまちづくり」が盛んに行われるようになった（松村 2016）。このようにリノベーションは建築という専門家の内で閉じがちであった世界を一般の人々に向けて開いていく現象であると捉えられる。また、行政主導の大規模な再開発に代わる民間主導の小資本のまちづくり手法としても期待されている。

#### 1.1.5 CS に関わる建築家

1995 年と 2011 年の震災以降、建築家が使われていない建築ストックを改修し CS をつくる事例が建築雑誌や書籍（猪熊ら 2016, 馬場ら 2016, 松村ら 2016）に掲載、刊行されてきている。戦後、建築家は大規模な公共建築を設計することによって、市民の公共空間をつくってきた。近年は大規模な公共空間に加え、建築家は使われていない建築ストックを改修することで、公共空間のひとつである CS をつくりだしている。このように建築家が CS の設計に携わることは地域に残る建築ストックを用いた CS の設計表現の幅を広げる可能性がある。また、改修による小規模な CS をつくるにあたって空間だけではなく CS の設計を通して建築家自身の役割も変化していると考えられる。

#### 1.1.6 アクションリサーチ

本研究では CS の実践を研究として扱う。実践型の研究として、研究者が参加者や実験から距離をおき、それらの情報を分析して、実践や介入を分析する社会実験などの実験型研究がある。しかしながら本研究は、著者自身が設計を行い CS をつくる点で実験型の実践研究とは言えない。研究者自らが実践を行う研究手法としてはアクションリサーチ（AR）がある。AR とは、理論と実践を連結させ、組織あるいはコミュニティの当事者（実践者）自身によって提起された

問題を扱い、研究者が当事者とともに協働で問題解決の方法を具体的に検討し、解決策を実施し、その検証を行い、実践活動内容の修正を行う一連のプロセスを継続的に行う調査研究活動であり（小泉ら 2007）、現在、社会学、教育学（小泉ら 2007）、心理学（Reason ら 2001）、看護学（筒井ら 2010）、まちづくり（武田 2015）などにおいて用いられている。

AR は普遍的な法則や一般的な解を求めるのではなく、社会における課題の実行可能な解決策を見出すことである。AR では客観性、普遍性、一般性を求める従来の実証的研究とは違い、コミュニティの改善や変革のためのアクションを行うことができる。そして得られた具体的な解決策が転用可能性として、他の事例にどの程度転用できるのかを示すことが重要である（冷水ら 2015）。

この AR は主に①現状確認、②計画、③実施、④評価と省察の 4 つの段階がらせん状に循環する構成を持つ（Lewin 1946, Carr 1986）（図 1.3）。段階①現状確認として、対象の正確な観察と分析を行い、段階②計画として、段階①の結果から改善目標を設定し、過去の研究知見を参考にしつつ目的達成のための方策を検討する。また段階③実施として、具体的な活動を実践する。そして段階④評価と省察として活動内容や方策において改善すべき点の検討を行う。そのらせんサイクルを繰り返すたびに実施の分析が行われ、その失敗と効果の明確化によって初期の目的や方法が修正され、そのなかで問題解決に至る方法や問題解決を阻害する要因を発見する。そして、それらから生まれた知見を他の事例に対して転用することで、知見の共有、継承、発展を行う。

AR は、実証主義的見地から、主観的であり事例報告であると批判されることが多い（Greenwood 2015）。しかしながら単一専門領域ごとに細分化された実証主義的研究では、複雑な社会問題の解決を目指している社会実践を検証し、改善を行い、提案にまで繋げるのは難しい（小泉ら 2007）。一方 AR は複雑かつ動的で相互作用的な開放系環境を研究対象として扱い、そのなかで得られた結果は、将来の事例や他の場所での理解に適用することができる（Greenwood 2015）。

主に単一事例を扱う AR においては転用可能性を信憑性の一つの基準としている（Lincoln ら 1985）。転用可能性とは、ある状況で発見されたことが他の状況でも適用可能であるかということであり、単一事例から学んだことを他の事例に有効に応用できるかどうかにより正当性が確保される（Greenwood 2015, Stringer 2007）。転用可能性は転用先に状況が類似しているか判断

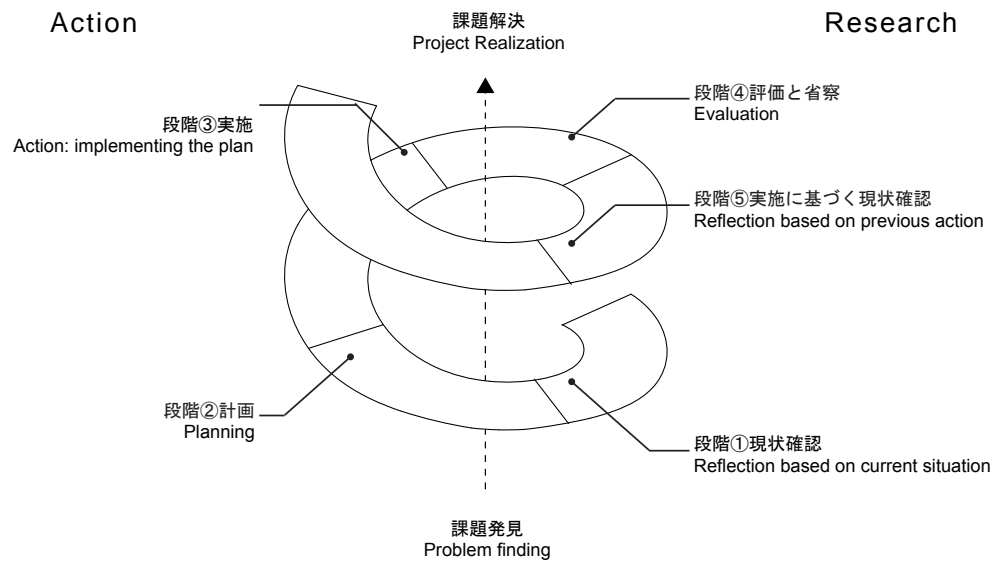


図 1.3 アクションリサーチの構成

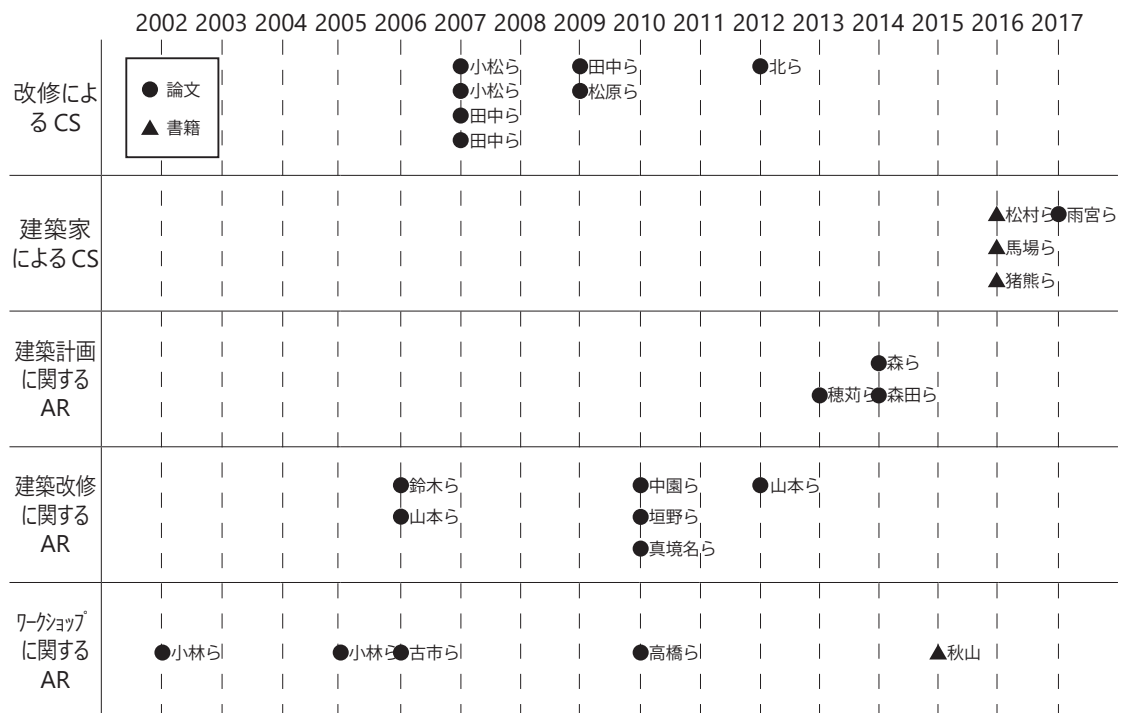


図 1.4 既往研究

するための十分な記述 (thick description) と省察 (self-critic and reflection) によって確保できる (Greenwood 2015, Lincoln 1985, Greetz 1973)。

本研究での研究方法はステークホルダーすべてが AR のらせん型のプロセスに関与しているわけではなく、また、課題解決の達成が行われたか判断は難しい。しかしながら著者が研究に主体的に関わり、課題解決に向けて行動を起こし、その過程で発見される課題を考察していく課題発見型の広義の AR として、本研究の研究方法を建築デザインによる AR と定義する。

また人工知能研究の分野でも一人称研究を行うことによって、今まで考えられていなかった身体性や状況依存性を取り扱えるようになることが述べられている。一人称研究とは、ある人が現場で出会った事象をその個別具体的状況を保ったまま、一人称視点で観察・記述し、そのデータをもとに新しい仮説を立てようとする研究である。一人称研究は従来の科学研究による普遍的な知見を求める方法論からみたとき、疑問視されることもある。しかしながら、従来の科学研究の方法論と相補的に扱うことで新たな知見を獲得できる (諏訪 堀 2015)。本研究は課題発見型の広義の AR として実践を行い、また明確に一人称を用いないが、一人称研究の応

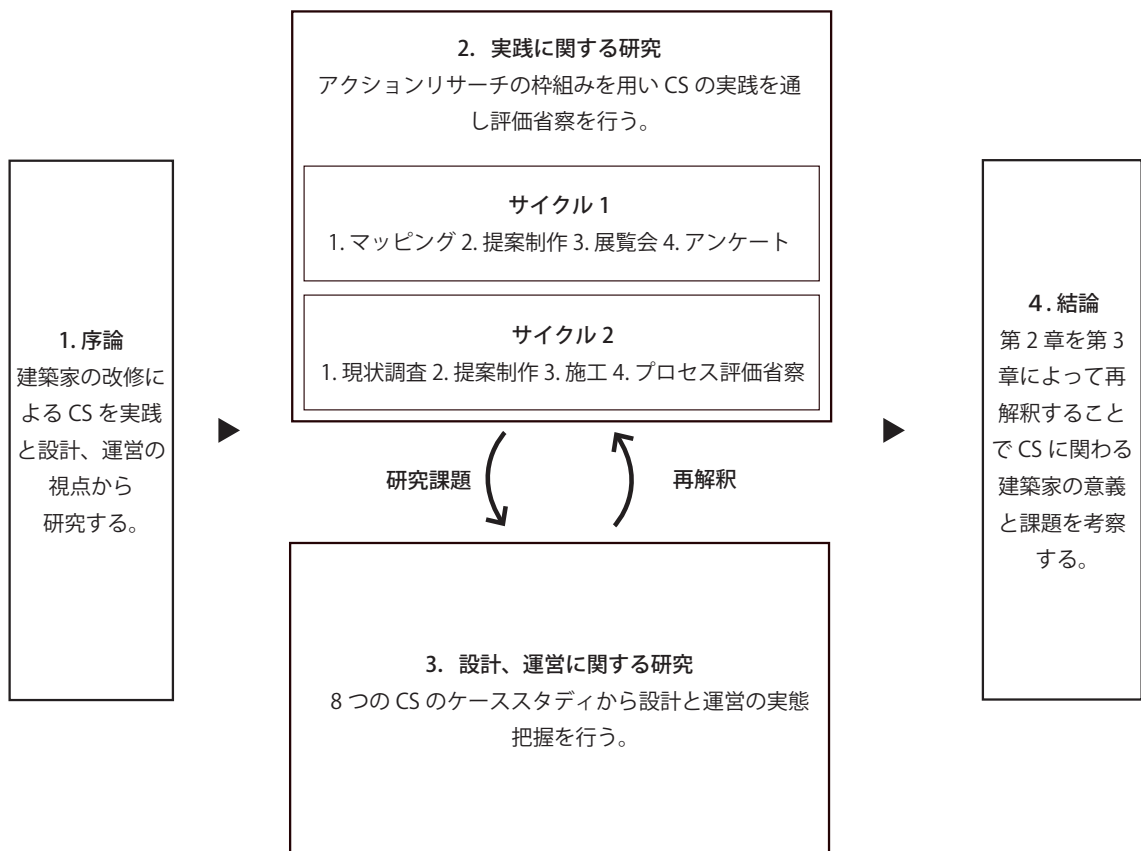


図 1.5 研究構成

用として個別具体的な状況を含めた分析考察を行う。

## 1.2 既往研究における本研究の意義

建築デザインによる AR に関する既往研究として、国内においては、高齢化社会におこる課題に対しての研究手法としてまとめられている（秋山 2015）。海外においては建築分野（Dabaieh 2013）、まちづくり分野（Kwok 2008）の論文がみられる。またランドスケープアーキテクチャの研究手法としても記載されている（Deming 2011）。

日本建築学会計画系論文集、技術報告集においては、AR と明示的に述べられたものとして、日本の建築計画学を発展途上国への転用を目的として、実態調査を行った論文（森ら 2014）、診察所待合室の改修の実践を通して待合室の計画要点をまとめた論文（森田ら 2014）、具体的なまちづくりへの参加を通して、効果と課題をまとめた論文（穂刈 2013）がみられたものの建築デザインによる AR を行ったものはみられなかった。

また、明示的に述べられていないが AR のように、実践を通してそれを詳細に記述し省察することで新たな知見を求める実践型研究がある。その中で、建築デザイン分野に関わるものは、使用されていない建築の改修を扱った論文（鈴木ら 2006, 山本ら 2006, 中園ら 2010, 垣野 2010, 真境名ら 2010, 山本ら 2012）やワークショップを行って実際にコミュニティへのアクションを行っている論文（小林 2002, 小松 2005, 古市 2006, 高橋 2010）があった。特に小林と古市の論文はワークショップ全体のプロセスを示しながら、具体的な建築デザインの提案と企画、指導まで考察している点で本研究と共通点が多いが、これらの論文は AR の理論的枠組みは使われておらず、具体的な依頼決定、基本計画、そして施工完了までの設計プロセス全体は示されていない。

本研究の第二章では、建築家が改修による CS に関わる際の役割を明らかにするため、建築デザインによる AR として、現状確認、計画、実施、評価と省察のサイクルを行い、実施のみを考察するのではなくプロセス全体を示す。また、本研究は AR の理論的枠組みを適用することによって今後、日本建築学会における多くの実践型研究の知見の体系化のための参考として貢献する。そして、本研究のプロセスの詳細な記述と省察により得られた知見を基に他の事例への転用可能性を示唆という形で考察する。

また、使われていない建築ストックを活用した CS に関する既往研究として、一定エリアを対象にアンケート調査を行い対象事例の実態を把握しているもの（小松ら 2007.1）、運営者にインタビューを行い、運営についてまとめたもの（田中ら 2007.3, 田中ら 2007.4, 小松ら 2007.10, 田中ら 2009, 松原ら 2009）、複数の関係者にインタビューを行い設立プロセスについてまとめたもの（木多 2012）があるが、さらに、建築家が参入した CS に関する既往研究として、海外にてデザインビルド教育の実践をまとめたものがあるが（雨宮ら 2017）、プロセスと教育について研究されており、設計や運営の観点を含んでいない。

これらの調査は運営者や開設者の観点から行われており、設計を含む建築家の関わりや地域状況と CS の関係の分析は行われていない。本研究の第三章では、地域状況と CS の関係と建築家の役割を把握し、建築家が CS に関わる際の設計と運営の特徴を明らかにする。

本研究では、建築家によって改修された CS を対象に第二章では、アクションリサーチによって建築家が CS に関わる際の意義と課題を明らかにし、また第三章ではケーススタディによって設計・運営の特徴を把握する。そして、第四章では、第二章を第三章によって把握した知見によって再解釈するように CS に関わる建築家の意義と課題を明らかにする（図 1.4）。

### 1.3 研究目的

本研究は、第二章において、改修による CS の実践を行い、プロジェクトのプロセス全体を示すことによって建築家が CS に関わることの意義と課題を分析、考察する。さらに第三章において、ケーススタディとして、建築家による改修された CS を対象に文献調査、実地調査、建築家と運営者への半構造化インタビューによって、CS の設計と運営での建築家の役割を明らかにする。そして、第三章の結果をもとに第二章を再解釈することを通して、第四章において CS をつくる際に建築家に関わる意義と課題を明らかにすることを目的とする。

### 1.4 研究方法

本研究では、研究方法として建築デザインによる AR を用いた実践とケーススタディを行う。

第二章における実践からは、建築家の役割を把握するため、建築家が CS のプロジェクトに関わった全てのプロセスを、AR の現状確認、計画、実施、評価と省察のサイクルを用い記述することで、課題を発見していく。そして、建築家が CS に関わることの意義と課題を考察する。

第三章におけるケーススタディとして、地域状況と CS の関係と建築家の役割を把握するために、建築家の改修による CS を対象に文献調査、実地調査、建築家と運営者への半構造化インタビューを行う。そして建築家が CS に関わる際の設計と運営での役割を明らかにする。

そして第四章においては、第二章で得られた知見を第三章を通して再解釈することによって、

CS をつくる際に建築家が関わる意義と課題を明らかにする。

## 1.5 研究構成

地域コミュニティのための CS は政治、社会、空間について複数の要素に関わり、一つの視点からその実態を把握することは困難であると言える。

そこで本研究では、研究者自ら建築デザインの実践を行い、また事例研究として文献調査、実地調査、設計者と運営者に半構造化インタビューを行う研究構成とした（図 1.5）。

## 1.6 用語の定義

本研究の中で使用する用語を定義する。例えばコモンスペースは建築用語としては集合住宅の共用部を指す用語として扱われることがあるが、本研究ではこの意味でコモンスペースを扱わない。下記に「建築家」「コモンスペース」「地域コミュニティ」「改修」の各用語を定義する。

**建築家：**建築家は建物に価値を加え、作品として雑誌等で表現活動を行う設計者を指す。建築家はジャーナリズムに発表することで、建築設計表現の更新を行っているため、建築家の作品を分析・考察することで設計表現の可能性を把握できる。また通常の建築家の役割はプログラムが決定した状態で設計の依頼を受け図面を作成し、工事監理を行う業務とする。

**コモンスペース：**コモンスペースは公共性の変化を背景とし、また建築空間におけるコモンズの一つであると考ええる。本研究ではコモンスペース（以下 CS）を以下のように定義する。CS とは、1) 地域住民を中心に誰でも利用でき、2) 利用者が空間や運営の一部の変更を行える可能性があり、3) 行政や企業によってではない管理が行われている建築空間とする。

現時点ではコモンスペースという呼称が一般的に用いられているわけではなく、似た意味の呼称として「まちの縁側（遠藤 2005）」「交流の場（小松ら 2007.1, 小松ら 2007.10）」「コミュニティ・カフェ（田中ら 2007.3, 田中ら 2007.4）」等が用いられることがある。これらのコモンスペースは私有の建築や空いている土地を集会場所、カフェなどのプログラムとして自分以外の人に使ってもらうことで成立しており、建築家が関わっていない事例も多くみられるが、近年の建築家のまちづくりや人々の交流活動への参入から建築家が関わるコモンスペースが建築雑誌に掲載されてきている。

**地域コミュニティ：**本研究で、「地域コミュニティ」はある空間に存在する住民のネットワークを指す。また地域コミュニティへの貢献とは、地域の活性化や、住民の拠点として、住民が自発的に活動を行える空間をつくることと定義する。地域コミュニティは空間という局所的な



ものだけではなく、習慣的ないし日常的な実践によって時間をかけて構造化される（デランダ 2015）。そのため、空間的な分析だけではなく、実践や運営を通して分析する必要があると考えられる。

**改修：**「改修」とは既存の建物に工事を行うことで、性能を新築の状態よりも向上させたり、価値を高めたりすることをいう。リフォームは以前あった機能の回復を意味するのに対し、リノベーションは新たな機能や価値を与えるといった意味がある。また、住宅にオフィススペースを設けるなど、用途変更を伴うリノベーションのことをコンバージョンという。本研究では、リフォーム以外のリノベーション、コンバージョンを区別なく扱うため、「改修」を用いることとする。

以上が用語の定義である。



## 第二章 CS の実践に関する研究

## 2.1 研究方法

第二章では著者がCSの実践を行う。CSに関わる建築家の役割を把握するため、建築家がプロジェクトに関わった全てのプロセスを、その個別具体的状況を保ったまま、観察・記述し、ARの現状確認、計画、実施、評価と省察のサイクルにまとめることで、建築家がCSに関わる意義と課題を明らかにする。

### 2.1.1 対象地

調査対象地は、山梨県南部に位置する市川三郷町（人口 17,584 人 [2012 年度]<sup>注1)</sup>）とした（図 2.1）。この地方小都市は、日本の多くの地方小都市と同様に都市構造の変化に伴い駅やその周

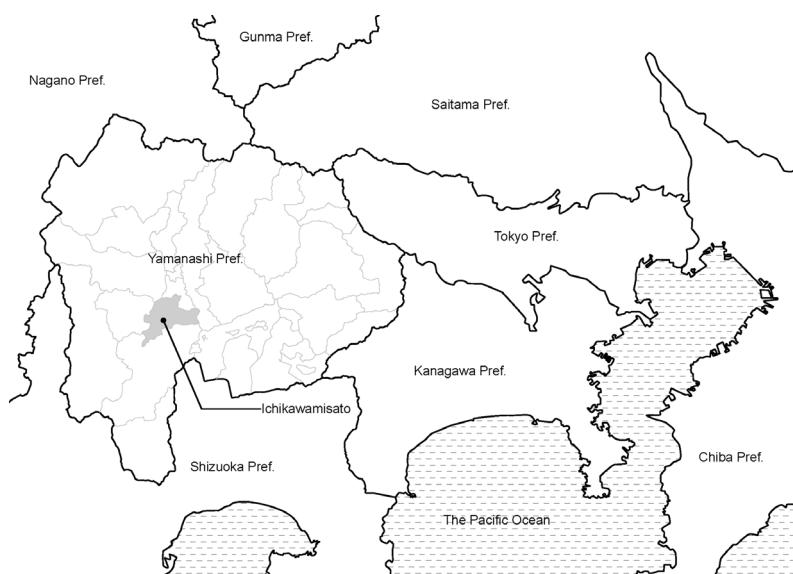


図 2.1 山梨県市川三郷町

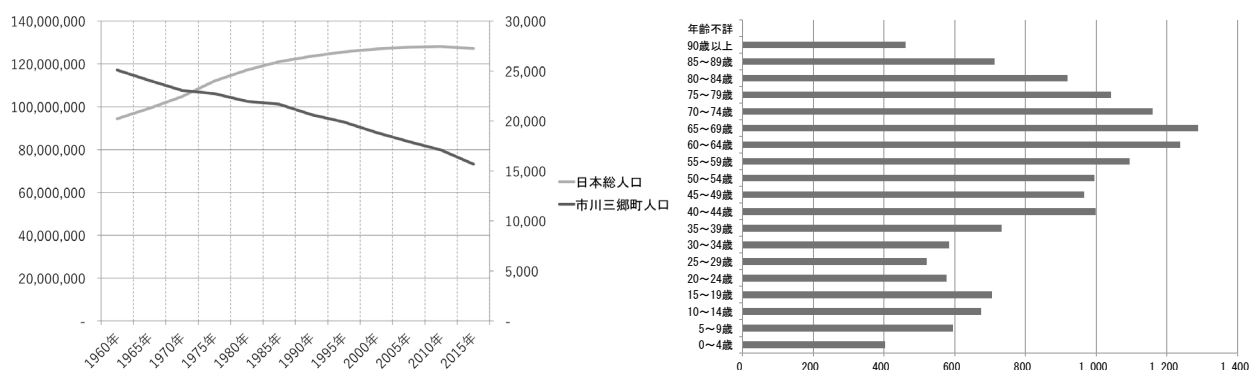


図 2.2 市川三郷町の人口推移と 2015 年度の年齢構成（総務省統計局 2018）

辺の商店街は活気が失われ、地域の衰退が深刻化している。また、過疎地であり、人口減少、高齢化が進んでいる（総務省統計局 2018, 総務省自治行政局過疎対策室 2018）（図 2.2）。本研究では、この対象地に建築デザインによる地域コミュニティ貢献のための AR を行った。ここでの建築デザインとは、構造、環境、計画などに細分化している建築分野を横断的に参照し、創造性をもった形づくりを行うことと定義する。

### 2.1.2 アクションリサーチのサイクル

本研究では AR のサイクル（①現状確認、②計画、③実施、④評価と省察）を 2 回繰り返した（表 2.1）（以下各サイクルは C1、C2 などとする）。まず、C1 として地域住民にインタビューを行い、住民の意識をマッピングした、そしてそれを基に建築デザインによる地域コミュニティ貢献のための提案を作成し展示を行った。通常、建築家は依頼されることで計画を始めるが、本研究では社会貢献として必要とされている場所において、展覧会を開催することで建築デザイン計画のきっかけをつくることができると仮定した。次に C2 として展覧会で示された建築デザイ

表 2.1 AR のサイクル

期間	サイクル		概要		
2012. 12 － 2014. 02	C1	展覧会	C1-1	現状確認	インタビュー及びマッピング
			C1-2	計画	提案作成及び展覧会の計画
			C1-3	実施	展覧会の開催
			C1-4	評価と省察	住民へのマッピングと来場者へのアンケート調査
2014. 02 － 2016. 04	C2	蔵の改修	C2-1	現状確認	デザインの調査
			C2-2	計画	提案作成
			C2-3	実施	蔵の改修
			C2-4	評価と省察	設計施工プロセスの評価と省察

表 2.2 本研究の参加者の構成

	平均年齢 (歳)	男女比 (人)		合計 (人)	団体概要
		男	女		
著者所属の大学研究室	20代	6	4	10	講師・修士生・学部生を含む
著者所属大学の学生	20代	16	11	27	建築系を専攻する学部3年生
現地まちづくり団体A	50代	22	2	24	市川三郷町の民間団体
現地まちづくり団体B	50代	13	11	24	市川三郷町の民間団体
現地の大学生	20代	4	0	4	現地の大学
現地の高校生	10代	6	7	13	現地の高等学校

ン提案に基づき、実際に建築の設計施工を行った。建築の設計施工は、使われていない蔵の地域コミュニティのための施設への改修であった。

### 2.1.3 一人称研究の方法論の応用

本研究では建築デザインによる AR を用い、一人称研究の応用を行う。課題発見型の AR とは著者が研究に主体的に関わり、課題解決に向けて行動を起こし、その過程で発見される課題を考察していく研究手法である。また一人称研究とは、ある人が現場で出会った事象

表 2.3 インタビューにおける被験者属性

	対象地区				合計	
	三珠地区		市川大門地区			
	人数	平均年齢	人数	平均年齢	人数	平均年齢
男	14	48.0	14	48.1	28	48.1
女	9	49.7	27	58.8	36	56.5
計	23	49.1	39	52.3	64	52.8

表 2.4 対象地区における市民の考える良い場所・悪い場所

	場所の名称（回答人数）			
	市街地内外公共空間	市街地内の建物	市街地外外部公共空間	市街地外の建物
市民の考える良い場所	1 中央通り商店街 (5) 2 芦川 (4) 3 芦川駅周辺 (3) 4 中央公園 (2) 5 中北通り (2)	1 宝寿院 (14) 2 スーパーセルバ (12) 3 市川高校 (12) 4 大門町民会館 (9) 5 ドラッグストア (7) 6 表門神社 (5) 7 駄菓子くるみや (4) 8 市川大門駅 (3) 9 和菓子太田屋 (3) 10 市川教会 (3) 11 市川三郷町役場 (3) 12 御陣屋跡 (3) 13 甲斐上野駅 (3) 14 定食竹田屋 (2) 15 児童館 (2) 16 町立病院 (1) 17 市川本町駅 (1) 18 芦川駅 (1) 19 上野小学校 (1)	1 歌舞伎公園 (32) 2 碑林公園 (12) 3 四尾連湖 (10) 4 芦川溪谷 (8) 5 市川公園 (4) 6 富士見公園 (4) 7 寺所の桜 (4) 8 波場公園 (3) 9 富士川大橋 (2) 10 町民グラウンド (2) 11 笛吹川 (2) 12 清州公園 (2) 13 芦川の土手 (2) 14 桜峠 (2) 15 グラウンド周辺 (1)	1 みたまの湯 (26) 2 スーパーやまと (7) 3 熊野神社 (4) 4 ホームセンターくろがねや (3) 5 ホームセンター J マート (2) 6 市川小学校 (1)
市民の考える悪い場所	1 中央通り商店街 (20) 2 芦川 (4) 3 高田地区の道路 (3) 4 中央公園 (3) 5 芦川駅周辺 (3) 6 警察署の前の道 (2) 7 北線通り (2) 8 芦川の土手 (1)	1 町立病院 (4) 2 市川大門駅 (4) 3 市川高校 (3) 4 大門町民会館 (2) 5 市川本町駅 (2) 6 表門神社 (2) 7 甲斐上野駅 (2) 8 市川三郷町役場 (1) 9 芦川駅 (1) 10 上野小学校 (1)	1 市川公園 (18) 2 碑林公園 (18) 3 富士見公園 (5) 4 歌舞伎公園 (5) 5 町民グラウンド (1) 6 芦川溪谷 (1) 7 四尾連湖 (1)	1 市川小学校 (3) 2 富士見団地 (2)

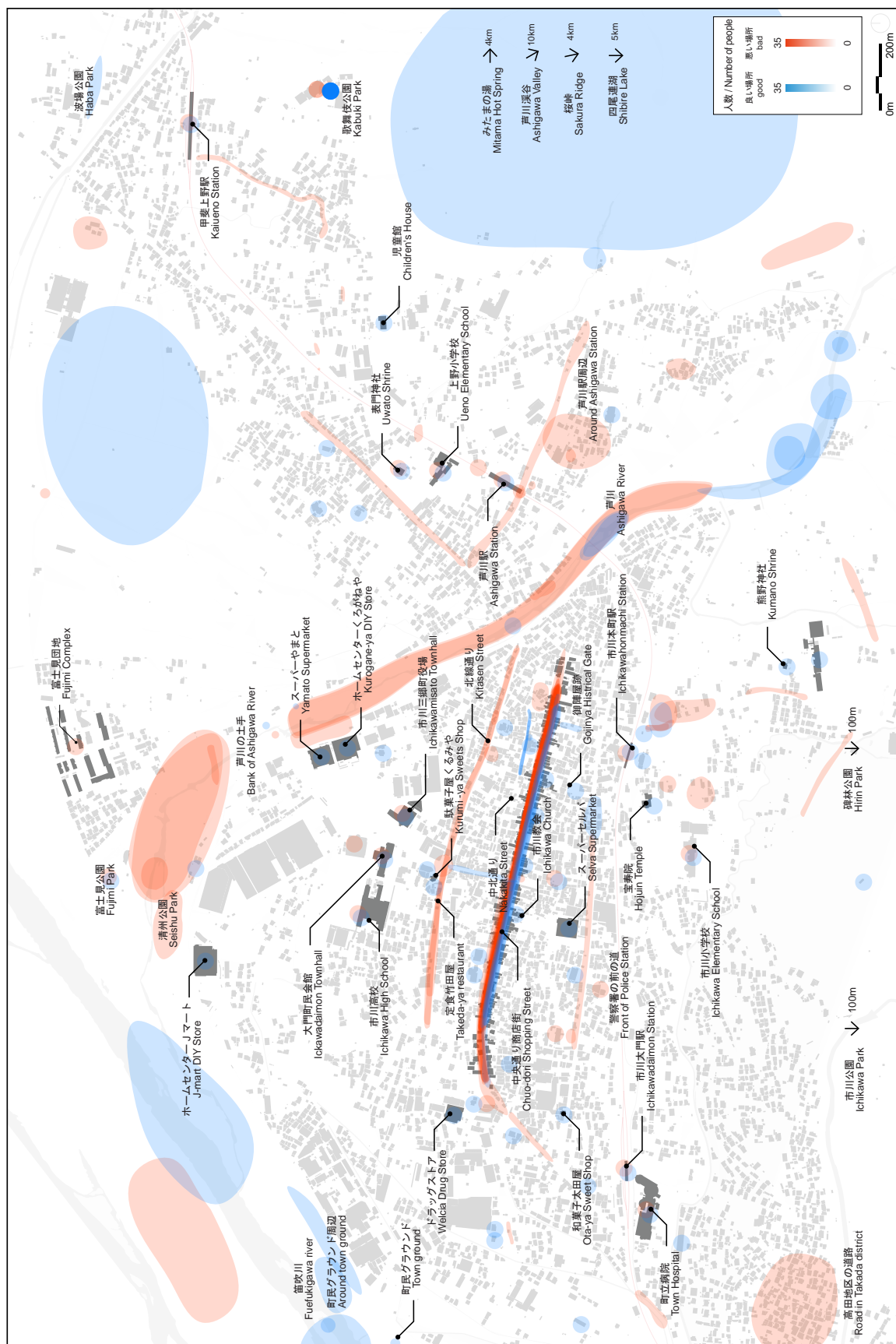


図 2.3 良いと思う場所と悪いと思う場所

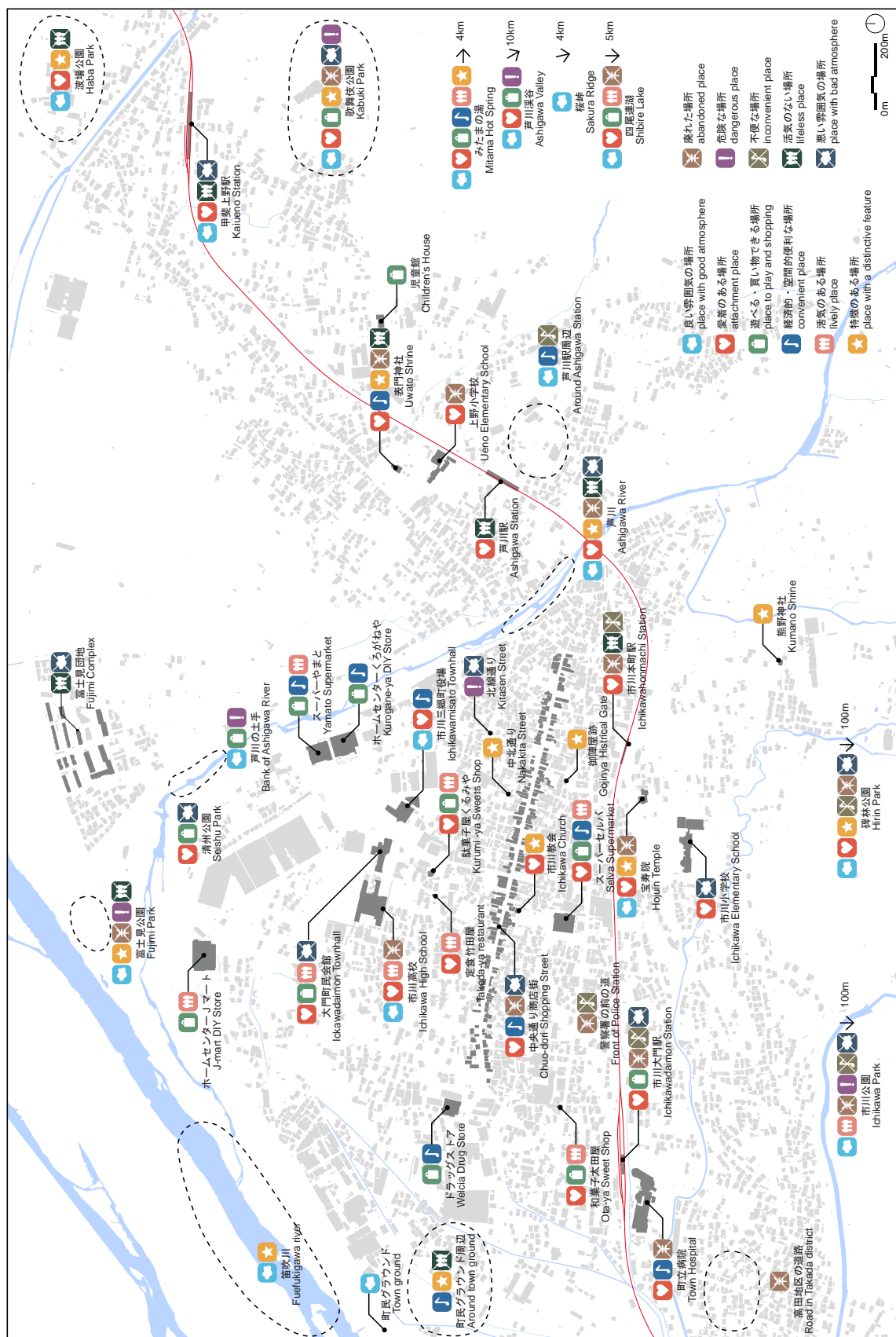









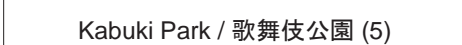
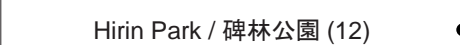




表 2.5 良い場所悪い場所の上位5つ

Rank ランク	“Good” place / 良いと思う場所 Place name (No. of selections) / 場所の名前 (選択数)	Rank ランク	“Bad” place / 悪いと思う場所 Place name (No. of selections) / 場所の名前 (選択数)
1	 Kabuki Park / 歌舞伎公園 (32)	1	 Konjaku-dori Shopping Street / 中央通り商店街 (20)
2	 Mitama Hot Spring / みたまの湯 (26)	2	 Hirin Park / 碑林公園 (18)
3	 Hojuin Temple / 宝珠院 (14)	2	 Ichikawa Park / 市川公園 (18)
4	 Selva Supermarket / スーパーマーケットセルパ (12)	4	 Fujimi Park / 富士見公園 (5)
4	 Ichikawa High School / 市川高校 (12)	4	 Kabuki Park / 歌舞伎公園 (5)
4	 Hirin Park / 碑林公園 (12)		

をその個別具体的状況を保ったまま、一人称視点で観察・記述し、そのデータをもとに新しい仮説を立てようとする研究である。

建築は複製ができない敷地に建てられるため、同様の条件での実験結果の再現性を担保する一般的な知見の考察を行うことが難しく、また地域コミュニティのためのCSは政治、社会、空間について複数の要素が関わり、一つの視点からその実態を把握することは困難である。

そこで本研究では明確に一人称を用いないが、一人称研究の応用として個別具体的な状況を含めた分析考察を行う。客観的研究では扱うことが難しいが複雑で開放系な問題を扱い、研究者が実践を行うなかで、転用可能性のある課題を発見していく。

## 2.2 結果と考察

### 2.2.1 展覧会 (C1)

町内で建築デザイン提案の展覧会を行うために、まず、文献資料調査に加え住民を対象にインタビュー時の質問内容をあらかじめ設定しておく構造化面接によるインタビュー及びマッピングを行った (C1-1)。調査結果を参考に著者と著者所属大学の学生が対象地の地域コミュニティのための4つの建築デザイン提案を作成し、集計したマッピングと建築デザイン提案の展覧会を計画し (C1-2)、実施した (C1-3)。そして、住民へのインタビューとマッピングに対し



図 2.5 提案の模型と冊子の展示と展覧会の様子

表 2.6 展覧会についてのアンケート属性

年齢	10	20	30	40	50	60	70	80	計	平均年齢
男性 (人)	1	7	3	3	5	12	7	2	40	54.5
女性 (人)	3	1	1	5	8	8	15	9	50	63.6
合計	4	8	4	8	13	20	22	11	90	59.6



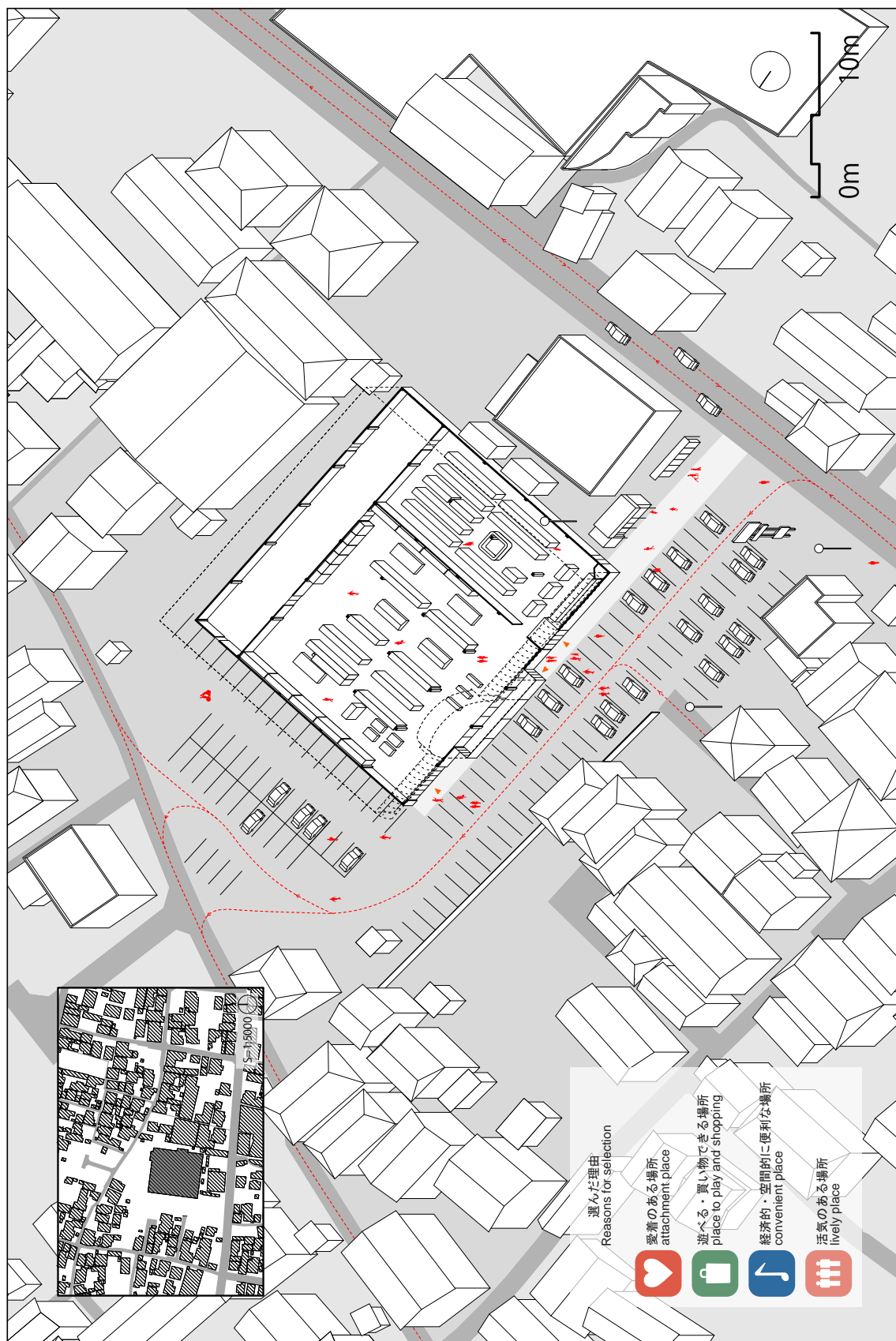


図 2.6 スーパーマーケット Selva のアクセスマップ

ての評価と省察を行い、また、展覧会の来場者を対象に各建築デザイン提案に対しての評価（5段階）と展覧会への評価（自由記述）のアンケート調査を行い、調査結果に対して KJ 法を参考にまとめ、省察を行った（C1-4）。

#### C1-1 現状確認：インタビュー

著者は山梨県市川三郷町で活動するまちづくり団体 A との協議に参加し、住民に公共空間の魅力を聞き出すためのインタビュー手法を提案し地元の大学及び高校の支援を受けながらインタビューの準備を行った（表 2.2）。その後、2013 年 5 月 4 日から 5 日まで山梨県市川三郷町の住民を対象として半構造化面接によるインタビューを実施した。縮小している地方の活性化のため、コンパクトシティの考えのもと、公共交通機関及び徒歩で移動できる範囲内の外部公共空間（市川三郷町：三珠・市川大門地区）の質や魅力の評価を目的とした。インタビュー内容はこの町の「良い所」「悪い所」とその理由であった。インタビュー方法として各グループをインタビュー係、ビデオ及び音声による記録係、そして書記係の 3～5 人で構成した 6 グループによって、住宅訪問や町で出会った住民に半構造化面接を行った（表 2.3）。

インタビューにより得られた結果を「住民の考える良い場所」と「住民の考える悪い場所」に分類し、それらを市街地内外、さらに外部公共空間、建物の計 4 つのカテゴリーにまとめマッピングするとともに（図 2.3）、選択された場所の上位 5 つを表にまとめた（表 2.4）。また、各々の場所を選んだ理由を KJ 法を参考にカテゴリーにまとめ、地図にプロットした（図 2.4）。図 2.4 と表 2.4 より良い場所、悪い場所が市街地内に多く存在することがわかった。また良い場所、悪い場所ともに同じ場所が多く挙げられていた。最も多く選択されていた中央通り商店街には良い理由として「昔は店が沢山あった。」や「昔は人が大勢いて賑やかだった。」、悪い理由として「シャッター通りになってしまった。」や「街灯が少なく、夜歩けない。」という理由が見られた。図 2.4 の中で市街地内外部公共空間として 1 番目と 2 番目に多く取り上げられている中央通り商店街と芦川に 4 つの提案を行った。

#### C1-2 計画：各提案の作成及び展覧会の計画

著者所属大学の学生が著者とともにインタビュー調査によって抽出した中央通り商店街と芦川沿いに展覧会に向け建築デザイン提案を計画した。各提案は町なかにおいて歩いていくことができる範囲を生活圏と考えるコンパクトシティの概念をもとに、経済状態に配慮し既存の使

われていない空き地や公共空間に着目し、衰退の進む中心市街地において使われていない公共空間を地域コミュニティへの貢献のため活かした提案であった。その後、作成した建築デザイン提案に対する住民や行政からの意見及び評価を得るための展覧会を計画した。会場は中央通り商店街沿いの使われていない有形文化財の古民家とした。さらに、より多くの住民へ活動の周知を行うため、インタビューに参加した住民全員への展覧会の招待状の送付、ポスターの掲示、看板の設置と共に事前に回覧板を回し住民への展覧会の宣伝を行った。

#### C1-3 実施：展覧会の開催

2013年12月1日から12日まで展覧会を12日間開催した（図2.5）。開催期間中の来場者は209人であった。また、開催期間中のメディアの取材によって住民への展覧会の更なる周知と理解を図った。

#### C1-4 評価と省察：住民へのインタビュー調査マッピングと展覧会来場者へのアンケート調査

住民へのインタビュー調査とマッピングへの省察として、以下の点をまとめる。

- ・ **商店街の重要性**：本調査においても既往研究に述べられているように、商店街が重要である（國分 2007, 新 2012）という結果が現れた（図 2.3 表 2.5）。市川三郷町の商店街は良い場所、悪い場所として多く述べられていた。これは活気があった頃の商店街への愛着がいまだにあり、現在の商店街の衰退が悪い場所としての意識をつくっている。
- ・ **転用可能性のない事例**：いくつかの結果は地域特有であり、他地域への転用が難しいものもみられた。例えば、碑林公園においては、悪い場所との多くの意見が見られるが、これは地域住民の投資の失敗と設立当初から認識されていることが一因となっており、さらに公園の維持費のために、継続的に経済的な損失を町にもたらしているからである。
- ・ **転用可能性のある事例**：結果の中には転用可能性のある事例もみられた。例えばスーパーマーケットの Selva は、市川三郷町のような地方小都市に共通して見られる、大型店舗によって商店街が徐々に空洞化のような問題に中間的な解決法となる事例となっている（図 2.6）。このスーパーマーケットは大型店舗でありながら商店街沿いの都市街区の中心の空き地に配置され、歩行動線が確保されているために、街路の連続性が保たれている。住民はこのスーパーマーケットを買い物の場所だけではなく、集会場所としても使われていた。この事例は「スケール横断型」建築の一例として転用が可能であると考えられる。歩行によって生活可能な小さな都市中心部に大型店舗のシステムを組み合わせる手法であると考えられる。また、以上のように建築を通り沿いに歩行動線を確保し配置する手法は C2 で実現された。

そして、住民へのインタビュー調査と住民の地域に対する意識のマッピング、そしてその結果を展示する展覧会を行った。マッピングをまとめることで地域住民の意識を汲み上げ、実際のCS空間の設計に反映でき、展覧会会場は会期中住民との交流の場として機能した。マッピングと展覧会によって、その後のCSプロジェクトの円滑に進めることが可能となった。

展覧会への来場者展覧会の来場者へのアンケート調査を考察する。町への4つの建築デザイン提案に関してのアンケート調査を行い来場者全体209人中90人の住民から回答を得た（表2.6）。アンケート調査は以下の二つの項目で行った。

・各建築デザイン提案に関する調査：

「この建築デザイン提案が実現化されてほしいですか」（5段階評価）

・展覧会に関する調査：

「展覧会全体に関しての意見、感想をお書きください」（自由記述）

まず、4つの建築デザイン提案に関する調査結果として、5段階評価の結果はそれぞれ平均で4.5近辺であり、その標準偏差は小さかった。

次に、展覧会に関する調査結果として、アンケート調査のうち展覧会への評価の自由記述を整理するためにKJ法で分析を行った。KJ法を行うための質問項目として『展覧会はどのように都市再生に貢献したか』の観点からまとめた（図2.7）。KJ法の結果は大きな括りから順に〔カテゴリー〕、〈サブカテゴリー〉、[ラベル]でまとめた。まず〔住民の都市再生への意識向上〕を確認した。その中では〈都市再生へのきっかけ〉や〈外部視点の提示による住民への刺激〉が確認できた。次に、〔住民からの地域への意見の取得〕を確認し、〈現状の町の課題への意見の取得〉や〈現状の町の魅力への意見の取得〉、〈町の将来への要望の取得〕を確認した。次に〔展示された提案への意見の取得〕も確認され、〈提案への評価の取得〉や〈提案への改善点の取得〕を確認した。そして〔展覧会への意見の取得〕として、〈展覧会への改善点の取得〉〈展覧会への来場者からの評価の取得〕を得たとともに〈展覧会特有の効果〉として、[多世代交流の場] [具体的な展示によるわかりやすさ]を確認した。

今後の転用に向けC1全体の評価と省察として4つの項目をまとめた。改善点として「ヒエラルキーを生む評価方法への改善」の1点、効果として「時間的な柔軟性の効果」、「交流の場としての効果」「具体的な展示によるわかりやすさの効果」の3点をまとめ以下に考察を行った。





・「ヒエラルキーをうむ評価方法への改善」：各提案への5段階評価は4.5近辺でありそれぞれの標準偏差も小さく、展示物の評価分析は難しいものであった。展示物の評価形式として、例えば実現して欲しいものに順位をつけ、その理由を述べさせるなど、展示物の評価にヒエラルキーを生む評価方法などを検討すべきである。

・「時間的な柔軟性の効果」：来場者は200人を超え、この対象地における都市活性化の催しとしては多くの人の関わりが生まれた<sup>注2)</sup>。建築デザイン提案を住民に示す際、発表会という形式が取られることがあるが、1日の開催であることの多い発表会に比べ、本展覧会は12日間という長期間の開催であった。運営のために場所と人員の負担は大きいが、展覧会や提案に感動した人に展覧会のことを聞いて訪れた人も少なからずいたことから展覧会は既存の住民のコミュニティを利用した広報活動が期待できる。また、展覧会開催中に地元メディアのテレビ、新聞、ラジオによって取り上げられたことをきっかけに来場した人もいたことから、それらの広報効果が確認できた。さらに平日、休日関係なく開催していたため、個人の都合に合わせて来場してもらうことができた。

・「交流の場としての効果」：発表会や説明会では大人数での議論の場を持つことができるが、結論への方向性があらかじめ決められていたり、批判などが一方的に集まることが多い（木下2007）。本展覧会では各提案の5段階評価が高いにも関わらず〈提案への改善点の取得〉ができたことから展覧会は発表会や説明会より肯定と批判双方の住民の率直な意見を聞き出す手段となり得る。また町なかで展覧会を行い、来場者に簡単な食べ物や飲み物を配り、互いに交流を促したことで、展覧会期間中は会場に住民たちが集まり、町なかに一時的にはあるが〔多世代交流の場〕を生むことができた（図2.7）。

・「具体的な展示によるわかりやすさの効果」：展覧会のアンケート結果から「目に見える形の展示なので、年配の方や子どもも楽しめます。」「提案が具体的でわかりやすい。」など、〔具体的な展示によるわかりやすさ〕を確認できたことから、具体的な形による展示を制作するためには多くの時間を割く必要があるものの、来場者の住民が都市再生の可能性を共有しやすくなったと考えられる（図2.7）。

地域に残されている空き地や使われていない建物は、住民へのインタビューと建築デザイン分野からの展覧会を行うことをきっかけに改修され、都市再生に生かされる可能性が増加すると考えられる。



図 2.8 敷地案内図

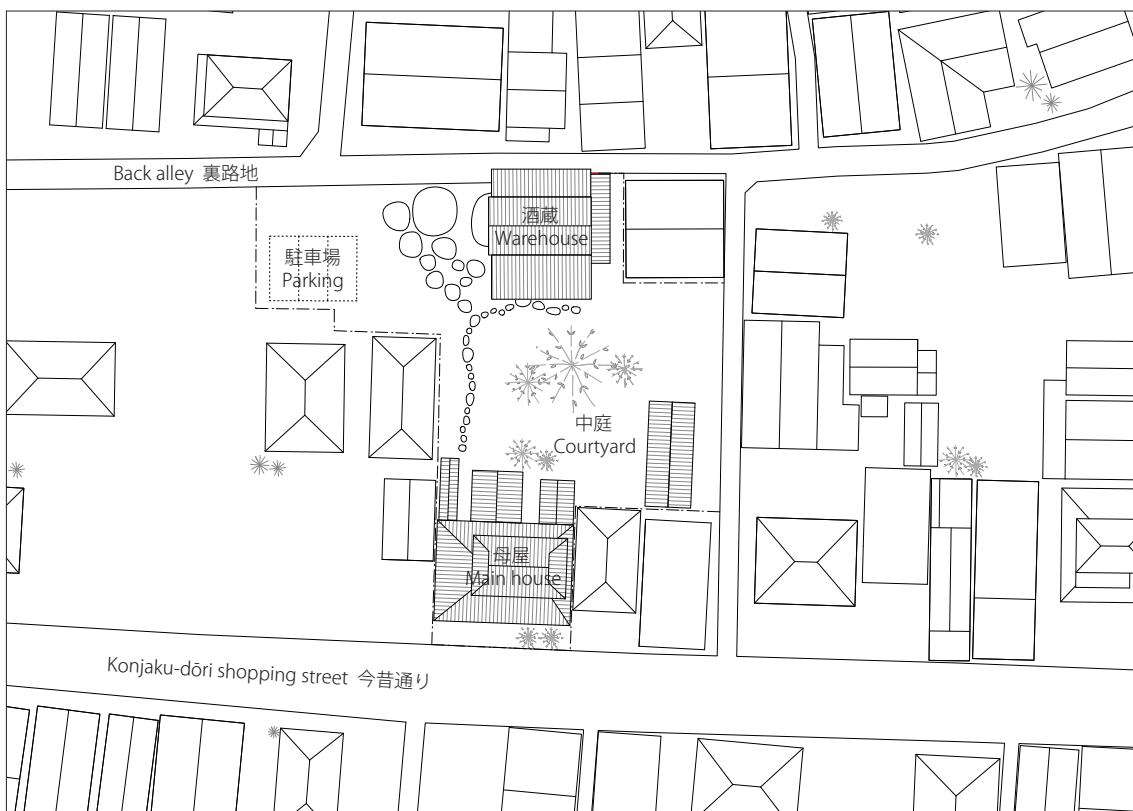


図 2.9 敷地図

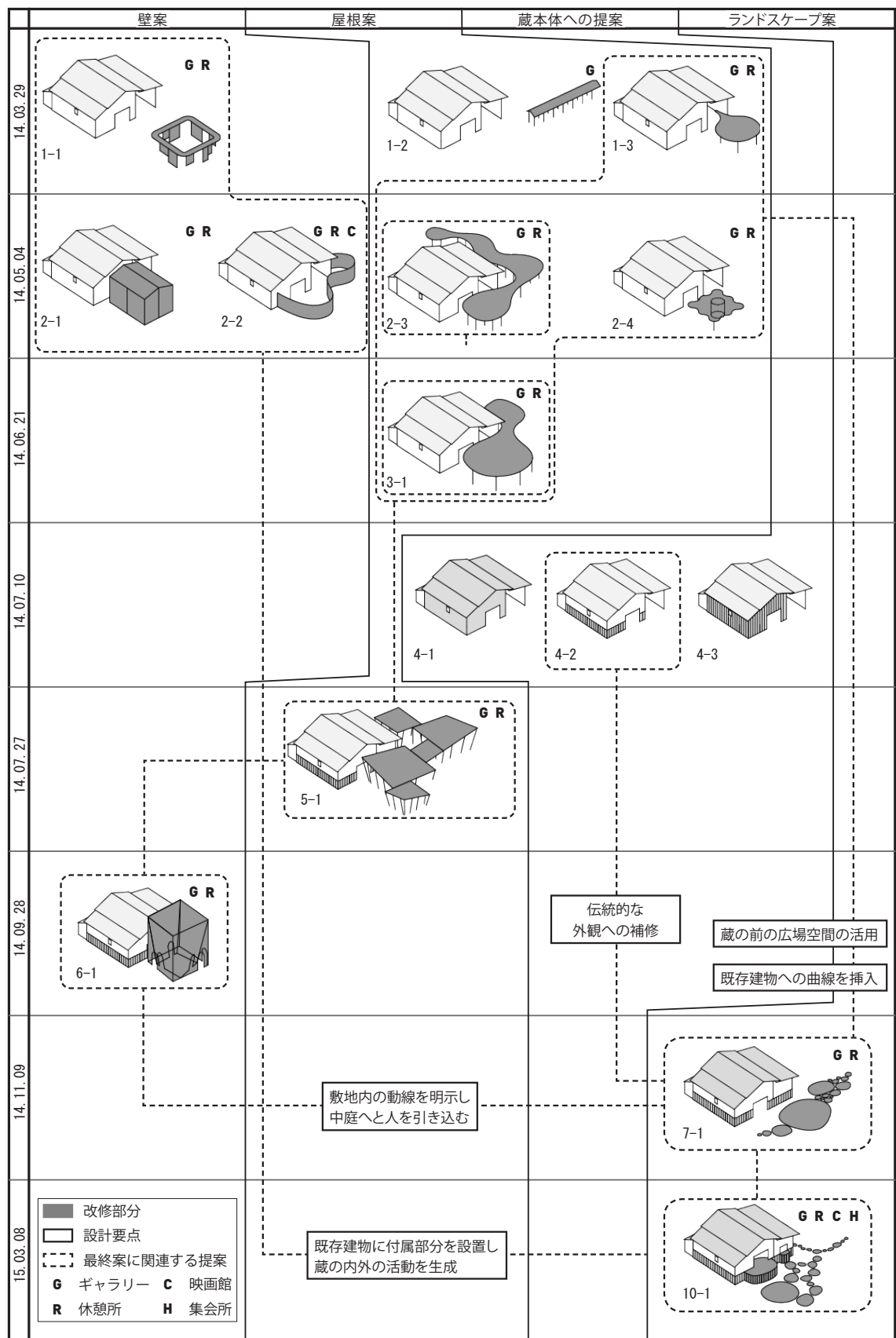


図 2.10 設計提案の変遷



### 2.2.2 蔵の改修 (C2)

本研究においては、展覧会を開いた結果、行政でも個人でもなく、現地のまちづくり団体 B から具体的な依頼を受けた。この依頼は展覧会の案をそのまま実現するという依頼ではなかったものの、地域コミュニティへの貢献を目的とすること、使われていない建物を生かすことなどの展覧会のコンセプトを共有していた。依頼は商店街沿いの蔵を地域の交流拠点に改修するものであった (図 2.8、図 2.9)。本研究では、蔵の改修を現地のまちづくり団体と地域の交流拠点として計画しそれを実現することで、地域コミュニティに貢献できると考えた。

まず、地域コミュニティのための蔵改修の実現条件として、改修費の確保と設計施工における体制づくりが必要であった。そのために、助成金申請を行い採択された。また設計施工体制として、著者所属大学が現地まちづくり団体 B とパートナーシップを結んだ。そして、蔵の改修によって商店街沿いの活性化を目的にしたデザインとその調査を行った。決定された予算のなかで、まちづくり団体 B と、定期的に打ち合わせを行い複数の提案を提示し、その提案への意見から設計要点を抽出し、修正を繰り返しながら最終案を策定した (C2-1)。次にこの最終案を基に図面の作成を行った (C2-2)。そして、改修施工作業を行った (C2-3)。この設計施工プロセスを既往研究と比較考察した (C2-4)。

#### C2-1 現状確認：デザインの調査

蔵の改修によって地域コミュニティのためにどのようなデザインにすればよいのかを調査をした。まず、蔵の改修計画を立てるための劣化調査を行い、活用可能性を確認した。本研究では、計画依頼者が個人ではなくまちづくり団体であったため参加型建築デザインが必要とされた。参加型建築デザインプロセスには様々なものがあるが、参加者には建築を専門としない人も含まれていたことから、イメージの伝達補助のため、今回は Alonso らが述べている、複数の案を模型や図版によってイメージを共有し意見を述べることで参加する設計プロセスを参考にした (Alonso ら 2001)。本研究では打ち合わせにおいて提案者が計画依頼者に複数の案や模型を示し、それをもとにお互いに意見したり、模型を操作することで話し合い、地域コミュニティへの貢献に向け改修後のプログラムや設計要点を整理した。

このプロセスを本研究においては「マルチオプション設計プロセス」と呼び、本研究の設計プロセスをまとめた。その分析として Alonso らの研究を参考に、各行に打ち合わせの日時を、各列に提案のタイプを整理した (Alonso ら 2001) (図 2.10)。そしてプログラムの変遷を記号で表し、打ち合わせにおいてまちづくり団体と話し合いを行って決まった設計要点を整理した。

設計要点は最終案に反映された「蔵の前の広場空間の活用」「既存建物への曲線の挿入」「伝統的な外観への補修」「敷地内の動線の明示」「内外の活動の生成」の5つの概念を抽出した。

各プロセスを時間軸に沿って順に説明していく（図2.10）。各日時においては、プロセスのなかでの建築家の役割を明らかにするために、建築家が考えていたこと、提案内容、そして、まちづくり団体からの反応をまとめていく。

まず、14.03.29について、私達は与えられた予算で、外構に活動のきっかけとなるような壁や屋根をつくることを提案した。これらの計画は蔵の改修ではなく、新築でつくる提案であった。蔵の改修を提案しなかった理由は2つあり、1つ目は現在、明確に使われ方が定まっていない



図 2.11 改修前外観



図 2.12 改修後外観

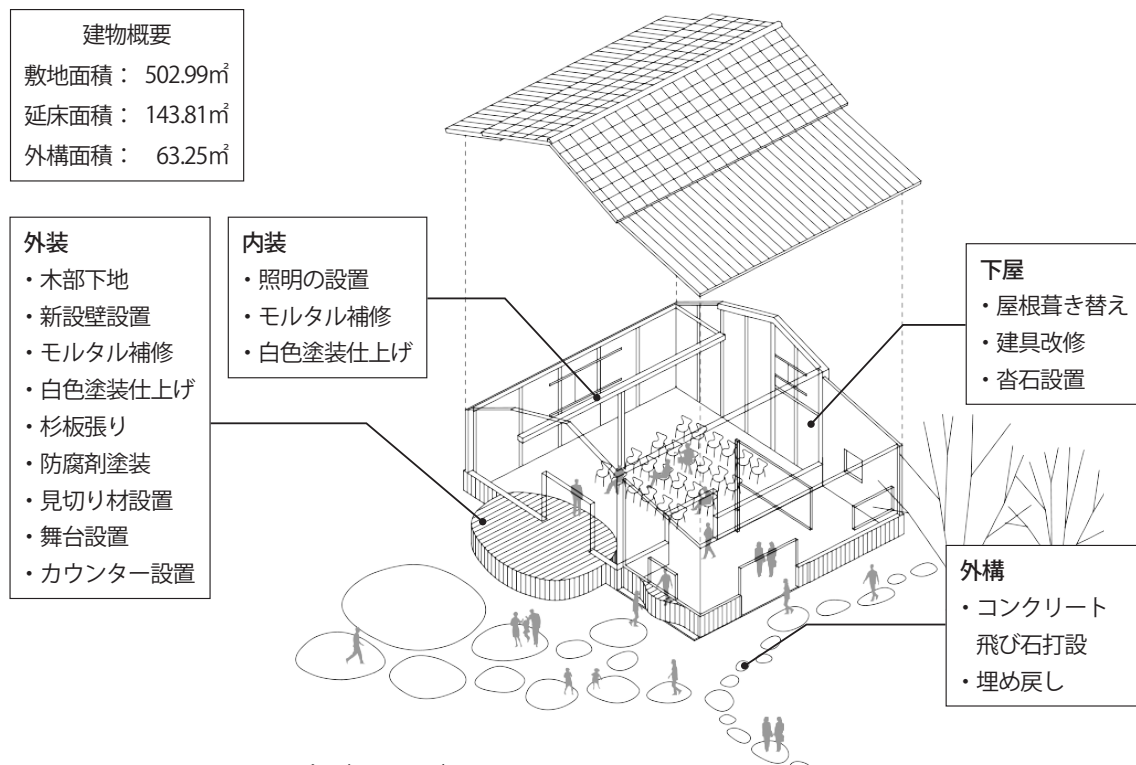


図 2.13 改修後アイソメトリック図及び改修内容



图 2.14 平面图



図 2.15 断面図

外構を屋外展示が行える場所にすることで、有効に活用しようと考えたためである。2つ目は設定された予算（500 万円）で、新築をつくった方が、建築の構造、工法、素材などの自由度が上がり、デザイン性の高い建築をつくることができると考えたためである。

しかしながら 14.03.29 の打ち合わせでまちづくり団体からは蔵とともに提案を考えてほしいとの要望があった。理由として、室内でのプログラムも行いたい、現状劣化が激しい蔵を修繕したいとのことであった。

そこで、次回の 14.05.04 打ち合わせにおいては、蔵に付属させるように建築を建てる提案を行った。各提案はそれぞれ、温室を蔵の正面に追加する提案、壁によって領域を区切る提案、パー

表 2.7 蔵の改修の見積と実工事費

工事項目	見積額	割合	実工事費	割合	差異
設計費	705,870	9%	350,000	6%	-355,870
清掃	100,000	1%	0	0%	-100,000
解体工事	494,550	6%	494,550	9%	0
大工工事	1,358,875	17%	1,286,000	23%	-72,875
左官塗装工事	2,129,875	27%	2,129,875	38%	0
板金工事	644,000	8%	644,000	11%	0
建具工事	328,000	4%	328,000	6%	0
電気工事	457,575	6%	457,575	8%	0
外構工事	1,000,000	13%	1,000,000	18%	0
消費税	577,500	8%	507,200	9%	-70,300
助成金	0	0%	-1,200,000	21%	-1,200,000
合計	7,796,245		5,997,200		-1,799,045

ゴラを蔵外周に設置する提案、屋根を蔵の正面につくる提案した。これらの提案はなるべく蔵の改修は最小限に留め、新規につくる建築に予算を使うことを意図していた。これらの提案に対して、まちづくり団体からは蔵の正面には愛着があるため、遮らないでほしい、また蔵の改修を優先してほしいとの意見が出た。そこで、蔵の正面に壁や温室をつくる案と費用のかかる屋根案も却下し、パーゴラ案に絞り次回提案を行うことにした。

14.06.21 の提案では、蔵の改修を行いつつ、パーゴラでは屋根や温室に比べ安価であるため、蔵の改修を十分に行っても外構に設置できるためにパーゴラ案を前回の打ち合わせから面積を変更して提案した。この提案に対して、まちづくり団体からはパーゴラは面白いと思うが蔵をどのように改修するかを知りたいとの意見が出た。そこで、蔵の改修の提案を次回行うことにした。

14.07.10 の提案では、蔵の改修に関して3つの提案を行った。一つは漆喰で塗装したもの、2つ目は漆喰塗装に腰板をつけたもの、3つ目は板で仕上げたものであった。まちづくり団体はこれらの提案に対して、腰板をつけた案を選んだ。理由は、以前の蔵でも同様の腰壁があったこと、そして対象の敷地周辺でも同様な意匠の腰壁があるためであった。この選択をもとに次回の打ち合わせでは外構でのパーゴラ的设计を行った。

14.07.27 の打ち合わせでは蔵の改修とともに周囲にパーゴラを設置した提案を行った。パーゴラを設置することで、現在利用用途が曖昧な敷地に活動をつくる提案であった。この提案に



表 2.8 工事实現条件の既往研究との比較

著者（出版年）		鈴木ら（2006）	中國ら（2010）	山本ら（2012）	本研究
助成金	改修前後の用途	廃校 → 福祉施設	納屋 → 学童施設	民家 → 交流施設	蔵 → 文化施設
	助成金の種類	廃校の再活用への助成金	学童保育施設整備への助成金	コミュニティ形成への助成金	コミュニティ創成への助成金
パートナーシップ	現地住民の団体	土木会社社長を含む NPO 団体が中心	社会福祉協議会・設計事務所・協力アドバイザーが設立した	つどう会に所属する市民が中心となり運営	市民主体でまちづくり活動を行う市民団体
	設計者		建設委員会	大学教員	大学研究室
	施工ボランティア	市民	市民	市民	

表 2.9 模型を用いたマルチオプション設計プロセスの既往研究との比較

	項目	Alonso & Almazán 2011	本研究
利点	ブレインストーミング	多数の提案を作成 / 最終案の質の確認に比較対象で使用 / 提案がアーカイブ化され、そこから新たな提案が生まれる	
	協働作業	多数の提案を打ち合わせで提示 / 最終案は過去の提案を編集、選択し作られる	
	模型のプロトタイプ化	最終案は具体的な提案のプロトタイプとして使用	
	プログラムの検討	形態のみの検討に使用	プログラムを含めたデザインの検討を行い、計画を策定
	コミュニケーションツールとしての模型	模型を提示することで、事務所内での理解が促進される	模型を提示することで、市民の提案理解の促進につながる
欠点	人手の必要性	複数案の制作への労力の必要性	
	横断的なスケールでの検討の不足	スケールを固定して検討するため、ヒューマンスケールでの検討が不足	提案に合わせてスケールを変更しヒューマンスケールの検討を実施
	過度な抽象化	多大なボリューム検討による提案の過度な抽象化	ディテールの検討を設計プロセスに組み込むことで提案の抽象化を回避



図 2.16 周辺の公民館と利用頻度

対してまちづくり団体からは、せっかく蔵を改修するのにパーゴラによって蔵の外観が損なわれること、パーゴラの植栽に対してのメンテナンスが継続できるか心配であるとの意見があった。これらの意見を踏まえ、次回の提案を作成した。

14.09.28 の提案では、蔵を囲うのではなく、蔵の正面に二層分の高さのパーゴラの提案をした。このパーゴラによって、地域の中でアイコンックなものをつくり、内部で、話し合いなどの活動を行えるようにした。この提案に対してまちづくり団体からは、やはり外観と植物のメンテナンスについて懸念が示された。これまで検討してきたパーゴラの場合はメンテナンスと蔵の外観に重なってしまうという課題を乗り越えることが難しいため、パーゴラ以外の提案が求められた。

14.11.09 の提案では、パーゴラの提案をやめ、コンクリートで飛び石をつくる提案を行った。これまでの課題であった植物のメンテナンスが必要なく、また蔵の外観に重なることのないものを提案した。さらにコンクリートの形が周辺環境や蔵と合わせて変化し、様々なアクティビティが行えるようにした。これに対して、まちづくり団体からは概ね了承を得ることができた。しかしながら、蔵は修復だけに留まっていた。今後地域に開けた場所にし、新たな活動が行われることに対しての空間的な対応が必要であると考えた。まちづくり団体が必要であるといった腰壁や壁の修復という要素によって活動を誘発するような空間をつくることを考えた。

15.03.08 の提案では、蔵の周囲に取り付ける予定であった腰壁の形を場所によって変えることで、活動を誘発するような設えを提案した。腰壁は舞台やカウンターになり、内部にも外部にも広がることで、開口が小さく閉鎖的になりがちな蔵の内外を繋げることも目指した。この提案に対して、まちづくり団体からは蔵の要素を変化させ、活動を生む空間をつくるという考えに賛同を得ることができた。そして実施図を作成する了承を得ることができたため、この基本計画に基づき基本設計と実施図面の制作を始めた。

## C2-2 計画：基本設計および実施設計

デザインの調査を基に地域コミュニティに貢献する地域住民の交流拠点としての活用を目的として、ギャラリー、映画館、休憩所、集会所のプログラムとまちづくり団体との打ち合わせで抽出された5つの概念「伝統的な外観への補修」「蔵の前の広場空間の活用」「既存建物への曲線の挿入」「敷地内の動線を明示し中庭へと人を引き込む」「既存建物附属部分を設置し蔵の内外の活動を生成」を満たす基本設計と実施設計を行った。



### C2-3 実施：施工

2015年6月から12月まで、著者と著者所属研究室の学生、まちづくり団体、山梨県内の工務店2社の4組が関わり、研究室が作成した実施図面に基づき改修工事を実施した（図2.11、図2.12、図2.13、図2.14、図2.15）。構想において抽出された5つの概念「蔵の前の広場空間の活用」「既存建物への曲線の挿入」「伝統的な外観への補修」「敷地内の動線の明示」「内外の活動の生成」を設計に用いた。「蔵の前の広場空間の活用」では舞台と飛び石によって活用を目指した。「既存建物への曲線の挿入」は腰壁を変形させることで、舞台とカウンターを制作した。「伝統的な外観への補修」では腰壁と壁面の修復を行った。「敷地内の動線の明示」では、飛び石によって明示できるようにした。「内外の活動の生成」は外部に舞台とそれぞれ大きさの違う飛び石を設置することによって生成を促した。

また予算に関して、見積額と実工事費を比較した（表2.7）。大学研究室での設計を行ったため、設計費は交通費分のみを実工事費とした。また清掃は地域住民と建築家、研究室で行うことでまかなった。さらに、防腐塗装を学生によって行ったこと、また舞台やカウンター、飛び石を制作する際に使用する型紙を学生で制作することで大工工事費を削減した。また助成金を取得し実工事費の削減を行った。割合を見ると、助成金の割合が高いことがわかった。また塗装や制作などの施工ボランティアによっての削減割合が低いのは、本プロジェクトではボランティアが施工経験のない学生や住民であり、大工工事以外の工事内容で安全性の確保や専門知識の不足が課題となったこと、また民家の改修における施工内容に比べ、専門技術が必要であることが理由として考えられる。

### C2-4 評価と省察：蔵の改修

蔵の改修の評価と省察として、はじめに既往研究の比較から実現条件と設計プロセスの2つの観点から考察を行う。そして、竣工後の蔵の利用状況を、周囲の公民館の利用状況と比較する。最後に、蔵の改修設計を通して得た知見をまとめる。

実現条件について、既存建物の改修・再生を扱う研究として、対象建物の状況や変遷を扱う研究、改修後の建物の活用に関する研究があり、特に本研究に関連の高い設計施工プロセスに関する研究（鈴木ら2006、中園ら2010、穂苅ら2013）と比較し「助成金の必要性」「パートナーシップの重要性」の2つの観点から考察した。また、本設計プロセスでは、模型を利用し、住民と共同して設計を行った。模型を用いた設計プロセスの研究であるAlonsoら（2001）の研究を参考に住民参加における模型を用いた「マルチオプション設計プロセスの利点と欠点」

について考察を行った。以上の3点を下記にまとめる。

- ・「助成金の必要性」：既往研究より、歴史的価値の低い建物を改修する際の助成金は、交流施設や教育施設といった社会貢献できるプログラムへの改修や地域コミュニティの形成を目的としたものであった（表 2.8）。本建築デザイン改修においては地域住民が集まる文化施設として改修することによって助成金を得ることができた。また、助成金採択者へのヒアリングにより大学研究室が関わる事による話題性も採択の理由の一端となったことがわかった。
- ・「パートナーシップの重要性」：既往研究では、現地市民団体、設計者、施工ボランティアのパートナーシップを結んでいた（表 2.9）。本改修においても、これらのパートナーシップが存在し、大学研究室が設計者、施工ボランティアを担うことで改修費用が削減できた。加えて、参加した学生へのヒアリングから設計作業が学生の教育の場となることや、現地まちづくり団体 B へのヒアリングから第三者が関わる事で新鮮な発想が期待できることや、客観性を確保できることなど第三者によるパートナーシップの効果を確認することができた。
- ・「マルチオプション設計プロセスの利点と欠点」：Alonso らはマルチオプション設計プロセスの利点と欠点を整理している。本研究の設計プロセスを Alonso ら（2001）と比較する。Alonso らが述べる利点（表 2.8）に加え、本研究では打ち合わせの過程でプログラムが変遷し追加されていったことから、形態だけでなく「プログラムの検討」という利点もあることが分かった。また、Alonso らは事務所内の「コミュニケーションツールとしての模型」が有用であるとしているが、本研究では建築を専門としない住民との参加型デザインにおいても提案の理解の促進につながるという利点があった（表 2.9）。

反対に各回の打ち合わせで多数の提案をつくるため、「人手の必要性」が共通する欠点となった。また、本研究では打ち合わせの進捗に合わせて模型のスケールや表現を変更したり、細部まで検討を行ったため、Alonso らが述べる「横断的なスケールでの検討の不足」や「過度の抽象化」といった欠点を避けることができた（表 2.9）。

次に、竣工後の利用に関して、周辺の公民館である町民会館、上地区公民館の主事と蔵の運営者へのヒアリング（2018 年 12 月）をまとめた（図 2.16）。町民会館、上地区公民館に関して、行政が主催する公民館主催事業として、町民会館はヨガ教室や、英会話教室などを週 2 回程度、また町民合唱祭やふれあいコンサートを年に 1 回開催している。住民が主体的に利用する貸館業務としては、学童保育学、吹奏楽団体やコーラス団体が週に 5 日程度、また手話団体、短歌

団体などが月に1日程度利用している。上地区公民館に関しては、公民館主催事業として、花壇の植栽や清掃などの活動が月に一回、貸館業務としては、学童保育を週に5日、吹奏楽団体、カラオケ団体などが週に2日程度利用している。

次に改修された蔵に関して、能や講演会、まちづくり会議、婚活パーティー、フリーマーケットなどが行われている。利用頻度は週に1回程度である。公民館と比較すると、週での稼働率は低いことがわかった。しかしながら、公民館の主事へのヒアリングから、公民館ではフリーマーケットなどの金銭の取引に関することや住民以外への貸出などは禁止されており、改修された蔵はこれらの制限はないため、より利用の自由度が高い。さらに改修された蔵の利用方法には広場的空間や外部舞台を利用した能が開かれ、またフリーマーケットが企画されている。さらにこれらの活動は敷地の近隣地域だけではなく、遠方の団体の利用も行われておることがわかった。これはリサーチ、展覧会において地域の活性化をおこなっている団体同士のネットワークができたためである。以上のように運営と設計によって公民館との利用の差別化が行われていることがわかった。最後に蔵の改修設計を通して得た知見を下記にまとめる。

### 2.2.3 展覧会 (C1) と蔵の改修 (C2) を通して得られた知見

建築家の役割を把握するため、上記に建築家が一事例のプロジェクトに関わった全てのプロセスを明らかにした。建築家は建築の設計を行うだけではなく、リサーチや展覧会を行い、設計のコンテキストに用いたり、住民との交流をつくったりしていた。さらに、住民の要望を満たしつつ、意匠性のある建築を実現していた。しかしながら、課題として、CSの継続性と開放性が認められた。下記に、インタビューと展示、そして蔵の改修の実践を通して建築家がCSに関わる意義と課題を明らかにする。

#### ・CSをつくる際に建築家が関わる意義

「インタビューを実施のためのコンテキストとして利用」：一般的に実施においてはコンテキストとして、歴史や敷地周辺また法規を扱う。本研究においては住民の評価した市川三郷町のマップを実施のためのコンテキストの一つとして用いたいと考えた。住民のまちへの評価をコンテキストとして用いることでこれまで設計で扱うことのできなかった愛着などの思いを扱うことができるのではないかと考えた。マップを見ると、商店街沿いは住民の思いが集中していること、また、そこでは様々な思い出が残され、賑わいがなくなった現状を住民は残念に

思っていることがわかる。今回依頼を受けたプロジェクトの敷地は商店街に面していた。その敷地に住民が集まるような空間をつくることで、マップに現れていた思いを反映できるのではないかと考え、C2において蔵の改修を提案した。

「**交流をつくるリサーチ・展覧会の設計**」：リサーチとしてのインタビュー、マッピング、そして展覧会は地域貢献に関する人や空き家などの資源情報が集まり、交流を生む効果があった。リサーチや展覧会を行うことで、蔵を運営するまちづくり団体と、遠方のまちづくり団体の交流が生まれ、竣工後にも遠方のまちづくり団体の蔵の活用がみられた。建築家が地域に介入し、地域コミュニティ貢献のためのリサーチや展覧会を行うことで、そこを訪れた人同士の交流が生まれ、建築家にプロジェクトの依頼やまちづくり団体同士の交流が生まれた。展覧会で住民がそこにとどまり、建築家や住民同士で交流を生むように展示台として大きなこたつを設計したことも理由に挙げられる。今後、建築家がリサーチや展覧会を行う際は、模型をつくるなど理解を促進させる展示内容や大きなこたつをつくるなど、住民たちの滞在時間を長くさせる展示方法などの検討を行い、住民同士または建築家とのコミュニケーションをつくることが重要である。

「**建築の形を継承しつつ、合理性と意匠性のある設計**」：住民と、建築の構想を行うことで、改修においても合理性と意匠性のある設計を行うことができる。当初まちづくり団体との基本計画の打ち合わせをした際、残されている蔵にはできるだけ手を加えずに周辺に新しい建築を追加することにより、新しい活動を生むことをつくりたいと考えた。このようにすることで、蔵の改修にかかる費用を削減し、新しい建築に予算を集中できると考えたためである。しかしまちづくり団体は蔵へ愛着あり、修復することを要望した。よって、既存建築を改修しつつ新しい活動に対応する設計をすることが要求された。この際に既存建築に関わる要素である、飛び石や腰壁を環境に合わせて変化させた提案は団体によって肯定的に受け入れられた。新しい環境を新築するのではなく、既存建築の構成や要素を活かしてつくることが求められた。

また、CS内ではマーケットなど金銭のやり取りのある活動が可能であり、地域外の人も利用できるという運営面での柔軟性に加え、舞台や、飛び石などが環境に合わせて変化することで、今まで地域になかった風景をつくっていることが、コンサートや能、遠方からの利用につながっ

ていることがわかった。建築家は既存の改修を行いながらも意匠性のある建築をつくることで、CS の利用可能性を広げることができる。

・CS をつくる際に建築家が関わる課題

「CS の継続性と公共性の向上」： 竣工後に運営形態の課題として、まちづくり団体の高齢化が挙げられた。運営団体の高齢化を避け、さらに、収入先を設けることで金銭面でも継続性を高めるために、カフェスペースなどの飲食を設計構想の段階から提案すべきだった。今後まちづくり団体への若者の参加者を増やすために、CS へ訪れるきっかけをつくり、団体に興味を持つことができれば、まちづくり団体への参加可能性が高まると考える。さらに、きっかけを増加させるために、竣工後も研究室の研修や発表の場として改修された蔵を利用するなど活動を行っていくことで、まちづくり会議など参加者が固定化されがちなCS の使い方に変化を与える必要がある。

以上がCS の展覧会と蔵の改修設計をして得られた知見である。

### 第三章 CS の設計と運営に関する研究



### 3.1 研究方法

第三章においては建築家が改修したCSを対象にケーススタディを行う。ケーススタディによって、地域状況とCSの関係、そして建築家の役割を把握するために、4つの地域状況からCSを対象に選択した。そして、文献調査、実地調査に加え、建築家と運営者への半構造化インタビューを行い、建築家がプロジェクトに関わるプロセスと空間操作を建築家と運営者の視点から明らかにした。以上を通して建築家がCSに関わる際の設計と運営の特徴をまとめる。

#### 3.1.1 対象事例の選定

事前調査として建築家によって設計されたCSの現状把握を行った。対象事例として建築雑誌『新建築』及び、建築家を中心とした研究室によるプロジェクトが掲載され、建築家の審査員によって審査選定が行われている『トウキョウ建築コレクション』から選定を行った。選定条件は1995年から2017年の間に掲載され図面が確認できるもの、行政主体ではない、「集会所」「イベント会場」「展示場」「図書館」など公共サービス提供の場として使われているもの、「地域住民が利用する」「周辺住民が集う」といった記述が確認できるもの、病院などの大規模建築の付随ではない、の5点を満たすことを選定条件に、CSを60事例選定した(表3.1)。そして各事例の掲載年によるCS事例の分布を確認し、改修によるCSの事例が増加していることを確認した(図3.1)。さらに各々のCS設立背景は、地域の抱える問題によって異なると考え、各事例の住所から、都市雇用圏、用途地域と人口集中地区によって地域状況を「都心郊外商業地域」「都心住宅地域」「郊外住宅地域」「過疎地域」の4タイプに分類した<sup>注3)</sup>。改修によるCSは一つの地域分類に集中するのではなく、4タイプ全ての地域状況下において確認できた(表3.2)。

#### 3.1.2 分析方法

事前調査で対象とした60事例の内、建築ストックを改修し、現存し実地調査ができ建築家と運営者のインタビュー承諾を得た全事例を実地調査対象とした。これらは都心郊外商業地域から1事例、都心住宅地域から3事例、郊外住宅地域から2事例、過疎地域から1事例であった。そして第二章で分析対象とした過疎地域の1事例を加え、計8事例を分析対象(参照文字A～H)とした。

研究方法は、対象事例が掲載されている『新建築』と『トウキョウ建築コレクション』による文献調査とともに、2017年10～12月にかけて、実地調査、各事例の建築家と運営者への半構造化インタビューを行った。実地調査では、CSをつくる際の空間操作の写真撮影を行い、用

表 3.1 事前研究の事例

No.	Published Year	Name of Projects	No.	Published Year	Name of Projects
1	SK201711	ふたば郡山家屋	31	SK201403	気仙沼大谷のみんなの家
2	SK201706	THE BLEND STUDIO	32	SK201311	釜石漁師のみんなの家
3	SK201703	綾瀬の基板工場	33	SK201311	岩沼「みんなの家」
4	SK201702	小豆島 小規模多機能施設「はまひるがお坂手」	34	SK201309	馬木キャンプ
5	SK201702	ひばりテラス 118	35	SK201303	沼須人形稚古場 薪水書窓庵
6	SK201611	知立の寺子屋	36	SK201303	陸前高田のみんなの家
7	SK201611	Good Job ! Center KASHIBA	37	SK201211	京浜急行電鉄黄金町高架下新スタジオ siteD
8	SK201611	南相馬 みんなの遊び場	38	SK201209	南三陸ベニヤハウス
9	SK201609	鹿手袋の蔵	39	SK201209	こころシェルター消防団のいえ
10	SK201607	小豆島 撰果場ギャラリー	40	SK201209	釜石市商店街「みんなの家・かだつて」
11	SK201607	CASACO	41	SK201209	平田のみんなの家
12	SK201605	フクマススペース／福増幼稚園新館	42	SK201209	宮古復興支援プロジェクト -ODENSE-
13	SK201604	おしか番屋	43	SK201208	SHARE yaraicho
14	SK201602	ユウトヴィレッジ南長崎	44	SK201203	小野屋漆器店 AOI
15	SK201601	HAGISO / hanare (丸越荘)	45	SK201112	くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」
16	SK201511	十日町産業文化発信館 いこて	46	SK201101	島キッチン
17	SK201511	相馬こどものみんなの家	47	SK201009	清津川プレスセンター「きよつつ」
18	SK201510	新得町都市農村交流施設 カリンパニ	48	SK201003	するところ
19	SK201510	あわくら温泉元湯	49	SK201002	ヨコハマアパートメント
20	SK201509	川の上 百俵館	50	SK200711	妻有田中文文庫
21	SK201508	Atelier ju-tou + TC ビル	51	SK200611	FLAMME-IGA COMPLEX
22	SK201507	猪苗代のギャラリー	52	SK200305	よこすか森のアトリエ
23	SK201503	長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ	53	SK200202	春風館
24	SK201411	りくカフェ本設	54	SK200108	牛久のギャラリー
25	SK201410	宮戸島月浜のみんなの家	55	SK200105	みんなの家
26	SK201410	K-port + 磯谷水産港町一丁目店	56	TC2016	古びた酒造を町の舞台に
27	SK201409	はじまりの美術館	57	TC2015	旧富士製氷工場コンバージョン
28	SK201408	食堂付きアパート	58	TC2012	シェアフラット馬場川
29	SK201404	えんがわオフィス	59	TC2009	日ノ出スタジオ
30	SK201404	e コラボつるがしま	60	TC2008	黄金スタジオ

調査事例 / Study Cases SK: 新建築 / Shinkenchiku TC: トウキョウ建築コレクション / Tokyo Kenchiku Collection

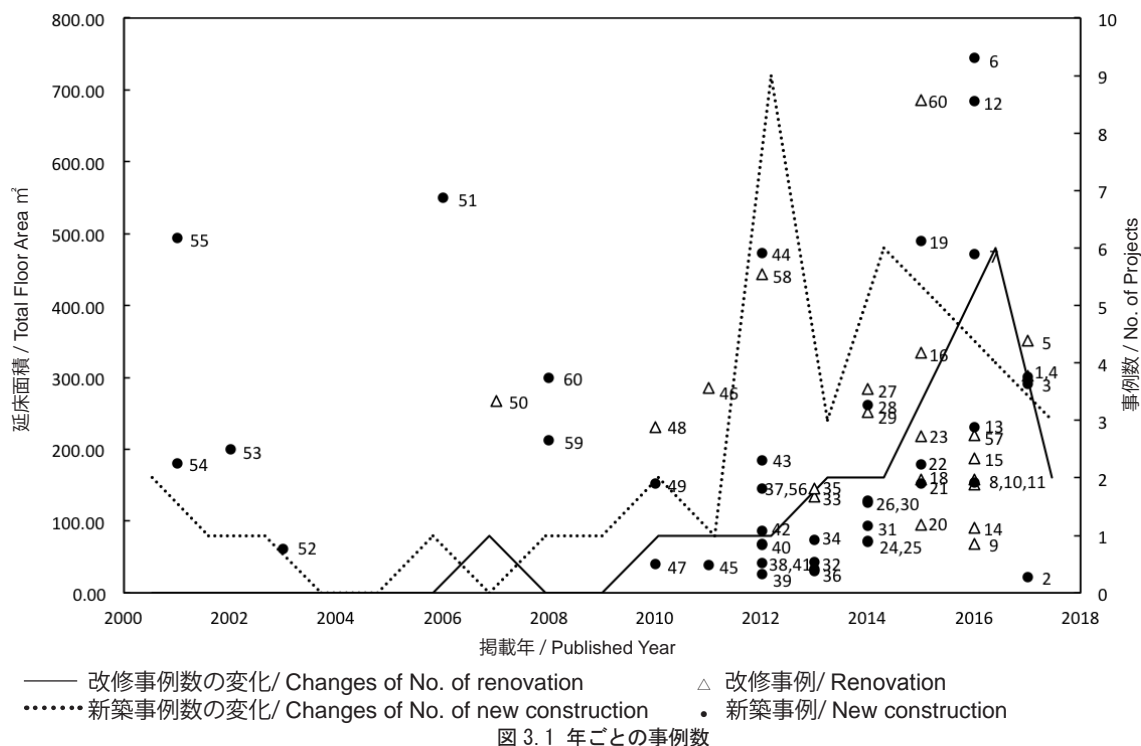


表 3.2 事例の地域分類

		Classification by City Block Unit 丁目単位の分類					
		DID (Densely Inhabited District)			Not DID (Densely Inhabited District)		
		Commercial Areas 商業地域	Residential Areas 住宅地域	Others その他	Commercial Areas 商業地域	Residential Areas 住宅地域	Others その他
市町村単位の分類 Classification by Municipal Unit	Three major Metropolitan areas × Central city 三大都市圏×中心都市	● △ △ △ △ 2 37 48 59 60	● ● ● ● △ △ △ 28 43 49 53 11 14 15	Urban Residential Area 都心住宅地域		Depopulated Area 過疎地域	
	Metropolitan areas × Central city 大都市圏×中心都市	● ● △ 1 44 58	△ △ 23 22				● ● ● 13 20 45
	Metropolitan areas × Suburb city 大都市圏×郊外	● ● 3 6	● ● △ △ △ 7 52 9 5 21	● 54	● 40		● ● ● △ 12 25 30 29
	Local Metropolitan area × Central city 地方都市圏×中心都市	● ● 16 51	△ 56	● 35	● ● 32 50	● ● 17 33	● ● ● ● ● 40 41 42 47 55
	Local Metropolitan area × Suburb city 地方都市圏×郊外		Suburb Housing area 郊外住宅地域			● ● 15 39	△ 19
	Depopulated area 過疎地域	● 4	Urban Suburb Commercial Area 都心郊外商業地域		● △ 26 27	● ● ● 8 24 36	● ● ● ● △ △ △ 31 38 18 34 10 46 57

● 新築事例 / New Construction    △ 改修事例 / Renovation

意していた図面に書き込みを行った。インタビュー調査の構造は「基本情報」とともにプロジェクトの「きっかけ」、「計画」、「実施」、「運営」、さらに「評価」として建築家のプロジェクトへの関わりへの評価、CS への評価を設定した（表 3.3）。そして、文献調査、実地調査、インタビュー調査を質的分析方法のひとつである KJ 法<sup>注4)</sup>を参考にまとめた。

まとめる際に、文献調査から得られた文章、実地調査で書き込んだ文章、インタビューの文字起こしされた文章をそれぞれローデータとした。ローデータから各項目に関する部分を抜き出し、意味を解釈し、抽象的な概念の形で表すラベリングと内容が類似した概念を「カテゴリ」としてまとめる 2 つの段階を経た（図 3.2）。

以上の文献調査、実地調査、インタビュー調査から「各事例の概要」、「空間操作」をまとめた。また建築家と運営者の協働体制を把握するため、「建築家の役割の拡張」、「プログラム」をまとめた。そして建築家と運営者の意見の共通点と相違点から、「建築家の関わりへの評価」、「CS への評価」をまとめた。これらの結果を設計と運営の観点から考察することで改修による CS 開設に関わる建築家の指針とする。

## 3.2 結果

### 3.2.1 各事例の概要

文献調査、実地調査、インタビュー調査の情報をもとに、設計者、運営者の双方のインタビュー許諾が得られた全 8 事例の各概要を以下 A ～ H にまとめた（表 3.3、表 3.5）。

**A. シェアフラット馬場川（以下馬場川）：**群馬県前橋市に位置し、商店街に活気を取り戻すことを整備目的に、商店街地域の空き店舗を学生向けシェアハウスに改修しその共有部を CS（集会、ワークショップ、レクチャーとして利用）とした事例である。改修費は運営者、商店街、

表 3.3 対象事例の写真（写真：著者）



住民からの資金、市からの助成金、銀行の融資によって確保されている。また運営費の補助として市からシェアハウスの住民に家賃補助がでていた。協働による施工として内壁塗装が設計者が所属する研究室学生と地域住民によって行われている。プロジェクトのきっかけは、建築家が行政主催のコンペティションに応募し、支援事業として採択されたことである。建築家を含む有限責任事業組合によって運営が行われている。不定期に月 1、2 回ほどイベントが行われている。その際の利用人数は数名～約 100 名である。

**B. CASACO:** 神奈川県横浜市に位置し、多世代多国籍の人に関わった場をつくることを整備目的に、空き家をシェアハウスとカフェに改修し、シェアハウスの共有部とカフェを CS（集会、ワークショップ、レクチャー、マルシェ、ギャラリーとして利用）とした事例である。改修費は市からの助成金であり、運営費の補助は生活協同組合の助成金、自治体助成金、町内会寄付である。

表 3.4 インタビュー内容

質問項目/ Question items	質問内容/ Question contents	
	建築家/ Architect	運営者/ Manager
基本情報 Basic information	問1 コンセプト説明 / Concept explanation	問1 運営体制 / Management system 問2 設立・運営主体 / Establishment・Management body 問3 活動日・活動時間帯 / Activity date・hour 問4 利用人数 / Number of users 問5 利用者の特徴 / Feature of users 問6 収入源 / Source of income 問7 運営組織の人数 / Number of management organization 問8 活動日のスタッフ人数 / Number of staffs 問9 サービス内容 / Service contents 問10 サービスの周知方法 / Way to inform about service 問11 設立者のこれまでの活動 / Manager's past activity
きっかけ Reason for starting the projects	問2 プロジェクトのきっかけ / Reason for starting the projects 問3 敷地選定理由 / Reason for site selection	問12 プロジェクトのきっかけ / Reason for starting the project 問13 建築家への依頼理由 / Reason for request to architect 問14 敷地選定理由 / Reason for site selection
計画 Planning	問4 空間操作とその目的 / Spatial operation and purpose	問15 伝えた要望 / Contents of request 問16 利用者のための工夫 / Idea for users
実施 Operation	問5 竣工後の空間操作とその目的 / Spatial operation after completion and purpose	問17 竣工後の空間操作とその目的 / Spatial operation after completion and purpose 問18 当初の計画との差 / Gap between plan and how to use 問19 部屋ごとの使われ方 / Way to use rooms 問20 予想外の使われ方 / Unexpected way to use CS
運営 Management	問6 運営への参加方法 / Way to participate in management 問7 協働体制、地域との関係 / Partnership and relationship with local community 問8 資金 / Fund	問21 協働体制、地域との関係 / Partnership and relationship with local community 問22 資金 / Fund
評価 Evaluation	問9 建築家が関わることについて / Evaluation about the architect's involvement 問10 コモンスペースへの評価 / Evaluation about CS	問23 建築家が関わることについて / Evaluation about the architect's involvement 問24 コモンスペースへの評価 / Evaluation about CS



協働による施工として解体、塗装、敷石施工が建築家、地域住民によって行われている。プロジェクトのきっかけは、運営者が協働による施工による改修を建築家に相談したことである。建築家を含む有志団体によって運営が行われ、運営者は二階に住みながら一階のCSの運営を行っている。ほぼ毎日活動が行われ、その際の利用人数は数名～約30名である。

**C. ユウトヴィレッジ南長崎（以下ユウト）：** 東京都豊島区に位置し、古いまちを変えて若者が集まれる場所をつくることを整備目的に、空き家をシェアハウスに改修しその共有部をCS（集会、ワークショップ、レクチャーとして利用）とした事例である。改修費は運営者兼建築家の資金であった。協働による施工として解体、床・壁貼り、デッキ、かまどの施工が建築家兼運営者、地域住民によって行われている。プロジェクトのきっかけは建築家の祖母が家の改修を建築家に相談したことである。建築家が株式会社を設立し運営している。レクチャーや集会などのイベントが不定期に週1、2回ほど行われ、利用人数は数名～約30人である。

**D. HAGISO：** 東京都台東区に位置し、まちの価値の提供のために最小文化複合施設をつくることを整備目的に、空き家をカフェ、ギャラリー、テナントに改修し、カフェ、ギャラリーをCS（集会、ワークショップ、レクチャー、ギャラリーとして利用）とした事例である。改修費は建物の所有者、運営者兼建築家、地域住民の資金とクラウドファンディングによって確保されている。協働による施工として、柱・壁塗装が建築家兼運営者、アーティスト、建築サークルの学生によって行われている。プロジェクトのきっかけは、事例の改修前に行われたイベントによって場所の持つ潜在的な可能性に建築家が気づいたことである。CSとしては一階ギャラリー部分が毎日

<p>B. CASACO 建築家 / Architect (17-10-26)</p> <p>Loc. 神奈川県横浜市 / Yokohama-shi, Kanagawa</p> <p>ローデータ / Raw data</p> <p>この場で偶然一緒になりかつ嫌な感じがしない。軒下でバーをやるときとかこの街に住むお母さんがビールを飲んでいたりする。住宅地では役割が固定しているが、それが気持ちいいからやっている。そういう風景が町に与えるインパクト、そんな風景をつくれたらいいなと考えている(B.A.89)。</p> <p>/ In residential area the role of the mothers are seemed fixed. During bar event some mothers drink beers. This kind of scene have impact to the town. I want to make these kind of the scenes.</p>	<p>『建築家の関わりへの評価 / Evaluation about the architect's involvement』</p> <p>〈地域コミュニティに貢献する風景をつくる / Creating scene to contribute to the local community〉</p> <p>〔地域コミュニティの賑わいの創出 / Produce liveliness of local community〕</p>
<p>G. あわくら 運営者 / Manager (17-11-17)</p> <p>Loc. 岡山県西栗倉村 / Awakura-mura, Okayama</p> <p>ローデータ / Raw data</p> <p>西栗倉村は森林がゆたか、なるべくナチュラルなものをしょうしたいなと考えている。家具とかも村でやっている家具屋さんと一緒に、なるべく溶け込むようにしている。棚は設計は安部さん施工は隣町のはるな材木店がおこなっている(G.M.160)。棚が増えていく。もともとは押入れだった、本棚がなく去年の9月くらいにつくられた。/ Furniture are also made by the locals. The shelf is designed by Abe and constructed by Haruna craft shop in the neighbor town.</p>	<p>『空間操作 / Spatial operation』</p> <p>〈家具を地域の家具屋とつくる / Creating furniture with local furniture craft shop〉</p> <p>〔家具、植栽を運営者や地域住民がつくる / Creating furniture and greenery by the manager and locals〕</p>

— 抽出箇所 / Extraction part    () ローデータ No. / Raw data    『』 項目 / Items    〈〉 ラベル / Label    [ ] カテゴリー / Category

図 3.2 カテゴリー化の例



表 3.5 研究事例概要

地域分類 Regional Classification		都心郊外商業地域 Urban Suburb Commercial Area	都心住宅地域 Urban Residential Area				郊外住宅地域 Suburb Housing area		過疎地域 Depopulated Area	
事例名Name of project		A Babakkawa	B CASACO	C Yuto	D HAGISO	E Ju-tou	F Misokura	G Awakura	H Kurabutai	
整備目的 Concept overview		商店街に学生がくま場所をつくることで活気を取り戻す / Making activity by make students live in the shopping street	多世代多国籍の人に開かれた場をつくる / Making open place, multi generation and multinational	古い町を変えて、若者が集まれる場所をつくる / Making place for young people by changing the old town	町の価値の提供のために最小文化複合施設をつくる / Making minimal cultural complex to offer value to the town	空き室を地域のための空間にする / Transforming empty room to the place for local	定年後の生活を地域とのつながりがあるものにする / Connecting life after the retirement to the local	子どもを中心に地域コミュニティが見える場所をつくる / Making place to see the local community by centering children	町の活性化拠点をつくる / Making a place for activating the local community	
建築の概要 / Architectural overview	敷地住所 Site address	群馬県前橋市 Maebashi-shi, Gunma	神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa	東京都豊島区 Toshima-ku, Tokyo	東京都台東区 Taito-ku, Tokyo	茨城県取手市 Toride-shi, Ibaraki	富山県高岡市 Takaoka-shi, Toyama	岡山県英田郡 Aida-gun, Okayama	山梨県西八代郡 Nishiyatsushiro-gun, Yamanashi	
	改修前の建物・構造・階数 Use before renovation Structure No. of floors	空店舗 / Vacant store・RC・3	住宅 / House・W・2	住宅 / House・W・2	住宅 / House・W・2	医院 / Hospital・RC・3	工場 / Factory・S・1	民宿 / Guest house・W・2	蔵 / Ware house・W・1	
	開設年・敷地面積・建築面積 (㎡) Opening year・Site area・Building area	2014・170.37・153.13	2016・165.0・97.9	2014・53.1・108.3	2013・177.4・106.4	2014・157.7・172.1	2014・606.0・334.1	2015・1159.34・608.2	2016・639.0・145.0	
	プログラム Building program	1Fテナント 2・3Fシェアハウス 1F Space for commercial tenant 2・3F Share house	1Fカフェ・2Fシェアハウス 1F Cafe・1・2F Share house	1・2Fシェアハウス 1・2F Share house	1Fカフェ・ギャラリー 2Fテナント 1F Cafe・Gallery 2F Space for commercial tenant	1Fテナント 2F医院 3Fカフェ 1F Space for commercial tenant 2F Hospital 3F Cafe	1Fカフェ・イベントスペース・ショップ・7F以上 1F Cafe・Event space・Shop・Atelier	1Fカフェ 1・2F宿泊 1F Cafe 1・2F Accommodation facility	1F イベントスペース 1F Event space	
	CSのエリア Area used as CS	シェアハウスの共有部 Common area of share house	カフェ・シェアハウスの共有部 Cafe and common area of share house	シェアハウスの共有部 Common area of share house	ギャラリー、カフェ Gallery, Cafe	テナントの共有部 Common area of commercial tenant	イベントスペース Event space	宿泊施設の共有部、カフェ Common area of accommodation facility, Cafe	建物全体 Whole building	
	CSのプログラム Program of CS	集会、ワークショップ、レクチャー Meetings, Workshop, Lecture	集会、ワークショップ、レクチャー、マルシェ、ギャラリー Meetings, Workshop, Lecture, Marche, Gallery	集会、ワークショップ、レクチャー Meetings, Workshop, Lecture	集会、ワークショップ、レクチャー、ギャラリー Meetings, Workshop, Lecture, Gallery	集会、ワークショップ、レクチャー、マルシェ、演奏会 Meetings, Workshop, Lecture, Marche, Gallery, Concert	集会、ワークショップ、レクチャー、イベント、演奏会 Meetings, Workshop, Lecture, Gallery, Concert	集会、ワークショップ、レクチャー、図書スペース Meetings, Workshop, Lecture, Library	集会、ワークショップ、レクチャー、イベント、演奏会 Meetings, Workshop, Lecture, Gallery, Concert	
	運営主体 Management	有限責任事業組合 Limited liability partnership	有志団体 Volunteer organization	株式会社 Ltd.	株式会社 Ltd.	個人 Individual	個人 Individual	株式会社 Ltd.	地域まちづくり団体 Community planning organization	
	CSの活動日時 Activity date as CS	月に1 から2 回 Once or twice a month	ほぼ毎日 Almost everyday	週1から2回 Once or twice a week	毎日 Everyday	月10回 Ten times a month	月1回以上 Over once a month	毎日 Everyday	ほぼ毎週末 Every weekend	
	CSの利用人数 Number of CS users	数名・約100名	数名・約30 名	数名・約30名	約100名 イベント時約50名	数名・約70名	約10-30名 イベント時約50名	約20-50 名 イベント時約50名	数名・約200名	
	利用者の特徴 Character of CS users	商店街の人 Visitors from shopping street	地域住民や子ども Locals and children	地域住民 Locals	地域住民や女性が多い Locals and women	遠方からの人 Person from far-away	若い女性 Young women	若い移住者 Young immigrants	地域住民 Locals	
協働体制の概要 / Partnership overview	改修費の確保 Funding source of renovation	運営者・商店街・住民からの資金 市からの助成金 銀行からの融資 Funding from manager, local shopping street and locals Subsidy from city and local bank	市からの助成金 Subsidy from city	運営者兼建築家の資金 Funding from architect-manager	建物の所有者・運営者兼建築家・地域住民からの資金 クラウドファンディング Funding from owner, manager-architect and locals Subsidy from cloud funding	運営者の資金 国からの助成金 Funding from manager Subsidy from country	運営者の資金 県・公益財団からの助成金 Funding from manager Subsidy from prefecture and public interest foundation	運営者の資金 国からの助成金 Funding from manager Subsidy from country	運営者の資金 公益財団からの助成金 Funding from the manager Subsidy from city	
	運営への助成金 Administration for management	市からの助成金(家賃補助として) Subsidy from administration	生活協同組合の助成金 自治体からの助成金 町内会からの寄付 Subsidy from co-op, autonomy and neighborhood association			行政・市民・大学の共同事業体からの助成金 Subsidy from the group consists of administration, locals, university				
	CSを始めたきっかけ Reason for opening the CS	建築家がコンペティションに応募し支援事業に採択されたこと。 / Subsidy from administration by submitting the competition	運営者がDIYによる改修を建築家に相談したこと。 / Consultation to an architect about a DIY renovation	家の改修を建築家の祖母が建築家に相談してきたこと。 / Noticing the potential of the place, when there is a event in the building before renovation	建築家が解体前の住宅でのイベントで場所のもつ可能性に気づいたこと。 / Noticing the potential of the place, when there is a event in the building before renovation	空き室となっていた一階を使い地域貢献の場にしようとして運営者が建築家に相談したこと。 / Requesting architect to make empty room in the ground floor for locals	運営者が建築家に改修依頼し、建築家がCSを提案したこと。 / Requesting renovation to the architect, and the architect proposed programs of cafe and CS	木材を使って地域おこしをしたいと相談してきた運営者と建築家の意見が一致したこと。 / Matching opinions of the architect and the manager to do something for local by using wood materials	運営者が建築家による地域活性化のための展覧会を見て、まちのために何かしたいと建築家に相談したこと。 / Manager decided to do something for local community after the exhibition for the local community by architects	
	協働による施工作業(属性) Constructing work by cooperation (Attribute)	内壁の塗装(建築家、運営者、建築学生、地域住民)	解体、塗装、敷石施工(建築家、地域住民)	解体、床壁貼り、デッキ(建築家兼運営者、地域住民)	柱、壁塗装(建り、デッキ(建築家、アーティスト、建築学生)	床塗装(建築家)	-	解体、壁塗装、間仕切り制作(運営者)	解体、腰板塗装(建築学生、地域住民)	
インタビュー概要 / Interview overview	建築家・運営者インタビュー(日付/場所) Interview to architects (top) and managers (bottom) (Dates / Places)	2017.11.06 神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa 2017.11.09 群馬県前橋市 Maebashi-shi, Gunma	2017.10.26 神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa 2017.11.11 神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa	2017.11.01 東京都豊島区 Toshima-ku, Tokyo 建築家と運営者が同一 Same date and place	2017.12.04 東京都台東区 Taito-ku, Tokyo 建築家と運営者が同一 Same date and place	2017.10.24 東京都足立区 Adachi-ku, Tokyo 2017.11.27 茨城県取手市 Toride-shi, Ibaraki	2017.11.16 富山県高岡市 Takaoka-shi, Toyama 2017.11.22 京都府左京区 Saikyo-ku, Kyoto	2017.10.26 東京都渋谷区 Shibuya-ku, Tokyo 2017.11.17 岡山県西栗倉村 Nishiwakura-mura, Okayama	2017.12.24 神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa 2017.11.19 山梨県市川三郷町 Ichikawamisato-cho, Yamanashi	

利用され、イベント時には一階全体が利用されている。また建築家が株式会社を設立し運営している。毎日活動しており併設されているカフェと合わせて約 100 人利用者がいる。またイベント時には約 50 人が集まる。

**E. Ju-tou:** 茨城県取手市に位置し、空き室を地域のための空間にすることを整備目的にカフェ、テナントに改修しテナント共有部を CS (集会、ワークショップ、レクチャー、マルシェ、演奏会として利用) とした事例である。改修費は、運営者の資金と国からの助成金で確保されていた。運営費の補助として行政、市民、大学の共同事業体からの助成金がある。協働による施工として、床塗装が建築家によって行われている。プロジェクトのきっかけは、運営者が空き室となっていた建物の一階部分を使って地域貢献したいと考え、建築家に相談したことである。運営者を中心に、テナントオーナー、建築家が関わり運営が行われ、不定期に月 10 回ほど活動しており、その際の利用人数は数名～約 70 人である。

**F. 長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ (以下みそくら):** 富山県高岡市に位置し、定年後の生活を社会とつながりのあるものにすることを整備目的に、使われていない工場をカフェ、イベントスペースに改修しイベントスペースを CS (集会、ワークショップ、レクチャー、ギャラリー、演奏会として利用) とした事例である。改修費は運営者の資金、県・公益財団からの助成金によって確保されていた。協働による施工は行われていない。プロジェクトのきっかけは、運営者が使われていない工場の改修を建築家に依頼し、建築家が CS を提案したことである。個人が運営を行っており、カフェとしては週に 4 日、CS としては月に 1 回以上活動を行っている。その利用人数はカフェが約 10 ～ 30 人、CS は約 50 人である。

**G. あわくら温泉元湯 (以下あわくら):** 岡山県英田郡に位置し、子どもを中心に地域コミュニティが見える場所をつくることを整備目的に民宿を宿泊施設、カフェに改修するとともに、宿泊施設の共有部とカフェを CS (集会、ワークショップ、レクチャー、図書スペースとして利用) とした事例である。改修費は運営者の資金と国からの助成金によって確保されている。協働による施工として、解体、壁塗装、間仕切り制作、机、椅子、ストーブ施工が運営者によって行われている。プロジェクトのきっかけは木材を使って地域おこしという考えが運営者と建築家で一致したことである。CS は株式会社によって毎日運営され、イベントは月に 1 回以上行われている。その利用人数は併設されている宿泊、温泉施設と合わせて 1 日約 20 ～ 30 人で、イベント時の CS の利用人数は約 50 人である。

H. 古びた酒蔵を町の舞台に（以下蔵舞台）：山梨県市川三郷町に位置し、町の活性化拠点づくりを整備目的に使われていない土蔵全体を改修しイベントスペースとしてCS（集会、ワークショップ、レクチャー、ギャラリー、演奏会として利用）とした事例である。改修費は運営者の資金と公益財団からの助成金によって確保されている。協働による施工として、解体、腰板塗装が設計者の所属する研究室学生、研究室以外の建築学生、地域住民によって行われている。プロジェクトのきっかけは、運営者が建築家による地域活性化のための展覧会をみて、まちのために何かしたいと建築家に相談したことである。地域まちづくり団体により運営が行われており、毎週末1回以上活動が行われ、その利用人数は数名～約200人である。

### 3.2.2 空間操作

文献調査、インタビュー調査、フィールドワーク調査から、改修前改修後の図面を作成した（図3.3, 図3.4）。そして改修前から改修後の変更点を記載した。これらの変更点は地域コミュニティに関わる空間操作に限定した。地域コミュニティに関わる空間操作とは、インタビューが地域に貢献することを目的して行ったと述べた空間操作である。建築家と運営者にインタビューを行い、竣工前に計画された空間操作と竣工後に計画された空間操作双方を収集した。各々のプロジェクトごとと下記に説明していく。

馬場川では、CS内の天井を剥がし、配管も兼ねてアイランドキッチンに段差をつけて設置し、レベル差を設け利用者が段上に座れるようにすることで、空間にホールのような広がりをつくり、商店街の打ち合わせや、学生のイベントなどで利用できるようにしていた。

CASACOでは、竣工前に、元々2つの住戸を区切っていた内壁やふすまを撤去し、広い空間をつくっていた。また、前面道路沿いの部屋の外壁を撤去し、内外をつなぐピロティスペースをつくった。さらに一階天井を撤去し住宅街にホールのような広がりをつくった。軒下にベンチを設置し地域の住民が利用できるようにしていた。また周辺の住宅から貰ってきた建具や家具を再利用していた。そして二棟分の階段を残すことで、空間を区切り、コンサートや食堂などのイベントに対応していた。また竣工後、利用に合わせて簡易な仕切りを用いて空間をき区切っていた。また、周辺住民達が外構に植栽を植えていた。

ユウトでは、キッチンと居間を区切る壁を壊して広い空間を確保していた。さらにステップフロアと天井高を上げることによってホールのような空間をつくり、イベント時には段差に観客が座ることができるようにしていた。そして、開口を大きく取り内外のつながりをつくって

いた。また、エントランスのアプローチにデッキを設けることで、イベント時にはリビングと一体に利用できるようにしていた。家具は利用されなくなった住宅から転用し、デッキに設置されているかまどは地域住民と共同でつくられた。

HAGISO では、住居として使われていた際の内壁を撤去し、広い空間を確保していた。また、天井を取り払い、吹き抜けをつくり、バルコニーを設けることでホールのような空間をつくっていた。外壁面では既存の開口を広げることによって向かいの景色を見せていた。また外構には庭を楽しむための椅子を置いていた。

Ju-tou では、元産婦人科であった部屋の仕切りを撤去し、広い空間をつくるとともに、床を一段上げ、天井を撤去し、建物の中心にホールのような広い空間を設けていた。さらにテナントと CS の仕切りとして、多数の扉がついた内壁を設けることで、扉の開閉によって柔軟に空間の利用を変化できるようにしていた。また竣工後に仮設壁を設けることでテナント数を増やしていた。

みそくらでは、元工場であった建物の外壁に開口を大きく開けることで外部から内部の活動が見えるようにするとともに、内部に外光を取り入れていた。一部床レベルを上げることで、イベント時は二階席としても利用でき、ホールのように使える空間を設けていた。さらに既存の大きな空間に入れ子のように内壁を挿入することで、キッチンやアトリエなどのプログラムを実現していた。そして、外壁に作り付けのベンチを設け内外の領域を曖昧にしていた。

あわくらでは、元々旅館であった建物の天井高さを上げ、ホールのような空間を設けていた。また外壁には大きな開口を設け内外のつながりをつくっていた。さらに外部にパーゴラとデッキを設けることでイベントを行えるスペースをつくっていた。家具は周辺住民から寄贈され、再利用していた。また地元の家具店やグラフィックデザイナーと共同により家具やロゴをつくっていた。外構にはハンモックによって利用者がくつろげるように設えていた。

蔵舞台に関して、元々酒蔵であった建物の外壁に開口を設け、内部の活動を外部に見せるようにしていた。また、舞台を酒造に設えることで、コンサートなどの活動を促している。また外構には場所に応じて大きさが異なる飛び石を設置し、動線と滞在空間を示している。そして外部におけるイベントの際には家具を外構に設置し客席にしていた。

以上が各プロジェクトの空間操作であった。そしてこれらの空間操作を KJ 法を参考にまと



表 3.6 空間操作 (写真: 著者)

建築家と運営者・地域住民が行った空間操作 Operation by the architects and the managers and the locals		
①内外の中間領域をつくる / Making intermediate space between inside and outside	②透明化による視認性確保 / Creating visibility through transparency	③レベルの操作でホールのような空間をつくる / Making a hall-like space by changing levels
		
テラスと庇を設けている (G) Making terrace and eaves	硝子の開口を設けている (C) Creating glass opening	段差を設けて舞台をつくっている (H) Making steps and stage
a 建築家と運営者・地域住民が行った空間操作 Operation by the architects and the managers and the locals		
④壁の撤去で空間を広くする / Making space larger by demolishing walls	⑤柔軟な仕切りでワンルームをつくる / Creating a one room space with soft divisions	⑥貰った建具と家具を再利用する / Reuse of doors and furniture from surrounding houses
		
壁を撤去して部屋を繋いでいる (B) Connecting rooms by demolishing walls	既存階段を残すことで空間を区切る (B) Dividing space by keeping existing stairs	周辺の空き家から貰った家具 (B) Received furniture from surrounding vacant houses
運営者・地域住民のみが行った空間操作 Operation by the managers and the locals		
⑦家具・植栽を運営者や地域住民がつくる / Creating furniture and greenery by manager and locals	⑧外構に家具を置き、屋内に導く / Inviting people inside by placing furniture outside	⑨変化した使い方に合わせて仕切りをつくる / Adding temporary walls for new uses
		
地元の人と家具を制作している (G) Creating furniture with locals	外部にハンモックを設置している (G) Placing hammock outside	仮設の仕切りを新設しテナント数を増やす (E) Adding temporary wall to increase the number of tenant

めた (表 3.6, 表 3.7)。また各空間操作を各事例の平面図に記載した (図 3.3、図 3.4)。そして建築家と運営者・地域住民が行った空間操作①～⑥と、運営者・地域住民のみが行った空間操作⑦～⑨に区別した。各々の空間操作を以下で説明する。

① 内外の中間領域をつくる：外構にピロティやテラス、デッキ、ポーチ、作り付けのベンチなどを設け、建物の入り口付近に人が活動できる空間をつくる操作である (B, C, F, G, H)。主に改修前に外部空間であった場所に操作を行っているが、B は改修前に室内であった場所をピロティとし、建物に入る敷居を低くしていた。また、これらの中にはイベント時に会場として利用できる事例もあった (B, C, G, H)。

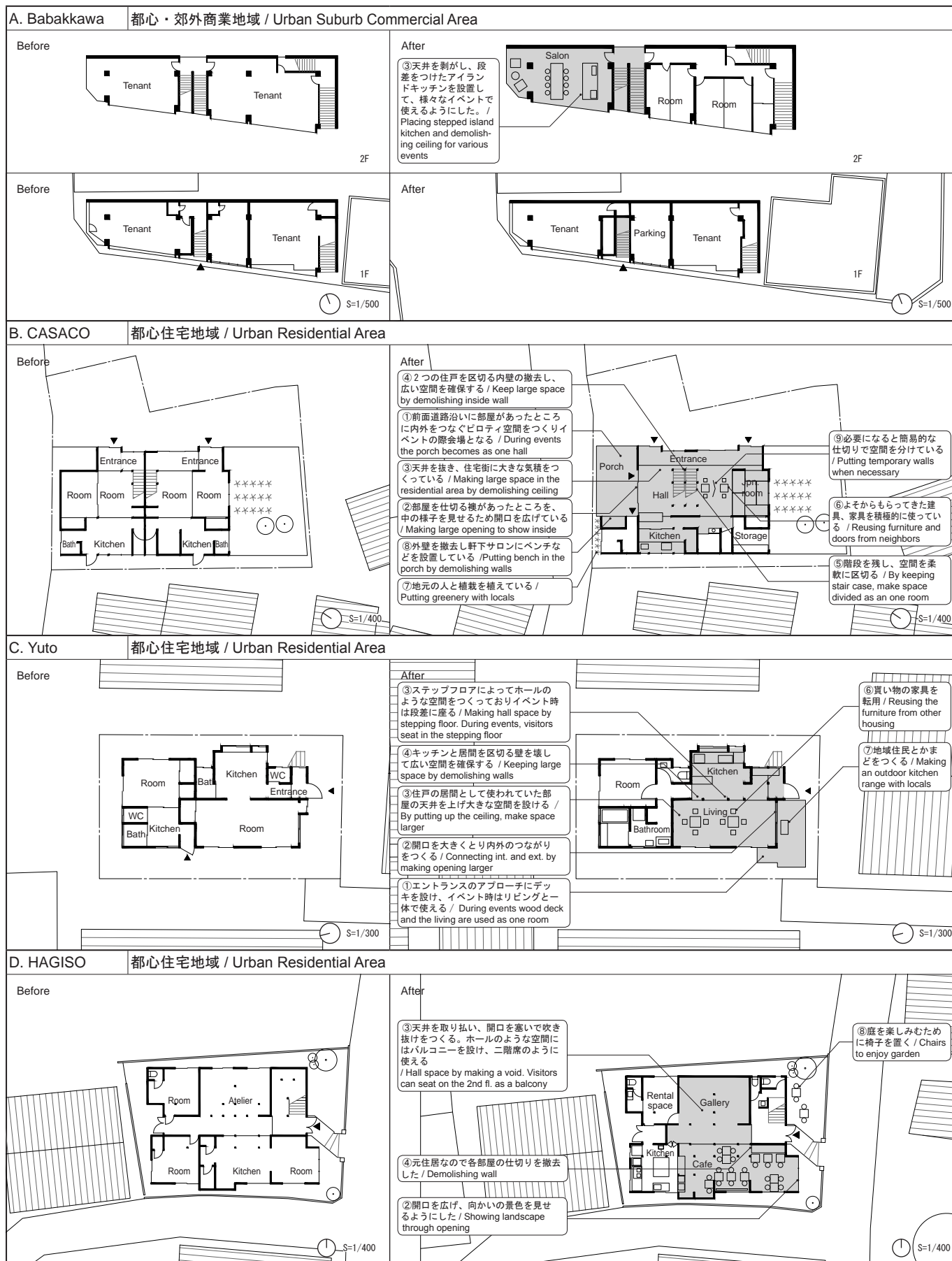
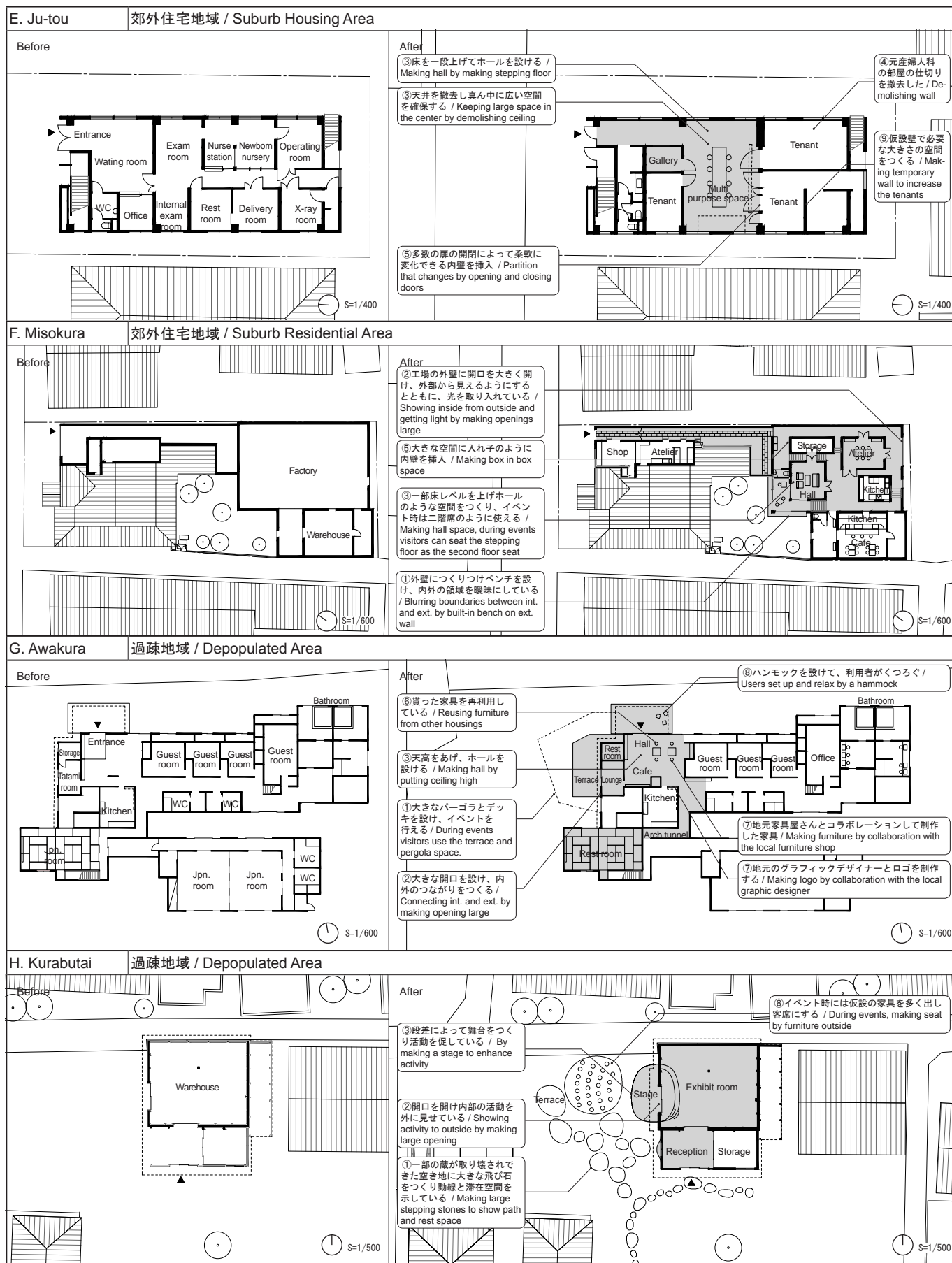


図 3.3 各コモンスペースの平面図 1





∟ : インタビューと実地調査からわかる CS に関わる空間操作 / Spatial operation on CS revealed through interviews and field work ■ コモンスペース / CS<sup>※</sup>

図 3.4 各コモンスペースの平面図 2

- ② 透明化による視認性確保：外壁に開口を設ける、ガラス素材に変更するなど外部から中の様子を確認できるようにする操作である（B, C, D, F, G, H）。例えば、H では開口を大きく広げることで内外の領域を曖昧にし、訪れる人を CS へ引き込んでいた。
- ③ レベルの操作でホールのような空間をつくる：全事例で天井、床を撤去または床上げをすることで、圧迫感を軽減したり、観客席として利用するなどイベント時に人が集まれるホールのような空間をつくり出す操作である。例えば、B では天井を撤去して住宅にないような 6 m 以上の吹き抜けをつくっていた。
- ④ 壁の撤去で空間を広くする：壁を撤去して空間を広くとり、多様な使い方を目的とした操作である（B, C, D, E）。改修前が住宅の事例すべてでこの空間操作が行われていた（B, C, D）。
- ⑤ 柔軟な仕切りでワンルームをつくる：躯体を残したり可変的な壁を設置するなど、柔軟な仕切りを設け、ワンルーム空間をつくる操作である（B, E, F）。例えば、B では柱や階段を残すことで、空間を緩やかに区切りながら周囲の活動を認識できるようにしていた。また、E では開閉式の連続した窓を設置し柔軟に空間を使用していた。
- ⑥ 貰った建具と家具を再利用する：周辺の地域住民から建具や家具を貰い再利用する操作である（B, C, G）。例えば、C では費用削減のために周辺地域から建具を貰う事例が見られた。また、B では費用削減のためだけではなく地域の繋がりをつくるため、周辺の空き家の家具や建具を収集、採寸保管し積極的に再利用していた。
- ⑦ 家具、植栽を運営者や地域住民がつくる：地域と繋がるために地域住民と共に家具や植栽をつくる操作である（B, C, G）。例えば、B では地域住民が主体となって、敷地内に植栽を植える操作が見られた。また、木材の生産が盛んな地域の G では、地元の家具製作所と地元の木材で家具制作をしている。さらに地元のグラフィックデザイナーとロゴを制作していた。
- ⑧ 外構に家具を置き屋内に導く：外構に家具を置き CS 利用者が屋内に入るきっかけをつくる操作である（B, D, G, H）。例えば B では CS に入る敷居を下げるため軒下に家具を設けていた。H では飛び石の上に家具を置き、活動を通りに見せることで人を招いていた。
- ⑨ 変化した使い方に合わせて仕切りをつくる：仮設の仕切りを用いて空間を区切る操作である（B, E）。例えば、E ではテナント数を増やすために仮設壁を設置し、空間を区切っていた。

表 3.7 空間操作、パートナーシップ、建築家の関わり、CS への評価

評価項目 Evaluation Item	各カテゴリー Category	USC	URA				SHA		DA		
		A	B	C	D	E	F	G	H		
空間操作 Spatial operation	建築家と運営者・地域住民が 行った空間操作 Operation by the architects and the managers and the locals	① 内外の中間領域をつくる / Making intermediate space between inside and outside		●	●			●	●	●	
		② 透明化による視認性確保 / Creating visibility through transparency		●	●	●		●	●	●	
		③ レベルの操作でホールのような空間をつくる / Making a hall-like space by changing levels	●	●	●	●	●	●	●	●	
		④ 壁の撤去で空間を広くする / Making space larger by demolishing walls		●	●	●	●				
		⑤ 柔軟な仕切りでワンルームをつくる / Creating a one room space with soft divisions		●			●	●			
		⑥ 貰った建具と家具を再利用する / Reuse of doors and furniture from surrounding houses		●	●	●			●		
	運営者・地域住民のみが 行った空間操作 Operation by the managers and the locals	⑦ 家具、植栽を運営者や地域住民がつくる / Creating furniture and greenery by the manager and locals		●	●				●		
		⑧ 外構に家具を置き、屋内に導く / Inviting people inside by placing furniture outside		●		●			●	●	
		⑨ 変化した使い方に合わせて仕切りをつくる / Adding temporary walls to adjust to new uses		●			●				
関係構築 Partnership	建築家の役割の拡張 Expanded tasks of architect	プログラムの構想 / Creative programming	●		●	●	●	●	●	●	
		都市の調査と地域コミュニティの研究 / Urban survey and community research	●	●						●	
		改修前の試験的な利用 / Pilot use before renovation		●	●	●					
		参加型デザインの企画 / Facilitating of participatory design		●	●					●	
		イベントの企画 / Planning events	●	●	●	●	●		●	●	
		広報 / Advertisement	●	●	●	●	●				
		改修後の運営 / Managing after renovation	●	●	●	●	●				
	主な収入先の 併設プログラム Program generating main income	カフェ / Cafe		●		●	●	●		●	
		テナント / Space for commercial tenant	●			●	●				
		シェアハウス / Share house	●	●	●						
		宿泊 / Accommodation facility								●	
		コモンスペースの利用用途 Usage of common space	集会 / Meetings, ワークショップ / Workshop, レクチャー / Lecture	●E	●E	●E	●E	●E	●E	●E	●E
			マルシェ / Marche		●E			●E			
			ギャラリー / Gallery		●E		●P		●E		●E
			図書スペース / Library							●P	
			演奏会 / Concert					●E	●E		●E
			パーティー・懇親会 / Parties and social gatherings	●E	●E	●E					
建築家・運営者・地域住民の関わり Evaluation about the involvement of the architect	建築家・運営者による評価 Same evaluation by the architects and the managers	建築家の活動がCSの広報に貢献する / Contribute to the advertisement of CS	●M	●M	●A						
		建築的に魅力のある空間にできる / The architect creates attractive spaces		●M			●A,M				
		CSの活動を活気づける / Stimulates activities in CS	●A							●M	
	建築家のみによる評価 Evaluation by the architects	様々な要望を統合し実現する / The architects is able to integrate various requests in the project					●M	●A			
		経済的な効率性以外の価値観を加える / Adding viewpoints to management other than economical efficiency		●							
		建築基準法や構造の条件の把握 / Grasping the legal and structural issues					●				
		運営で設計コンセプトを維持 / Keeping the design concept by management					●				
		自由な立場で提示できる / Proposing ideas from an independent position						●			
	運営者のみによる評価 Evaluation by the managers	予想外の提案 / Proposing unexpected ideas	●					●	●	●	
		建築家のみによる評価 Evaluation by the architects	必ずしも建築家が運営に関わる必要はない / No need for architects to be involved in management			●	●				
	運営者のみによる評価 Evaluation by the managers	利便性の考慮不足 / Lack of consideration for the convenience		●				●	●		
		資金の使い道の考慮不足 / Lack of consideration for the budget	●								
		徐々に建築家が運営から離れていく / The architects distances himself gradually from the management		●							
	地域・コミュニティの活性化 Enhancement of local community	建築家・運営者による評価 Same evaluation by the architects and the managers	地域の人々の意識の向上 / Enhance awareness of local people	●A	●A,M					●M	●A,M
			地域コミュニティの賑わい創出 / Produce liveliness of local community	●M	●A	●A	●A	●A,M		●A,M	●A
建築家のみによる評価 Evaluation by the architects		地域において他のプロジェクトを創出する / Stimulate the creation of other projects in the area		●	●	●					
		改修による参考例の提示 / Create example of how to renovate existing buildings						●			
建築家・運営者による評価 Same evaluation by the architects and the managers		組織の継続が困難 / Continuity of a management system	●A,M	●A,M						●A,M	
		地域住民との関わり不足 / Lack of relationship with local people	●M				●M	●M	●A,M	●M	
建築家のみによる評価 Evaluation by the architects		プロジェクトの方法論の他地域への転用が困難 / Difficulty to transferring project methods to other sites	●								
		ジェントリフィケーションへの対応の難しさ / Difficulty to address gentrification				●					
運営者のみによる評価 Evaluation by the managers		プロジェクトと距離があり運営に関わることが難しい / Difficulty of involving in management due to distance from the project site	●								
		CSの利用方法が理解されていない / Some locals do not understand the way of using CS		●							

P: 常設 / Permanently use E: イベント / Event A: 建築家 / Opinion by the architect M: 運営者 / Opinion by the manager

USC: 都心郊外商業地域 / Urban Suburb Commercial Area URA: 都心住宅地域 / Urban Residential Area SHA: 郊外住宅地域 / Suburb Housing Area DA: 過疎地域 / Depopulated Area

### 3.2.3 建築家の役割の拡張

通常の建築家の役割をプログラムが決定した状態での設計業務と雑誌等での表現活動とすると、本事例では、CS の改修設計の他に、建築家の役割の拡張を確認した (表 3.7)。各役割を以下で説明する。

・ **プログラムの構想**： B 以外のすべての事例でプログラムや使い方を含めた提案を行うという利用の構想を行っていた。例えば、F では運営者が住宅の改修を依頼した際に、建築家が依頼者の地域へ根差した生活を送りたいという要望から CS を提案していた。

・ **都市の調査と地域コミュニティの研究**： 大学研究室が関わっている事例 (A, H) では都市的なスケールのマッピング調査や地域コミュニティへのアンケート調査を行い、研究論文化している事例が見られた。例えば、H ではまちへの建築提案の展覧会を開き、住民からまちに対するアンケート調査をしていた。また B は研究論文化はしていないものの敷地のエリアのコミュニティ調査を行い、プロジェクトに反映していた。地域の情報が建築家のもとに集まることで、同エリアの他のプロジェクトを受注するなどの利点があると述べていた。

・ **改修前の試験的な利用**： 都心住宅地域の事例 (B, C, D) では建築家が改修前の CS の運営やイベントでプログラムや改修後に必要とされる事柄を決定していた。C では建築家が改修前の住宅に住み計画していた動線を変更した。

・ **参加型デザインの企画**： 地域住民の設計への参加を促す事例が見られた (B, C, H)。例えば H では地域まちづくり団体に模型によって表現された建築提案に直接手を加えて貰うことで、設計提案にフィードバックする設計手法を用いていた。

・ **イベントの企画**： F 以外すべての事例で、イベントを開催して地域住民に CS に対して親近感を持たせる事例が見られた。A ではシェアハウス入居者が地域のイベントに参加すると賃料を下げる仕組みをつくっていた。また H では地域団体と演奏会や展覧会などの地域活動に関わりを持つことで事例の普及を図っていた。

・ **広報**： 雑誌等で表現活動を行う以外に建築家が CS の広報を担う事例が見られた (A,B,C,D,E)。例えば、B では住民に向けた地域新聞を作成していた。

・ **改修後の運営**： 建築家が改修後も運営団体に関わっていた (A, B, C, D, E)。例えば B は建築家が運営実行委員として管理運営を行っていた。また E は建築家がテナント審査に関わっていた。

#### 3.2.4 プログラム

CS は併設プログラムとともに空間を柔軟に利用しており、8 事例中 7 事例で CS と同じ建築内に主な収入先のプログラムがあった（表 3.7）。例えばシェアハウスでは住民の共有のリビングやキッチンで CS として利用する事例や、カフェでは CS でのイベントの際に合わせて利用する事例が見られた。CS でも使用料を取ることがあるが、CS 継続のための主な収入先はカフェ、テナント、シェアハウス、宿泊であった。特に D ではカフェによって CS を維持する収入を得られるとともに、飲食物を購入することで CS を利用するきっかけとなるプログラムの相乗効果を確認した。

また、CS のプログラムを確認すると、常設のプログラムと、イベントとしてのプログラムがあった。イベントとしてのプログラムの参加者は数名から約 200 人など幅広い利用者数であった。例えば B は毎日プログラムを変更して CS を運営していた。また G では竣工後に常設のプログラムとして図書スペースを追加し、住民が訪れるきっかけをつくっていた。

#### 3.2.5 建築家の関わりへの評価

建築家に関わることに對しての肯定的、否定的、そして中立的な評価を建築家、運営者ごとに KJ 法を参考にとまとめた（表 3.7）。

・ **建築家、運営者による肯定的な評価：**「建築家の活動が CS の広報に貢献する」、「建築的に魅力のある空間にできる」、「CS の活動を活気づける」、「様々な要望を統合し実現する」が見られた。例えば、A、B の運営者と C の建築家は、建築雑誌などで自分の作品を公表することが CS の広報になると述べていた。

・ **建築家のみによる肯定的な評価：**「経済的な効率性以外の価値観を加える」「建築基準法や構造の条件の把握」「運営で設計コンセプトを維持」「自由な立場で提示できる」が見られた。例えば E では建築家が CS の運営に設計の面から意見をすることで、竣工後の空間操作を行う際に建築設計のコンセプトを保っていた。

・ **運営者のみによる肯定的な評価：**「予想外の提案」という意見が見られた。例えば、F では運営者が住宅設計を建築家に依頼したが、建築家が CS をつくり地域に開くという運営者が想定していない提案を行っていた。

・ **建築家のみによる中立的な評価：**「必ずしも建築家が運営に関わる必要がない」という意見が見られた。例えば、建築家が運営も行っている D では、竣工後のイベントやテナントの運営に

は建築家としての技術や知識は必要ないとの意見があった。

・ **運営者のみによる否定的な評価**：[利便性の考慮不足] [資金の使い道の考慮不足]、[徐々に建築家が運営から離れていく]が見られた。例えば[利便性の考慮不足]において、Bでは便利さを犠牲にして外見を優先する、CSの活動音がシェアハウスの個室まで聞こえる、Gではキッチンが狭いなどの意見があった。

### 3.2.6 CS への評価

CSの効果と課題を建築家、運営者ごとにKJ法を参考にまとめた(表3.7)。

**CSの効果：**

・ **建築家と運営者による評価**：[地域住民の意識の向上] [地域コミュニティの賑わい創出]が見られた。例えば、Gの運営者はCSができたことで、地域に新しい定住者が移住したことに住民が刺激を受けていたと意見していた。このようにCSをきっかけに新規の住民が移住することがまちづくり活動のきっかけとなっていた。Hの建築家は、町中でみんなで集まれる場ができてよかったとの意見が見られた。

・ **建築家のみによる評価**：[地域において他のプロジェクトを創出する] [改修による参考例の提示]が見られた。Dは近隣で同様な改修を行い、Fでは倉庫の活用法の視察者が多いと述べていた。

**CSの課題：**

・ **建築家と運営者による評価**：[組織の継続が困難] [地域住民との関わり不足]が見られた。例えば、Bの運営者は助成金に頼らず組織を継続させたい、Hの運営者と建築家は共にオーナーが変わってもCSを継続する仕組みが必要と述べていた。またFの運営者は想定よりも遠方からの客が多く地元の人が少ないと述べていた。

・ **建築家のみによる評価**：[プロジェクトの方法論の他地域への転用が困難]、[ジェントリフィケーションへの対応の難しさ]、[プロジェクトと距離があり運営に関わるのが難しい]が見られた。例えば、Dでは、プロジェクトが展開していき地域の価値が上がるという効果がある一方、観光客へ向けた店の増加などにより住民にとっての地域の価値が下がっていると述べていた。

・ **運営者のみによる評価**：[CSの利用方法が理解されていない]が見られた。Bでは利用者が



CS を無料で使用できると考えていることがあると述べられていた。

### 3.3 考察

地域状況と CS との関係と建築家の役割を把握するため、ケーススタディとして文献調査、実地調査、インタビュー調査を行った。そして、結果として「各事例の概要」「空間操作」「建築家の役割の拡張」「プログラム」を明らかにし、また「建築家の関わりへの評価」を肯定的、否定的、中立的な観点から、また「CS への評価」を効果と課題の観点から明らかにした。以上から、設計には各地域状況に共通する空間操作はあるものの差が見られることがわかった。また建築家は運営にも関わりその職能を拡張していることが明らかになった。下記に建築家が CS に関わる際の設計と運営の特徴をまとめる。

#### 3.3.1 設計

設計に関して、建築家は異なる地域状況に応じて CS の設計を行っている。また、意匠性を保持しつつ開放的で柔軟な設計としつつ、地域住民が CS に愛着を持つような設計を行っている。

まず、建築家は地域状況に応じてプロジェクトに企画の段階から関わることで CS を実現させている。下記に各地域ごとの CS をつくる目的、CS の特徴、そして課題をまとめる。

都心郊外商業地域の CS においては、商業地の活気を取り戻すことを目的にしていた。また空間操作として商業地において CS がテナントと共存するために、一階ではなく二階に CS を設けていた。この地域は課題として、[地域住民との関わりの不足] が挙げられた。

都心住宅地域においては住宅地域の中に交流の場をつくること、もしくは地域の価値を伝えることを目的にしていた。また空間操作として、狭小敷地の中でファサード操作により内外の活動を伝えていた。また、この地域では住宅街のなかでカフェやテナントなど、CS に地域住民以外の人も利用するプログラムを設置している事例がみられ、この場合には、住宅を公な施設に改修する際に、観光客が地域に増加することで、生活のためのお店がなくなったり、物価が上昇することで、住民の生活価値を下げるのが懸念されるため [ジェントリフィケーションへの対応] が必要である。

一方、郊外住宅地域、過疎地域の CS においては、地域コミュニティのための活動拠点をつ



くることを目的にしていた。郊外住宅地域の空間操作としては、内部空間の広がりを利用し、内部空間を特徴づける空間操作をしていた。また過疎地域の空間操作としては、周辺の敷地に余裕があることから、ランドスケープを含めたCS空間をつくっていた。しかしながらこれらの地域でも「地域住民との関わりの不足」の問題が確認できた。

さらに建築家はCSをつくるにあたって地域への開放性と柔軟性を意識して設計を行っていた。しかしながら、「利便性の考慮不足」においてシェアハウス、宿泊施設を併設プログラムにもつCSはプライバシーや快適性への課題を指摘されていた。

また、建築家は、地域住民と作業を行う「⑥貰った建具と家具の再利用を行う」や「⑦家具、植栽を運営者や地元の人がつくる」の空間操作によって「地域住民との関わりの不足」を解消し、地域住民にCSに対して愛着を持ってもらおうとしていた。

### 3.3.2 運営

運営について、建築家は地域のリサーチ、企画段階でのプロジェクトへの参加を行うとともに竣工後においても運営にも関わっていた。まず、建築家は地域のリサーチを行うことで、地域の魅力や課題を発見するとともに、地域コミュニティと関係をつくっていることがわかった。また、建築家は企画段階からプロジェクトに関わっていた。このことを「予想外の提案」として運営者が評価する事例があった。建築家が構想に関わることで運営者の予想していないCSプロジェクトの創造的な利用可能性が広がる。

さらに建築家は助成金の取得に加えて、竣工後の運営にも関わっていた。このことで建築家は運営に関わり「竣工後の運営で設計コンセプトを維持」できるという評価もある一方、建築家が運営団体に加わり竣工後も運営を行うことは難しく「徐々に建築家が竣工後の運営から離れていく」「プロジェクトと距離があり運営に関わるのが難しい」の課題が見られた。この課題を解決するために。個人の他に運営団体をつくることによって行われている事例が見られた。これには株式会社や有限責任事業組合、有志団体があり、個人では確保できない資金や継続性を確保しようとしていた。

以上のように建築家の役割がリサーチ、企画への参加や竣工後の運営などに拡張する中で、これらの業務は主に無償で行われていた。今後、プログラムの構想や広報等の業務が建築家の役割として確立し、持続させるかが課題である。

## 第四章 考察と結論

## 4.1 CSに関わる建築家の意義と課題、展望

第二章、第三章では1事例のアクションリサーチと8事例のケーススタディを行った。第四章ではケーススタディにより得られた知見を通して、第二章を再解釈することで、地域コミュニティのための改修によるCSをつくる際に建築家が関わる意義と課題、そして展望をまとめる。

### 4.1.1 CSをつくる際に建築家が関わる意義

CSに関わる建築家は建築の職能を運営へ拡張し、敷地境界線の内部だけではなくエリアを対象に設計することで「プロジェクトの可能性の拡張」の意義が認められた。これを建築的ファシリテーションと呼ぶ。建築的ファシリテーションとは、設計と運営の交差領域である。今まで個別の事象であった設計と運営をつなげることで建築家の持つ建築デザインの技術を運営の領域に拡張する意味で重要である。下記に建築的ファシリテーションをまとめていく。

**「敷地内に限定されないリサーチを行うことで地域の情報を集約する場をつくる」**: CSに関わる際、建築家は敷地内に関するリサーチだけではなく、地域のリサーチを行っている。地域全体のリサーチを行うことによって、地域の情報が集まり、蔵舞台やCASACOの事例では新しいプロジェクトを生み、まちづくり団体同士をつなぐ効果があった。

リサーチやそれらを発表する展覧会においては、マッピングや模型を用いることで、「具体的な展示によるわかりやすさ」の評価を住民から得られたり、さらに展覧会会場を第二章で制作したような大きなこたつなどを設計することで、住民の展覧会での滞在時間の増加を計画することで「交流の場としての効果」を得られるなど、建築家の職能をリサーチや展覧会に活かす事が可能である。過疎地域の蔵舞台だけではなく、商業地域の馬場川や都心住宅地域のCASACOなど抱える問題の違う事例においても、地域のリサーチを行っていることから、地域状況によらず、リサーチや展覧会の手法は転用可能である。

**「企画に参加することでプロジェクトの公共性を高める」**: CSに関わる建築家は図面作成以前に地域の人と打ち合わせをしながら、プロジェクトの企画を行うことで公共性を高めていた。企画においては第二章のように、住民と企画の段階から図面や模型を用いて空間について議論するなど建築家の職能を活かした企画への参加が可能である。

また、第三章より、1事例を除く全ての事例でプログラム決定以前から建築家が企画に参加

していることから、第二章で用いた模型や図面を用いた企画への参加は他の地域状況の CS プロジェクトに転用可能である。

**「利用者に CS へ愛着を持ってもらうデザインを行うことができる」**：第二章では大学研究室と地域住民が、施工業者に代わって施工ボランティアの役割を担うことで、改修費用を削減するとともに地域住民との関わりが生まれた。

同様に第三章の CS プロジェクトでは、解体、床壁張り、塗装、間仕切り制作、家具制作や植栽の設置などの多岐に渡る部分で、地域住民に関わる施工作業（DIY）が見られた。一連の施工過程においてみられた上述の DIY 以外にも「⑥ 貰った建具と家具の再利用を行う」ことで住民との協働を行っていた。

このように協働を通して地域住民との関わりを持つようなデザインを行うことは、住民の CS 空間への愛着やその後の地域住民による自発的な CS 空間の利用のために重要な要素である。

**「助成金の獲得による運営への補助」**：建築家は助成金の獲得に参加することで CS の地域への貢献可能性を増やしている。第二章ではパースや図面の作成などを生かした助成金書類を作成することで、助成金に採択されるなど建築家の職能を資金のマネージメントにも活かした。第三章より、一事例以外の全ての CS の事例で、各自治体や公益団体からの助成金が改修費または運営費に用いられていた。以上のように、助成金の獲得は建築家の職能を用いて獲得することができ、またどの地域状況においても助成金を利用しているため、CS プロジェクトにとって改修の初期費用や、運営費として活用できる。

**「竣工後の運営への参加によって、CS の地域への貢献を増やす」**：第二章では行えていないが、建築家による竣工後の建築の運営への関わりによって、CS が閉鎖的になることを防ぎ CS の公共性を高めている。例えば第三章より「運営で設計コンセプトを維持」として、地域に対しての貢献に積極的なテナントの選定を行うことで、公共性を増加させていた。また、「自由な立場で提示」として、アーティストを招致し CS をギャラリーとして利用してもらうなど運営者のコミュニティ以外からの利用を促進していた。建築家が竣工後の運営に関わることによって CS の公共性を高め、CS が地域へ貢献できる可能性を高めることができる。

#### 4.1.2 CSをつくる際に建築家が関わる課題

改修によるCSに関わる建築家は、意匠性とともに関放性と柔軟性を意識し、地域状況に応じてCSをつくっていた。しかしながら運営視点からの評価からは課題も見られた。

また、CSに関わる建築家は建築的ファシリテーションを行うことによって、一般的な設計だけではなく、建築的職能を拡張して運営に関わっていた。しかしながら、設計に加え建築的ファシリテーションも加わり、業務が多岐にわたることで、「運営に継続的に関わることの難しさ」がみられ、また、「竣工後のCS利用の促進」のためには建築的ファシリテーションのみでは不足であることがわかった。

下記にCSをつくる建築家に関わる課題を示す。

**「CSの空間操作と利便性の考慮不足」**：第二章より改修によってCSをつくる際は、「建築の形を継承しつつ、合理性と意匠性のある設計」が重要であった。第三章においても建築家はCSをつくるにあたって地域への開放性と柔軟性を意識し、さらに地域状況に応じてCSを設計していることがわかった。これらは、運営者から「建築的に魅力のある空間にできる」との評価を得ていた。また第二章においても、意匠性のある設計によって遠方の地域からも利用者が訪れているとのヒアリング結果が得られた。

しかしながら、運営者からは「利便性の考慮不足」として、シェアハウス、宿泊施設を併設プログラムにもつCSはプライバシーや快適性への課題が指摘された。以上のように、改修によってCSをつくる際、意匠性、開放性、柔軟性などを考慮し、さらに利便性を満たす建築をつくることは難しく、建築家は必ずしも運営者の要望を全て満たすことができていないことがわかった。

**「運営に継続的に関わることの難しさ」**：竣工後のプロジェクトに建築家が継続的にCSに関与していくことは難しい。第二章より、CSの開放性を確保するために建築家は竣工後も関わりを持つことが重要であった。さらに、第三章より竣工後も建築家が運営に関わることで、「運営で設計コンセプトを維持」の意義が認められた。しかしながら、建築家が竣工後も運営を継続的に行う際には「プロジェクトと距離があり運営に関わるのが難しい」などの理由から、「徐々に建築家が運営から離れていく」という課題が見られた。

竣工後の運営に建築家が関わることに、有限責任事業組合、有志団体などの運営団体を立ち上げることで、資金や継続性の確保を行い、建築家自身の負担を軽減している事例が確認できた。このように運営団体をつくることで、建築家が運営に関わることの意義である CS の公共性を高め、設計コンセプトを維持するといった役割を住民団体に移譲していくことができる。

「竣工後の CS 利用の促進」：竣工後の CS 利用の促進を行うためには、地域状況に応じた設計や建築的ファシリテーションだけではなく、運営者の属性も考慮する必要がある。

第三章より建築家は地域状況に応じて CS をつくることで、公共建築では補いきれていない公共の役割を担保していた。下記にそれぞれの特徴と課題をまとめる。

・ **都心郊外商業地域**：商業地の活気を取り戻すことを目的にしていた。また空間操作として商業地において CS がテナントと共存するために、一階ではなく二階に CS を設けていた。この地域は課題として、[地域住民との関わりの不足] が挙げられた。

・ **都心住宅地域**：住宅地域の中に交流の場をつくること、もしくは地域の価値を伝えることを目的にしていた。また空間操作として、狭小敷地の中でファサード操作により内外の活動を伝えていた。また、この地域では住宅街のなかでカフェやテナントなど、CS に地域住民以外の人も利用するプログラムを設置している事例がみられ、この場合には、住宅を公な施設に改修する際に住民の生活価値を下げることに懸念されるため [ジェントリフィケーションへの対応] が必要である。

・ **郊外住宅地域**：地域コミュニティのための活動拠点をつくることを目的にしていた。郊外住宅地域の空間操作としては、内部空間の広がりを利用し、内部空間を特徴づける空間操作をしていた。しかしながら課題として [地域住民との関わりの不足] の問題が見られた。

・ **過疎地域**：ここでも地域コミュニティのための活動拠点をつくることを目的にしていた。過疎地域の空間操作としては、周辺の敷地に余裕があることから、ランドスケープを含めた CS 空間をつくっていた。しかしながらこの地域でも [地域住民との関わりの不足] の問題が見られた。

[地域住民との関わりの不足] に関して、設計や建築的ファシリテーションだけでなく、運営者の属性も利用者の属性に関わる。過疎地域においては、第二章より、「建築の形を継承しつつ、合理性と意匠性のある設計」として、過疎地域の CS の特徴であるランドスケープを含めて CS を



つくったことが、今まで地域になかった風景をつくり、地域住民が積極的に利用する理由となることがわかった。第三章より、同じ過疎地域のあわくらと蔵舞台を比較した時、あわくらは若者の移住者が利用しているのに対して蔵舞台はまちづくり団体を中心に高齢者の利用に留まっていた。同様の地域状況で、同様の空間操作、建築的ファシリテーションをしているものの利用者の属性に違いがあらわれた。これは運営者があわくらは移住してきた若者、蔵舞台は地域のまちづくり団体であるためである。よって、運営者の属性も竣工後の建築の利用者に関わっていることがわかった。蔵舞台において、若者の移住者の利用を増加したい場合は、運営に若者の移住者が参加するなどを行う必要がある。

以上が建築家が CS に関わる意義と課題である。

## 4.2 結論

本研究では、地域コミュニティのための改修による CS の実態把握をもとに CS に関わる建築家の意義と課題をまとめることを目的とし、CS の AR とケーススタディを通して分析考察を行った。

第一章においては本研究の目的とその社会的背景、研究構成について述べた。

第二章においては、衰退の進む地方小都市で蔵の CS への改修を実施し、建築家の役割を把握するため、建築家がプロジェクトに関わった全てのプロセスを、AR の現状確認、計画、実施、評価と省察のサイクルを用いることで課題を発見していった。そして、考察として CS に関わる建築家の役割を考える中で、意義として「インタビューを実施のためのコンテキストとして利用」できること、「マッピングや展覧会によって交流を創出」することができること、「建築の形を継承しつつ、合理性と意匠性のある設計」が行えること、そして、課題として「CS の継続性と公共性を高める」が認められた。

第三章においては CS に関わる建築家の役割や地域との関係をみるため、8 事例の CS を対象として、文献調査、実地調査、建築家と運営者への半構造化インタビューを行った。結果として、CS に共通する空間操作をまとめ、設計以外にも建築家の役割の拡張を確認した。さらに CS の主な収入先の存在および同じ空間の利用における多様な使われ方を確認した。そして、建築家の関わりへの評価を肯定、否定、中立に分類し、CS への評価を効果と課題に分類した。そして、

考察として建築家が CS に関わる際の設計の特徴として、「開放性と柔軟性を意識した設計」をしていること「地域状況に応じて異なった CS の設計」をしていること、「CS に愛着を持つ設計」を行っていることがわかった。また運営の特徴として建築家が運営にも関わることで「予想外の提案」を行い、CS の地域貢献の可能性を高めているが、建築家が竣工後に運営に関わることは難しいことを明らかにした。

第四章では、第二章で得られた知見を第三章によって再解釈することで建築家が CS に関わることの意義と課題をまとめた。意義として建築家は CS の建築的ファシリテーションを担うことで、建築家の持つ建築デザインの技術は、運営の領域に拡張可能なものであることがわかった。このことで、今まで個別の事象であった設計と運営をつなげ「プロジェクトの可能性の拡張」の意義が認められた。

課題として「CS の空間操作と利便性の考慮不足」や、さらに建築家に CS の設計から運営まで一貫した関与が期待されるようになることで、建築家が、「運営に継続的に関わることの難しさ」がみられ、また、「竣工後の CS 利用の促進」のためには建築的ファシリテーションのみでは不足であることがわかった。本研究は、CS プロジェクトに建築家が関わるニーズが高まるなかで、建築家の役割のひろがりの方向性を明らかにした一方、それに伴う課題を示した。

本研究は、CS に関わる建築家の役割の変化という視点から、CS の実践とケーススタディを行うことで、建築家が CS に関わる際の意義と課題を明らかにした。しかし本研究は CS の実践から研究をはじめたため、例えば第三章で課題が認められた「建築家による竣工後の運営の難しさ」のように竣工後の運営における体制など、ケーススタディで挙げられた課題を実践において検証することはできなかった。今後建築家が CS に関わる際、竣工後の運営体制も含めた実践研究が待たれる。

#### 4.3 展望

本研究は CS に関わる建築家の意義と課題を明らかにすることを目的に、CS プロジェクトにおける建築家のプロセスと設計を実践とケーススタディによって分析を行った。その結果、意義として、設計と運営の交差領域である建築的ファシリテーションを明らかにした。本研究においては改修による CS に着目したため、設計と建築的ファシリテーションはプロセスとして連続していたが、これらの建築的ファシリテーションは今後設計からの独立することが考えられる。

また、CS は本研究は企業と行政によって運営されていない空間として定義を行った。しかしながら第三章より商業化や行政の援助を受けて運営をおこなっており、コモンズの定義にあるように明確に市場と行政から独立した空間であるとは位置づける事ができない。

下記に「建築的ファシリテーションの設計からの独立」と「CS に関する展望」を本研究の展望としてまとめる。

#### 4.3.1 建築的ファシリテーションの設計からの独立

以上見てきたように建築家の職能は、運営の領域にも拡張可能であることがわかった。CS の設計の際は、建築の意匠的な側面だけではなく、この設計と運営の交差領域である建築的ファシリテーションに着目をすべきである。今後、CS に関わる建築的ファシリテーションは、設計から独立し、単体での需要が生まれてくると考える。設計から切り離されながらも建築的ファシリテーションは建築家の職能を活かしているため、視覚的な成果物が期待できる。よって、いままで切り離されて考えられていた設計と運営をつなげ、さらに運営を視覚的に表現することができるようになると期待できる。

#### 4.3.2 CS に関する展望

CS をコモンズとして考えたときに、一事例を除く全ての CS は HAGISO のように、カフェを経営しているなど〔主な収入先のプログラム〕を併設することで、収入を得て商業化していた。よって CS は商業とコモンズのハイブリッドな存在である。また、改修費だけでなく、CASACO のように運営費として助成金を取得している事例もあり、これは行政とコモンズのハイブリッドな存在である。よって CS は純粋なコモンズとは言えないが、行政や商業とハイブリッドな存在であることで、安定した収入源をつくり継続性を高めていることがわかる。今後、行政が

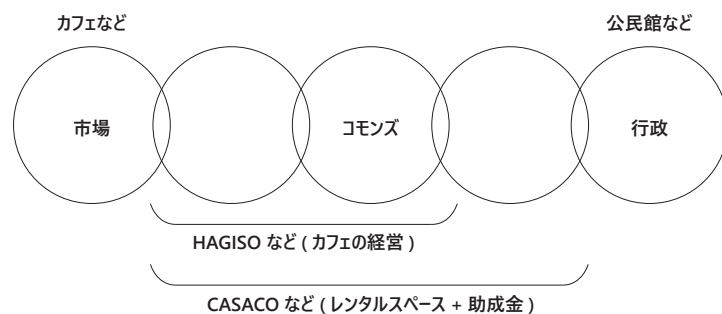


図 4.1 コモンズとコモンスペースの関係

提供するのではなく個人が提供する公共空間として、行政でも市場のハイブリッドな存在であるCS(図4.1)には、いままで行政がカバーできなかった、公共性を補完する空間として展開の可能性がある。

以上が本研究の展望である。

注

- 注1) 2012年の市川三郷町全体の年齢別人口集計表による。
- 注2) まちづくり団体へのインタビューから市川三郷町のまちづくり団体が主催するまちづくりイベント一回の平均来場者数は20人程である。
- 注3) 地域状況による分類のため、各事例の住所をから市町村単位の分類を金本ら(2002)によって提唱された都市雇用圏の定義を用いて(1)中心都市をDID人口(2010年度)(国土交通省2018)によって設定し、(2)郊外都市を中心都市への通勤率が10%以上の市町村とし、(3)同一都市圏内に複数の中心都市が存在することを許容する都市圏を設定した。また(4)中心都市のDID人口5万人以上を大都市とした。そして①三大都市圏×中心都市②大都市圏×中心都市③大都市圏×郊外④地方都市圏×中心都市⑤地方都市圏×郊外⑥過疎地域の6タイプに分類した。更に、市町村単位だと大都市に分類されても、丁目単位の場合周辺環境が過疎地域に類する場合もあるため丁目単位での分類も行った。丁目単位での分類のため人口集中地域かどうか、また、用途地域での分類を行った。この時、商業地域、近隣商業地域、工業地域を商業地域としてまとめ、第一種住宅地域、第二種住宅地域は住宅地域としてまとめ、市街化調整区域、都市計画区域外、公園内をその他として分類した。そして各事例の周辺状況を敷地から確認し、都心郊外商業地域、都心住宅地域、郊外住宅地域、過疎地域の4タイプに分類した。
- 注4) KJ法とは民族地理学の分野で川喜田二郎によって考案されたものとして知られており、何らかの問題提起から状況把握、そしてそれに対する解決方法のプロセスまでの一連の方法を指す。本研究ではある問題に対しての情報を集め、ラベリング、カテゴリー化を行うことで意味のわかるような全体像とするまでのプロセスを狭義でのKJ法とする(川喜田1967)。
- 注5) 基本的にはカフェは公共サービスではないためCSではないが、カフェスペースもCSと一体的に利用される場合はハッチングの対象とした。



参考文献

- 1) Alonso, Marta and Almazán, Jorge (2001). *Designing the Process: Scale Models in the Work of Kazuyo Sejima and Sou Fujimoto*, International Journal of Architectural Research, Vol.5, No.1, pp.22-36.
- 2) 秋山弘子ら (2015), 『高齢社会のアクションリサーチ: 新たなコミュニティ創りをめざして』, 東京大学出版会.
- 3) 雨宮知彦, 岡部明子 (2017). 「「短期集中型ワークショップ」と「長期滞在型実践」を組み合わせた建築デザイン実践の報告—ジャカルタのインフォーマル集住地におけるケーススタディー」, 『日本建築学会技術報告集』, Vol.23, No.55, pp.1057-1062.
- 4) 冷水豊, 岡本憲之 (2015). 『高齢社会のコミュニティにおけるアクション』, 秋山弘子 (編), 『高齢社会のアクションリサーチ 新たなコミュニティ創りをめざして』, 第一版, 東京: 東京大学出版会, p. 34.
- 5) 新雅史 (2012). 『商店街はなぜ滅びるのか』, 社会・政治・経済史から探る再生の道, 第一版, 東京: 光文社, p. 7.
- 6) Carr, Wilfred and Kemmis, Tephem (1986). *Becoming Critical: Education, Knowledge, and Action Research*, Falmer Press, p. 186.
- 7) Dabaieh, Marwa (2013). *Participatory action research as a tool in solving desert vernacular architecture problems in the Western Desert of Egypt*, Action Research, Vol. 11, No. 3, pp. 279-298.
- 8) デランダマヌエル (2015). 篠原雅武訳 『社会の新たな哲学 集合体、潜在性、創発』, 人文書院.
- 9) Deming, Elen M. and Swaffield, Simon (2011). *Landscape Architectural Research: Inquiry, Strategy, Design*, Wiley.
- 10) 延藤安弘 (2005). 『ヒト・コト・モノの共生の場としての〈まちの縁側〉』, 季刊まちづくり 6.
- 11) 古市修, 小林正美, 田中友章 (2006). 「大学による継続的な町づくり支援の方法に関する研究—登戸区画整理事業における専門的支援—」, 『日本建築学会技術報告集』, No. 24, pp. 387-392.
- 12) Geertz, Clifford (1973). *The Interpretation of Cultures: Selected Essays*, Basic Books.
- 13) 権安理 (2018). 『公共的なるもの』, アーレントと戦後日本, 第一版, 作品社.
- 14) Greenwood, Davydd J. (2015). *An analysis of the theory/concept entries in the SAGE Encyclopedia of Action Research: What we can learn about action research in general from the encyclopedia*, Action Research, Vol. 13, No. 2, p. 205.
- 15) Hardin, Garret (1968). The Tragedy of the Commons, Science 162.
- 16) Harvey, David (2012). *Rebel Cities: From Right to the City to the Urban Revolution*, Verso. (ハーヴェイ デイヴィッド (2013). 森田成也 ほか訳 『反乱する都市: 資本のアーバナイズेशनと都市の再創造』, 作品社.)
- 17) 穂刈耕介, 神吉紀世子 (2013). 「旧市街地における地域建設業者のまちづくり参加の効果と

- 課題」,『日本建築学会計画系論文集』,Vol. 78, No. 684, pp. 403-412.
- 18) 今村雅樹, 小泉雅生, 高橋晶子 (2013).『パブリック空間の本 公共性をもった空間の今までとこれから』,彰国社.
  - 19) 猪熊純, 成瀬友梨ら (2016).『シェア空間の設計手法』, 学芸出版社.
  - 20) 石塚雅明 (2004).『参加の「場」をデザインする-まちづくりの合意形成・壁への挑戦』, 学芸出版社.
  - 21) 垣野義典 (2010).「リースクール型中学校の計画・設計プロセスの検証と計画要件-東京シューレ葛飾中学校を事例として-」,『日本建築学会技術報告集』,Vol. 16, No. 34, pp. 1105-1110.
  - 22) 金本良嗣, 徳岡一幸 (2002).『日本の都市圏設定基準』, 応用地域学研究, No.7, pp.1-15.
  - 23) 川喜田二郎 (1967).『発想法』, 中央公論社.
  - 24) 木多道広 (2012).「地域文脈からみた「まちの居場所」の形成に関する研究-キーパーソンの課題解決行為に基づく千里ニュータウン「ひがしまち街角広場」の形成過程の考察-」,『日本建築学会計画系論文集』,Vol.77, No.675, pp.1023-1031.
  - 25) 小林正美, 古市修 (2002).「「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実験と評価に関する研究-岡山県高梁市における継続的ケーススタディー-」,『日本建築学会技術報告集』, No. 15, pp. 283-288.
  - 26) 小泉潤二, 志水宏吉 (2007).『実践的研究のすすめ人間科学のリアリティ』, 有斐閣, p. 254.
  - 27) 國分寛典, 赤川貴雄 (2007).「地方都市の中心商店街におけるマッピングとその有効性に関する研究」:熊手商店街をケーススタディーとして.『日本建築学会研究報告』,第46号, pp. 461-464.
  - 28) 国土交通省国土政策局国土情報課, 国土数値情報人口集中地区(DID), <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A16.html>, (参照 2018-1-10)
  - 29) 小松尚 (2005).「高校生と大学生の参加・協働と地域連携による提案型建築学習活動の効果と課題」,『日本建築学会計画系論文集』, No. 588, pp. 257-263.
  - 30) 小松尚, 辻真菜美, 洪有美 (2007.1).「地域住民の居場所となる交流の場の空間・運営・支援体制の状況 地域住民が主体的に設立・運営する交流の場に関する研究その1」,『日本建築学会計画系論文集』, No.611, pp.67-74.
  - 31) 小松尚, 辻真菜美, 洪有美 (2007.10).「設立者からみた交流の場の開設場所と運営および地域的つながりの相互関係-地域住民が主体的に設立・運営する交流の場に関する研究 その2-」,『日本建築学会計画系論文集』, No.620, pp.95-102.
  - 32) Kwok, Jackie Yan-chi and Ku, Hok-Bun (2008). *Making habitable space together with female Chinese immigrants to Hong Kong, Action Research*, Vol. 6, No. 3, pp. 261-283.
  - 33) Lewin, Kurt (1946). *Action Research and Minority Problems, Journal of Social Issues*, pp. 34-46.
  - 34) Lincoln, Yvonna S. and Guba, Egon G. (1985). *Naturalistic Inquiry*, SAGE, p. 316.
  - 35) 真境名達哉, 三橋純予 (2010).「地方都市の美術館設立に関する報告-室蘭市民美術館の事例-」,『日本建築学会技術報告集』,Vol. 16, No. 34, pp. 1087-1092.

- 36) 松原茂樹, 岩根敬子, 鈴木毅, 田中康裕, 奥俊信, 木多道宏 (2009). 「大阪府ふれあいリビング事業の運営と連携—住民が運営する交流の場と地域環境の関係に関する研究—」, 『日本建築学会計画系論文集』, Vol.74, No.636, pp.347-354.
- 37) 松村秀一 (2016). 『ひらかれる建築: 「民主化」の作法』, 筑摩書房.
- 38) 三俣学 (2014). 『エコロジーとコモンズ』, 晃洋書房.
- 39) 森傑, 清田英壬 (2014). 「スリランカにおける高齢者介護施設の居室計画に関する課題考察」, 『日本建築学会技術報告集』, Vol. 17, No. 35, pp. 299-304.
- 40) 森田智子, 森傑 (2014). 「小児科診療所待合室の空間デザインに関するアクションリサーチ—クリニックの改修前後の待合室利用の比較分析を通じて—」, 『日本建築学会計画系論文集』, Vol. 77, No. 676, pp. 1355-1364.
- 41) 中園真人, 山本幸子 (2010). 「農家住宅を再利用した地域共生ホーム「中村さん家」の使われ方—総合・循環型福祉サービス推進モデル事業の事例研究—」, 『日本建築学会計画系論文集』, Vol. 75, No. 651, pp. 1199-1207.
- 42) Ostrom, Elinor (1990). *Governing the Commons. The Evolution of Institutions for Collective Action*, Cambridge University Press.
- 43) Reason, Peter and Bradbury, Hilary (2001). *Hand Book of Action Research: Participative Inquiry and Practice*, SAGE.
- 44) 齋藤純一 (2000). 『公共性(思考のフロンティア)』, 岩波書店.
- 45) 清水義次 (2014). 『リノベーションまちづくり 不動産事業でまちを再生する方法』, 学芸出版社.
- 46) Stringer, Ernest T. (2007). 目黒輝美・磯部卓三監訳『アクション・リサーチ』, フィリア, p. 69.
- 47) 鈴木健二, 友清貴和 (2006). 『住民主体による廃校から高齢者施設への転用に関する事例的考察』, 日本建築学会計画系論文集, No. 607, pp. 17-24.
- 48) 諏訪正樹, 堀浩一 (2015). 『一人称研究のすすめ: 知能研究の新しい潮流』, 近代科学社.
- 49) 総務省統計局, 国勢調査報告平成27年, <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.html>, (参照 2018-12-27).
- 50) 総務省自治行政局過疎対策室, 過疎関係市町村都道府県別分布図 平成28年4月, [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000456268.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf), (参照 2018-12-27).
- 51) 高橋潤, 小林剛士, 小林正美 (2010). 「実践教育としてのまちづくりシャレットワークショップの研究—学生参加のシャレットワークショップを事例として—」, 『日本建築学会技術報告集』, Vol. 16, No. 33, pp. 711-716.
- 52) 武田丈 (2015). 『参加型アクションリサーチ(CBPR)の理論と実践 社会変革のための研究方法論』, 世界思想社.
- 53) 田中康裕, 鈴木毅 (2009). 「「親と子の談話室・とぼす」の開設プロセスにみる「場の許容性」についての一考察—「場所の主」へのインタビューを通して—」, 『日本建築学会計画系論文集』, No.636, pp.379-386

- 54) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏 (2007. 3). 「下新庄さくら園」における目的の形成に関する考察—コミュニティ・カフェにおける社会的接触—, 『日本建築学会計画系論文集』, No.613, pp.135-142.
- 55) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏 (2007. 4). 「コミュニティカフェにおける「開かれ」に関する考察」, 『日本都市計画学会計画系論文集』, No.614, pp.113-120.
- 56) 筒井真優美, 江本リナ, 草柳浩子, 川名るり (2010). 『アクションリサーチ入門—看護研究の新たなステージへ』, ライフサポート社.
- 57) 馬場正尊ら (2016). 『エリアリノベーション:変化の構造とローカライズ』, 学芸出版社.
- 58) 松村秀一, 馬場正尊, 大島芳彦 (2016). 『リノベーションプラス 拡張する建築家の職能』, ユウブックス.
- 59) 山本幸子, 中園真人 (2006). 「鵜心治:地元住民団体による茅葺き民家の再生 山口県下関市菊川町「歌野清流庵」の事例」, 『日本建築学会技術報告集』, No. 24, pp. 349-354.
- 60) 山本幸子, 中園真人, 利光由江, 渡邊弘崇 (2012). 「中山間集落における空き家を活用した都市農村交流施設の整備プロセス—集落住民を主体とする改修・増築工事の事例研究—」, 『日本建築学会計画系論文集』, Vol. 77, No. 676, pp. 1423-1430.
- 61) 米山秀隆 (2012). 『空き家急増の真実』. 日本経済新聞出版社.

謝辭



本研究は、著者が慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程在学中に、同大学理工学部ホルヘ・アルマザン准教授の指導のもとに行ったものです。博士論文執筆に皆様方に助けていただき誠に感謝しております。

はじめにご多忙な中、副査をお受けいただいた、岡部明子先生、伊香賀俊治先生、小林博人先生に心よりお礼申し上げます。皆様の審査によって論文をよりよいものにできました。

そしてホルヘアルマザン先生には研究の楽しさを教えていただきました。また困難が訪れたときは一緒に考えていただき、道標を示していただきました。本研究の指導をしていただき誠にありがとうございました。またアルマザン研究室の、櫻井花さん、菅沼響子さん、辻知也さん、草野萌さん、原里絵香さんは共に調査をしていただき誠にありがとうございました。

更に、現地にてプロジェクトを協働した市川マップの会の皆様、いたらぬ点が多々ある中で、様々なアドバイスをしていただき誠にありがとうございました。またインタビューと現地調査を了解していただいた、建築家と運営者の皆様、ご多忙ななか研究に協力していただきありがとうございました。

博士論文執筆という経験をもとに今後も努めてまいります。皆様ありがとうございました。

付録

## 第2章 インタビューローデータ

場所名	カテゴリー	ローデータ
みたまの湯	雰囲気が良い	景色がいい / 見晴らしが良い / 美しい / 眺めがいい / 高台がきれい / 夜景がきれい / 気持ちいい
	愛着	よく行く / 妻が働いている
	趣味・遊び・買い物ができる場所	お風呂
	便利さ	他地域の人が利用しやすい / 近い
	人との繋がり	おしゃべり
	お祭り	たまに花火が見える
	特色のある内容	観光
市川三郷町役場	雰囲気が良い	和むから
	愛着	キレイ
	便利さ	用事
	街の以前の姿への愛着	昔の役場の方が良かった
市川高校	雰囲気が良い	桜がきれい
	愛着	なじみがある / 楽しい / 母校 / 出身校 / 壁が好き / 市川高校になくなってほしくない
	人との繋がり	友達がいる
	活気がある	部活が盛ん / 近い生徒が好き / 学園祭 / 野球 / 子どもたちの声
	老朽化した建物	校舎が古い
町民会館	愛着	本が好き / きれい
	趣味・遊び・買い物ができる場所	勉強をしに行く / 図書館 / 読書 / 自習場所として利用
	人との繋がり	人と会う
	怖いイメージ	嫌な思い出があるから
町立図書館	趣味・遊び・買い物ができる場所	建て替えも希望を含めてこれからの図書館は家族が休日過ごす場所！
	人との繋がり	友達とのしゃべり場
	歴史的な価値	今風じゃない昔からある
	不便さ	在庫が少ない
市川中学校	雰囲気が良い	桜 / 春先菜の花
	愛着	練習
芦川駅周辺	雰囲気が良い	自然豊かで住みやすい
	雰囲気が良い	静か / 落ち着いている
	便利さ	小学校があり / 駅も近く
	不便さ	歩ける範囲に店がない
町立病院	愛着	存続してほしい
	便利さ	近い
	老朽化した建物	建て替えてほしい / きたない / 人の割に施設がちょっとぼろい / 古い
児童館	趣味・遊び・買い物ができる場所	子どもが遊べる / 卓球
甲斐上野駅	雰囲気が良い	桜並木がよさそう / きれい
	愛着	電車が好き
	活気がない	治安に不安がある
	人との関わりが面倒	知っている人がいる
芦川駅	愛着	電車が好き
	活気がない	無人すぎる
市川小学校	愛着	母校
	怖いイメージ	心霊スポットとして地元で噂がある / オレンジ色に光るのがこわい / 不気味
上野小学校	愛着	子どもが通っている
	老朽化した建物	古い
市川大門駅	愛着	建物が独特
	趣味・遊び・買い物ができる場所	おふろありで癒せる
	整備の必要性	暗い
	活気がない	駅員さんいない
	雰囲気が悪い	ファサード / 普通の駅でいいじゃん / もったいない
町立体育館	老朽化した建物	きたない
市川本町駅	愛着	電車が好き
	整備の必要性	街灯が少ない
	活気がない	駅員がいない
	不便さ	本数が少ない

四尾連湖	雰囲気が良い	近くて自然に触れられる / 自然を感じる / 神秘的 / 近くて自然に触れられる / 山の上にある湖 / 景色 / 神秘的な景色 / 四季の違い / きれい / 雰囲気良い / 湖がきれい / 落ちつく / 雰囲気良い / 癒される
	愛着	小さい時から遊びに行っている / 一人でも行ってた
	趣味・遊び・買い物ができる場所	登山にいい / 小さいころは遊歩道で歩いて行った / 小さいけどボート、つり / 地元民はキャンプに行く
	人との繋がり	友達と
	整備の必要性	整備されていないところがある / ごみが捨てられる
笛吹川	雰囲気が良い	景色
	お祭り	花火
芦川溪谷	雰囲気が良い	水がきれい / 四季がきれい / 溪谷がきれい / 景色がきれい / 紅葉が美しい
	愛着	小学生のころからの遊び場 / 落ち着く
	趣味・遊び・買い物ができる場所	バーベキュー / 泳ぎにいい / 釣り
	自然が及ぼす危険	クマ出没
富士川大橋	愛着	境の大きな木
	お祭り	花火の見えるところだから
	自然が及ぼす危険	毛虫がいる
芦川の土手	雰囲気が良い	景色がいい
	趣味・遊び・買い物ができる場所	犬の散歩
	整備の必要性	こどもが一人歩きするのは危ない
寺所の桜	雰囲気が良い	きれい / 落ち着く / 行くとおもてなし
桜峠	雰囲気が良い	自然が多い / 富士山が見える
芦川	雰囲気が良い	自然が豊か / 緩やかな流れ
	愛着	小さいころ、魚釣りなどでよく遊んだ
	お祭り	みこしをかついで川を渡る
	整備の必要性	草が汚い / 荒れてる / ごみが多い
	活気がない	人氣が少なくて危ない
	人との関わりが面倒	外人が多い
富士見公園	雰囲気が良い	景色がキレイ / 広い
	お祭り	花火大会
	整備の必要性	荒れてる / 危ない
	自然が及ぼす危険	イノシシが出る
	怖いイメージ	首切り塚がある
	活用されていない	遊具があるけど遊んでいるの見たことない
スーパーマーケットセルバ	愛着	ほぼ毎日行っていた
	趣味・遊び・買い物ができる場所	運動のため
	趣味・遊び・買い物ができる場所	買い物 / スーパー
	便利さ	近くて / 普段買い物に利用する / よく使うから / 近場でいろいろ済ませられるのは便利
	人との繋がり	友達と会う
くるみ屋	愛着	学校帰りによる / 高校周りにあまり店がない
	趣味・遊び・買い物ができる場所	駄菓子
	人との繋がり	みんなでしゃべる / 店のいい人
大田屋	愛着	かりんとう饅頭がおいしい / 和菓子がおいしい
	趣味・遊び・買い物ができる場所	お菓子を買いに行く
	人との繋がり	先輩の家
スーパーやまと	趣味・遊び・買い物ができる場所	買い物 / スーパー
	便利さ	家から一番近いスーパー / よく利用する

ラーメン専科	愛着	味噌ラーメンが好き
	便利さ	高校から近い
J マート	趣味・遊び・買い物ができる場所	農業用品を買いに行く / ガーデニング
	人との繋がり	誰か / 楽しい
くろがねや	趣味・遊び・買い物ができる場所	ホームセンター
	便利さ	よく使うから
きんこう堂	愛着	カステラが美味 / 会社に行く途中
竹田屋	人との繋がり	無尽をよくやる / アットホームな感じがするから
今昔通り 商店街	便利さ	買いやすい
	街の以前の姿への愛着	音楽が流れていて、懐かしい昔は店がたくさんあった / 昔はのんびり歩きながら眺めるのが良かった
	整備の必要性	街灯が少ない / 路地が狭くて救急車通らない / 狭い、子供と歩くと特に / 行きづらい / 狭い
	雰囲気が悪い	魅力がない
歌舞伎公園	雰囲気が良い	リフレッシュ / のどかでいい / 町民が憩える / 静か / 広々して楽しめる / 風情がある / 花がある / 水が流れている / 空気が綺麗 / 芝生 / 桜がきれい / 季節的なものは見に行く / 景色がきれい
	愛着	良く行く / 子どもが小さいとき、よく遊びに行った / 子どもの頃よく遊んだ / 兄に連れて行ってもらった
	趣味・遊び・買い物ができる場所	健康のため / 孫と遊びに行く / 子どもを連れて / イベントに携わっていて / 子どものことを考えた変化をしている / 子どもが遊べる / 子どもと遊ぶため / お城の中にホールがある / 遊べる / 子どもが使う
	歴史的な価値	団十郎さんの関係
	特色のある内容	歌舞伎を知りたくなくて / 展覧会などに行くため / ぼたん / 城 / 学校行事で演劇を見に行った
	雰囲気が悪い	作ったときのイメージがよくない / ないものを作ったから / 歴史的に意味ないんじゃない / 目玉になるものがない
	怖いイメージ	心霊
波場公園	雰囲気が良い	桜 / 盆地が一望できる
	愛着	昔、友達と良く行った
	歴史的な価値	景勝地 / 遺跡
	活気がない	人がいない
町民グラウンド	雰囲気が良い	ポプラの木
町民グラウンド周辺	便利さ	近い
	特色のある内容	花火モニュメント / 鐘をカプセルで鳴らすと幸せに
	活気がない	人がいない / 個人的には好きだけど、碑林公園イベント時のみしかもりあがってない
中央公園	愛着	幼いころからよく遊んだから
	趣味・遊び・買い物ができる場所	散歩ルート
	怖いイメージ	苦手な犬がいる
ふれあいの森公園	雰囲気が良い	のんびりするため
	整備の必要性	暗い
	自然が及ぼす危険	熊、イノシシが出る



碑林公園	雰囲気が良い	桜がきれい / 山がきれいに見える / きれい / 和む / 公園はいいわよね
	愛着	公務員として碑林公園で働くようになってから好きになった / 中学の頃よく行ってた
	特色のある内容	書道 / 展示 / 変わった建物 / 習字に興味がある / 中国の書架の時代を見て楽しむ / 撮影とかに使う / 書道の盛んだったことから、漢文の碑がある / 興味がある人には口
	整備の必要性	山の方向だから夜は暗い / 石段があつて登れない / 登るのが大変 / 行きづらい
	不便さ	ちょっと遠いもう少ししたのほうだったら
	雰囲気が悪い	中国式にほんらしさがいい / ないところでは作っちゃいけない、あるものを保存すべき / 目玉になるものがない / 何もない
	活用されていない	発展しない / もったいない / いかない / 入場料高い / 和紙の町で拓本とれるけど利用する人がいない / しょうもちょっとわからない / 全国放送で「いらない」として有名になった / 生かされていない / 利用しにくい
	予算の使い方	無駄にお金かけてる / お金の使い方としてどうなのか / 維持費の無駄遣い / 赤字
表門神社	愛着	感謝をする / よく来る / 掃除をしに行く
	便利さ	近いから
	歴史的な価値	歴史
	整備の必要性	枯れた木を片付けてなくて危ない
	活気がない	最近すたれているもったいない
宝寿院	雰囲気が良い	桜 / 庭園つつじ / 季節を感じられる / 景色がきれい
	愛着	子どもの頃よく遊んだ / お墓がある / 時刻を伝える鐘をついているボランティア
	歴史的な価値	空海、浄土宗 / 甲斐源氏近く 夢想国師が作った庭 / 空海の母さんが亡くなったところ / ゆうめいで歴史あり / 古い寺
	活用されていない	もっと広報すればいいんじゃないか / みんな知らないまじいよ
市川教会	愛着	印象深かった / フットパスで常連
	歴史的な価値	歴史
花園院	歴史的な価値	境内がきれい / 昔の歴史を残している
熊野神社	歴史的な価値	歴史がある / 甲斐源氏発祥地
御陣屋	歴史的な価値	歴史的に重要 / 歴史を感じる / 有名で歴史がある。もっと宣伝すべき。
中北通り	歴史的な価値	道祖神残っている
高田地区の道路	整備の必要性	街灯が少ない / 整備できていない / 危ない
警察署の前	整備の必要性	夜暗い
	不便さ	隠れてシートベルトをチェック
北線	不便さ	行きづらい
	交通事故の危険性	車の通りが激しい
富士見団地	活気がない	寂れている
	人との関わりが面倒	外国人との交流がしづらい (向こうのやり方がこっちになじまない)

## 第2章 アンケートローデータ

付録．展覧会におけるアンケート

No.	ローデータ
1	展示会場へとりつくのに苦労した。地図の印がわかりづらく、読み取るのが大変（1-1）。周辺に案内がないため、土地勘のある人にしかわからない。模型を見てまわるのに座ったり立ったりの繰り返しはきびしい（1-2）。
2	かつて、市川大門と言えば県下でも知られた文化と商業の町でした（2-1）。昨今は人口減少、高齢化率30%余（2-2）ときいています。この町に住む者として、 <u>生きている、ここに住んでいる事が喜びとなる町</u> （2-3）であってほしいと願う者の一人です。今回のご提案は新しい視点（2-4）から町の中心を構築して人が交流できる（2-5）、又子供を育てられる町（2-6）を考えている事を知り、こんな視点に立った町作りをして頂けるようにと、願わざるを得ません。鉄道の駅を中心に、空き民家を移築、川の利用など、市川ならではの欠点をいかして考えている（2-7）事に感心しました。この町の地形や特色はともするとマイナスに働くのですが、それをポイントとして利用することを考えている点を若い方の力と感心しました。史のある町は「史＝昔は良かった」ではなく「伝統」＝「今の一つ一つが史と伝統につながる」という考えを持っていたいと思っています。
3	素晴らしい（3-1）。地元ではない人々（3-2）が短時間でこのような提案をしてくれた。市川の人達は寒さにはなれているけどスタッフ（学生さん）の方々には厳しい日々だったでしょう。ありがとう。
4	長く住んでいるとうにも固定観念にとらわれて新しい発想ができないが、遠くからみて、様々な発想が面白い（4-1）。今後快適に過ごすためにできるところから進めていけたらいい（4-2）と思う。”うつろいときかきなり”（提案A）（4-3）、”陽だまり商店街”（提案B）は実現できたら楽しみ（4-4）です。
5	すばらしい企画（5-1）だと思う。町全体がちがう視点で見られて楽しかった（5-2）。新しい発想が新鮮（5-3）だった。行政と一体となった開発が必要（5-4）だと思う。
6	正直シャッター通り等、過疎化が顕著になってきている（6-1）。今、こういった提案が実現すれば、非常に魅力的（6-2）だと思います。私は六郷が地元ですが、今後六郷インターなどもでき、商業施設やニッチ戦略で、価値を高めるにはチャンス（6-3）なのではないかと思います。Uターン、Iターンなど、人口減少に歯止めがかかることを私も願っています（6-4）。これを、アイデアだけではなく、実現に向けて動き出してほしい（6-5）と思います。地場産業の復活にも一役買って欲しい（6-6）と思います。
7	若い方々の案（7-1）、ひとつでも実現するといい（7-2）ですね。
8	市川三郷で今までこういった取り組みはなかったので嬉しい（8-1）。昔はよかったって言うだけではなく、今からを面白くするためにどうしたらいいのかわかる必要がある（8-2）と思う。将来は百姓になりたいので、 <u>農を絡めることはやりたい</u> （8-3）。地方都市のどこでも起こっていることだけど、郊外にイオンができて「ダメだ。」「小さな店は勝てない。」っていう構図がある。地元が楽しくなることで、地元で買い物、生活が完結できるとよい（8-4）。
9	高齢化の時代（9-1）はまだ当分続きます。将来像として今若い貴方達（9-2）の考えている市川三郷町は今から進める事が大切（9-3）だと思います。すぐには出来なくても今から計画して将来に繋がるものと思います。現在修理費として方々予算を使っているのはどうかと思う。今は高齢者などの面倒を見る新しい建物等は不必要（9-4）に思います。
10	大きなこたつの上の展示というのが展示作品を見るのに適していた（10-1）と思う。とてもよいアイデア（10-2）です。提案から実現へと期待（10-3）します。
11	白い大きなこたつ、白の暖かい灯と古い建物とが調和し、モダンな印象を受けました。それは、古い市川三郷町に今回の新しい提案がなじんでいく・・・そんな感じ（11-1）です。人口が少なくなっていく町（11-2）ですが、新しい人が入り、新しい暮らし方が根付いていくときと良い町になっていく（11-3）のではないかと明るい未来を見せていただいた（11-4）ような気になりました。ありがとうございました。
12	町づくりについて研究されている若い方々が当地について色々と目を向けていただけたことに感謝（12-1）しています。当所は以前から閉塞感が強く、夢のない町（12-2）になりつつありました。今後の当町の都市計画には大いに参考になる（12-3）ものと考えてますし、参考にするべき成果であると確信します。
13	細かい模型を作られて大変だったと思いますが、素晴らしい出来上がり（13）でした。
14	短期間でいろいろなアイデアが出されすばらしかったです（14-1）。レトロ（和風）も良いのでは（14-2）。中央通りの提案（提案B）もいい（14-3）と思いますが、一方通行を不便と感じている人も多い（14-4）ようです。町の中心に老人施設（提案A）（14-5）と子どもの施設（提案C）があるのは個人的には大賛成（14-6）です。障害者施設も加えてもらえればなお良い（14-7）と思います。
15	展示会で若い方が年配の方とふれあひながら、未来をかたれる事が幸せ（15-1）。目に見える形での（展示）なので年配の方や子どもも楽しめます（15-2）。
16	とても素晴らしい展示と提案で、とても感動しました（16-1）。私は、市川三郷町が大好き（16-2）で、たくさんの自然に囲まれて、素敵な場所（16-3）なのに、どんどん人が減っていったり（16-4）、お店が閉まってしまったり（16-5）と、さみしさも感じています（16-6）。たくさんの伝統（ハンコ・花火・和紙など）や特産物（大塚にんじん・甘々娘など）があるのに、あまり知られていなかったり、失われつつあったりすると思います（16-7）。他の作品も、市川三郷をもっとよりよくしていくことができる（16-8）と思うので、この素晴らしいアイデア（16-9）が、1つでも実現できたらいいな（16-10）と思います。私の町について、こんな風に考えてもらえたことだけでも幸せ（16-11）ですし、これからの市川三郷の未来に期待（16-12）です。とても楽しい時間（16-13）をすごすことができました。ありがとうございました。
17	町歩き調査から計画を立て模型を作るまで大変な時間と労力をかけたことと思います。お疲れ様でした。生まれてからずっと市川三郷で生活をしていて、幼い頃に見た町と現在では、活気がなくなってしまっている（17-1）ことをとても残念に思っていました。人が集まれる場所・集える場への提案（17-2）が6つもあり、驚きました。福祉施設や商店街等人が集まる場所へ人を集めるそれが暮らしやすい、豊かな町づくりの元になる気軽に立ち寄れるような心遣いが感じられ（17-3）しましたよ。この中で、どれかひとつでも実現できると私もうれしい（17-4）です。
18	素晴らしい（18-1）です！！感動しました（18-2）！！時間をかけて、忙しい中を研究されてすごいです。このようになったらうれしい（18-3）です。私は市川三郷六郷我がふるさとが大好き（18-4）です。本当にありがとうございました。新たな発見（18-5）やこれからの希望や楽しみ（18-6）ができました。お体大事にこれからも頑張ってください！！皆様すばらしい！！ありがとうございました！！
19	バランスがとれており、とてもよかった（19-1）。お客さんも多く来ており活性化へつながりそう（19-2）。
20	生まれ育った市川大門をこの様な形で表現し、又知らなかった町並みや家の造りを知る事ができよかった（20-1）です。私がお子のころはとても活気がありお医者さんも全て町内で歩いて生活できましたが、交通事情で町外の引っ越し人もでき寂しくなっています（20-2）。この様な町並みができて人と自然と共存でき人が喜んで訪ねてこれられるといい（20-3）ですね。楽しく安心して住める街（20-4）に、昔のよき時代を（20-5）！！
21	見ただけではよく理解できないところがありましたが学生さんがわかりやすく説明してくださりありがとうございました（21-1）。私たちが子供のころは近所の人がみな家族のようでした（21-2）。今は特に子供たちの笑い声も聞こえないし、お年寄りの日向ぼっこもなくさみしい（21-3）です。町並みがきれいになり空間に癒しの場所（21-4）があったら昔のようににぎやかになる（21-5）と思います。

No.	ローデータ
22	<u>夢がある展示</u> (22-1) <u>ひとつでも実現してほしい</u> (22-2) です。
23	若い方がこんなすばらしいことに気がついて本当に大きな夢を <u>あたえていただき</u> (23-1) ましてありがとうございました。市川三郷町に嫁ぎまして約 50 年になりとても住みよい町 (23-2) です。 <u>人もやさしい</u> (23-3) し病院もこれから移築されます (23-4)。ぜひ産婦人科を設け、人口増加に向けて <u>頑張ってください</u> (23-5)。
24	<u>模型が垢抜けていて良い</u> (24-1)。 <u>清楚で分かりやすい</u> (24-2)。 <u>今後まちづくりしに参考に</u> (24-3) させていただきたい。
25	<u>発想が柔軟</u> (25-1) で感心しました。 <u>現実化するとよいもの</u> (25-2) <u>無理だと思うもの</u> (25-3) もありましたがそれぞれ特徴があり (25-4) 敬服しました。 <u>これを現実化させるのか、出来るのか町民自身に活性化させたいという意識があるかそこが一番の問題</u> (25-5) かと思います。
26	模型を使った未来の市川三郷のモデル、どの地区のアイディアも学生らしい非常に夢のあるモデル (26-1) でした。実現できるかどうかは抜きにして地元の人並みに対して都会のかたがたの <u>柔軟な発想で新しい風を通す</u> (26-2) ことは非常に素晴らしい (26-3) と思います。 <u>老人ホーム (提案 A) のアイディアはぜひ実現して頂たい</u> (26-4) と思いました。 <u>全国から注目される素敵な田舎になっていけばいいな</u> (26-5) と思いました。 <u>とても楽しい展覧会</u> (26-6) でした。ありがとうございました。
27	私は福祉施設で介護職として働いています。市川三郷町内の高齢者も多くいます。その中で多くの人が、こんな施設に閉じ込められるよりも地元で、 <u>住み慣れた地域で学校生活をした</u> い (27-1) と思っています。そして <u>人のぬくもりを求めています</u> (27-2)。 <u>家族の関係も希薄化している</u> (27-3) ことがあり、ましてや遠いところだと家族も面会に来やすく外との交流も持て、 <u>若い人たちと高齢者と関係を築ききっかけになる</u> (27-4) と思います。
28	<u>すばらしい提案</u> (28-1) です。町として実現するよう努力してほしい (28-2) と強く思いました。
29	<u>こんな所に住みたい</u> (29-1)。今しか考えられないのですみません。何とか市川三郷町に <u>大勢の方々が住んでいる町</u> (29-2) にしたい思いでいっぱいです。 <u>身延線の利用</u> (29-3)、 <u>深い仲の町人、祭好きな人、よい所がいっぱいある</u> (29-4)。 <u>産業のよびこみなどを考えて欲しい</u> (29-5)。 <u>若い人のすばらしさ</u> (29-6)、ありがとうございました。
30	<u>きてよかった</u> (30-1) と思います。まだ頭が旧いのでピンとこない所が多いのですが、こうした若い人たちの発想にも大いに耳を傾けたい (30-2) と思います。お茶のみ話でグチばかりいっていた自分を反省した。 <u>すてきな和室でのコーヒー一杯ごちそうさまでした</u> (30-3)。ありがとうございました。
31	<u>若い人達が町内の活性化に向けて取り組んでいる</u> (31-1) 様子が伺われる。 <u>住民として歴史と文化、我が地域を見つめる良い機会でした</u> (31-2)。 <u>自然のすばらしい町</u> (31-3) なのでそこをもっと PR して人々が集まる場所に出来れば (31-4) と思っております。
32	<u>すばらしい若い方の発想はすごい</u> (32-1)。 <u>こんな町作りが本当になるといい</u> (32-2) な。
33	<u>早めに暗い町にならない様に</u> (33-1) <u>若い人達に力になってほしい</u> (33-2) と思います。ありがとうございました。
34	<u>新しい発想がすばらしい</u> (34)。
35	<u>自分では考えられないような</u> (35-1) 環境を見ることができ、 <u>提案されたような町作りができるならずっと住みたい</u> (35-2) と思わせてくれました。今までの町の姿を見ているので、 <u>提案に興奮</u> (35-3) して見られました。 <u>実現するには、町民一人一人の協力・賛同が必要</u> (35-4) だと思うので町作りをしていくために、 <u>町全体で取り組む必要もある</u> (35-5) と思いました。
36	今、六郷を含む市川三郷町は過疎化傾向にあります (36-1)。若者も、地域を離れ都市化傾向です。今こそ、 <u>町の活性化が必要であり大きな課題</u> (36-2) です。本日、 <u>見せて頂いたこの展示は、すばらしい</u> (36-3)。 <u>夢のような提案</u> (36-4) です。 <u>外国的なイメージ</u> (36-5) でもあり、まさに、 <u>幻想の世界</u> (36-6) です。この計画を夢で終わらせず、 <u>現実になってほしい</u> (36-7) と願っています。 <u>「すればできる」精神を活かして頂きたく</u> (36-8) 願っています。本当に、 <u>心もいやされた 1 日</u> (36-9) です。ありがとうございました。
37	<u>とても素晴らしい企画</u> (37-1) です。市川三郷町のことを若い人たちに考えていただいたことに感謝 (37-2) しています。
38	なかなか良い構想 (38-1) だと思う。 <u>実現に向け一歩でも近づいてほしい</u> (38-2)。実現に向けては <u>莫大な予算が必要になる</u> (38-3) と思う。共有施設等については、 <u>自治体で考えて実施に向けて努力してほしい</u> (38-4)。
39	<u>自分では思いもつかなかった発想におどろいた</u> (39)。
40	<u>創造的な意見</u> (40-1) が多く見られて、興味深い (40-2)。
41	<u>展示だけで終わってしまうのではなく、今後この計画を実現させるために、一緒に話し合いや、勉強会をしたい</u> (41) と思いました。
42	観光産業課山梨農業支援課の方と岩間地区の農業その他の人達との話し合いがありました。次の回には若い人達を交えて、皆様の意見を取り入れ (42-1) <u>住みよい町にしたい</u> (42-2) と思います。その節はよろしく願います。ありがとうございました。
43	若い方々の新しい町づくりの発想 (43-1) に感心して拝見いたしました。60 年の間、町並みも大きく変化して、私自身が迷うほど変化しています。 <u>老人と若い人達の接触するコース (提案 A) も面白いですが、私は今の中央通りをその発想の部分に加えられたら</u> (43-2) と思います。 <u>札幌の様な並木通りにして長い憩いの道を</u> (43-3) と思っています。むしろ市川中央通りは車の通行禁止、商店街は南北の通りにしたらどう (43-4) ？・・・。
44	<u>展示の提案がわかりやすく整理されて面白く見させていただきました</u> (44-1)。それぞれ、 <u>今までにない内容で興味深い</u> (44-2) ものでした。 <u>参考にさせていただきたい</u> (44-3) と思います。
45	<u>町の在り方についての考えが違うのかな？いいね！</u> (45)
46	<u>子供達がずっと住み続けていけるような地域</u> (46) を作っていただけたら良いと思いました。

No.	ローデータ
47	調和のとれた街づくりの行動に若い人達がやっている事に対しては素晴らしい(47-1)と思いますが、 <u>既存の建物や街なみを造り変えるのは大変な事</u> (47-2)だと思います。素晴らしい街が本当に実現したら良い(47-3)ですね。研究した学生さんは住んだ事ありますか、又、住みたいですか。私の住む地区は対象外でしたが、 <u>何も無いのもいい</u> (47-4)ですよ。の〜〜〜びりできて・・・！
48	<u>実現するのが大変なものもある</u> (48-1)と思うが実現したら良いと思う事がいくつもあった(48-2)。自分の町がこんなになったらいい(48-3)と思った。
49	若い学生さん達の調査研究よく実行して下さいました。古い町の本町をイメージ的にも新しい若い方達の方向に少しずつでも変えてほしい(49-1)です。 <u>未来のことも達のために余りにも古すぎ</u> (49-2)ます。
50	<u>実現の成功を祈る</u> (50)
51	<u>素晴らしい構想</u> (51-1)で感心いたしました。この様に <u>1日も早く実現できたらいいな</u> (51-2)と考えております。特に岩間駅周辺の開発を切に望んでおります(51-3)。
52	<u>実現の成功を祈る</u> (52)
53	<u>はじめての経験でした</u> (53)。
54	このような形で目て <u>町の将来像をみる事ができてうれしい</u> (54-1)です。 <u>実現するといい</u> (54-2)ですね！
55	<u>まちづくりはこれから一番考えなくてはならないと思う</u> (55-1)。旧三町の地形等を利用し、総合的にバランスよく町を考える(55-2)。町づくりは、そこに住む古くからの思いがあるので住民との意見共有が必要だ(55-3)だと思う。
56	いろいろな世代の住民が自由に交流できる <u>展示会</u> (56-1)が全体的に新鮮で興味深かった(56-2)。提案は特に子どもから高齢者また住民以外の人との <u>交流の</u> (56-3)場が意識されているように感じた。 <u>実現するためにはいろいろなハードルがあり</u> (56-4)、それらを乗り越えるための第一歩となる企画(56-5)と思う。 <u>若者のとらわれない発想に大変興味を覚えた</u> (56-6)。
57	まずこういう形で市川三郷の展示・将来に向けての提案をして頂けた事に感謝してます(57-1)。私自身、生まれ故郷の三珠地区についての知識もあまりない中で、まず <u>地元を知る事が第一</u> (57-2)だと普段から考えていました。その事が地域を大切にする。人を大切にする事につながるものだと思います。展示の中では市川商店街のオーニングと行燈の提案(提案B)に興味を湧きました(57-3)。
58	都市(地域)空間の再構成を町の活性化と併せて、プランを作成したのはすばらしいアイデア(58-1)と思います。このプランを市川三郷町のできるだけ大勢の人達とじっくり話し合っていたきたい(58-2)と思います。※中部横断道六郷インター(仮称)の周辺のまちづくりをどの様にすれば岩間地区の発展、活性化につながるかを考えを町(市川三郷町)に提示していただければ大変ありがたいです(58-3)。
59	旧六郷に生活しています。老人が多く子供たちが少ない(59-1)ところですが、平地からでも富士山が見えます(59-2)。そのような地に老人ホームや面会に来てくださる家族の宿泊自炊が出来るような、又食事も出来食材を買う店、近くに幼稚園等とを考え実現すれば(59-3)と思っています。他の三珠や市川にはあまり来ませんので知りません。農業も生産、加工、販売を考えてください(59-4)。今回初めて見せていただきましたがまだしつくりきません(59-5)。 <u>三地域にそれぞれ「カク」となるものと、その場所も重要</u> (59-6)と思います。芦川の提案(提案D)は良い(59-7)と思いました。芦川駅周辺で外からの人に聞かれることが多いので。
60	中部横断自動車道が具多多元化していく中で六郷 IC 等との関連性も考えて欲しい(60-1)。地場産業等についてももっと積極的に考慮して欲しい(60-2)。
61	今後もこの様な提案をどしどしして欲しい(61)です。
62	<u>自分の町が活性化してほしい</u> (62-1)ので今回の展示を実現してほしい(62-2)です。
63	おもしろい提案(63-1)ですが私には壁の高さ(実現の為の)が理解できません(63-2)。
64	市川三郷町がより過ごしやすい地域になるために、 <u>素晴らしい提案</u> (64-1)だと思います。 <u>是非実現してほしい</u> (64-2)です。
65	子供が、市川高校生で参加させて頂きまして、市川三郷町にあまり関心がありませんでしたが、 <u>多くの事を改めて知り、町の活性化を考えさせられました</u> (65-1)。模型も、わかりやすく、工夫されており、すばらしい(65-2)もので感動しました(65-3)。提案の中で、ひとつでも多く、 <u>実現化されていく事を願っております</u> (65-4)。
66	暑い中の地道な調査が素晴らしい形での(実現)展示に感動(66-1)しました。全てが実現するのは難しいかもしれませんが(66-2)が、 <u>高齢化、過疎化の進む市川三郷町</u> (66-3)に一人でも多くの人がこの町に生まれて・来て良かったと思えるような町づくりのきっかけになって欲しい(66-4)と思います。
67	調査に協力して、どんな展示をするのかとても気になっていたのが、 <u>来てよかった</u> (67)です。
68	<u>新鮮なイメージを感じました</u> (68-1)。少しずつではあっても、 <u>この様な街並みができたらイイナ</u> (68-2)と思います。一つ一つの積み重ねで、移り変わる町になるのですね。おしゃれな街並みであれば若い人達は住み続けてくれる(68-3)でしょうか。そんな町だったらうれしいのですが・・・町の細かい所まで調べいただき、ありがとうございました。
69	<u>展示会の雰囲気もいい</u> (69-1)し、 <u>小冊子も良かった</u> (69-2)。コタツで足はあたたかいが室温をあげる方法があればより過ごしやすくなる(69-3)。
70	<u>すごい</u> (70-1)！どうしてこういう発想が出来るのか(70-2)。ヤング Power ですネ(70-3)。
71	市川三郷町に対してのご提案の数々大変驚きです(71-1)。この様に実現できればうれしい(71-2)です。

No.	ローデータ
72	三つのエリアに分けての提案は具体的でわかりやすい(72-1)ものでした。 <u>地域で収穫したものをレストランで食材として利用しそこへ町の人はもちろんほかの近くの人々が集まって楽しむことや大きな細長い場所に老人や子供たちが行きかうこの案(提案A)は絶対必要(72-2)と感じています。</u> 今回のこの若い人たちの考えられたこと(72-3)は町の活性化になる(72-4)ととても素晴らしい提言(72-5)だと思います。それにあわせて町民の人々が協力して何かする活動が進んでいくことをめざし(人々の花植えるなどのボランティア)結束していくエネルギーも必要(72-6)だと思います。なにしろ人々が多く集まれるようなところ(72-7)、人々が行きかうような場が出来ることを願いつつ(72-8)表現に向けて私も文化芸術の面での協力は惜しみません(72-9)。
73	長く住んでいるうちに町の寂しさが年々感じるようになり不安もあります(73-1)。 <u>若い人たちの夢と希望(73-2)が少しでも実現できたら(73-3)と思っています。</u>
74	外部から見た市川三郷町の意見が参考になった(74-1)。プレゼンデータに基づいていて良かったと思う <u>地元の活性化はかなり「やっかいな課題(74-2)だと思う。</u>
75	若い人、家族がこの町に住みたいと思うような街づくり(75-1)が出来たらよいと思う。たくさんある <u>空き家などは防災の面でもどうにかしたほうが良い(75-2)と思う。</u>
76	<u>理想としては素晴らしいのですが、現実的ではない(76-1)ような気がします。</u> 高齢者と若者、自然と共存できる街づくり(76-2)として、実現可能と感じられるのに後一步何かが欲しいと感じました、 <u>この様なアイデアを多数集め実際に何が出来るのか考えることが大切(76-3)ですね。</u> 住み慣れてしまっていて感じられないことや発想を聞くことが出来てよかった(76-4)です。 <u>皆さんの若い感性(76-5)や前向きな考えアイデアに期待します。</u> 頑張ってください。ありがとうございました。
77	<u>商店街がシャッター通りになり(77-1)、人と人とのふれあいも少なくなり(77-2)自分たちで出来ることをがんばっていくこと(77-3)が町のため自分のためになにか町の魅力を多くすることがほしい(77-4)と思います。</u>
78	私たちが常日頃夢見ていた町、若い方たちが方向付けして取り組んで下さった(78-1)事、本当にうれしく感謝しています(78-2)。ありがとうございます。邦文堂便り No317 かつて勤め先に奥様が毎号届けてくださって読ませていただいたことも懐かしく思います。 <u>私たちに出来ることがあったら応援させてください(78-3)。</u> どうぞお体に気をつけて頑張ってください。
79	私たちから見ると夢のようでした(79-1)。ぜひこんな理想的なのが現実になってほしい(79-2)と思う。 <u>高校生と地域の交わりはほしい(79-3)ですね。</u> 商店の活気はなおのこと(79-4)です。 <u>特産物である和紙の利用(提案B)は素晴らしい(79-5)。</u>
80	商店街の店主等の意見会や勉強会だと高齢の方が多く、どうしてもマイナスな方向、「いずれはやめてしまう」方向ばかりで、何も生まれてこない(80-1)。せっかくなので、 <u>商店街の皆さんにこの展示会を見てもらいたい(80-2)と思いました。</u>
81	<u>素晴らしいです(81-1)。</u> よく考えてくださいました。このような企画を考えることなど、何も思いつかなかったです(81-2)。このように具体的に目にする、実現不可能ではないということがわかりました(81-3)。 <u>近い将来が楽しみです(81-4)。</u> 時間はかかると思いますが心の中に灯がともされたよう(81-5)に思われます。健康に注意して頑張ってください。ともしびをありがとうございました。



### 第3章 インタビューローデータ

A シェアフラット馬場川（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。		A_A_1	そもそも商店街の地域を活性化するためにあたって、そもそも利用する人が少ないのだから人が住む、それも若い人が住むことによって街を変えていくという方針に変えたらどうかということをコンペで提案した。
空間操作と目的	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		A_A_2	ファサードをいじる予定だったが予算が厳しく行わなかった。
			A_A_3	外壁の塗装は足場が必要なので業者に頼んだが、それもアクリルリシンの安い塗料を使用した。
			A_A_4	本当は窓サッシを変えたかった。
			A_A_5	二階のサロンはカーテンウォールのなサッシが入っていたのでそのまま利用してまちと近いようなものにした。
			A_A_6	仕掛けとしては、2階部分の交流サロンを作るなど、ソフトの部分の方が大きい。
			A_A_7	以前はお赤飯を誕生日会の時に持ってきてくれたりとか、屋上でなにかやる時には安く食材用意してくれたりと以前はした。
			A_A_8	入居当初は住んでいる人たちとのコミュニケーションを促す仕組みを入れたが、現在はどこまでそのような活動をしているか分からない。継続が難しい。
			A_A_9	アートイベント（海外からアーティストを読んで、廃材を利用して屋上で展示を行う）を行ったり、アーツ前橋のイベントに参加したり、まちおこし会社をテナントとして入れるなど行った。発信していくイベントを行っていた。
			A_A_10	発信していくイベントをまちづくり会社と共同で行っていた。屋上などを使って、SNSなどで情報発信もしていた。
			A_A_11	市の方から家賃補助をしてもらった。
			A_A_12	学生がアルバイトをすればもらえるというシステム（ラジオ出演、ゴミ拾いなど）。入居後2年間月8000円。その後7000円になった。
			A_A_13	他の物件でも同じようなシステムが起用されている。シェアフラット馬場川がきっかけになっている。
			A_A_14	まちおこし会社はリニューアル後入居した。アクセサリー会社も入っていたが現在はブティック。
			A_A_15	1階部分の店舗が当初から入ったのが経営的に楽になった。市の方からも最大200万？の初期投資の補助が出る。
			A_A_16	サロンは自由に入ることができるが、なかなか街の人が入ることはない。イベントで使うような感じ。
		プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。	
問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。	き っ か け は？		A_A_18	前橋市在住の小林さんが補助金とかもらいながら研究的なことをやらないかという話を持ってきてくれたのが最初。
			A_A_19	この時に群馬県が主催している商店街の活性化のコンペが毎年あった。そのコンペのためにやりませんかとお誘いを受けた。
			A_A_20	前橋市の中心市街地は前々から商店街としてうまくいっていないという傾向があった。
			A_A_21	90年代ぐらいからパブルがはじけて大神が商業施設が撤退して行ったから全国的に商店街はうまくいっていない傾向にあるんですね。
			A_A_22	前橋市としてはそういうところをそのままにしておくわけにはいかないで、市がその場所を買い取って公民館的なものとかに改修した。
			A_A_23	街中にあるから立地は非常にいい。市民に使えるものとしようとした。西武デパートが入った場所が空いたままだったので、現代アートの美術館にしようとのことで、コンペを行った。
			A_A_24	前橋市は市立の美術館は持っていなかった。市民の方から市立の美術館が欲しいという要望があった。
			A_A_25	前々から準備期間的なものはあった。美術館は改修して立ち上がった。シェアフラット馬場川がある場所が改修した施設に近かった。
			A_A_26	シェアフラット馬場川の場合は15,6年前から空き家になっていた。もともとは雑居ビルだった。
			A_A_27	やるにしても一通り地域の調査をした上で対象建物を見つけようということで、学生を連れて街のフィールドワークをやった。
			A_A_28	そもそも商店街の地域を活性化するためにあたって、商店街の空き店舗を埋めようというプロジェクトはあって補助金も出ていたのですが、入っては出での繰り返しだった。
			A_A_29	そこで買ったり楽しんだりとかそういうものを入れるのではなく、そもそも利用する人が少ないのだから人が住む、それも若い人が住むことによって街を変えていくという方針に変えたらどうかということをコンペで提案した。
			A_A_30	最初は優秀賞だった。最優秀賞を狙っていたので、審査員の方々に優秀賞であった理由を聞きに行った。
			A_A_31	実現可能性が見えなかった。資金がかかりすぎるため。
			A_A_32	放送会議というチームを作った。有限責任事業組合が出来る前段階のチームのようなもの。
			A_A_33	このチームには法人格がなかったため、資金を集める際に銀行からは借りれなかった。
			A_A_34	この建物の長手方向は南むきで、道路を挟んで、用水路があるという住むには割と好立地だったためここにしようとなった。
			A_A_35	建物の所有者もわかっていなかったなので、まずオーナーを調べ、オーナーにアプローチすることから始めた。
問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。			A_A_36	2013年の四月に11p(有限責任事業組合)を登記して、プロジェクトの話を色々なところに持って行って、出資をお願いした。
			A_A_37	最初はこのような話に対して商店街の人々は乗り気ではなかった。本当にできるのかと懐疑的であった。
			A_A_38	実際の話を熟っぽく語ったら、割と乗ってくれた。
			A_A_39	学生には補助ができると市に言われた。そこで学生たちに商店街でアルバイトのような形で、イベントなどに参加してお金を稼いで、それを改修費に当てててくれるなら、補助が出ることになった。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	(問6 資金について教えてください。)		A_A_40	学生にとっても街のことを知れる機会になった。家賃補助という形で資金を出してくれた。学生にとってもありがたい話。
			A_A_41	日本全国の商店街のモデルケースとして立ち上げたいとなった。
		LLP っていうのは？	A_A_42	コアメンバーは僕と最初に話を持ってきてくれた小林さんと商店街の理事さん。
			A_A_43	シンポジウムのおかげで地元の新聞が色々紹介してくれて、
			A_A_44	それを見た日本政策銀行の方が協力してくれた。1/3 ほど融資していただいた。そこから後はやるだけになった。
	コンペを行った際にプロジェクトの計画・設計はほぼできていたんですか？		A_A_45	決まってから具体的に学生も使って調査も行って進めていった。
			A_A_46	市が納得できる耐震補強を行った。商店街の人にも発表会を行った。
			A_A_47	それらを行ってから改修段階に入った。空きビルの状態が悪くて予想外のことが多く起きた。
			A_A_48	改修が終わると、昔の状況を知っている住民たちから声をかけられるようになり、そこに住む学生たちの市民権を得られたなあと感じた。
	(問6 資金について教えてください。)	依頼がもともとなかったってことですね。	A_A_49	そういう意味では民間が主体ってことだね。ニーズとしてはどれくらいあるだろうとなっていて、若い人ということで学生に限定しようとした。そしたら前橋市周辺も含めて学校・学生の数を調査したところ、ニーズがあることがわかった。
			A_A_50	所有者はこういう使い方をするという基本構想を聞いていただいてお墨付きをいただいた。クライアントは最初の言出居の三人だった。興味のない方もたくさんいらっちゃった。
	問7 公共団体との関係について教えてください。	基本的にコンセンサスを取っていきなかつたのは？	A_A_51	商店街の人、市民、行政でした。僕は市民に向けて市の状況を自分のこととして考える場を与えたかったんですね。それでシンポジウムを開いた。
			A_A_52	自分たちの街だからよくしようという意識が生まれないとうまくいかないですね。
			A_A_53	新建築にも取り上げられた。gooddesign 賞も貰った。全国商店街なんかっていう賞をもらった。商店街の活性化の試みの一つで賞をもらった。
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		A_A_54	南向きで日当たりが良かったので住むにはちょうどいいかとなった
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。		A_A_55	コンペ自体はきっかけを何か作ろうということ。市民に認知してもらうため。
			A_A_56	コンペで 100 万もらい、研究費に使った。一口 50 万で資金を集めようとしたがあまり集まらなかった。
			A_A_57	資金が一番の問題。コンペ応募をオーナーに許可をとった。
			A_A_58	新聞社などから記事が出たことから政府の金融機関から連絡が来て、協力的に融資してくれた。無担保で融資してくれた。足りない部分は商店街などから。4500 万くらい集めた。
プロジェクトの変遷（設計）	問10 一番初めの提案はどのようなものでしたか。		A_A_59	部屋の数などは収入などの関係で変えた。
			A_A_60	男女階ごとに分けるかとう話もあったがごっちゃにした。
			A_A_61	ランドリーなどもコインランドリーなどにして収入を得たいと考えていたが、学生からの意見で乾燥機のみお金をとることになった。
	問11 他に検討した提案はありますか。		A_A_62	提案はほとんど当初のまま。廊下の形を変えるなども検討した。
			A_A_63	一番やりたかったことは、柔らかな壁で隣にいる気配を感じられるという事。
			A_A_64	音が気になる人は気になるらしい。隙間が少しできてしまつて普通のマンションのように完全には遮音できていない。
			A_A_65	まちなか広場はこちらが提案したこと。
			A_A_66	しかし運営するのを誰にするかということが問題となった。
			A_A_67	テナントを募集した時にまちづくり会社が入ってくれた。立地が良かった。アーツ前橋が近くにあるし、角地で日当たりが良い。
			A_A_68	市や構造系の研究室にも構造補強など相談した。
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。			—
プロジェクトの変遷（実施設計）	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。		A_A_71	基本的に変っていない
プロジェクトの変遷（施工）	問15 DIY を行ったところがあれば教えてください。		A_A_72	壁を塗ったりした
	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
プロジェクトの変遷（運営）	問17 運営にどのようにかかわっているか教えてください。		A_A_74	直接的には関わっていない。大橋、小林、うえき、4 人で始めた。
			A_A_75	アパレルを運営している大橋さんが主に運営をしているが、LLP のメンバーがやっていけない。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。	誰に提案するんですか？	A_A_76	キッチンのところをステージのように上げているが、汚れてきたため、そこを直したくらい。
			A_A_77	商店街のひとなど

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
建築家の関わりについてへの評価	問 19 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わるることについての効果と課題があれば教えてください。		A_A_78	建築家が関わると色んな視点で見ることができる。デザインも含め色んなアドバイスができる。
			A_A_79	一人まとめ上げる人が必要だと思う。
			A_A_80	地域にそのような人がいればそのような人がやったほうがいい。 距離が課題。
コモンスペースへの評価	問 20 地域に開いたプログラムとした事で生まれる効果と課題について教えてください。		A_A_81	効果は商店街の人など地域の人たちの関心を引いた。そのような視点を作ったこと。
			A_A_82	今後の課題は発信していかなければいけない。
	問 21 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。		A_A_83	立ち上げも大変なんだけど、継続がやはり大変。
			A_A_84	学生たちがどうやって引き継いでいけるのかっていうのが今後の課題。
			A_A_85	地域活性化。同じような問題を抱える商店街のオーナーさんから市に電話がかかってきた。
			A_A_86	しかし、現実的なコストを聞くと実現可能ではないと判断されてしまい、つながっていかないですよ。
			A_A_87	商店街が衰退しており、若い人が足を運ばないという問題があったが、若い人が住むことで商店街の人たちの意識が変化してきた。
			A_A_88	アーツ前橋ができたことで内容によっては訴求力が生まれる。
			A_A_89	その後、前橋市内で他のプロジェクトをやろうとした。耐震の問題や耐火（アスベスト除去）などの問題で費用がかかる。最終的には利益を生み出していかなければならないので難しい。地方は家賃が低いけど工事費は同じ。
	開始時期は？		A_A_90	2012 年

A シェアフラット馬場川（運営者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。		A_M_91	現状 11 部屋あるが 8 人の学生がくらしている。
			A_M_92	みんな大学が違う。工科大学が比較的多いが 6 人群馬大学 1 人、共愛大学 1 人。
			A_M_93	ハウス長をきめていて、工科大学の子がハウス長、木村さんが副ハウス長。
			A_M_94	ハウス長が責任者、あとは協同で役割分担がある。
			A_M_95	役割分担、掃除当番、基本的な調味料を日用品を半年に 1 人 5000 円くらい出し合っている。
	問 2 設立・運営主体		A_M_96	あとは対外的なところだが、商店地域辺繋ぐ役割は大橋がやっている。
			A_M_97	月 7 時間から 8 時間程度の地域活動を行うことで、7000 円程度の補助が前橋市からでている。
			A_M_98	グループラインをつくることで募集をしている。
			A_M_99	例えば夏には自治会主催の納涼祭があり、それの手伝いをしている。
			A_M_100	あとは商店街のイベントの手伝いをしたりしている。
			A_M_101	クリスマスツリーの制作の手伝いなど。
			A_M_102	学生によって、時間が開いている学生とそうでない学生がいる。
			A_M_103	少し温度差がある。
			A_M_104	48Days という中心商店街でイベントがあり、そこでの手伝いをしている。
			A_M_105	仲間内を誘うので常時
	問 3 活動日・時間帯		A_M_105	仲間内を誘うので常時
	問 4 利用人数	Q. イベント参加人数	A_M_106	仲間内を誘ってちょっとした打ち上げなどをしているのでおおくて 10 人ちょいくらい。
			A_M_107	屋上展示など石田先生が協力したイベントは 100 人くらいの参加者がいた。
			A_M_114	学生にしても、例えば工科大学は近くに安いところはたくさんあるが、
			A_M_115	学校、バイトの関係しかない、それはすごく寂しい。
			A_M_116	ここに住むことで自然発生的にネットワークができる。
			A_M_117	人間関係を豊かにするような、いろいろな情報がいっぱいある。
			A_M_118	そんなところに 4 年間くらすことは非常にいいがあると考えている。
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）		A_M_119	商店街の人
	問 6 収入源	Q. 収入源	A_M_120	助成金は今は一銭もはっていない。
			A_M_121	いまは自立している。
	問 9 サービス内容	Q. 住民の方以外の利用	A_M_122	屋上を利用してフランス人のアーティストの展示を手伝ったり。
			A_M_123	屋上でバーベキューパーティーを行っている。年二回くらい。
			A_M_124	一つは工科大学専用、もう一つは女性専用のシェアハウス。
			A_M_125	ルールがある。個人の部屋には誰にも泊めてはいけない。
			A_M_126	ラウンジの利用は自由に行えるような場所。個人的なパーティーを行ったりしている。
			A_M_127	初期のハウス長はここを占領して卒業設計をおこなっている。
			A_M_128	最低一日一回はきいている
	問 10 サービスの周知方法		A_M_129	商店街などをとおして
	問 11 設立者のこれまでの活動	Q. これまでの立ち位置	A_M_130	私はこの商店街に生まれ育って今の会社で働き始めて 36`6 年はいる。
			A_M_131	JC という青年会議所という組織があって、
			A_M_132	20`40 まで入れる、異業種交流の組織がある。
			A_M_133	実質的にはまちづくりを行っている。
			A_M_134	東京大阪につづいて 3 番目にできた。
			A_M_135	13 年やって最後の都市は理事長として top になった。
			A_M_136	その後卒業する間際に、なんとか中心市街地を熱心にしていきたくとして。
			A_M_137	民間でまちづくり担う人たちをつくった。
			A_M_138	代表をきめていわず、伊藤さんが代表になった。
			A_M_139	前橋市から国からお金を引っ張ってきて色々なことができるようになった。
			A_M_140	いろいろな商店街のトップをしてるなかでこの事業もはじまってしま s った。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（運営）	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。		A_M_141	特にない
	問 13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。	Q. アイソメ図	A_M_142	各部屋は学生の工夫で使い勝手は良くなっている。
		Q. いま屋上は	A_M_143	何にもない
		Q. テナントさんとの関係	A_M_144	2つに区切られていて、オリエント群馬さんとコワーキングスペースになっている。
			A_M_145	半分からはしきりがあってオリエント群馬産のオフィスとなっている。
			A_M_146	キッチンの上を貼り直したり、床はタイルを貼りたいといっていた。
	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？		A_M_147	屋上展示など石田先生が協力したイベントは 100 人くらいの参加者がいた。
空間操作とその目的	問 15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）	Q. 掲示、家具の工夫	A_M_148	家具もお金がなかったのニトリに買いにいった。
			A_M_149	石田先生にニトリに運びにいった。
			A_M_150	ニトリで選んでもらった。
			A_M_151	おしゃれじゃないとかでなるべくシンプルなものを選ぼうとしていた。
プロジェクトの変遷（運営）	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	Q. 運営の際心がけていること	A_M_152	なるべく自主的に地域に関わってほしい
			A_M_153	木村：今日もそうだになるべくこういった活動に参加しようとしている。
			A_M_154	ワークショップをおこなった。
			A_M_155	ワークショップは商店街の北側に机をつけるテーブルをつけた。
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？		A_M_156	利用者を増加させたい
プロジェクトの変遷（構想）	問 18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			—
	問 19 始めに抱いていた思いについて教えてください。			—
	問 20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。			—
	問 21 資金について教えてください。	どのように集めた。	A_M_160	古い建物を弄ることはものすごく高くつく。
			A_M_161	鳩の糞の消毒などがとても高くついた。
			A_M_162	結果的に 4600 万円かかった。
			A_M_163	LLP という運営責任事業組合をつかった。1 口 50 万円で 28 人のかたから集めた。
			A_M_164	前橋市の補助金として、設計に対して 50 万、住宅に対してお金をもらい 480 万円をもらった。
			A_M_165	群馬県商店街活性コンペをおこない 100 万円をもらった。
			A_M_166	入居者を募集するため散らしと広告費にした。
			A_M_167	日本政策金融公庫があって、全国に対して支援があった。
			A_M_168	限度額いっぱい 1500 万円無担保無保証で借りた。
			A_M_169	群馬銀行とか前橋信用金庫が融資をする。
			A_M_170	銀行もあまり LLP もないので貸した経験がないから非常に慎重。
			A_M_171	私も個人で保証しようとなつたが商店街が保証することにしようとしたが否決された。
			A_M_172	すると商店街の仲間たちが個人で 200 万ずつ 6 人家内が 100 万円でなんとかギリギリお金を調達することができた。
			A_M_173	まちづくりやいいことしようとしても地方の銀行はお金を貸してくれない。
			A_M_174	結果的には非常に金利がかかからないようになっていた。
			A_M_175	ほんとにこまるといろいろな人が助けてくれる。
			A_M_176	学生や事業書の家賃、学生からは 9500 円もらっている。
			A_M_177	当時では 1 年半くらいの収支だが家賃と共益が 1000 万円くらいになる。
			A_M_178	洗濯機はただで使えるが、乾燥機は 30 分 100 円。
			A_M_179	竹田さんに支払っている家賃は 91 万 6000 円
			A_M_180	竹田さんに 1 ヶ月あたり 4,5000 円しか払っていない。
			A_M_181	改修費がさんで事業モデルがなりたないとき、お医者さんだった。
			A_M_182	読売巨人軍のチームどくたーでもあった。
			A_M_183	事業組合だとただでやるわけにはいかないから h 時をのいでお願した。
			A_M_184	竹田さんのご希望として、あまり面倒なことはおこなっていない。
			A_M_185	オーナーを巻き込む方法ドライに割り切ってや地位を頂いている。
			A_M_186	竹田さんに支払う予算が桁違いに安くなっているの、ある程度がいなくても経済的にま
			A_M_187	現状 4 年近く立っているが
			A_M_188	いま収入から支出を引いたものが 380 万円ブールしている。
			A_M_189	LLP に参加者には配当したいと考えている。
			A_M_190	あと 6 年くらい返済があるが、家賃をさげて、若者がここに入りやすい状況を作りたいと考えている。
			A_M_191	LLP の人数は 28 名だった。
	問 22 建築家に依頼した理由を教えてください。		A_M_192	声をかけてもらったから
	問 23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		A_M_193	南側を向いていた

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（設計）	問 24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。	Q. 設計段階での要望	A_M_194	一切行っていない
			A_M_195	お金の制約だけはしていた。
			A_M_196	安藤陽子さんにテキスタイルデザインをおこなっていた。
プロジェクトの変遷（設計）	問 25 協働体制に変化があれば教えてください。			—
	問 26 地域の方との関係を教えてください。			—
プロジェクトの変遷（実施設計）	問 27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
プロジェクトの変遷（施工）	問 28 DIY を行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した（したい）部分があれば教えてください。	Q. 施工するに当たって DIY をおこなったこと	A_M_200	工科大学の学生がお金がないため自分たちができることは全部やろうと、塗装のワークショップをおこなった。
		Q. 塗装ワークショップの際に地域の方は参加した？	A_M_201	商店街の人が参加した。
		Q. 設計の段階での関わり	A_M_202	私と兄貴分みたいな人にかかわった。
		Q. 積極的でないひとまいるが応援したと考えている商店街の人がいる	A_M_203	商店街の人を呼んで、誕生会などをおこなっている。
			A_M_204	お寺のお坊さんはまちづくりに関わっている人なので、
			A_M_205	Facebook などの広報をおこなっている人がある。
建築家の役割	問 30 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わることについての効果と課題があれば教えてください。	Q. 地域に開いた場に対して建築家が関わることの効果と課題	A_M_206	商店街にしていると視野が狭くなってしまう。
			A_M_207	商店街のなかに学生が住める場所ができるとはおもっていなかった。
			A_M_208	はじめは眉唾ものではあったが、建築家の構想はたいしたものだとおもった。
			A_M_209	私達が考えられない建物の使い方、人との関わり方、建物とひととの関わり方をそわった。
			A_M_210	石田さんは数多い事例をやっているが、思い入れがあると思う。
			A_M_211	夏に集中講義があるが、必ず年に一度定期的にもっている。
			A_M_212	先生もここを自分の作品として色々なところに載せるようにする。
地域活性化	問 32 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。	Q. 地域コミュニティと関わることでよかったこと	A_M_213	こまったことはほとんどない、周りの人ももともと廃墟だったが、二階にだれかいるので明かりがつくので、見ていてくれるのだなという話をよくきく商店街としてもよかったなとおもっている。
			A_M_214	もっともっと地域との関わりというのを持たせられるとおもうが、
			A_M_215	地方の議員がきいてきて、みたいと言われることがある。
			A_M_216	議員は全員こわっている。
			A_M_217	学生の住まいなのでみてもらいたいことがたくさんある。
			A_M_218	自治会もすぐたすかっている。
			A_M_219	納涼祭など重たいものを運ぶ人などすぐ頼りになる。
			A_M_108	ここに住んでもらう意味。すべてのステイクホルダーが win-win の関係でいられることがシェアハウスをやった一番いいことかなと思っている。
			A_M_109	商店街からすると持ち主がわからない空き店舗が埋まった。持ち主が全くわからなかった。東京都文京区出身の竹田さんだった。手紙で竹田さんとの付き合いがはじまった。
			A_M_110	借りてもつかない。まったくどうしていいかわからない、固定資産税だけを毎年払っている状態だった。
			A_M_111	事業組合が竹田さんからお金を払って借りて、月々の家賃を頂いている状態。
			A_M_112	竹田さんは税金が下がり、収入があるからいい状況になった。
			A_M_113	竹田さんは積極的な関わり方はしたがない。賃料を下げてもらうというお金の援助というドライな関係
			A_M_220	若い人たちがいることはすぐたよりになる。
		Q. 今後の課題	A_M_221	会の運営から見ると入居率を 100% にしたいとおもっている。
			A_M_222	いまの学生はスマホで調べるが、スマホの検索上位に上がるような努力をしている。
			A_M_223	もっともっといろんな工夫をして入居率を高めたいとおもっている。
			A_M_224	学生に地域のいろいろなひととのつながりを自分からもとめるようにしている。
			A_M_225	住んでみて建築的に
			A_M_226	間仕切りが特殊
			A_M_227	遮音性の問題がある
			A_M_228	住民同士の関係トラブル
			A_M_229	役割分担をはたさないなど



B CASACO（設計者）

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。		B_A_08	用途として、多世代多国籍の人に開かれた場所をつくらう
			B_A_09	地域の人とか子どもたちとか広い意味で旅人が気まずくなく集まれる場所が最大の目標だった。
			B_A_10	4部屋に人が住んでいる。半分は短期の語学留学にきている海外からの学生の部屋。
			B_A_11	それは短いと一ヶ月くらい、長いと三ヶ月くらいのすていになる。
			B_A_12	最初はゲストハウスにしたかったが、海外の人がローカルのことをしれたりする場所にしたいとおもっていた。
			B_A_13	そのときに一日二日で帰るよりか、しばらくいる人ののが安心だし、交流も持続的になるのでいまは滞在する場所になっている。
			B_A_14	日本人の若者も二人いるのでマネージメントをしている。
空間操作と理由	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		B_A_54	もともとあった壁で落書きしたものを残している。前の記憶を残すというか。それがアクセントになっている。
			B_A_55	階段のあちらとこちらで別のこととして過すみたい
			B_A_56	階段をいじると改修の位置づけがかわり確認申請がかわる。現在ガッツリかえていますが、主要構造部はいじっていない。
			B_A_57	入口前のスペースに植栽があるが、最初は何もなかったが地域のお母さんたちが緑を植えるイベントを行っていて、お風呂の位置を気にして、緑を植えてくれた。
			B_A_58	キッチンスペースの手に桐箆箆をおいて、足つけてカウンターになっている。
			B_A_59	ちょっとしたカフェとか、ちょっとしたお店ごっことかそういうときにカウンターみたいなものがあるとぐっと舞台というか、サービスを受ける側が強いラインではなくてわりと簡単に超えられるというか常にサービスを受ける側ではなくて簡単に帰れる場になったりそれがいいとおもっている。
		Q 押入れベンチ	B_A_60	軒下が気持ちいいのと、椅子を置くて話もあつた、いきなり入るのは敷居が高い
			B_A_61	石畳の高さもそれを考えて設計を行った。
			B_A_62	床仕上げをカーペットにしている。
			B_A_63	最初はカフェしたいという話があり、テーブルと椅子を置こうとしていたが、床に座ったほうが距離感が縮むので、町の人と目線があう。町の人が気軽にスーッと来やすい関係になっている。
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			—
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		B_A_05	最初はおおきな話ではなかった。
			B_A_06	横浜市の横浜市民町普請制度というのがあり、それを使おうとした。一年ちよつとかかる審査。というかplay parkをつくるなど、予算は500万円。
			B_A_07	審査が一年かけて通った。そこから一年かけて施工を行ったのでopenまでtotalで二年以上かかった。
			B_A_15	スウェーデンの老舗の留学斡旋外車EFがあり。そこからの留学生のホームステイ先に登録されている。
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。		B_A_16	まちづくりの専門家が偶然近くに住んでいた。
			B_A_17	最初は加藤さん、堀口くんが住み始めた。CASACOの片側を借りてリユームシェアしながら、彼らがやっている、教育とか旅をテーマにしたNPOのオフィスから話をしていた。
			B_A_18	CASACOのプロジェクトにいろいろな人が巻き込まれていった。
			B_A_19	最初は助成金の町普請にそってできてきた。
			B_A_20	あの場所をつくるというチームがあつた場所を運営するというチームに変化していった。
			B_A_21	一階が住民のシェアスペースだったりリビングだったりするが、それだけではなくて他の人も使えるようなイベントスペースになったり、たとえば料理教室になったり、バーをやったりするような場所。
			B_A_22	小さい子どもを持ったお母さんたちが、昼間ちょっとした時間集まって裁縫したりするスペース。
			B_A_23	CASACOがいろいろ企画して町の人に提供するというかは、理念を考えるようなことや調整をしている。
プロジェクトの変遷（構想）	（問6 資金について教えてください。）		B_A_76	シェアハウスなので賃料をもらっている。
			B_A_77	イベントスペースでやっている売上も入ったりする。
			B_A_78	特に外からイベントでつかいたいということがちょくちょくはいるようになった。
			B_A_79	一年間でさっきのを回収できるくらいはCASACOとしてためていた。
	問7 公共団体との関係について教えてください。		B_A_23	特に関係ない
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		B_A_24	意外とコンテキスト歴史がある。
			B_A_25	上に行けば動物園公園、中腹は住宅、麓はアートスペース、飲み屋、風俗街、駅などいろいろなものごちゃごちゃになっている。麓から頂上までめくめくどんどん変化していく。
			B_A_26	こんなところでプロジェクトできたら面白いなって。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（設計）	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。			—
	問10 一番初めの提案はどのようなものでしたか。		B_A_27	最初は回収予定の面積は建物の半分だった。
			B_A_28	町普請が決まったときも片側だけだった。その後、残りの部分がでていった。
			B_A_29	大家さんが両方使っていいという許可がでたので両方やりたいとなった。
			B_A_30	片側をやっているときから、くり抜こうというアイデアがあった。
			B_A_31	殆どが6畳の石畳になっているところがあった。
			B_A_32	急に全部使えるようになって、うまく片側を残して、かつ単純にバラバラしないものは何かをかんがえていた。
			B_A_33	その時に出てきたのホールという考えが出てきた。
			B_A_34	ここが住宅地にないような6m以上の気積を持っているホールみたいな、これをうまくつかえないか。
			B_A_35	また左右対称性の神殿みたいな強さを使えないかと考えた。
			B_A_36	ここさえ残せば、ほかがバラバラしてもまとめてくれるのではないかと考えた。
			B_A_37	空間を広くとるために壁はだいが壊して。
			B_A_38	バーゴラにつくろう、柱に使用と、軒下の変遷はあった。
			B_A_39	現場の段階でも変わった。アルミサッシがきれいに取れたので二階ぶんで使おうなど
			B_A_40	同じサイズのものが両側に入っていることでより対称性が強調された。
	問11 他に検討した提案はありますか。		B_A_41	素材的なものへの考え方があった。
			B_A_42	いろいろ工夫をしなければいけなくて、住宅地にも素材があると考えて、丘なので高齢化とともに坂がきつから住めないということも結構多くて、そういう情報を頂いて、空き家に出向いて、使えそうな家具や建具を頂いてストックして採寸をした。
			B_A_43	よそからもらってきた建具、家具を積極的に使った。
			B_A_44	それでだいぶお金を安くできた。
			B_A_45	そのような偶然のであいまみたいなものを設計に取り込んでいく。
			B_A_46	最初はめちやめちやボロ屋でそこに若い人が移り住んで夜な夜な会議していて、みるからに怪しい感じで、最初すごい警戒されていた。
			B_A_47	ワークショップなどをやったが、最初は案の定町の人がこない。
			B_A_48	何をやっているかわからない不気味さをいわれていたので、新聞を作り始めた。
			B_A_49	こんなことやっているととかこんなことをやっていきたい、それと地域のこと毎月200世帯分配布をおこなっている。
			B_A_50	そうするとこういうことがあったんだねというのが伝わりだったらこうしたらというアドバイスとか、空き家情報など、情報を発信したら情報が帰ってくるようになった。
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。		B_A_51	そのような地道なことを二年間やった。地域のメンバーが夏祭りとか運動会などイベントに出ることで、徐々に理解を得られた。
			B_A_52	の人は全然好意的ではない。今も下の人は無関心だったりする。
			B_A_53	すごいファンの人もいるし、音楽のイベントもするときだけ来てくれる人もいた。
				—
				—
プロジェクトの変遷（実施）	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
プロジェクトの変遷（施工）	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。		B_A_63	開けてかみてからとかいうところがあった
	問15 DIYを行ったところがあれば教えてください。		B_A_64	一つは解体。二階の壁以外はほとんど自主的に解体をおこなった。
			B_A_65	ピンコロ石がメインで塗装系をおこなった。
			B_A_66	これがもともと悪化していた横浜市中心図書館前のピンコロ石をもらった。
			B_A_67	改修前、地域のかたに説明したりした。
			B_A_68	これでだんだん壁を抜いて、普通ごみとしてだした。
			B_A_69	町の人との交流を考えて急坂にペットボトルのキャンドルを置いてイベントを行っている。
			B_A_70	塗装も中学生の子がやってくれたりとか、住民とピンコロ石を敷いている。
			B_A_71	ある日來たらお母さんたちが勝手に目地を詰めたりしている。
プロジェクトの変遷（運営）	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
	問17 運営にどのようにかかわっているか教えてください。	Q. プロジェクトにおける立場	B_A_01	ももとはDIYの相談役、CASACOを壊す予定だった。大家さんは何をしてもよいといわれた。
			B_A_02	横国の旅好きの学生だったが、おしゃれなDIYをしたいとかがえていた。
			B_A_03	共通の知り合いが紹介してくれた。面白い人が古いスペースを借りて住んでいる。
			B_A_04	富永さんと一回見に来た。何かできる範囲でDIYでできたらなと言っていた。建物が道に面して遠くから見えたりとかがいいとかおもっていた。内容が自分がやっているNPOの拠点にしつつ、町に開きたいと考えていた。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。		B_A_72	やはりギリギリの予算だったので、二階の居住スペースはそのまんまに近いとか。
			B_A_73	音的につながっていたりとか不満があった。
			B_A_74	つい最近二階の気密性を挙げたりとか、土間部分の収納がたりなくなったので土間に壁をたって外から使える収納。
			B_A_75	二階にシャワールームをつくったりしている。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
設計者への評価	問 19 地域に開いた交流の場は建築家に関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家に関わることについての効果と課題があれば教えてください。		B_A_80	そういう血が通うプロセスみたいなことに責任をもつてかかわりたい。
			B_A_81	これが最初のプロジェクトだったので、設計したことによって人がどう動くとか実感がないところがあったので、作ったわいいが思っていたことが機能しないことがたくさんあるなど思っていたので、この場所にスペースをつくったことで変わると思う。
			B_A_82	さっきの住民へのケアなど、そのケアによって空間の二重性が担保されるわけで、空間だけでできることと、そういうことを通して実現できる学んだ。学びの機会だった。
			B_A_83	CASACO にとって、ぼくらがいなかったら合理性の原理がどんどんかかっていく。
			B_A_84	この方が便利だったり、この方がお金が回るとかの空間だから気まづくないとか何かやりたいなど、空間の捉え方が全然変わってくる。
			B_A_85	多様な価値観を CASACO プロジェクトによって運営側が持っている。
			B_A_86	例えば吹き抜けを一つ潰せばもう一部屋分の賃料を得られるが、それよりも吹き抜けがあることで一見わかりづらいけどこんなことができているということは主張しないといけないなということは考えている。
コモンスペースへの評価	問 21 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。		B_A_87	CASACO にいるときに A さん B さんとよくあう。けれど A さんと B さんは近く住んでいたのにあったことがなかった。
			B_A_88	この場で偶然一緒になりかつやな感じがしない。
			B_A_89	軒下でバーをやるときとかこの街に住むお母さんがビールを飲んでいたりする。
			B_A_90	住宅地では役割が固定しているが、それが気持ちいいからやっている。そういう風景が町に与えるインパクト、そんなものに関われたらいいなと考えている
			B_A_91	あとは外国の人としゃべって、意外とこの町が面白いんだとポジティブに捉えるようになった。
			B_A_92	若い人がきて寝て変えると気持ちがある。
			B_A_93	大家自身もともとクローズだったが、オープンになり、人のオープンさの変化がみえるようになった。
			B_A_94	持続するときに以下に、モチベーション、仕組みを整えていくかが課題。運営メンバーもともとと誰一人 CASACO 専門でやっている人はいない、当初のようにかけられる時間も限られてきて、組織のありかたも作っていかうと考えていることが課題。
			B_A_95	このプロジェクトの縁で、近くでまちに開いた美容院のリノベーションを行った

B CASOCO（運営者）

大項目	質問項目	補足質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。			CASACO プロジェクトで有志市民団体
	問 2 設立・運営主体			CASACO プロジェクト
	問 3 活動日・時間帯		B_M_96	10-21 の間に使いたい人がいればあける
			B_M_97	毎月カレンダー出す。カレンダーに載っている日は空いている
			B_M_98	誰かしらいるから、カギは空いていては閉まってない
			B_M_99	当初は日々カフェにしたいと思っていたけど、労働力とか人件費の問題があって基本イベント
	問 4 利用人数		B_M_100	イベントくるときは 20 - 30
			B_M_101	子どもの受け入れオープン 2 人とかの時も
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）		B_M_103	子供、近所の 40 - 50 代くらいのひと
			B_M_104	イベント時は 20 - 30 代くらいの方
			B_M_104	坂の上だから高齢者のイベントはない
		Q 大人もふらっとくるか	B_M_102	近所の 40 - 50 代くらいの人が一服して帰る
	問 6 収入源			賃料、イベント参加費
	問 7 運営組織の人数			6 人
	問 8 活動日のスタッフ人数		B_M_105	1 人いれば
	問 9 サービス内容		B_M_106	基本的に多世代多国籍のつながりが出来るものだったらなんでもいいよ
			B_M_107	Coco がカサコの場合を借りてダンス見たり音楽聞いたり
	問 10 サービスの周知方法		B_M_108	ネット
			B_M_109	新聞
			B_M_110	直接声をかける
	問 11 設立者のこれまでの活動		B_M_111	旅をしていた。ちゃりて。
			B_M_112	帰ってきて、大学院で教育学の研究をしながら、大学院の時に旅で得られたことを子供たちに伝えたいと思った。プログラムを提案した時に、実際に子供と海外の人が交流したいという。Coco を作った。
プロジェクトの変遷（運営）	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。		B_M_113	最初はゲストハウスにしようと思った。ゲストハウス件 1 オフィス兼こういうところ。耐震基準を満たさなかったから
			B_M_114	でも外国人いないと意味ないから留学生受け入れ
			B_M_115	あと、カフェしたかった
空間操作と目的	問 13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。			共有スペースと二階はシェアハウスになっている
空間操作と目的	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？		B_M_116	スペース貸しを考えていなかった。意外と借りたい人いるんだ
			B_M_117	乳幼児を持ったお母さんたち。乳幼児がはいはいで広い空間を楽しんでいる

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
空間操作と目的	問 15 (空間と照らし合わせて) 利用者のための工夫とその目的を教えてください。(家具の工夫、掲示、用意している道具など)		B_M_118	なるべく物をおかない
			B_M_119	完全なイベントスペースだと物をおかないことできるけど、リビングでもあるから
			B_M_120	隠せる場所を作った
			B_M_121	様々な使い方をするからなるべく折りたためるもの
			B_M_122	なるべく新品買いたくない。落ち着くおばあちゃんちにきたような
			B_M_123	あとはイベントの時などは簡単に仕切れるものも使っている
プロジェクトの変遷 (運営)	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。		B_M_124	近所の方に配慮すること
			B_M_125	通る人通る人にこういうイベントありますよと伝える
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？		B_M_126	この場所はもうすぐ民泊の法律が出来そうなので、民泊にしてもいいんじゃないか
			B_M_127	日々空いていた方がままさんでもいいし、学生でもいいし週に何日が常設的に空いている
プロジェクトの変遷 (構想)	問 18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			—
	問 19 始めに抱いていた思いについて教えてください。		B_M_95	自分の感じた事を子供たちに伝えたかった
	問 20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。		B_M_135	知らなかったから、町内会に入ろう
			B_M_136	会長に会いに行ったら、何か裏があるんだらうと思われてた
			B_M_137	翌月の餅つき大会に行ったら濱島さんにあった。
			B_M_138	それから毎月町内会のお祭りなどイベントにしているようにした最初はやっぱり怪しい
			B_M_139	引越してきて㊦カ月くらいたったときに運動会があってその貢献で認められたそこからのみに連れて行ってもらえるようになった
	問 21 資金について教えてください。			問 6 で回答済み
	問 22 建築家に依頼した理由を教えてください。	Q 最初のつながりは？	B_M_134	建築関係の人知らないか聞いたら、同じ大学同士でおばちゃんに相談したら繋いでくれた
	問 23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		B_M_128	最初は全然ひとが来なくて近所の人からすると、建物が閉じてる
プロジェクトの変遷 (設計)	問 24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。		B_M_129	風通しがいい家にしたい
			B_M_130	中でなにしてるかすぐ見える場所にしたい
			B_M_131	切り取ることができたら最高
			B_M_132	トルコのモスクのような誰でも受け入れてくれるしいつまでいても怒られないし
			B_M_133	カーペットみたいなものはトルコ
	問 25 協働体制に変化があれば教えてください。			—
	問 26 地域の方との関係を教えてください。			—
プロジェクトの変遷 (実施)	問 27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			—
プロジェクトの変遷 (施工)	問 28 DIY を行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した (したい) 部分があれば教えてください。		B_M_140	撤去とかの DIY の理由は費用削減
			B_M_145	ピアノの位置を変えた
			B_M_146	シェアハウスとの両立のため収納をつけた
	問 29 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。	Q つくる DIY は	B_M_141	自分達で作ることで愛着を持ちたい創るほうは、近所の人に手伝ってもらってここにみんなを巻き込むっていう意味で
			B_M_142	いし、壁、カーペット
			B_M_143	建築系の学生
			B_M_144	手伝ってくれる、DIY がしたいって人
設計者への評価	問 30 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わることについての効果と課題があれば教えてください。		B_M_147	建築業界にアピールできている
			B_M_148	見た目がすっかり変わったことで同じ活動ややっていても、信頼してくれる
			B_M_149	CASACO にとってプラスだけど、やっぱりずっと関わり続けるのは難しい。
			B_M_150	カッコよさのためだったら生活の便利さを犠牲にする。建築家にとってここは作品。それ以上何もしてほしくない。机とかもいらない。生活が出来なくなってしまう。使ってこそ建物なのに。
コモンスペースへの評価	問 32 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。		B_M_151	地域に興味がなかった人が、この地域面白いかも
			B_M_152	町内会のイベントにいないひとがくる。そこで町内会との繋がりになる。
			B_M_153	公共的な活動は税金が使われている。こども無料だと思ってくる。
			B_M_154	この場所の維持は問題なくできるがこの先の投資が難しい

## C ユウトビレッジ（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。	Q. プロジェクトにおける立場	C_A_01	この二人は友人というか空間をつくるのが好き、空間を広げて地域をつくる企画、田口くんが基本実施設計という立場。
			C_A_07	僕自身のコンセプトは人と人が交流して楽しい。
			C_A_08	けれど池袋の隣だし、新宿渋谷にも近い、この町を面白くすることができるのではと考えた。
			C_A_09	せっかく建物があるからなにかやろう。
			C_A_10	一つは空き家が多いから空き家を使ってお店をシェアしたり面白い取り組みが行われるような街になったらいいな。
			C_A_11	ふるいまちをかえて、若者が集まれる場所をつくろうというのがコンセプト。
			C_A_12	そのためには、人と人が意見を交流する場が必要だ。
			C_A_13	リビングの空間は人があつまるのが最初から想定されていた。天井を上げる。床を下げる。
			C_A_14	ステップフロアになっている。
			C_A_15	ちょっとリビングに向かって 座れたらいいな。
			C_A_16	三層になっている。リビングが少し下がっている。
			C_A_17	はじめからそうしようというわけではなかったが、やってくうちにそうなった。
			C_A_70	近所がくれたカウンター、カウンターをくれたのが隣りにあるバーのおやじ
			C_A_71	カウンターをくれたらバーにいかなくなった。
			C_A_72	最終的には手作りできくりこみの造作のカウンターになった。その後別の家にカウンターになった。
空間操作	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		C_A_73	最初は廊下がなく、外を通ってお風呂にいけばよいじゃんということになってたが、
			C_A_74	女性の入居予定者のかたに外を通ってお風呂は嫌だとなったが。
			C_A_75	古民家の木サッシ
			C_A_76	知り合いのお家が自由が丘お屋敷、の取り壊しがきまった。
			C_A_77	その知り合いのかたが建具を好きなの持ってきていいよと言われた。で建具をもらってきた。
			C_A_78	材木とかテーブルとかそれらをたくさんもらってきてそれをとりつけた。
			C_A_79	それが顔になった。デッキに面しているところに取り付けた。
			C_A_80	建具に合わせて枠をつくった
			C_A_81	高さとか位置にこだわった。床の高さをこうしようなど、
			C_A_82	全面的に開口つぼくなった方がよいなど全面的そのあたりを目指していた。
			C_A_83	もらってきた建具がまたまちょうど良いサイズだった。
			C_A_84	リビングを大きい部屋にしたかった。
			C_A_85	最初は壁があったが、壁、柱を取って、おおきな空間にした。
			C_A_86	一応耐震診断をして現行強度をクリアするところまでは補強をおこなった。
			C_A_87	壁をとると計算をあわせるのが大変だった。
			C_A_88	一番優先したのはリビングをおおきくすること。
			C_A_89	大工さんがやりたくないといっていた。
			C_A_90	60 万円追加してくれたらやると言われた。
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			-
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		C_A_02	もともと新建築に掲載されているゆうとヴィレッジみなみ長崎が僕のおじいさんが立てたアパートをリノベーションしようというプロジェクトだった。
			C_A_03	空き家になりかけていたプロジェクトをつかって椎名町を面白くできないかと考えたのがきっかけ。
			C_A_04	空き家になったのは4年くらいまえ、それがきっかけ。
			C_A_05	価値がないから取り壊そうという話があった。
			C_A_06	爺さんがなくなったし取り壊してしまおうという話があった。建物の再生と地域のコミュニティがつくれないかを考えたのがきっかけ。
			C_A_18	リノベ前のうちに住んでいた。
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。		C_A_19	使いながらここをどうしようかという議論をどうしようかを改修前からおこなっていた。
			C_A_20	住んで人がいって活動をして、飲み会やったり、パーティーやったりミュージシャンよんで演奏会、生花教室とか、ここはこういう方がいいよねということを考えていた。
			C_A_21	この時は、天井が高い方がいいとか、この建具は残したほうがいいという意見が出た。
			C_A_22	コンセプト的には、住む場所、友達や近所の人が集まれる。旅行客が泊まれる。カルチャー教室やイベントができる。
			C_A_23	今考えると暇だった。なかなかできることではない。
			C_A_24	これがぼくらの一番の取り組み。
			C_A_25	例えば図面だけを見て、お施主さんの意見をいっていたらこうはならなかった。
			C_A_26	最初は友達がまったくいなかったの、まず知り合い。
			C_A_27	徐々に近所の人が来るようになった。
		Q. どうやってひろがっていった？	C_A_28	最初はとなりの人にちょっと来てくださって言ったのが始まり。
			C_A_29	出来た後に飲み屋とかで広がった。
			C_A_30	この時代はそとからの人たち。
			C_A_31	当時済はじめのスタートは僕入れて3人。プロジェクトに参画して竣工後に住み始めた。地域の人になった。
			C_A_32	一旦竣工して、外構工事をおこなった。そのときから地元の人があつまりだした。
			C_A_33	メディアにのったために、椎名町だったり雑司が谷のわかもが集まりだした。
			C_A_34	まず内装をやって、その後外構デザインをおこなった。
			C_A_35	ウッドデッキ作ったあたり。内装デザイナーやっていたり。
			C_A_36	近所の人たちが私達がつくったことに反応して、地元のネットワークがどんどんひろがっていった。
			C_A_37	この家は4部屋あって、2階は僕らの事務所だった。
			C_A_38	いまは部屋として貸し出す部屋にしている。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問6 資金について教えてください。		C_A_39	助成金も降りずに、銀行も貸してくれない。
			C_A_40	良いよねと言ってくれるけど、借りれない。
			C_A_41	資金は親とか、あつめたりした。
			C_A_42	最初は地元の信用金庫 1100 万円融資してくれることになっていたが上司がだめだといわれた。
	問7 公共団体との関係について教えてください。			問6 で回答済み
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。			もともとあった
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。			-
プロジェクトの変遷（設計）	問10 一番最初の提案はどのようなものでしたか。	Q. 設 計 プ ロセス	C_A_43	ウッドデッキをどうつくるかなどいろいろ考えた。
			C_A_44	バースもいろいろ制作した。
			C_A_45	空間を高くしようということと上下でつながることを考えていた。
			C_A_46	小さな縁側がもともとあった。この縁側のフロアレベルのデッキにしようとした。
			C_A_47	ぼくが大事にしたのはスタジアム構造とかすり鉢構造とか、外のが高い構造にしようとしていた。
			C_A_48	外と中の境目がないということにしようとした。
			C_A_49	地域があって家があってその境目をどこに置くかでつながるっていうことが出来るのではと考えた。
			C_A_50	隣のアパートの人がおもしろそうだからと一時期、夕飯をたべてた。
			C_A_51	その後騒音とかの文句があったが、アパートの滞納をしたのち夜逃げした。
			C_A_52	なにかのときは開口のサッシを全部外して、アウトリビング的な使い方ができるように
	問11 他に検討した提案はありますか。	Q. も と も とあったけど消えたコ ンセプト	C_A_53	お金がなくてできなかったのは、二階に栈敷席をつくろうとしていた。
			C_A_54	人がひとり座れるくらいの栈敷席をつくろうとしていたが予算の関係で断念した。
			C_A_55	本来はこのデッキと栈敷のコミュニケーションが生まれることを期待した。
			C_A_56	あとは隣とつなげることを考えていた。
			C_A_57	建物と建物の間もなんかやりたい
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。	Q. 入 居 者 の方がはやくきまった	C_A_58	一時期隣のアパート住民が夜逃げしたりで空になったじきがありチャンスかなと思っていた。
			C_A_59	仲間内であれこれ考えているうちにそういう取り組みだったら住みたいと言う人が現れた。
			C_A_60	住みたいというか強引に住んでくれと頼んだ。自分たちで空間をつくるのは楽しいねということ強引に巻き込んだ。
			C_A_61	作り込みを一緒にやって、建具選びとか設備選びをショールームにいつて、話をして。
			C_A_62	集団でいったのでショールームのお姉さんが何するですか。
			C_A_63	大工さんも紹介してもらって、このプロジェクトおもしろいなど、最終的にはテーブルカットをしてくれた。
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。	Q. こ の 時 の協働体制	C_A_64	大工さんがフローリングのやり方を教えてくれたり、丸のこを貸してくれたりした。
			C_A_65	エアリーフelow藤木くんがプロジェクトをまとめる役割。
			C_A_66	あとは大工さんがいる。
プロジェクトの変遷（施工）	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。			-
	問15 DIYを行ったところがあれば教えてください。	Q. DIY	C_A_92	費用もあって壁はったり、フローリングしたり。
			C_A_93	解体は自分達で色々やった。床天井、壁を壊したり
			C_A_94	Facebook の呼びかけで仲間があつまったという感じ。
			C_A_95	ネイリストや料理人など。
		Q. 工期	C_A_96	住みながら壁をこわしたりしていた。
			C_A_97	大工さんが入ったのは3ヶ月くらい。
			C_A_98	2014. 12 月に住み始めた。
			C_A_99	デッキとかはまだできていなかった。
			C_A_100	近所の小学生の子供が色をつけてくれたりした。
			C_A_101	小学生の子供建築家になりたいなど。
	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			-
プロジェクトの変遷（運営）	問17 運営にどのようにかかわっているか教えてください。		C_A_67	ぼくがやっている。いまは数年やっている、賃貸業をやっている。
			C_A_68	いまだとここを使って生花教室やりたいて子供がいるのでイベントして生花教室をやっている。
			C_A_69	外国人の受け入れを積極的にやっている。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。	Q. デ ッ キ もすべて完成した後に 工事をおこなったこと	C_A_102	あとは草をはやししたり。ウッドデッキをつくって
			C_A_103	廃棄後を作ってみたりとかした。煙突をつくったりした。パーベキューをやったり
			C_A_104	人が集まる時用にカウンターをつくった。このころには地域のひと。
			C_A_105	小さな椅子はホームセンターで 1000 円くらい。
			C_A_106	あとは植物を生やしたりした。
			C_A_107	外国人がくるとここであつまってみんなで飲んだり、遊んだりとかをおこなった。
			C_A_108	プロジェクトで映画会をやったりとか。
			C_A_109	流しそうめんとか。インターナショナル流しそうめん
			C_A_110	外国人への宣伝は最近 Airbnn あとは口コミ
			C_A_111	Jazz の人を読んで合宿などを行ったりした。



大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
設計者への評価	問 19 建築家の効果	Q 地域に開くこと、建築家が関わること	C_A_112	あんまりないんじゃないか。
		Q. キ ャ ッ チ ンの利用者	C_A_113	長田がおこなっていた。
			C_A_114	近所の人たちがきて飲み会をおこなっていた。
			C_A_115	隣のバーをやっているひととか仲良くなった。
コモンスペースへの評価	問 20 地域コミュニティへの効果と課題		C_A_116	地域のつながりができてくと家で作戦会議、町会の会議メンバーになり、飲みくいをするようになった。
			C_A_117	最近はお家の空き家で持て余しているものがあると言われた。
			C_A_118	あとは今年の毎年9月に大きなお祭りがある。
			C_A_119	サンパチームをつくることになった。
			C_A_120	最初は知り合いがいなくて状態徐々に知り合いが増え、仲間内でわいわいやっていたらなんだろうとなって出来たぐらいから地域の人たちと繋がりができた。
			C_A_121	触発された人がシーナと一平というブルーススタジオの人とやっていると旅館をやった。
			C_A_122	プロジェクターをつかってそのひとたちが発表をおこなったりしていた。
			C_A_123	今後は椎名町に根ざして、家の空き家があるからやってよという話がどんどんできて、こういう取り組みをしていると椎名町に伝統工芸士さんがいることを紹介してもらって、その人、彼にデザインしたものをパネルにしておきながら、
			C_A_124	今回のコンセプトはぶんか 発信の場にしようとした。あとはこのビルオーナーがマグロ問屋。文化が交流する場所づくりということもできた。
	問 22 その他自由回答	Q. 今 後 の 活動	C_A_125	空家家のリノベ、事業としての注目などいろいろな切り口があるんだと。
			C_A_134	

#### C ユウトビレッジ（運営者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。			-
	問 2 設立・運営主体			-
	問 3 活動日・時間帯	Q. 活動日	C_M_126	気が向いたときにおこなっている。
	問 4 利用人数	Q. そ う い う とき何人あつまる	C_M_128	生花教室 8 人、クリスマスパーティは 30 人くらい。結構人を収容することができる。
		Q. 利 用 者 の 特徴	C_M_129	パーティーするときは同年代 30 後半。そのお子さんとか。
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）			
	問 6 収入源	Q. 収入源	C_M_130	時間貸し、場所貸しはおこなっていない。
	問 7 運営組織の人数			会社でやっている
	問 8 活動日のスタッフ人数			1 人いれば
	問 9 サービス内容		C_M_127	いけばな教室は月一回決まった第三日曜日のみ。あとは地域の子供向けにフィリピンの人が毎週水曜日に教えるということをやろうとしている。
			C_M_131	ここ一年は長期に住む人がいなくなって、短期貸しでまわっているという感じ。空間の収入がなにかを考えたとき、泊まるとか住むというのがひとつ。
プロジェクトの変遷（運営）	問 10 サービスの周知方法	Q. 周知方法	C_M_132	Facebook でおこなっている。
		Q. メ デ ィ ア	C_M_133	新建築」、「住む。」、「ハウジングトリビューン」、「事業構想」などでとりあげられた。いろいろな面から注目。
	問 11 設立者のこれまでの活動		C_M_134	空き家のリノベ、事業としての注目などいろいろな切り口があるんだと。
				ハウスメーカーに勤務していた
	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。	Q. 現 在 の 運営で当初との違い	C_M_135	最初に想定していた、なんとなく地域とか行政とかとのからみができるかなとおもっていた。それができてきている。
		Q. 使 わ れ 方で想定していたことがなかったこと	C_M_137	リビングスペースで外国人がご飯つくったりパーティーしたり、旅行できている二組が仲良くなったり、例えばドイツ人カップルフランス人カップルがなかよくなったり。
	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？	Q. 空 間 に 関して、想定していたことがなかったこと	C_M_136	おもったより劣化。建具が閉まらなくなったりとか、開かなくなったりとか。そんなに大きなことはない。
		Q. 空 間 に 関して、想定していたことがなかったこと	C_M_142	家具とかはもらいもの。費用削減かな。
	問 15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）			
	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	Q. こ こ ろ が けている こと	C_M_139	人にたのしんでもらおう きれいにつかおう
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？	Q. こ の 場 所 は今後どういう風に展開していくのか	C_M_138	民泊をだいたいきに行おうとしている。あとは留学生の受け入れを積極的におこなおうとしている。今年は 18 人のフランス人を受け入れた。
	問 19 運営の課題はありますか？		C_M_140	コミュニティーリーダーみたいなのがどんどんそでって、僕が音頭を取らなくても、自然発生的にできたらいいなとおもったが、コミュニティーリーダーが動いたら育つのが課題。
			C_M_141	地域の人ともそうだし、海外の人達にはどういうプロセスを経てきたかを共感してもらおう。ヨーロッパにお人たちがはすぐに、それは意識している。プロセスを経て、こうなったことを知ってもらいたい。

D HAGISO（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。	Q. プロジェクトにおける立場	D_A_26	運営者で設計者
			D_A_27	最小文化複合施設
			D_A_28	「私営の公共施設として運営したい」
			D_A_29	東京には多くの公的な公共施設や、巨大資本による複合施設が存在しますが、その末席に肩をならべるパブリックな空間を、
			D_A_30	一体誰のために、何のためにつくっているのか、ということを実感したいと感じていました。
空間操作	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		D_A_31	人が集まるための場として1階にカフェとギャラリー、2階にはヘアサロンとアトリエ、事務所を計画しました。
			D_A_32	カフェとギャラリーは一体の空間として、イベント時などに複合的な使い方ができるようにします。
			D_A_33	ステージになったりロビーになったりと、新たな使い方を誘発します。
			D_A_34	ギャラリー上部は「ハギエンナーレ 2012」時に鳥小屋にするために、二階床をぶちぬいていましたので、そのまま吹き抜けとすることにしました。
			D_A_35	構造用合板で耐力壁をつくり、金物で補強
			D_A_36	コンクリート土間の左官仕上げ。
			D_A_37	中廊下を中心に入って右手に真っ白なギャラリー、左手には既存の木材を見せたカフェを配置しています。
			D_A_38	ギャラリー部分はももとの部屋を縦横につなぎ、吹き抜けの空間としました。天井高は高いところで7m、空間の真ん中に柱と梁が横切っています。空間を分断してしまうこのような要素は邪魔になると思われがちですが、かえってこの場所の特徴を際立たせ、使う人の想像力をかきたてると思いました
			D_A_39	吹き抜けにはバルコニーを設けたことで、高い位置からも作品を見ることができ、ギャラリーでコンサートなどを行うときには天井数席として使えるようになっていきます。
			D_A_40	岡倉天心記念公園に向けて開いた開口
			D_A_41	ギャラリーの開口は閉じ、構造壁展示壁とした
			D_A_42	真っ白な壁で覆い、いつも更新され、変化していく空間
			D_A_43	木毛セメント板を使い、Caféの他の材料との調和を図っている
			D_A_44	照明やローテーブルなどは、元萩荘の住人の仲間につくってもらいました。
			D_A_01	吹き抜け、ギャラリー、腰をかける場所などがある
			D_A_02	公園との接続性を高める。もともと吐き出しはあったが大きくなかった。型ガラスだったためクリアにし、高さを変え、堀越しに公園が見えるようにした。
		外観は？	D_A_03	塗装しただけ。塀を残すことが大切。寺の境内と一緒にあって、街並みを残すということ
			D_A_04	擁壁をベンチに転用。
			D_A_05	台東区の景観に基づいている。
		どう開いているのか	D_A_06	中の炊きの住宅なので中廊下を保っている。中廊下を介して分けている。中廊下の柱にそれぞれ電球をつけていて、街路灯のようなイメージ、ここまでが道の延長というイメージ
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		D_A_45	ハギエンナーレを経て、大家さんを説得して、改修が決まった。さらに、工事中イベントやクラウドファンディングを経て最小複合施設というコンセプトのもと自ら運営するカフェとギャラリーをつくった
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		D_A_46	萩荘を破格の値段で借りて住んでいた
				壊されてしまうことになり、最後のフィナーレとしてハギエンナーレを行ったら成功した
				大家さんが場所のポテンシャルに気が付いてくれた
				事業計画書をつくり大家さんを説得した
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。	Q. そもそもなぜ改修したかったのか	D_A_10	建物の葬式としてやった。オーナーの意識がまず変わった。はぎエンナーレで1500人きた。オーナーが目覚めたのもしかししたら残せるんじゃないかという可能性に気づいた。
			D_A_11	住んでる連中が5人くらいいて、泊まりに来てた人5人がコアとなって展示をやってみようとなった。
			D_A_12	はじめた時街がどうかじゃなくて、営業してみると内部で完結してのではなくて、谷中という街が魅力だから人が集まってきた。街の価値で施設自体が成り立っている。しかし、街並みを形成する建物がどんどんなくなっているため、自分たちの価値もなくなるんじゃないかと思い始めて外に意識を向けた
			D_A_13	最初は文化複合施設。谷中がということではなくて、巨大な施設に対する批評として、民間資本で作る公共の場を作りたいとなった。
	問6 資金について教えてください。		D_A_47	プロセスを共有し仲間を増やすためのクラウドファンディング
				映像・音響設備を購入するための費用として出資を募りました。
				オープンに先立ち関係者のみを集めたプレオープンパーティーでの出会いや、普段の活動をロコミで広げてくれる彼らの支えによって、HAGISOの発信力のベースが築かれました
				構造などの改修費は大家さん
	問7 公共団体との関係について教えてください。		D_A_48	内装などは宮崎さん五年で回収する計画
				ない
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		D_A_09	芸大が近いから。選んだのは僕じゃなくて、先輩が住み始めたのがきっかけで。聞いて入居した。理由は学校が近く空き家だったから、学生でも安く住まわしてくれると思ったから。
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。	Q. カフェ以外にも計画しましたか	D_A_14	ギャラリーをやろうと決めていて、残ったきっかけはぎエンナーレだったから。
			D_A_15	コーヒーマシンを買えばそこに居られる権利が高まる。費用が稼げて、敷居を低くできるカフェを入れることで公共性を高めた。
			D_A_16	ギャラリーは入ってはいけないような感覚になる。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（設計）	問10 一番初めの提案はどのようなものでしたか。	Q. 設計プロセス	D_A_49	最初は設計だけして、誰か外からテナントを募集しよう
			D_A_50	場所のポテンシャルを最大化する試みを、建物のデザインだけではなくて運営することも含めてデザインしたい
			D_A_51	全体を丸ごとお借りして、自ら施設の運営にチャレンジする
			D_A_52	一体誰のために、何のためににつくっているのか、ということをリアルに実感したいと感じていました。
	問11 他に検討した提案はありますか。	Q. 他 の 案はありましたか		－
プロジェクトの変遷（施工）	問12 この時の協働体制、地域の方との関係に変化があれば教えてください		D_A_17	工事中のイベントは限定的な人たちをターゲットにしたもの。地域に対してではない。営業始まってから街とのつながりを気にしました。
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください			－
	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください			－
	問15 DIYを行ったところがあれば教えてください	Q. DIY	D_A_53	柱のやすりがけや壁の塗装は、自分たちや、アーティスト、建築学生サークルのみなさんの手を借りてゆっくりに進めました。
	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください		D_A_54	清掃段階には、お手伝いいただける一般の方を公募。アーティストや、ギャラリスト、雑貨屋さん、フォトグラファー、学生など、HAGISOに興味をもってくれた方々が参加してくれた。
プロジェクトの変遷（運営）	問17 運営にどのようにかかわっているか教えてください		D_A_55	工事に一般の方を巻き込んだのと同様、プロセスをできるだけ多くの人と共有したいと思ったため
			D_A_56	工事中にイベントをいくつか行いました。
			D_A_57	身体パフォーマンス「描くとは、触れるに近く 踊るとは、今くり返される呼吸」
			D_A_58	仮囲いのかかった建物に入っていくと、工事用の材木を積んだ客席があり、まだ塗装されていない壁の墨付け跡をダンサーが手でなぞりながら舞台が始まります。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください		D_A_59	ふたつ目の企画は、海外留学している日本人建築学生による成果展、
建築家としての役割	問19 建築家の効果	Q. 運営	D_A_60	実際に会場で毎日出展者の方と来場者を待っていると、近所のマラソン帰りのおじさんが毎日通ってくれて一緒に話をしたり、近所の方と大雪の日に雪かきをしたり、HAGISO オープン前ながら、出展者と HAGISO と地域と不思議な連帯感が生まれます。
			D_A_61	プロセスを共有し仲間を増やす
			D_A_62	HAGI ART は HAGISO の空間をアーティストと一緒に再発見、再更新していくための展示空間です。閉じたギャラリーというよりも、開かれたホテルのロビーのような空間です。アーティストが『展示することができる場所』ではありますが、『展示するための場所』ではありません。
				－
	問20 地域コミュニティへの効果と課題	Q. 町 への効果・課題	D_A_20	－
地域への影響	問21 地域コミュニティへの効果と課題		D_A_21	HAGI ART は HAGISO の空間をアーティストと一緒に再発見、再更新していくための展示空間です。閉じたギャラリーというよりも、開かれたホテルのロビーのような空間です。アーティストが『展示することができる場所』ではありますが、『展示するための場所』ではありません。
			D_A_22	図るのは難しいです。芸大の学長が住んでいた場所にできた公園が前にある。前の通りは何もなかった。暗いから避けるような道。HAGISO ができたことによって、谷中の核となる場所。
			D_A_23	公園があったということも寄与していて、公園とはざそができたことによって、裏通りに中心性が生まれた。角地であるということも重要。
			D_A_24	ある種の人たちの中心にはなった。中心 HANARE ができるかなと位、思ったのはそういうことだし、通りが明るくなり商店も増えた。
	問22 その他自由回答	Q. 今後の活動	D_A_25	家中の交流会町内会の代表 NPO の代表が集まったり、図書館がない時期にゴザを敷いて本を読み聞かせる空間を提供したり。クリスマス会を行ったり、コンサートと食事をしたり。

D HAGISO（運営者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください		D_M_22	株式会社はぎスタジオが経営をしていて、飲食部門設計部門宿泊部門の3部門がある。
	問2 設立・運営主体		D_M_32	株式会社はぎスタジオ
	問3 活動日・時間帯	Q. イベントの頻度	D_M_33	カフェの空いている時間
	問4 利用人数	Q. そういつとき何人あつまる	D_M_23	人数はね。確か年間3万7000人くらいカフェが利用している。ギャラリーだけの人は、入っていないので低く見積もって4万くらい。イベントは50人くらいがいいところ。80にんぐらいだとかなりギュギュウ
	問5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）		D_M_24	女性多いが、幅が広い。近所のおばちゃんから外国人まで。年齢層や属性だけではなかなか絞れない。カフェだから女性
	問6 収入源		D_M_34	カフェ、ハナレ
	問7 運営組織の人数			
	問8 活動日のスタッフ人数		D_M_35	1人から
	問9 サービス内容		D_M_36	カフェ、宿泊、展示、
	問10 サービスの周知方法	Q. 周知方法	D_M_21	SNSが中心で、お店自体がメディアになってる。玄関がインフォメーションセンターになっている。メニューがチラシのようにになっている。フリーペーパーとして配っている。日本中の施設や、家中の商店に配っている。展示が何をやるのかイベントとかコラムとか5000部印刷して配っている。カフェとしても劇場としてもなる。安いですよ。15000円。
	問11 設立者のこれまでの活動		D_M_37	住んでいた。

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（運営）	問12 当初の運営計画と現在で違うところがありますか。	Q. 現在の運営で当初との違い	D_M_31	美容室が無くなり、ショップがベンチになり、ラウンジになったところ。レンタルスペースの内装を変えた。白塗りをキャラクターを強くしていこうということで壁の仕様を変えた。使われ方を限定する方がマッチングするのではないかと思った。ももとのスタッフルームをどうしようかと悩んでいる。
	問13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。	Q. 使われ方で想定していなかったこと	D_M_38	「谷中地区まちづくり交流会」では、谷中地区まちづくり協議会と特定非営利活動法人たいとう歴史都市研究会の共催によって、谷中では初めての代表者サミットのような会を催しました。
	問14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？	Q. 空間に関して、想定していなかったこと	D_M_27	そうすることは基本的にウエルカム。予期していない使い方をどう見つけてくれるか実験を行っている。パフォーマンスカフェなど。ステージの場所を常々変え、空間を発見している。ステージは空間のすべて。
			D_M_34	価値がよくなる方向で提案し、期待してくれている。
	問15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）		D_M_31	美容室が無くなり、ショップがベンチになり、ラウンジになったところ。レンタルスペースの内装を変えた。白塗りをキャラクターを強くしていこうということで壁の仕様を変えた。使われ方を限定する方がマッチングするのではないかと思った。ももとのスタッフルームをどうしようかと悩んでいる。
	問16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	Q. ここがけていること	D_M_28	スタッフが一番大切で大変なところ。コンセプトを理解して楽しめているかどうかを気をつけている。
	問17 今後どのような場所にしたいですか？	Q. この場所は今後どのような風に展開していくのか	D_M_29	売上をあげたい。建物自体でやれることは限界があると思っている。元事務所を街の教室としてコミュニティキッチンや映画上映会を行える空間にしようとしている。エリア内にそういう空間を増やしていくって、複合した時にどうなるか興味ある。
	問19 運営の課題はありますか？		D_M_39	日常空間、生活空間にもっと公共性、文化性を取り戻したい
			D_M_30	ジェントラフィケーション、街が評価されるほど力を持って本来の力が失われていく。評価されてしまうと家賃が上がったり、古民家が壊されたりするのでスピード感を持たなければならぬ。ブームに作用されないものをどう作っていくかが大事。商店街に人が来るようになっている。賃料が上がってきている。もともと商売やっている人は貸した方が儲かるので、人に貸してしまう。賃料が払えるのは観光客のための商店街になっていき、地域の色が失われていく。そこで、観光客が入りにくいような空間を作った。地元の人には広めている。生活とどういことができるかに観点を置いている。観光客向けは地元の人々が来ないので、そういうことをやっている
			D_M_32	土地が高いので買えない。今のところ全部賃貸。オーナーさんとの関係が重要。持続と形成がマストになってきている。
			D_M_33	操作できない

#### E\_ju-tou（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。		E_A_01	設計者件コーディネータ、設計が始まる一年前から openA のばばさんと取手アートプロジェクトを行っていた。
			E_A_02	国交省の中古流通事業という補助金の事業委託だった。
			E_A_03	取手アートプロジェクトにかかわっていたのと取手、茨城が地元だった。
			E_A_04	取手の窓、もともと産婦人科だった。一階が産婦人科で二階が歯医者三階がカフェ、つつみさんが経営、堤さんがカフェ、二階が息子で歯医者、一階が産婦人科で父親、裏側が堤さんのご自宅。父親がなくなって、活用を考えた。
			E_A_05	どうしたらこの地域の市場に合った用途が考えられるか。
			E_A_06	分割して一つ一つの賃料を下げた。
			E_A_07	大きいところで6万円くらい、まんなかはシェアスペースとして考えたことが始まり。
			E_A_08	ABCに分割した。三階の娘のカフェの人が音楽イベントが好きでライブスペースにしている。
			E_A_09	真ん中にステージを作って周囲にオフィスがつながる。
			E_A_10	青木淳の月評、拝借景で芸術家たちがアップデートしている。
			E_A_11	拝借景では窓が地域に対して会話しているような
			E_A_12	そういうコンテキストがあったので、取手の窓としてコンセプトを引き継いでアイデアをつくった。
空間操作と目的	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		E_A_13	もともと貸す予定だったが、ある部分は常にまちに開放されている。
			E_A_14	オーナーの友人のアートを展示している。三階にきたカフェのお客さんが降りてきて立ち寄ったりしている。
			E_A_15	月一階のコンサートは50.60人くらいくる。

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		E_A_16	取手アート不動産はコアメンバーが四人いる、青木さん、仕事百科、openAのスタッフ、取手アート事務局長の4人で形成されていた。空き家をみにいったとき、建築てきな観点、仕事百科のひとはコミュニティについて openAの人は賃料、取手アートのひとはアートのことをみる。
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		E_A_17	あしたの郊外は外部から建築家などアーティストを呼んでアドバイザー熊倉先生などがふくまれる。郊外というものを全般的にどう考えていくかを考える。実際に動いているのは取手アート不動産。いいなさんがあしたの郊外で見つけてきた人がマッチングしてみつけてきた。
			E_A_18	取手アートプロジェクトだがあしたの郊外でくっついているのは馬場さんのおもい。馬場さんは統括をしていたがあしたの郊外の比重が大きかった地元にはいないとなかなかできない活動。
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。		E_A_19	取手アートプロジェクトは不動産業がない。連携先の不動産会社。施工会社も住まい工房なるしまさんとかでチームで動いていた。さらに地元の連携を作っていた。
	(問6 資金について教えてください。)		E_A_20	コアメンバー4人に対して、月々いくらかで空き家調査などをコーディネート料としてもらっていた。
			E_A_21	設計料は堤さんからもらっていた。
	問7 公共団体との関係について教えてください。		E_A_22	施工費は堤さんと国交省の補助金を100万円もらっていた。
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		E_A_23	依頼があったからここがいいとなった。
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。		-	-
プロジェクトの変遷（設計）	問10 一番最初の提案はどのようなものでしたか。		E_A_25	一番あったのは中央の核となるステージをどのようにとるのか、手前に持ってくるのか、中央なのか、細長くパターンをかんがえていた。
			E_A_26	最初壁を抜いて駐車場と一体にと考えていたがRCだったので難しかった。
			E_A_27	一番はステージのとり方。個室をいくつに分割するとかを考えていた。水回りが決まった状態で、おおきなシェアスペースにたいして個室がどのように紐付いてくるかを考えていた。
			E_A_28	決定した理由は舞台性みたいなものを考えていた。中心性がつよくてそれにたいしてどのようなあり方があるかを考えていた。ピアノが置いてある。
			E_A_29	築50年くらいのRCで全部無筋だった。解体したときにスラブがたわんでいた。地盤沈下した。一段上げているのは梁を通して、舞台だけで自立するものをつくった。構造的な理由も入ってくる。
	問11 他に検討した提案はありますか。	Q. 窓案がでてきたのは	E_A_30	プランが決定してから窓案になった。テナント同士もゆるくつながるように考えた。
			E_A_31	ももとは窓は両側になったが資金の面で片側にした。
			E_A_32	仕上げを合板にした。床仕上げもPタイルをはがしてあらわしにした。手術室のタイルはそのままアクセントとしてのこした。現場で最終的な仕上げなどは決定した。
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。		E_A_33	取手アートプロジェクトはもともと市民から始まっている団体なので市民のかたからの意見をもらっていた。
			E_A_34	目の前の通りが取手駅につながっているの、どのような人が通るのかとかを教えてください。
			E_A_35	アーティストに一時的におこないたいなどの情報を持ってきてくれる。
			E_A_36	部屋の貸し借りは提携先の不動産屋さんがおこなっている。
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		-	-
	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。		-	-
プロジェクトの変遷（施工）	問15 DIYを行ったところがあれば教えてください。		E_A_39	床フローリングを蜜蝋ワックスで塗った。
			E_A_40	入居者を見つける
	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		E_A_41	-
プロジェクトの変遷（運営）	問17 運営にどのようにかかわっているか教えてください。		E_A_42	入居者の内見は必ずメンバーを交えて3人になっている。
			E_A_46	取手アート不動産のサイト経由で来る人は変わった人が来る。
			E_A_47	レントゲン室があった部分をひとつ個室化した。
			E_A_48	二分割して賃料をとっている。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。		E_A_49	将来的に小割りにしていくかもしれない。
			E_A_50	小さい方が貸しやすい。
			E_A_51	月3万円くらいが見つかりやすい。
			E_A_52	竣工後は入居者を呼んできて内見やコンサートをして告知をおこなったりしていた。
			E_A_53	ここをPRすることを手伝っている。
			E_A_54	以下にここのポテンシャルを読み取って、壁を作ったりして、形を変えていけるかを考えた。
			E_A_55	住宅の改修ももともと小屋がなく、玄関が中央にあるので分離しても住居として成立すると考え。
			E_A_56	工房をつくった。



大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
設計者への評価	問 19 地域に開いた交流の場合は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わることについての効果と課題があれば教えてください。		E_A_57	本来持っている住宅の形式を取り出し、どうとりだして新しくプランニングするのは建築家しかできない。
			E_A_58	恩師の千葉学さんの影響もあるとおもっている。
			E_A_59	空間の話をどのように噛み砕いて、オーナーに説明するのが難しかった。
			E_A_60	専門性があるがゆえに見たときの可能性がみれるし、だめなところもみえてしまう。
			E_A_61	改修するときに利回りを考えたときに耐震性を確保するような耐震をすると利回りがあわない。
			E_A_62	逆にアーティストのほうがやりやすいかもしれない。
			E_A_63	専門性があるゆえにみえてしまう。
			E_A_64	その時はお金の話をするときに理解がえられない。
			E_A_43	内見を面接にしていた。入居してからも発信してくれる人。
			E_A_44	お花屋さんとか美容関係の人が入居している。お客さんが来る。
			E_A_45	不動産屋さん、メンバー、娘さんのフィルターを通して。
コモンスペースへの評価	問 20 コモンスペースの評価		E_A_14	オーナーの友人のアートを展示している。三階にきたカフェのお客さんが降りてきて立ち寄りしている。

E\_ju-tou (運営者)

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。		E_M_65	三階はカフェで、オーナーとしてスタッフがいるときもあつたり、ひとりで営業するときも
	問 2 設立・運営主体	Q2. 設立・運営主体	E_M_66	一階はオーナーとして兄がいて、イベントなどあると企画は私が行っている。
			E_M_67	テナントさんが入ってもらうときは面接を私がして、これならと思ったらオーナーにも会ってもらう形をとっているんですけども
			E_M_68	イベントも今のところ企画とか運営とかも
	問 3 活動日・時間帯	Q4. 活動日・時間帯	E_M_69	月に一回ライブ、月に 7。8 クラスはヨガをしている
			E_M_70	年に一回マルシェ、たまにヨガ、お茶教室、他の方に貸すライブなど
	問 4 利用人数	Q5. 利用人数	E_M_71	最高 130 名
			E_M_72	イベント 70 名くらい
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）	Q6. 利用者の特徴について	E_M_73	最初は近くの方に集っていただきたいとおもって始めたが、こだわっている世界が狭いのか、いいと思ってくれる方が来てくれない
			E_M_74	コンサートの時も全国からいらした
			E_M_75	市内の方は 1 - 2 名くらい
			E_M_76	カフェも我孫子とかどちらかというか 3 - 40 代くらいの若い家族が食に興味があるかた
			E_M_77	取手は元から住んでいる方が大半。若い人は外に行ってしまう。
	問 6 収入源	Q8. 収入源	E_M_78	カフェ、テナント
	問 8 活動日のスタッフ人数	Q10. 活動日のスタッフ人数	E_M_79	自分で行うか、スタッフがいますか
	問 9 サービス内容	Q11. サービス内容	E_M_80	あとは生け花の時に、場所かし
			E_M_81	知り合いに、場所貸してみたいなかんじこの二階くらい
			E_M_82	主に月に一回ライブを行っているんですけども、その後はミュージシャンの方が自発的に。一緒に企画している感じ
	問 10 サービスの周知方法	Q12. サービスの周知方法	E_M_83	ネットで宣伝するくらい
		E_M_84	あとは都内とかの知り合いのお店にフライヤーを置いてもらう	
問 11 設立者のこれまでの活動	Q13. 設立者のこれまでの活動	E_M_85	カフェを始める前は料理教室していた。千葉と茨城と吉祥寺でやっていた。	
		E_M_86	ちょうど吉祥寺に居る時に被災した。帰ってきたら結構被害があつて、料理教室といった雰囲気ではなかった。	
		E_M_87	茨城県内の場所を借りてしてたけれど、会場自体が断水したりとか、取手市内の会場は南相馬市の災害避難都市なので会場で炊き出しをする会場をするようになったりとかで、料理教室の活動が吉祥寺だけになってしまった。	
		E_M_88	私はマクロビオティックの考え方なので、オーナーと共に九州に行かないかと誘われたが、ここで自分のできる事をしようとおもった。	
		E_M_89	三階は空いていたので、近くの方がホッとできる安心な食材を使った料理を出す 12 月にオープンした。	
プロジェクトの変遷（運営）	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。	Q15. 当初の運営計画と現在で違うところ	E_M_90	空かせておくよりは地域の方に使ってもらいたい、もともと若い人たちに移住してきてもらいたいとのことで取手アートプロジェクトなどで行っていたけど、なかなかどうなのかなって。
			E_M_91	最初の希望はテナントをクリエイティブな感じを想定していたけれど、逆にそういうところはもともとあるからか、今は実験的にリラクゼーションサロンが入居している。
空間操作と目的	問 13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。	Q16. 部屋ごとの使われ方	E_M_92	大体ステージは駐車場と反対側になる
			E_M_93	真ん中をアトリエと名付けているんですけども、集客人数が見込める時は、扉を全部はずしてライブしている。
	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？	Q17. 想定していなかった面白い使われ方	E_M_94	閉めた壁には映像を投影することもある
			E_M_95	コンサートを毎月するようになるとは思っていなかった。床が楽器のようになってライブをやるのに丁度良い
			E_M_96	ヨガのクラスをしたりとか写真撮影に使ったりとか
			E_M_97	良い感じの店舗とかギャラリーとか、最初はポップアップストアやってくれるといいなとか。結局私が本と器の販売を始めた
			E_M_98	ライブで人が集まった時は、一部分の扉を開けてドリンクの受け渡しをしたりとかしている
			E_M_99	芸大があるのでそれを展示するのは想定内

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
空間操作と目的	問 15 (空間と照らし合わせて) 利用者のための工夫とその目的を教えてください。(家具の工夫、掲示、用意している道具など)	Q18. 利用者のための工夫とその目的	E_M_100	スクリーンをつけているので、映画が見れたりする。ライブのためのピアノもある。
			E_M_101	カフェについて) 建物を活かす形でリノベしたので家具も古いものを買ってきた。
			E_M_102	カフェについて) 崩れたときの壁や床を活かしている。全部だと古くて汚いので、古いんだけどちょっと近代的な感じにして清潔感ある感じにした。
プロジェクトの変遷 (運営)	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	Q19. 運営するにあたって特に心がけていること		—
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？	Q20. 今後どのような場所にしたいか	E_M_104	場所貸しとしてもうすこし回っていくといいなど。
プロジェクトの変遷 (構想)	問 18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。	Q21. プロジェクトがたどったプロセス	E_M_105	2012年に父が高いして、兄と私二人兄弟で、一階を継ぐものがいなかった。同じ医療関係の方が借りてくれると良いなと思ってたけど、なかなか見つからずに何年もたってしまっていて、兄が取手市内の方に相談したら、
	問 19 始めに抱いていた思いについて教えてください。	Q22 始めに抱いていた思い	E_M_106	取手アートプロジェクトが空き家を何とかしてくれる空いている状態をしているよりは地域の方に使われる場所や交流の場になるといいなということになりました。
	問 20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。	Q23 このころの共同体制と地域の方との関係	E_M_107	それがどうしているのか困っているところで。マルシェをするんですけど、この時は来てくれる。認知はされてきている。なかなか日常的に浸透がなかなか難しいと感じている。
	問 21 資金について教えてください。	Q24 資金について	E_M_108	取手アートプロジェクトからの助成金
	問 22 建築家に依頼した理由を教えてください。	Q25 建築家に依頼した理由	E_M_109	取手アートプロジェクトとのコラボだったので自然に・・・
	問 23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。	Q26 敷地選定について	E_M_110	もともとのもちや
	問 24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。	Q27 設計者に伝えた要望	E_M_111	三階はわたしをお願いしたけれど、取手アートプロジェクトが担当としてきたので、三階の雰囲気を入り込んでくださって、同じようなテイストがいいのではないかな。ナラの木材と白とコンクリートを提案してくれた
プロジェクトの変遷 (設計)	問 26 地域の方との関係を教えてください。	Q28 地域の方との関係		—
	問 27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。	Q29 地域の方との関係や協働体制について変化		—
	問 28 DIYを行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した(したい)部分があれば教えてください。	Q30 DIYを行ったところ、施工後に空間的に操作したところ	E_M_114	自分ではしてないです。一回のほうはテナントが決まってから扉とか壁。もともとライブハウスとして作ったわけではないので照明などちょこちょこはしている。借りてくださる方が、ギャラリーのようなところでライブをするの良いのことでそんなにはかかっていない。
プロジェクトの変遷 (施工)	問 29 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。	Q31 地域の方との関係や協働体制について変化		—
	問 30 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わることについての効果と課題があれば教えてください。	Q32 建築家が関わることについての効果と課題	E_M_116 E_M_117 E_M_118	良い方にめぐりあったと 地元知り合いがいなくて。男性の手とか頼めることもできないし、DIY 手作り感を出すのもテイストとしてちがうっていうか。プロの人に作ってもらう
コモンスペースへの評価	問 31 公共性の高いプログラムとした事で生まれる効果と課題について教えてください。	Q33 公共性に高いプログラムとしたことで生まれる効果と課題	E_M_119 E_M_120	— カフェに来る方は不安そうな顔で入ってくるけど、Caféの御料理を穏やかに扱っていて、そういう風にして作ったお料理を召し上がったあとにこっとされたりとかおいしかったとか言ってくさるとやっていたよかった
	問 32 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。	Q34 地域コミュニティへの効果と課題	E_M_121	それがどうしているのか困っているところで。マルシェをするんですけど、この時は来てくれる。認知はされてきている。なかなか日常的に浸透がなかなか難しいと感じている。



## F みそくら（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。	Q. コンセプト	F_A_01	基本的にはクライアントの資産をどのように運用するか、60歳過ぎてリタイアして会社を処分して、奥さんは専業主婦、それを機会に社会参加をしようとした。
			F_A_02	そのときに地域の人と関わっていこうとしている。自分の人生を豊かにしたい。
			F_A_03	一番最初は味噌とか醤油づくり明治時代から創業していたみその工場がある。
空間操作と理由	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。	Q. 行った具体的な操作	F_A_79	小さな開口を大きく開けた。
			F_A_80	筋交いはのこした。
			F_A_81	路地は京都みたいにしようとした。
			F_A_82	長い廊下みたら路地がいいと言われる。
			F_A_83	周りは砂利。
			F_A_84	手焙、さむいところ、骨董をあちこちにかざっている。
			F_A_85	垂木に使う材料を天井は黒くぬったのみ基本的には、路地を通る。
			F_A_86	ホントはここを通そうとしたけど近所の人から文句を言われる。
			F_A_87	現状の通りは販売店の前をとるから商業的にはいいものになっている。
			F_A_88	工場の補強ブレースの座屈などで補強をした。
			F_A_89	写真でみたらひどいが実際はそんなにひどくない。
			F_A_90	写真にもうつっている。
			F_A_91	内側にC型鋼をいれている。
			F_A_92	見るからに頑丈そうな建物だった。
			F_A_93	ここは大きく開けて行灯をつくっている。
			F_A_94	ここは完全に外から見える？
			F_A_95	開口を大きくあけて外からみえるようにしている。
			F_A_96	ブレースはそのままにして、開けるようにした。
			F_A_97	高岡なのに造園は奈良の人におねがいた。
			F_A_98	もともと良い庭があった。
			F_A_99	ベンチはすわって外に涼める感じを意図した。
			F_A_19	蔵の改装は天井とって色変えて、厨房を入れ替えた。
			F_A_35	あまりにもせっかくこの工場にいれるのにそこにもう一軒はだめだろうとおもっていた。
			F_A_35	透明な素材をつかったりしていた。
			F_A_36	暗いので半透明の素材を用いた。
			F_A_37	カウンターはおしゃべりできるようにとの要望があった。
		Q. この経緯は？	F_A_38	ひとつはできるだろうということがあった。屋根があるから、それなら、その特性を生かしてやろうとした。ここは雪が深いから冬でも外みたいに使える。
			F_A_39	せっかくだからいろいろな種類考えられる限りのものをつくった。
			F_A_40	ゆったらちよとした。ディズニー的な楽しい感じを出そうとした。
			F_A_41	下を開けているのはナガモチをいれないと行けないので、収納のために開けている。
			F_A_42	1.4m以下にしないと2階建てになるからそれ以下にした。
			F_A_42	10m 2 超えると申請があるので、それ以下になるようにした。
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			-
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		F_A_04	60代のご夫婦ふたり、工場が打ち捨てられていた。自分のリタイアのあとをどうするか。モチベーションが必要だった。この方の場合には比較的余裕があった。
			F_A_05	近所からはみそがおいしかったから再開してほしいといわれていた。
			F_A_06	味噌を作って売っていた。味噌は他でねってもらって自分たちのオリジナルレシピでうるといわれていた。
			F_A_07	近所の工務店に相談した。
			F_A_08	このあたも住めないから近所の工務店に相談した。
			F_A_09	工務店の案は工場をとって、新築するという案だった。これで6000万円だった。高いと思うけどいい案がないかという相談だった。
			F_A_10	その話を聞いたときに倉庫を残して中に何かをすべきだと考えた。
			F_A_11	平屋で中に建てるのは確認申請いらない。
			F_A_11	高見沢くんを東京からきてもらった
			F_A_12	ここに間仕切りをつくったらセットみたいなもの。
			F_A_13	そこに小さな平屋みたいなものを構築してって、隙間はコンサートしたり、朗読会したりをしていた。

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。	Q. この時期共同体制	F_A_43	工務店と僕とだけでやった。知らない土地だったし。
		Q. 設計士と地域の方との関係	F_A_44	僕自身はまったくない、こちらの職人をつれていったので向こうの職人との関わりはほとんどない。
			F_A_45	タクシーでみその、、というとずつと行ってくれるようになった。地域の中で知られている感じになった。
			F_A_46	ワークショップとかボランティアとかやるとか行っているが、ここは60過ぎて地域とかかわってどう生きるかが原動力になっている。
			F_A_47	冷静に考えたら、見たことがないものをどのようにつくるかを考えて、このようなものをどうしてつくるのか。つよい個人の意思がひつよう。相当な覚悟があった。
			F_A_48	面白いからやろうというのは本人の強い意思があった。
	Q. クライアントの方ははじめから地域にひらきこうという意思は？		F_A_49	はじめから開こうとしていた。スペースとしてだれかと住むなどを考えていた
			F_A_50	割合早い段階で地域との関わりを持とうとしていた。
			F_A_51	そういうのは住宅としてではなくもっと良い使い道があるのではないかと考えていた。
			F_A_52	潰すくらいなら中にニコくらい使えるじゃないという感じだった。
			F_A_52	カフェは奥さんに僕がすすめたから。といていたが、実際はそういうことはやりたかったのでは。
	(問6 資金について教えてください。)		F_A_26	2つ富山県から、中小支援センター専門家派遣に関わる助成金、中小企業の支援事業に応募して、事業としてバックアップされていた。公益財団法人からもらっていた。
			F_A_27	これともう一つもらっていた。蔵の改装費もでていた。
			F_A_28	専門家として設計とか経営としてアドバイスをして、自分で申請を手伝って自分で改修をおこなった。お客さんが地域の助成金をみつけてきた。
			F_A_29	タイミングがよかった。新幹線も来だし、市長も好意的。いまもひとがいっぱい。
		Q. どのように高岡市の目についたのか	F_A_30	お客さんがたくさんいるので、市長とコネクションがあったのでは。テレビもしょっちゅうきていたし新聞にものっていたのではないかな。商会議所の関係者もいたのではないかな。いろんな支援がないとかなかなかうまくいかない。
			F_A_31	コストはかなり抑えた。
プロジェクトの変遷（設計）	問7 公共団体との関係について教えてください。		F_A_23	途中大体できあがったころに高岡の市長がみにきて、金沢の建築展やってて、新建築の編集長がみにきてくれて掲載することになった。
			F_A_24	高岡は瑞龍寺という国宝の寺しかない。観光資源がすくないここは地元の醤油とかつくっていた、地域のコミュニティとして活用されるとして期待されていた。
			F_A_25	地域に開かれると同時に観光てきにももりあげていた。
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		-	-
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。		-	-
	問10 一番初めの提案はどのようなものでしたか。		F_A_14	はじめのうちはこの人達も住めるようにしようと、蔵でカフェをすれば良いのではといった。
			F_A_15	蔵を使ってカフェをやるようにした奥さんはコーヒーの入れ方お茶の入れ方を勉強して開業に向けて準備をしていた。
			F_A_16	蔵はカフェにしようということになった。
			F_A_17	工場の方はどういう顧客になるのかははっきりとは使いみちがみえていなかった。
			F_A_18	女子会や展示場として使えるのではということになった。
			F_A_20	雪が多いから前を囲ってある。ここはなんか蔵を継ぎ足していた。
	問11 他に検討した提案はありますか。		F_A_21	最初はどこかに頼んでコスト案的に何したいかみえてこなかった。
			F_A_22	奥さんはカフェ、工場を多目的スペースにして、地域に開いたらどうですかと提案した。
			F_A_33	もともとは住むことを考えて、片隅でみそを作ることをかんがえていた。
			F_A_34	一番最初はもっとくつついていた。
		Q. カフェ、多目的スペース以外のコンセプトは？		
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。		-	-
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		-	-
	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。	Q. 設計の段階での変化	F_A_53	最初がくつついていたが、住むというものからもっと開いたものになっていった。
			F_A_54	例えばダイニングとキッチンが離れていって、結局は最終で住むには変なプランになるが、その中に茶室がある、中にはしごがあつてロフトみたいになっている。小さいから面積に入れなくて良い。
		Q. お金が多すぎたこと	F_A_55	茶室をとじたかった。
			F_A_56	一番できなかったことは、この建物場合は外装、表の店舗をもう少しきれいにしたかった。もう少しいい感じにしたかった。最初予算がオーバーする。削ることによっていいものになるのを狙わないといけない。
			F_A_57	削ったことで結果的に洗練されたのではないかな、
			F_A_58	天井を結局垂木にするなどで十分だとなった、工務店の多大なサービスでできている。
	Q. 模型に屋根に穴が		F_A_59	天井高いから音も響くしいい。
			F_A_60	これもできなかった、あと融雪機をつけなかった。
			F_A_61	お金ができずまた技術がはつきりしていなかった。
			F_A_62	どっかかというと実験的に面白いことができるとおもっていた。防水がとけたりしないかなということで、時間があれば実験できたかも。
			F_A_63	ファサードをやり直して、大きな開口を開けた。
			F_A_64	蔵のここはきれいにしすぎた。

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（運営）	問 15 DIY を行ったところがあれば教えてください。	Q. DIY	F_A_65	それは工務店のひとがやっていた。 使い始めてからはいろいろしているとおもう。 シャガールの絵を飾ったりしていた。
	問 16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			-
	問 17 運営にどのようなにかかわっているか教えてください。		F_A_100	特に関わっていない。相談はうける。
	問 18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。	Q. 竣工後の操作	F_A_66	厨房の使い方とか変えているかもしれない。 いちばんやりたかったこと、蔵の奥のどこを個室にしたかった。
			F_A_67	結婚式のお見合いとか。結局は紙の中にする。 蔵にはいったら LED の野菜がそだっている感じにしたかったが実際は何もしない
			F_A_68	竣工後に道広げてもらったりした。市長に頼んで位置を広げてもらった。
設計者への評価	問 19 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わるることについての効果と課題があれば教えてください。	Q. 建築家として関わる効果	F_A_69	やはり建築をやる技術だけだとよくない。
			F_A_70	こういう空間にどのような商売ができているかも問題なきがするが、 神山 IT の企業とかがきている。インフラをさきにやっとなか来ないかなと、パン屋とかカフェとかをやった、徳島の業者を 3 者だして見積もりをしたら団号しているのとおもわれる値段、なるものから紹介してもらって、縁側オフィスの連中をシェアハウスなどをはじめた。斎藤さんという女の人がやっている。事業として、縁側オフィスの斜め前にある。
			F_A_71	古民家の改修なんかをやっていると、新築に比べるとウェイトがあがってきて、地域とつながってうまくやっていくみたいな例が増えてきた。
			F_A_72	工務店は地域社会を豊かにしていこうとあまりおもっていない。
			F_A_73	私たちは建築家は立場が自由ということにメリットがある。
			F_A_74	会社だとどうしても会社のレギュレーションがある。
			F_A_75	安い。事業的なことも相談しないとメリットがない。
			F_A_76	何年かまえにやった醤油や、見に来る人、やりたい人もみにくる。
コモンスペースへの評価	問 21 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。	Q. ここにこのようなプログラムを作ったことで生まれた地域への効果と課題	F_A_77	倉庫を潰そうとおもったけど、活用しようという可能性をすることができる。 そこを見学に来る人が結構まじっている。
			F_A_78	利用されるかたの提示することによって、今まで簡単に壊していたが。

F みそくら（運営者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。		F_M_101	個人でやっている
	問 2 設立・運営主体		F_M_102	それも個人で。
	問 3 活動日・時間帯		F_M_103	カフェは水～土 10:00～16:00、イベントは少なくとも月 1
	問 4 利用人数	一度やると何人くらい？	F_M_104	帽子の時は一日に 50 人くらい。帽子が完売した
			F_M_105	貸出だけしていたので人数わからないけど
		カフェはどのくらい？	F_M_106	10～30 人くらいでカフェにくる
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）	利用者はどのようなかんじ？	F_M_107	主婦。土曜日は若い
			F_M_108	平日 40～70 代の女性グループ
			F_M_109	1 人の男性も多い
	問 6 収入源	収入	F_M_110	イベント料とかもっている
			F_M_111	カフェの収入
	問 7 運営組織の人数		F_M_112	2 人
	問 8 活動日のスタッフ人数		F_M_113	2 人
	問 9 サービス内容	今の運営の形態	F_M_114	こちらはカフェとランチが基本
			F_M_115	グループだと向こうのお部屋
			F_M_116	向こうはイベントスペースとして使っているの
			F_M_117	定期的にあるのは、茶懐石の懐石料理のマナー講座みたいな
			F_M_118	これは月 1 で懐石料理の先生に来ていただいて食べ方とかを学ぶ
			F_M_119	知り合いの先生がここ来られて、やりたいとおっしゃった
		どういう話の流れで？	F_M_120	メンバーが増えたから月に一回やってますね
			F_M_121	リビングでやっている
			F_M_122	定期的にやっているのはそれくらい
			F_M_123	帽子の展示側板会も一回
			F_M_124	織物の体験と販売。これはハンディキャップのある方
			F_M_125	自主的にはしていない
	問 10 サービスの周知方法	宣伝は？	F_M_126	フリーペーパーとか TV のオファーがくる
			F_M_127	他広告料は一切出していない
			F_M_128	口コミだと思う
			F_M_129	どうやって広まったか、わからない
			F_M_130	ネットで調べたらあったと言われた。
			F_M_131	最初は知り合いに来ていただいていただけだった。
			F_M_132	懐石教室も 4→20 に増えている

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 11 設立者のこれまでの活動	運営者の今までの活動	F_M_133	専業主婦
			F_M_134	関谷さんの提案だった
			F_M_135	奥さんカフェしたらどうですかと言われて、一年間断り続けた。できないと思っていたから。
			F_M_136	蔵のなかに荷物が入っていたから
			F_M_137	関谷さんの熱意で始める事を決めた。
			F_M_138	飲食業
			F_M_139	やってみて意外に。はじめは本当に大変でしたけど、徐々に徐々に。
			F_M_140	みなさんが笑顔で帰っていけるような感じになってきている。
			F_M_141	利益はないんだけど、みなさんが笑顔で帰っていく。やってよかったなって。
プロジェクトの変遷（運営）	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはあるですか。		F_M_142	-
	問 13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。	部屋をどう使っているか	F_M_143	ここは物置。個室にしてお見合いとかする場所にしたらどう？とおっしゃったが、荷物がおくところなくて個々にどんどん集まってきた
			F_M_144	キッチン
			F_M_145	ここはグループ
			F_M_146	ここは懷石料理
			F_M_147	カフェ開始 1 年後くらいにランチを始めた。
空間操作と目的	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方がありますか？		F_M_148	演奏会の時にちょっと高さがあるのでそこから窓開けてみるみたいな
	問 15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）	家具の工夫	F_M_149	家具は和のものは置かないカフェに和だと変じゃない。
			F_M_150	インテリアは季節によって変えてる
			F_M_151	蔵に入っていた食器をつかっている
			F_M_152	お客様って結構飽きる
プロジェクトの変遷（運営）	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	運営していくにあたって心がけている事	F_M_153	季節のケーキを作ることにして、飽きないようにするメニューの工夫をしている
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？	今後は維持？	F_M_154	このような形で維持
プロジェクトの変遷（構想）	問 18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		F_M_155	-
	問 19 始めに抱いていた思いについて教えてください。	関谷さんに依頼した利用	F_M_156	もともと醸造業。主人とどのような形で壊すか、どうするかと言っていた。
	問 20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。		F_M_157	-
	問 21 資金について教えてください。		F_M_158	助成金は最初 200 万。5 年間は続けなさいということ。
	問 22 建築家に依頼した理由を教えてください。	最初の提案はどんな提案？	F_M_159	いろんな人に見てもらっていたが、TV をみて関谷さんを気に入って、京都へまずいった。
			F_M_160	関谷さんが来られて、こういう使い方があって。壊す必要ないよって。
			F_M_161	ばつとここをみるなり、壊す必要がないので、家の中に家をいくつか作りましようって
			F_M_162	こちらは最初は夫婦で使うっていう想定だったけど
			F_M_163	イベントスペースに今はなっている。
プロジェクトの変遷（設計）	問 23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		F_M_164	-
	問 24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。	関谷さんに要望したところ	F_M_165	カウンター席
			F_M_166	関谷さんは蔵なので湿気がでるから絶対いらないっていった
			F_M_167	お友達のために私はどうしてもカウンターが欲しかった
			F_M_168	私のお友達は私と話すためにきてるわけだから
			F_M_169	この天井はねあれなの。保健所が許してくれない。関谷さんは全部吹抜けが良かった。
			F_M_170	ほこり除けの意味
	問 25 協働体制に変化があれば教えてください。		F_M_171	-
	問 26 地域の方との関係を教えてください。		F_M_172	-
	問 27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		F_M_173	-
プロジェクトの変遷（竣工）	問 28 DIY を行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した（したい）部分があれば教えてください。	完成後にかえたところは？	F_M_174	ほとんど変えていない。絨毯ひいたりとかくらい。
	問 29 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		F_M_175	私のお友達。最初はご招待。あんまりご近所すぎると来られない。ご近所で 40 - 50 の方はあまり来られない。
			F_M_176	遠方が多い。富山から珍しがられてこられる

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
設計者への評価	問 30 地域に開いた交流の場は建築家に関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家に関わることについての効果と課題があれば教えてください。	建築家に頼んだことによる効果と課題？	F_M_181	考えもつかないようなことを提案してくれた。
コモンスペースへの評価	問 32 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。	イベントスペースがあつてよかったことは カフェをやっていたよかったこと	F_M_182	イベントスペース使うことで輪が広がるし知り合いになる
			F_M_183	NPO 法人でハンディキャップとかも知らなかった。
			F_M_184	一回だけ演奏会。琴の。
			F_M_185	ご近所の 70 代くらいのかたって、日中一人である。そうするとその方たちが私とおしゃべりして、笑顔で帰って行かれる。
			F_M_186	緊急連絡先にしようとかいう話も出たくらい。
			F_M_187	その方の娘さんが、その方が笑顔になって帰ってくるから、ありがとうといわれた。
			F_M_188	なんか一時間くらいおしゃべりして、元気になって帰っていくのすごいい良かった
			F_M_189	カフェなんてやると思ってたかった。
			F_M_177	良かったのは、すごく知り合いが増えた。
			F_M_178	意外と遠方からが多く近所の同年代はお友達しかこない
			F_M_179	あともうひとつ良かったのは、お味噌を飲んで買っていただけ。
			F_M_180	土倉に入りきらない荷物が多い

G あわくら温泉元湯（設計者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。		G_A_01	開かれた交流の場をつくる。
			G_A_02	地域にあるコミュニティがみえる場所をつくる。
空間操作	問 2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		G_A_42	地元のゆかりというプロダクトを使った。
			G_A_43	木のエネルギー利用ということで薪ストーブもつけた。
			G_A_44	ゆかりの床がスギでとういつしようとしたが、在庫がたりなくて途中でヒノキになった。
			G_A_45	入り口からお風呂の方まで色目だけでなく匂いでもわかるようになった。
			G_A_46	壁とかは漆喰で自分たちでつくった。
			G_A_47	大きな空間はどうつかってよいかわからなかった。
			G_A_48	スロープは楽しいスロープにしようとなってトンネルにして距離感を縮めた。
			G_A_49	動線を整理するということを考えた。
			G_A_50	バラバラになって使いにくかった動線をどのように短く感じられるようにするかが一番考えたところ。
			G_A_51	直接体にさわる椅子の部分のみ地元の家具やさんを巻き込んで一緒に作成したりした。
			G_A_52	建具は木製のサッシをつかった。
			G_A_53	玄関周りの開口部はできるだけ大きくするようにして、ふらっと来た人も中見て入れるように
			G_A_54	ももとのファサードも変更した。
			G_A_10	適材適所、ここにこれをやったらどれだけ費用対効果が出るかを僕達でかってにきめて行った。
			G_A_56	スタッフが費用削減の意味でも DIY を積極的におこなった。
		Q. 子供番台のアイデア	G_A_57	うちのスタッフのアイデア、子供が主役がいいよねという話をされていて、子供がお風呂の案内をしたらいいよねといていた。
			G_A_58	スケール感の違う空間をつくる。
			G_A_59	子供番台は本棚にもなっている。
			G_A_60	子供番台とおんなじモチーフでおとなのトンネルも作っていく。
			G_A_61	大きなファニチャーとして、村落エナジーさんが選んだほんがおいていられる。
			G_A_62	地域活性で図書館も役割をもっているそういう要素ももつ。
			G_A_63	にしあわくらは若い人を取り入れて企業させることを支援することでベンチャーをおこなっている。
			G_A_64	そういう、情報発信のばにもなっている。
			G_A_65	女湯のれんもじもとのかぐやさんがつかっているものを利用している。
			G_A_66	元湯というロゴも地元のグラフィックデザインのひとにおねがした。
プロジェクトの変遷（構想）	問 3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		G_A_23	秋くらいに話があって 4 月にオープン。
			G_A_24	12 月から設計 1 月に入札、2、3 月で施工。
			G_A_25	3 月 27 日が引き渡し。

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		G_A_03	その前提として、私自身が地域おこしのプロジェクトが必要なんじゃないかとなんとなく思い始めたのが2005〜6年くらいに新潟の出雲崎で地元を活性化をさせる企画があった。
			G_A_04	その中で村落エナジーさんとしりあい。彼は真正面から林業をもとに地域を活性化を考えていた。
			G_A_05	材料として間伐材をエネルギーとしてつかうことで地域を活性化したいと考えている。
			G_A_06	温泉が西あわくらにある灯油でお湯を起こしていたが、マキをつかうようにした。
			G_A_07	彼らのうちに泊まって改めて楽しいと思ったのは五右衛門風呂。
			G_A_08	五右衛門風呂研究会をつくって活動しようとした。
			G_A_09	そこのグラウンドを使って、お祭り、イベントみたいなものをおこなっていた。
			G_A_10	出店をさかれて五右衛門風呂をしようということになった。
			G_A_11	子どもたちに薪のわりかたや火の付け方、を教えた。
			G_A_12	最初はメーカーの人が教えていたが周辺の人が教えて、火のある生活の楽しさ、を實踐していくことが一番のバイオマスの復旧の仕方なのではないかと考えた。
			G_A_13	地道でやりたがらないからバイオマスは普及しなかった。環境にいいといってもバイオマスは普及しない、火があることは楽しいことを伝えないと行けない。
			G_A_14	一つ廃業になった温泉宿があってそれを借りていた。
			G_A_15	それをスタッフたちの宿泊施設としていた。
			G_A_16	ただ、宿舎にするだけじゃもったいないから旅館を自分たちでやってみようかなと言っていた頃だった。
			G_A_17	自分たちでDIYでやるから手伝ってよと言われていたところ町の人から予算がとれた。800万円。
			G_A_18	建築家を見つけてくださいといわれ、自分にきまった。
			G_A_19	そのイベントでやったこと、火を使う生活の楽しさがみんなが体験できるような場をつくることをそこでつくり出すと、コンセプトにした。
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。		G_A_20	村落エナジーさんと村の産業化の人、建築家の3つ
	(問6 資金について教えてください。)		G_A_26	まず既存の建物がある。予算が非常に限られている800万円。
プロジェクトの変遷（設計）	問7 公共団体との関係について教えてください。		G_A_27	介護基盤緊急整備臨時特例事業という国の予算でつくられた。
			G_A_21	僕たちは、村落エナジーから仕事をうけるといいうか、建物自体は町営の温泉宿、村落エナジーは運営として町から借り受ける
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		G_A_22	仕事は町から受けている。
			G_A_23	もともときまっていた
	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。			-
	問10 一番最初の提案はどのようなものでしたか。		G_A_28	高齢者の人たちが例えば地元で介護が受けられなくて地元を離れるときに地元を離れずに地元にとどまれる。
			G_A_29	そういうものを整備していきましょうという助成金、高齢者の人たちが要介護の人たちが定期的に訪れることができる場所、デイサービスのよう、それが毎日なくてもよい。
			G_A_30	月に何日かいて、お風呂入って楽しんでみんなで宴会をおこなう。他の日は普通の人が帰り温泉として使えるような場所、地域の回路基板になっていないといけない。
			G_A_31	西あわくらは地元の林業で活性化、時間が限られているので大工さん工務店さんでできるレベルの木造をやりましようとなった。
			G_A_32	それをもとに僕達がポンチ絵をつくって、どこにどんな機能を追加すれば平板交流の場にあるのか具体的な提案をしていった。
			G_A_33	なので温泉旅館として再生しても難しいなので違うプログラムでないといけないということになった。
			G_A_34	子供が主役の場所、子連れのお母さんたちがいつでも来れるような居場所をつくらうということになった。
			G_A_35	その周りに高齢者のひとたちも集まってきて、子供がいても楽しめるb書、温泉旅館だと泊まらないと行けないから機能を分解した。
			G_A_36	ゲストハウスにすることや、温泉も日帰りで利用できるように食堂部分は、ご飯だけ食べる人もウェルカムにした。
			G_A_37	温泉旅館のことをバラバラにしていっていった。機能をできるだけ細分化しようとした。村落エナジーさんからもこれやりたいあれやりたい、最初は露天風呂など意見があった。
	問11 他に検討した提案はありますか。		G_A_38	一番外にパーゴラなど大きな縁側をつくった。本当はもう少し大きく作りたいかったし、開口部につなげたかった。
			G_A_39	扉の開口部の数を限定したり、パーゴラのエリアを限定した。
	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。		G_A_40	村の人はもっとできるよとやり取りを行った。
			G_A_41	特に地元の人たちどいうプログラムがいいですかと考えたのは元湯では行っていない。
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			-



大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（施工）	問 14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。			-
	問 15 DIYを行ったところがあれば教えてください。	Q. DIYをつかっている場所  Q. 村落エナジーさん人数	G_A_67	壁漆喰塗りは全部彼らが行っている
			G_A_68	一部客室の間仕切り、薪ストーブのレンガをつくっていた。
			G_A_69	元湯をつくるのに人をやとい元湯がオープンしたときは3人
G_A_70			今は10人行っていた。	
		G_A_71	今は豊島の運営も行っている。	
プロジェクトの変遷（運営）	問 17 運営にどのようにかかわっているか教えてください。		G_A_75	関わっていない、定期的にコンサルタントみたいなの、ことをして相談にのっている。
			G_A_76	事務所にくるインターンの子をにしあわくらに派遣して一週間いた。
			G_A_72	廊下とかカフェの部分に村内のプロダクト書籍を並べる棚を追加していった。
			G_A_73	補正予算をつけてもらって、村の方から、そのたびにすこしづつ家具や照明器具をふあやしていった。
			G_A_74	開口部、詰めていたところを増やしたりした。
建築家の関わりについてへの評価	問 19 建築家としての役割		G_A_85	建築家はおせっかい。
			G_A_86	ディレクターはお金のしくみをつくる、建築家は夢を紡ぐためのストーリーをつくっていくこと、火がある楽しさをつくることはゆてってお金にならない、ご飯のをかまどでたくこと、実際は非効率だったりする。
			G_A_87	楽しさ、気持ちの豊かさを重視したこと。
			G_A_88	西栗倉、この地域の問題をそこだけでかいいけつできないこと、ここ以外の人たちと結びつけようとした。
			G_A_89	つくっているときにどうやって情報発信しよう、外国人をなるべく呼んだりした。
			G_A_90	そうしたいんだよといっていると外国人の人達が実際にきはじめる。
			G_A_91	そのような夢のようなおせっかいを考えるのが僕の役割。
コモンスペースへの評価	問 20 地域への効果・課題		G_A_77	建築がはたしたのか、村落エナジーさんがやったのかはわからないが、新しい人達を地域に入れていく先導になった。
			G_A_78	それによって地域の人が、動き出した。
			G_A_79	外国のひととか近隣の人よりも東京の人が遊びにくる。
			G_A_80	ただのんびりするよりも、どのように地域活性を行っているかをみにくる。そういう学生とか研究者がどんどん来るようになり、そこで横のつながりができるようになり、情報のハブになってきた。
			G_A_81	地元にいるおじいちゃんおばあちゃんとのハブそんなかんじではない。
			G_A_82	新しい移住者たちのハブになることで、新しいきっかけをつくった。そのことで新しいコミュニティがつくれ、そこに地元の人が参加していく。
			G_A_83	新しいコミュニティが生まれるきっかけになった。
		Q. 課題	G_A_83	予算や時間があれば。
		Q. 一番おくのスペースについて	G_A_84	ドミトリリーになっている。

G あわくら温泉元湯（運営者）

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
基本情報	問1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。	Q. 運営の共同体制	G_M_92	建物は行政の物、村落エナジーが運営
	問2 設立・運営主体		G_M_93	村落エナジーが委託事業として運営をしている
	問3 活動日・時間帯		G_M_94	平日 15:00-22:00 土日祝 10:00-22:00
			G_M_95	一ヶ月に一回位大きなイベント、今月すし油お酒のイベント
	問4 利用人数	何人	G_M_124	多くて30人少なくても20人
	問5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）	Q. 利用の人数	G_M_116	視察が多かったりするのでビジネス利用の方がおおい
			G_M_117	土曜日日曜日になるとおこさまづれの方がおおい
		Q. 利用者の方	G_M_118	視察になると、関東や地方の方をこられる
		はどのよう	G_M_119	あと家族づれになると関西圏
		なかつた？	G_M_120	日帰りにもなれるし一泊して帰れる
		Q. 温泉と	G_M_121	西栗倉村も長くやっている場所がない。
		かなると地	G_M_122	移住者のかたのコミュニティとしてつかわれたりとか。
		元の人も？	G_M_123	森の学校のA0さんというベンチャーの講演会の会場として利用されることがある
	問6 収入源		G_M_126	宿泊と飲食
		Q. 行政から	G_M_127	建物の助成金
	問7 運営組織の人数		G_M_128	修繕は行政にお願いしているがそれ以外はうちでやっている
			G_M_112	正社員は今社長を合わせると、7人にふえている
			G_M_113	アルバイトも薪工場全部で10人くらい
			G_M_114	あとは移住が多い
			G_M_115	あとは移住が多い
	問8 活動日のスタッフ人数	Q. 活動のスタッフ人数	G_M_129	2人でまわっている 現状としては3人とアルバイトが3人全員で6人 社長も忙しい時ははいる
	問9 サービス内容		G_M_94	レストラン・カフェ、ゲストハウスが主になっている。
			G_M_125	役場の方、地域の方もこられて、ちょっとしたイベント
			G_M_96	12月になるとリースづくり
			G_M_97	かぐやさんをつくる
			G_M_98	あとは簡単な食事のイベント、先月だとサンマを焼いて食べる
			G_M_99	キッズルーム、授乳室が併設されている
			G_M_100	子ども番台
			G_M_101	子どもが遊べるようなもの
	問10 サービスの周知方法	Q. 広告宣伝	G_M_130	べつで広報スタッフがいる
			G_M_131	うちでイベント行事をするのはsんしゃインスタグラムをおこなっている
			G_M_132	うちは宿泊もあるので宿泊のsnsのアプリに登録をおこなっている
	問11 設立者のこれまでの活動			木材の普及を目指す会社
プロジェクトの変遷（運営）	問12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。	Q. 当初の運営企画	G_M_133	会社として立ち上げてあわくら温泉もと
			G_M_134	どうしても最初はブランディングがある
			G_M_135	なるべく地元のものをつくってもらってアレンジしてつくるという感じ
		Q. 地元のものを使うようにしている？	G_M_136	去年だと畑までいって買い付けや、僕自身がつくっていたりしている
			G_M_137	なるべく地産地消というか安全なものを使えたりしたらいいな
			G_M_138	一番は子どもの笑顔が真ん中にある大きな家がコンセプト 土曜日日曜日とかはお父さんお母さんがビールを飲んで子どもたちが遊んでいる光景をみる ことができる
	問13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。	Q. 現在どのように建物が利用されているか	G_M_151	下駄箱の奥に授乳室になっている
			G_M_152	休憩室があるこちらの休憩室が皆さんのオープンスペースになっている。
			G_M_153	講演会になったりプロジェクターもある
		Q. バーゴラの使い方	G_M_154	個室は5つあって、3部屋と2階がある
	問14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？		G_M_164	夏場にご飯などを食べている。
		Q. 想定していなかった使われ方はありますか？	G_M_110	ロビーでパソコン
			G_M_156	子どもが黒板をつかって落書きをする 小学生くらいだと思う存分絵をかたりする
	問15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）	Q. 竣工後に変えられたこと	G_M_157	オープンしてからはほぼ変更がない
			G_M_158	寒いのでカーテン付けた
	問16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。	Q. 利用者の方に快適に過ごしてもらうためにしている工夫	G_M_159	西栗倉村は森林がゆたか、人工林ばかり、なるべくナチュラルなものをしようしたいなと考えている
			G_M_160	家具とかも村でやっているかぐやさんと一緒に、なるべく地元のひとと一緒にやっている
			G_M_161	あとは社長の思いつきでライトを飾ったりしている。
			G_M_162	棚が増えているももとは押入れだった、本棚がなく去年の9月くらいにつくられた。
			G_M_163	古本を売れるように古物商を取得しているが、せつかくとっているのに販売面積がすくなかった。
			G_M_163	机がふえたのと、天板は薪として焼かれるはずだった材、それを天板にしてもらった。
	問17 今後どのような場所にしたいですか？	Q. 今後どのようなことをやっていきたいか？	G_M_139	もっと村の人とか若い人
			G_M_140	まだまだお子様づれがきてくれないかな
			G_M_141	お母さんがきてくれて、子どもを保育的な、僕達が見るみたい
			G_M_142	他の会社と楽しくいろいろマーケットとかワークショップができればいいねと
			G_M_143	知識がある人にとよって渦の中心として発信していけたらいいなとおもっている

大項目	質問内容	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問 18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。			-
	問 19 始めに抱いていた思いについて教えてください。		G_M_102	もともと村営で地域の人が運営をおこなっていた、昭和のはじめから2013年まで、そこが廃業になっていたところを、リノベーションをして、ブランディングをしたのが現状キッズルームになっているところは受付になっている
			G_M_103	当初のスタッフが話を勧めて案がどんどん形になっていった。
	問 20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。			-
	問 21 資金について教えてください。			問 6 で回答済み
	問 22 建築家に依頼した理由を教えてください。			友達だった
プロジェクトの変遷（設計）	問 23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。			もともと村営で地域の人が運営をおこなっていた
	問 24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。			設立者は不明
	問 25 協働体制に変化があれば教えてください。			-
プロジェクトの変遷（施工）	問 26 地域の方との関係を教えてください。			-
	問 27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			-
	問 28 DIYを行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した（したい）部分があれば教えてください。	Q. DIYをおこなったこと	G_M_165	オープン当初にいたスタッフ
			G_M_166	レンガとかも DIY で解体は行ったりした。
			G_M_167	机も社長を DIY でつくった。
			G_M_168	ハンモックはオープン前につくった、オーナーの友人につくってもらった。
			G_M_169	アート系のことを仕事にされている方で外でのんびりできるというかなど
			G_M_170	あとは外にあるのは移動式の五右衛門風呂
			G_M_171	夏場になると子どもたちが水遊びをして五右衛門風呂に入る
			G_M_172	去年はすごい雪がふって、降っているときに常連さんに沸かしてくれよいい、ビールのみながら本をよんだいり
			G_M_173	去年は土曜日日曜日に沸かしていたが、最近はわかしていない
			G_M_104	あとは向こうの部屋に渡る廊下
			G_M_105	今は暖房の関係でカーテンを下けているが、トンネルの中をくぐっているようなスペースになっている。すべり台みたいな空間
			G_M_106	下の材も西栗倉にあるベンチャー企業、製材所で B 材といわれる材料 B 材は節のある木でコストが安くなる。
			G_M_107	A 材、B 材、C 材が存在し、C 材つかいようがない間伐材。
			G_M_108	かぐやの曜日さんと一緒にブツブツ交換をして一緒に作った
			G_M_109	お風呂に行ったら可愛らしい変わった椅子がおいてある。
			G_M_110	お風呂代と交換、チケットと家具を交換おゆきもりという名前
			G_M_111	薪工事エネルギーの会社をしているので薪を作らないといけない。
建築家役割	問 29 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			-
	問 30 建築家役割	Q. 建築家が入ることになったこと課題	G_M_174	デザイン性がある、結構古民家改修型のゲストハウスだと全部自分でやっちゃう、それはそれで良いが、デザインが良いと言う理由で来てくれる人がいる
			G_M_175	子どもがきてくれる。
			G_M_176	お風呂行こうよというやり取りがある安倍さんの発想でできあがっている。
			G_M_177	ここをこうしてくれればよかったにといった部分
地域コミュニティへの効果	問 31 地域コミュニティへの効果と課題	Q. このプロジェクトの実施したことでの地域コミュニティへの効果	G_M_178	キッチンが狭いかなと思うことがある、これはスペースのもののなので変えようがない
			G_M_179	移住者のかたの利用が多い
			G_M_180	地域で移住者同士、全然ちがう専門職でも会話があったりとか、平日のイベントでみんなでご飯を食べたりするイベント、コミュニティの場になっている
			G_M_181	課題は移住者がおおいのでローカルの人がきづらいいと感じている方もいる。ローカルのお子様連れのお母さんお父さんが来たことがなかったりとか、お母さん会をおこなったりする。
			G_M_182	若い子がいないので、高校生以上になると少ない。
			G_M_183	村の行政の取り組みとして木曜日の午後にかけて、介護予防をおこなっている。
			G_M_184	介護保険を受けていない人で一人暮らしの人や家から出づらいいひとのデイサービスとしてご飯をだしたり、お話をしたり、する場になって、15 時くらいに帰るそんな場所になっている。
			G_M_185	元湯は昔からあった場所、なので遠方から、昔訪れてきたことがあった人が、また来てくれたりする。小さい子どもからお年寄りまで利用していることが元湯のいいところだとも思う。
		Q. 地域の一ひととの関係	G_M_144	もとから住んでいる関係も飲みに来たりとかしている。
			G_M_145	地元のおじさんとかが来て、飲んだり温泉にはいったりとかしている
		Q. 地域の方や関西の方とコミュニケーション	G_M_146	お風呂ではなしていたりする
			G_M_147	お風呂が 5 人はいると体育座りしないといけない譲り合いというか
			G_M_148	ゲストハウスというのは人と人が近いように思う
			G_M_149	一人で飲んでたら、フラッときて、話しかけるような
			G_M_150	人と人は共通点をさがしている それは同じアンテナを貼っているからなのではないかと考えている

## H 蔵舞台（設計者）

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
基本	問1 プロジェクトのコンセプトを教えてください。		H_A_01	典型的な地方都市である町に地域の情報発信の場をつくること。
			H_A_02	古い酒蔵を改修することで町の文化発信という意味もあった。
			H_A_03	市川マップの会の会長の方が蔵を持っていて、町のために何かやりたいというところから始まった。
			H_A_04	町の歴史や文化の発信、まちづくりの議論の場としてのギャラリーやイベントスペースとしての文化施設としての役割をもつ
空間操作と理由	問2 行った具体的な操作とその目的を教えてください。		H_A_05	マップの会の希望で外観は伝統的な外観をたもつために腰板を設置した。
			H_A_06	その腰板が飛び出るようにカウンターと舞台を設置した。
			H_A_07	舞台やカウンターは内外の活動を生成するために設置した。
			H_A_08	あとは、周辺動線を繋ぐように飛び石を設置した。
			H_A_09	飛び石の一部を大きくしているのはそこで溜まって活動する、中庭を活動ができるようになっている。
			H_A_10	内部はギャラリーとして活用できるように壁を作って内壁を白く塗りなおして、照明計画も行っている。
プロジェクトの変遷（構想）	問3 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		H_A_11	大まかにはふつうの流れだが、構想の段階で模型やパースを用いた設計提案を市川マップの会に行い、意見を聞くといったことをしている。
	問4 プロジェクト開始のきっかけについて教えてください。		H_A_12	当研究室の学生が市川の町を調査したその調査結果を発表する場として二葉屋を選んだ。
			H_A_13	そしたら市川マップの会の会長さんが活動に興味を持ってくれて、一緒に何かやろうということになった。
	問5 このころの協働体制と地域の方との関係について教えてください。	なぜ市川を選んだのか？	H_A_14	
			H_A_15	市川マップの会のなかに会長さんをはじめとした町の人が多くいらっしやった。
	問6 資金について教えてください。		H_A_16	調査の段階では市川高校の生徒と一緒にいった。
			H_A_17	あとは研究室
	問7 公共団体との関係について教えてください。		H_A_18	会長さんが全額負担することになっていたが
	問8 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		H_A_19	コミュニティ財団の助成金を500万円取得したので、残りを負担している。
			H_A_20	公共団体の資金的な援助はもらっていないが、新聞に載せてくれたり興味をもってくれている。
プロジェクトの変遷（設計）	問9 現在のコンセプトの他に検討したコンセプトはありますか。		H_A_21	敷地の表は昔からの商店街となっており、裏は住民が日常的に通りに抜けによく使う道となっているから。
	問10 一番最初の提案はどのようなものでしたか。		H_A_22	もともと蔵の母屋の二葉屋は有形文化財に指定されており、まちづくり団体の会合の場や、地域の集会所として使われてきたというのもあり
			H_A_23	始めはパーゴラ案など蔵を使わない案も多々あった。
			H_A_24	始めは何かやりたいといった抽象的な感じだった。
			H_A_25	一番初めは蔵を使わない案があった。壁案とか屋根案など。
			H_A_26	壁案からは外にも活動を生み出すといった設計方針が引き継がれた。
			H_A_27	敷地の庭に屋根を掛ける案では蔵の前を広場に用に使うと同時に動線を繋ぐことを意識した。
			H_A_28	このあと敷地に飛び石をつけてこれらに対処する事を提案した。
			H_A_29	同時に蔵を改修することになっていて蔵をどれくらい改修するかといったことになって
	問11 他に検討した提案はありますか。		H_A_30	外壁を考える時に、一瀬さんが結構伝統的な蔵の形式がいいということになり腰板をつけることになった。
プロジェクトの変遷（実施）	問12 この時の協働体制、地域の方との関係を教えてください。		H_A_31	飛び石と同時に内外の活動を創出するために舞台やカウンターを腰板をせり出させる形で提案した。
	問13 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		H_A_32	パーゴラ案のなかでもパーゴラでボックスを作るようなものも提案したが、庭の緑は十分にあるのでそちらを目立たせたいとのことで却下になった
			H_A_33	変わらず。
				ー
プロジェクトの変遷（施工）	問14 基本設計段階から変化した箇所を教えてください。		H_A_35	屋根を瓦で行う事を想定していたけど予算の関係でガルバリウム合板になった。
			H_A_36	腰板の色は既存の色に合わせる色とした
			H_A_37	内部のステージの階段の形を検討した。ステージとしても、ベンチとしても使えるようにした。
	問15 DIYを行ったところがあれば教えてください。		H_A_38	片付けと、腰板をぬる作業をした。研究室内だけではなく外部の建築学生も募った。
プロジェクトの変遷（運営）	問16 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。		H_A_39	地元工務店の方をお願いした。
	問17 運営にどのように関わっているか教えてください。		H_A_40	運営にはほとんど関わっていない。連絡を取る程度。
	問18 竣工後に空間的な操作を行っていたら教えてください。		H_A_41	雨樋を計画していなかったので周辺に砂利を敷くことで解決した。
			H_A_42	一部屋が書庫のようになっているので、本棚の計画をしているが今進行がストップしている。
			H_A_43	予算の問題。一瀬さんが出すだけという解決方法をしたくない

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
建築家の役割	問 19 地域に開いた交流の場は建築家に関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家に関わることについての効果と課題があれば教えてください。		H_A_44	地域の人たちの何かやりたいという漠然とした思いを設計提案によって形にしていけることが、設計者だからこそできたのではないかと
			H_A_45	形になっているものがあることで活動を周囲に知らしめることが出来るのではないかと
地域活性化	問 21 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。		H_A_46	地域の人々が、町中にみんなで集まれる場が出来たのがいいといった声が聞かれた。
			H_A_47	普段はなんとなく過ごしているが、ここでのイベントなどに参加すると自分達の町が良いものであることを再認識するといった声もあった。
			H_A_48	課題は継続性。今は市川マップの会の活動の場となっているが、他の団体、外部の団体への貸し出しも考えていかなければいけない。

#### H 蔵舞台（運営者）

大項目	質問項目	補足質問	no	ローデータ
基本情報	問 1 今の運営の協働体制と運営費について教えてください。		H_M_z	市川マップの会が運営している
	問 2 設立・運営主体		H_M_z	市川マップの会
	問 3 活動日・時間帯		H_M_01	かなり有効利用しているかあ
			H_M_02	歴史文化講演を
			H_M_03	その前のエリンギの隣の女房の先生の山梨県の
			H_M_04	だから私はこの町が好きですという写真展を
			H_M_05	あとその表彰式を
			H_M_06	9月にやったが、9月は3回集まってやって
	問 4 利用人数		H_M_09	18人くらいの審査が来て本人と父兄が付いてくるから40～50人くらいになる
			H_M_10	こけら落としの時は200人くらい来た
	問 5 利用者の特徴について（男女、年齢、近所の方か遠方の方かなど）		H_M_79	イベントごとに違う
	問 6 収入源		H_M_27	明日明後日、県の会議が行われる。
			H_M_28	会費はおいくらですかというからもらうことにした
	問 7 運営組織の人数		H_M_z	13人程度
	問 8 活動日のスタッフ人数		H_M_z	1人いれば開ける
	問 9 サービス内容		H_M_z	イベント会場、会議室、講演会など
	問 10 サービスの周知方法		H_M_46	新聞とかにのるのでマップの会として認知がされているから
			H_M_47	なんかやるといって皆してくれる。
			H_M_48	マップの会いいねって言うってくれる。
	問 11 設立者のこれまでの活動		H_M_z	平成5年に月一回発行している道祖神めぐりをきっかけとして市川マップの会が発足している。
			H_M_z	市川マップの会は文化協会として活動している。
			H_M_z	登録有形文化財を取得し、文化材の活用を目指し「だから私はこの町が好きです」写真展などを企画していた。
プロジェクトの変遷（運営）	問 12 当初の運営計画と現在で違うところはありますか。		H_M_z	特にな
	問 13（空間と照らし合わせて）部屋ごとの使われ方を教えてください。		H_M_z	舞台のところは会議、展示会場、イベント、講演会、映画観賞会を行っている。
			H_M_07	歴史文化講演会
			H_M_08	マップの会の定例会をこれを
			H_M_z	手前の個室は今本が雑多においてあり書庫のようになっている。
			H_M_z	屋外は倉庫になっている。イベントの時に使うような椅子や机がしまっている。
空間操作	問 14（空間と照らし合わせて）想定していなかった面白い使われ方はありますか？		H_M_z	会議室としてつかっている
			H_M_z	あまりものを置かないようにしてる
空間操作	問 15（空間と照らし合わせて）利用者のための工夫とその目的を教えてください。（家具の工夫、掲示、用意している道具など）		H_M_z	固定の家具とかはねおかない
			H_M_50	
コモンスペースへの評価	問 16 運営するにあたって特に心がけていることはありますか。		H_M_56	危ないからつぶしてくれないかと町に要請があった
			H_M_57	もっと良くしたいという思いがあるから
	問 17 今後どのような場所にしたいですか？		H_M_58	建物にしても、耐震のことをやらなきゃいけないと
			H_M_59	今、田舎力研究所というところから県を通じて話があって、あそこを貸してくれという話がある。
			H_M_60	レンタサイクルとかをやろうという話がある
			H_M_61	よそから来てもらうのに、いくつかしたくをしてにおいて飽きさせないという
			H_M_62	ツールドフランスみたいなものを作って活性化していければ
			H_M_63	運営者としてプロとして田舎力研究所をやっている
			H_M_64	専門家にちゃんとはいってもらうっていうのは大事だね

大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
プロジェクトの変遷（構想）	問18 プロジェクトがたどったプロセスを大まかに教えてください。		H_M_z	大まかにはふつうの流れだが、構想の段階で模型やパースを用いた設計提案を市川マップの会に行い、意見を聞くといったことをしている。
	問19 始めに抱いていた思いについて教えてください。		H_M_50	一番最初のスタートは平成四年
			H_M_51	成果を発表したいということだったが、体育館ということだったが
			H_M_52	それだと殺風景だということで二葉屋を
			H_M_53	井上岳さんがギャラリーをつくりたいという事だった。千本格子を作って
			H_M_54	こっちはこっちでもって壁とかを作ってくれたじゃん
			H_M_55	マップの会とすれば非常にラッキーだった
	問20 このころの協働体制と地域の方との関係を教えてください。		H_M_z	市民団体市川マップの会として活動していた。
	問21 資金について教えてください。		H_M_20	あれもやりたいこれもやりたいみたいなことが
			H_M_21	例えば冬でも使えるような冷暖房
			H_M_22	きりがいいんだけど、例えば登録有形文化財ですよって言った時に
			H_M_23	資金できにもやればやるほどきりがいい。
	問22 建築家に依頼した理由を教えてください。		H_M_17	外部の話っていうのが大事だと思っている
			H_M_18	外部の人はすごいとかって平気言う分けて。
			H_M_19	原さんたちに手伝ってもらってここを形にしたよね。
	問23 敷地選定について、この場所を選んだ理由を教えてください。		H_M_z	もともと蔵自体は保有していた
プロジェクトの変遷（設計）	問24 設計者に伝えた要望があれば教えてください。		H_M_42	ある程度仕掛けがうまくいったなと思っていた
			H_M_43	最初は老人ホームや植物園を創ったらという意見もでてきたがイベントやるような
			H_M_44	ここを中心に参加型のね、僕たちだけがやるというのじゃなくて、全然知らない人が集まるみたいな
			H_M_45	この近所をパンフレットを配って
プロジェクトの変遷（実施設計）	問25 協働体制に変化があれば教えてください。			ー
	問26 地域の方との関係を教えてください。		H_M_39	早く塀をつくってよと言われる
	問27 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			ー
プロジェクトの変遷（施工）	問28 DIYを行ったところがあれば教えてください。竣工後に空間的に操作した（したい）部分があれば教えてください。		H_M_z	片付け、腰板の色ぬり
			H_M_67	土が見えるあれは上から漏れてるのか？
設計者への評価	問29 地域の方との関係や協働体制について変化があれば教えてください。			ー
			H_M_76	どこにでも通用するようなものをつくってくるということもある
			H_M_77	ほんまもののコーディネーターみたいなのを育成してトータル的にデザインしていけばいい
設計者への評価	問30 地域に開いた交流の場は建築家が関わらずに開設しているものも多く見られますが、その中で建築家が関わるることについての効果と課題があれば教えてください。		H_M_78	舞台をつくる発想がすごいよね。私が創造していた蔵と全然ちがう。



大項目	質問項目	追加質問	no	ローデータ
コモンスペース への評価	問 32 このプロジェクトを実施したことによる地域コミュニティへの効果と課題について教えてください。		H_M_17	外部の話っていうのが大事だと思っている
			H_M_18	外部の人はすごいとかって平気言う分けて。
			H_M_65	この設計にしてもおたくが入ったことが良かった
			H_M_66	おもしろいじゃんとかいいじゃんとか言うものが人のところの中にあれば発展していく
			H_M_67	土が見えるあれは上から漏れてるのか？
			H_M_68	専門家の話というのは大事だよな。見えないところが見えるっていうか
			H_M_69	ここで行われるイベントをとおして市川を再認識したとの話もあったりして
			H_M_70	具体的な発表する場があるから、良い評価を与えてくれている
			H_M_71	ほんまものということだよな。
			H_M_72	外の風みたいな
			H_M_73	基本的にはよその風というのは大事
			H_M_74	お嬢さんをきたりもんという少し排他的
			H_M_75	まちづくりになってくると、ここに住んだこともないのに
			H_M_76	どこにでも通用するようなものをつくってくるということもある
			H_M_77	ほんまもののコーディネーターみたいなものを育成してトータル的にデザインしていけばいい
			H_M_78	舞台をつくる発想がすごいよね。私が創造していた蔵と全然ちがう。
			H_M_80	他団体の交流がもうすこしできたらいいなと、ライオンズクラブや青年会
			H_M_81	一流の田舎を目指す
			H_M_40	開け放ってどうぞみなさん来てくださいうのになら慣れていない。
			H_M_41	予算があつてなんかしようと言われるからやるということに慣れている。
			H_M_24	出来たら財団みたいなのをやっていきたい
			H_M_25	当然準備もあつたりとか、予算も発生するだろうし
			H_M_26	だけども程度立ち上げでやっていけば
			H_M_27	明日明後日、県の会議が行われる。
			H_M_28	会費はおいくらですかというからもうことにした
			H_M_29	そういう風に少しはもうことにした
			H_M_30	このもたになっているのは長崎県の哲学どうの運営が、建設会社の社長たちが
			H_M_31	知がテーマになっていてその分かち合いをしようということになっている
			H_M_32	山梨総研の人に相談をもらってやっていこう
			H_M_33	酒蔵を買ってまちづくりの拠点としてやっていこうということの相談をしている
			H_M_34	月一度の割合で集まっている
			H_M_35	入ったら千円と決めておいて、それを備蓄してやっていこうと
			H_M_36	だから継続ということを考えると例えばお茶をだしたり、その運営自体も一つ大きな課題で
			H_M_37	僕たちも年取るし。
			H_M_38	財団としてやっていこうと思っている

大カテゴリ	小カテゴリ	no	ローデータ
地域において他のプロジェクトを創出する	他の企画も近辺で行っている	D_A_25	他の店舗がこんどオープンする
	プロジェクトの展開	C_A_117	最近では僕の家空き家で持て余しているものがあると言われた。
地域コミュニティの賑わい創出	プロジェクトの展開	B_A_95	このプロジェクトの縁で、近くでまちに開いた美容院のリノベーションを行った
	偶然一緒にいる場所	B_A_88	この場で偶然一緒にいなかった感じがしない。
	風景をつくる	B_A_89	軒下でバーをやるときとかこの街に住むお母さんがビールを飲んでいたりする。
	笑顔で帰っていく	E_M_120	カフェに来る方は不安そうな顔で入ってくるけど、Caféの御料理を穏やかに扱っていて、そういう風にして作ったお料理を召し上がったあとにこっとされたりとかおいしかったとか言ってくたさるとやっていてよかった
	コモンスペースがあつてよかったと言ってもらえる	E_M_121	日々カフェだけよりイベントたくさんの方に来てくださって。テラスでヨガをしたり、マルシェでは地域のかたにこういう場所があつてよかったと言ってもらえる。
	地域の賑わい	C_A_116	地域のつながりができてくと家で作戦会議、町会の会議メンバーになり、飲みくいをするようになった。
	地域とのつながりができた	C_A_120	最初は知り合いがいない状態徐々に知り合いが増え、仲間内でわいわいやっていたらなんだろうとなって出来たぐらいいから地域の人たちと繋がりができた。
	移住者同士の交流の場になっている	G_M_180	地域で移住者同士、全然ちがう専門職でも会話があたりとか、平日のイベントでみんなでご飯を食べたりするイベント、コミュニティの場になっている
	地元のおじさんとかが来て、飲んだり温泉にはいたりとかしている	G_M_145	地元のおじさんとかが来て、飲んだり温泉にはいたりとかしている
	移住者を先導している	G_A_77	建築がはしたのか、村落エナジーさんがやったのかはわからないが、新しい人達を地域に入れていく先導になった。それによって地域の人が、動き出した。
	皆で集まれる場所ができた	H_A_46	地域の人が、町中にみんなで集まれる場が出来たのがいいといった声が聞かれた。
	地域の賑わい	A_M_213	こまったことはほとんどない、周りの人ももともと廃墟だったのが、二階にだれかいるので明かりがつくので、見ていてくれるのだなという話をよくきくし商店街としてもよかったなとおもっている。
	新たな中心性が生まれた	D_A_21	公園があつたということも寄与していて、公園とはぎそができたことによって、裏通りに中心性が生まれた。
	この場所があつてよかった	E_M_121	日々カフェだけよりイベントたくさんの方に来てくださって。テラスでヨガをしたり、マルシェでは地域のかたにこういう場所があつてよかったと言ってもらえる。
	地域の賑わい	E_A_14	オーナーの友人のアートを展示している。三階にきたカフェのお客さんが降りてきて立ち寄りしている。
	地元の人の居場所になっている	F_M_185	ご近所の70代くらいのかたって、日中一人である。そうするとその方たちが私とおしゃべりして、笑顔で帰って行かれる。
地域の人意識の向上	地域の人意識が変化しておりまちづくりの活動が拡散している	C_A_121	触発された人がシーナと一平というブルーススタジオの人とやっていると旅館をやった。
	商店街の人の関心をひいた	A_A_81	効果は商店街の人など地域の人たちの関心を引いた。そのような視点をやったこと。
	地域の良さの再認識	H_M_69	ここで行われるイベントをとおして市川を再認識したとの話もあったりして
	地域の良さの再認識	H_A_47	普段はなんとなく過ごしているが、ここでのイベントなどに参加すると自分達の町がよいものであることを再認識するといった声もあった。
	地域の人外国人に評価されることで街をポジティブにとらえるようになった	B_A_91	あとは外国人の人としゃべって、意外とこの町が面白いんだとポジティブに捉えるようになった。
		B_A_92	若い人がきて寝て変えたと気持ちがある。
	大家もオープンになった	B_A_93	大家自身ももともとクローズだったが、オープンになり、人のオープンさの変化がみえるようになった。
	地域の人が地域を面白いと評価している	B_M_151	地域に興味がなかった人が、この地域面白いかも
-		G_M_185	元湯は昔からあった場所、なので遠方から、普訪れてきたことがあった人が、また来てくれたりする。小さい子どもからお年寄りまで利用していることが元湯のいいところだともう。
	改修による参考例の提示	F_A_77	倉庫を潰そうとおもったけど、活用しようという可能性をすることができる。そこを見学に来る人が結構まじっている。
ジェントリフィケーションへの対応の難しさ	日常の価値を維持することの難しさ	D_A_z	日常空間、生活空間にもっと公共性、文化性を取り戻したい
	日常の価値を維持することの難しさ	D_A_30	ジェントリフィケーション、街が評価されるほど力を持って本来の力が失われていく。評価されてしまうと家賃が上がったり、古民家が壊れたりするのでスピード感を持たなければならない。ブームに作用されないものをどう作っていくかが大事
	土地が高い	D_A_32	土地が高いので買えない。今のところ全部賃貸。オーナーさんとの関係が重要。持続と形成がマスになってきている。
地域の人との関わり不足	もともと住んでいた人たちが来づらいかも	G_M_181	課題は移住者がおおいのでローカルの人がかぎづらいついていてる方もいる。ローカルのお子様連れのお母さんお父さんが来たことがなかったりとか、お母さん会をおこなったりする。
	もともと住んでいた人たちの拠点ではない	G_A_80	地元にいるおじいちゃんおばあちゃんとのハブそんなかんじではない。
	自発的な行動になれていない	H_M_40	開け放ってどうぞみなさん来てくださいうのになれていない。
	CSの利用方法が理解されていない	B_M_153	公共的な活動は税金が使われている。こども無料だと思ってくる。
	もっと地域の人と関わりたい	A_M_214	もっともっと地域との関わりというのを持たせられるとおもうが。
	遠方にも知られている	A_M_215	地方の議員がきてきて、みたいと言われることがある。
	遠方も多い	F_M_178	意外と遠方からが多く近所の同年代はお友達しかこない
	地域の浸透が難しい	E_M_121	それがどうしているのか困っているところで。マルシェをするんですけど、この時は来てくれる。認知はされてきている。なかなか日常的に浸透がなかなか難しいと感じている。
組織の継続性	遠方に知られている	G_A_79	ただのんびりするよりも、どのように地域活性を行っているかをみにくる。
	この先の投資が難しい	B_M_154	この場所の維持は問題なくできるがこの先の投資が難しい
	組織の在り方をつくっていく	B_A_94	持続するときに以下に、モチベーション、仕組みを整えていくのが課題。運営メンバーももともと誰一人CASACO専門でやっている人はいない、当初のようにかけられる時間も限られてきて、組織のありかたも作っていかうと考えていることが課題。
	継続が大変	A_A_83	立ち上げも大変なんだけど、継続がやはり大変。
	課題は継続性	H_A_48	課題は継続性。今は市川マップの会の活動の場となっているが、他の団体、外部の団体への貸し出しも考えていかなくてはならない。
	財団をたてる予定	H_M_24	出来たら財団みたいなのをやっていきたい
	コーディネーターの育成	H_M_77	ほんまもののコーディネーターみたいなものを育成してトータル的にデザインしていけばいい
	引き継ぎが問題	A_A_84	学生たちがどうやって引き継いでいけるのかっていうのが今後の課題。
プロジェクトの方法論の他地域への転用が困難		A_M_229	役割分担をはたさないなど
		A_A_85	地域活性化。同じような問題を抱える商店街のオーナーさんから市に電話がかかってきた。
-	プロジェクトと距離があり運営に関わるのが難しい	A_A_80	距離が課題。

建築家の関わりについての評価のカテゴリ化

大カテゴリ	小カテゴリ	no	ローデータ
建築基準法や構造の条件の把握	専門性がある	E_A_60	専門性があるがゆえに見たときの可能性がみれるし、だめなところもみえてしまう。
建築家の活動がCSの広報に貢献する	建築業界へアピール	B_M_147	建築業界にアピールできている
	自分の作品として載せる	A_M_212	先生もここを自分の作品として色々なところに載せるようにする。
	様々な雑誌で取り上げられた	C_A_133	「新建築」、「住む。」、「ハウジングトリビューン」、「事業構想」などでとりあげられた。いろいろ面から注目。
	自由な立場で提示できる	F_A_73	私たちは建築家は立場が自由ということにメリットがある。
予想外の提案	自分達には思いつかないアイデアの提案	A_M_206	商店街にいと視野が狭くなってしまう。
	設計者の発想がコンセプトになっている	G_M_176	お風呂行こうよというやり取りがある安倍さんの発想でできあがっている。
	すごい発想	H_M_78	舞台をつくる発想がすごいよね。私が創造していた蔵と全然ちがう。
	予想外のアイデア	F_M_181	考えもつかないようなことを提案してくれた。
	予想外のアイデア	F_M_189	カフェなんてやると思ってたかった。
様々な要望を統合し実現する	オーナーの要望を把握する	E_M_116	良い方にめぐりあったなど
	オーナーの要望をくみ取って提案する	F_A_01	基本的にはクライアントの資産をどのように運用するか、60歳過ぎてリタイアして会社を処分して、奥さんは専業主婦、それを機会に社会参加をしようとした。
CSの活動を活気づける	おもしろいと思わせる	H_M_66	おもしろいじゃんとかいいじゃんとか言うものが人のこころの中にあれば発展していく
	地域のまちづくりの意見をまとめる役割を担う	A_A_78	建築家が関わると色んな視点で見ることができる。デザインも含め色んなアドバイスができる。一人まとめる人が必要だと思う。
建築的に魅力のある空間にできる	見た目がしっかり変化する	B_M_148	見た目がしっかり変わったことで同じ活動やっても、信頼してくれる
	手作り感を出さない	E_M_118	手作り感を出すのもデイストとしてちがうっていうか。プロの人に作ってもらう
	空間を語る。空間的なポテンシャルを引き出す	E_A_57	本来持っている住宅の形式を取り出し、どうとりだして新しくプランニングするのは建築家しかできない。
-	経済的な効率性以外の価値観を加える	B_A_83	CASACOにとってプラス、ぼくらがいなかったら合理性の原理がどんどんかかっていく。
運営で設計コンセプトを維持	テナントの審査に設計者が関わっている	E_A_43	内見を面接にしていた。入居してからも発信してくれる人。
徐々に建築家が運営から離れていく	ずっと運営に関わり続けるのは難しい	B_M_149	CASACOにとってプラスだけど、やっぱりずっと関わり続けるのは難しい。
利便性の考慮不足	便利さを犠牲にする	B_M_150	カッコよさのためだったら生活の便利さを犠牲にする。
	作ってからの人の動きに実感がなかった	B_A_81	これが最初のプロジェクトだったので、設計したことによって人がどう動くとか実感がなかったところがあったので、作ったわいいが思っていたことが機能しないことがたくさんあるなと思っていたので、この場所にスペースをつくったことで変わると思う。
	キッチンが狭い	G_M_177	ここをこうしてくれればよかったにといった部分は少しある
	荷物が入りきらない	F_M_180	土倉に入りきらない荷物が多い
資金の使い道の考慮不足	お金の使い道	A_M_195	お金の制約だけはしていた。ここに使うかというのはあったけど要望は一切行っていない



## 01 ふたば富岡家屋 / 群山家屋

地域：都心郊外商業地域

用途地域：準工業地域

改修 / 新築：新築

住所：福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央 592

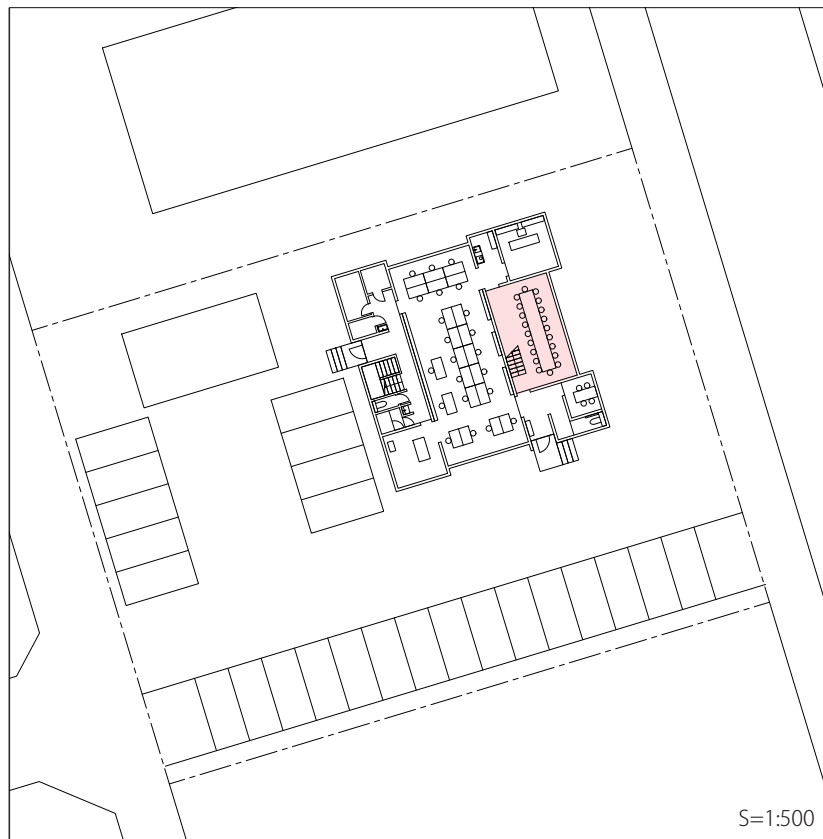
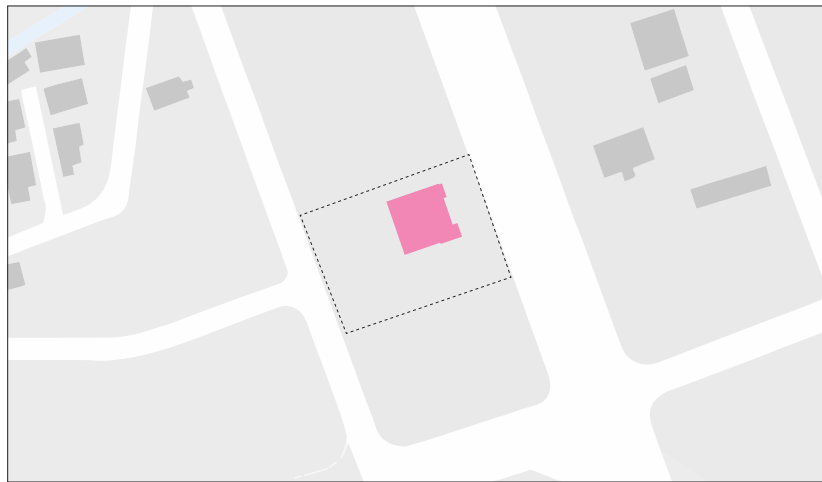
運営：ふたば

設計：はりゅうウッドスタジオ

建築 / 延床 / 敷地面積：190.98/301.17/627.49

建蔽率（許容）：30.44(60)

プログラム：多目的ホール



参考文献：はりゅうウッドスタジオ (2017) 『ふたば富岡家屋 / 群山家屋』, 新建築編集部, 『新建築 11 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.112-120.

## 02 THE BLEND STUDIO

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

住所：大阪府大阪市此花区梅香 1-24-22

改修 / 新築：新築

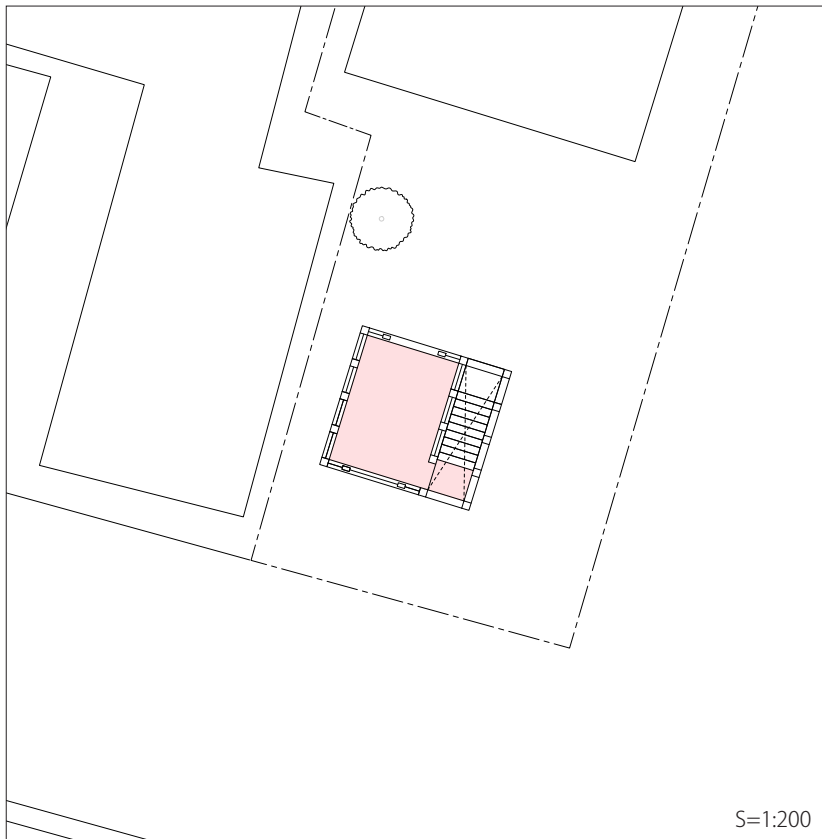
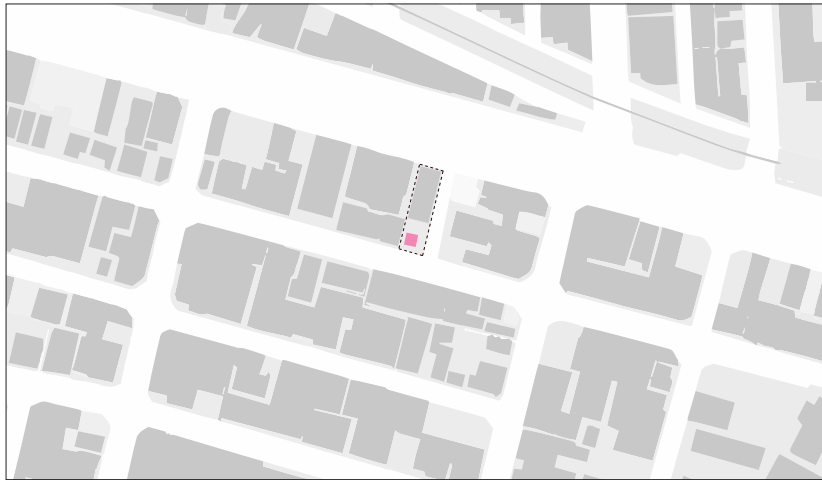
運営：The Blend Inn

設計：ドットアーキテクト

建築 / 延床 / 敷地面積：14.12/21.58/30.15

建蔽率（許容）：48.84（80）

プログラム：文化センター



参考文献：ドットアーキテクト (2017) 『THE BLEND STUDIO』, 新建築編集部, 『新建築 6 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.128-129.



### 03 綾瀬の基板工場

地域：都心郊外商業地域

用途地域：準工業地域

住所：神奈川県綾瀬市大上 1-6-17

改修 / 新築：新築

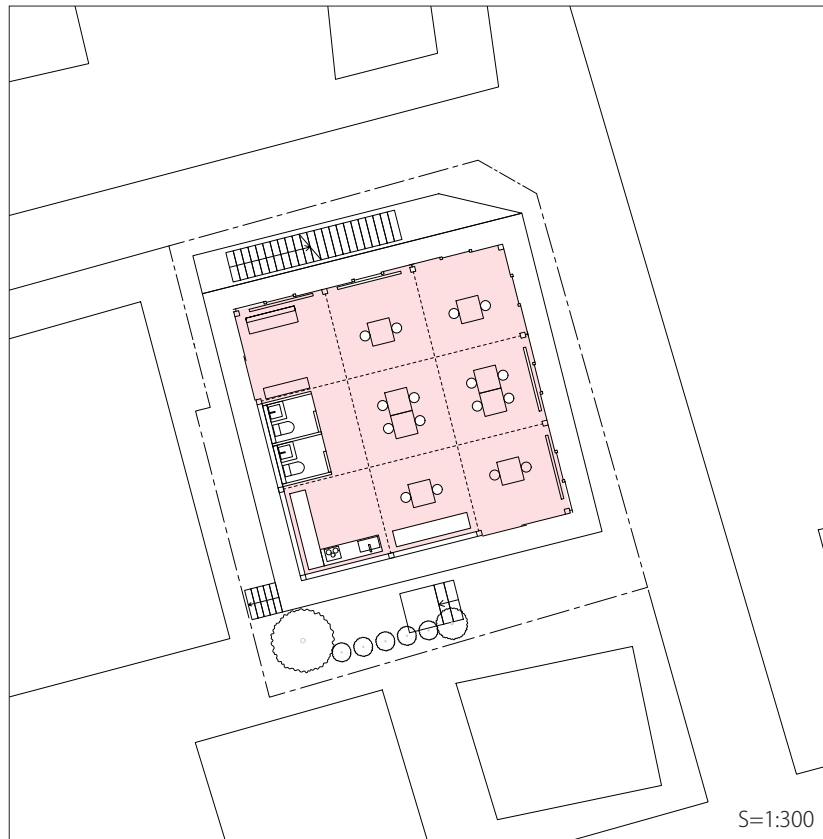
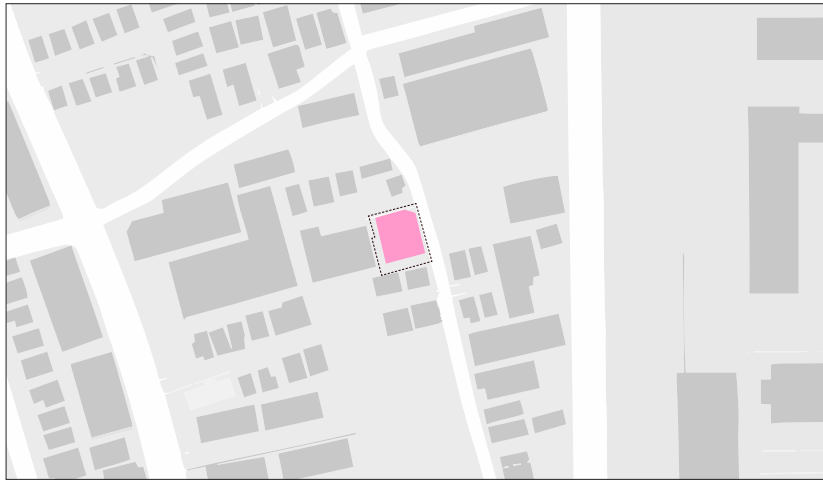
運営：(株) ワイ・ケー電子

設計：浜田晶則建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：182.4/290.88/278.25

建蔽率(許容)：65.55(90)

プログラム：公民館・会社事務



参考文献：浜田晶則建築設計事務所(2017)『綾瀬の基板工場』, 新建築編集部, 『新建築 3月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 136-143.

#### 04 「はまひるがお坂手」

地域：郊外住宅地域

用途地域：都市計画区域外

住所：香川県小豆郡小豆島町坂手甲 798

改修 / 新築：新築

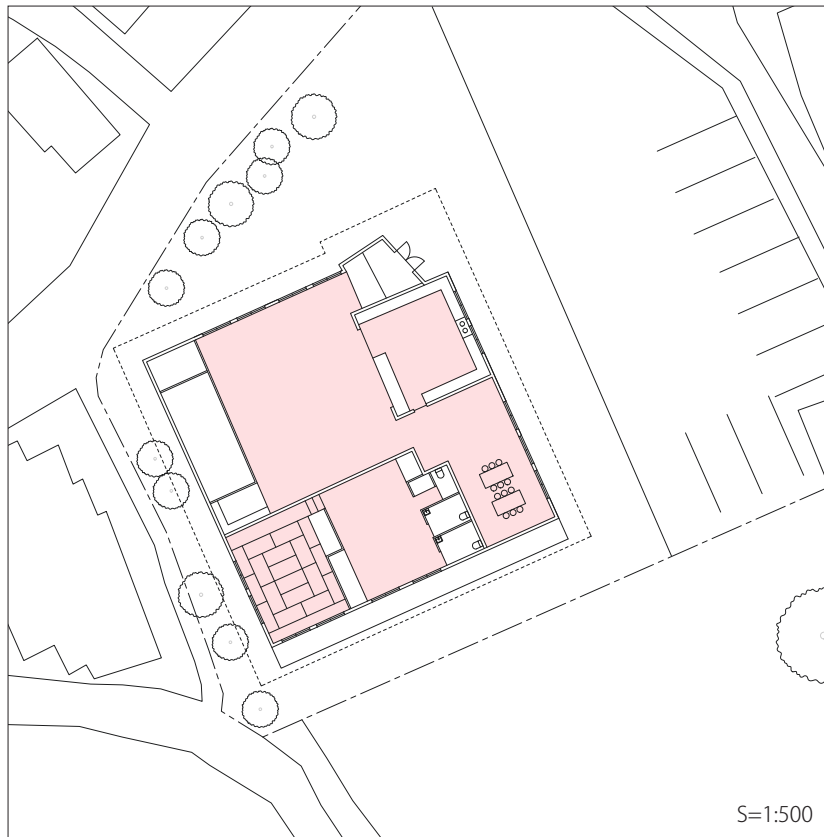
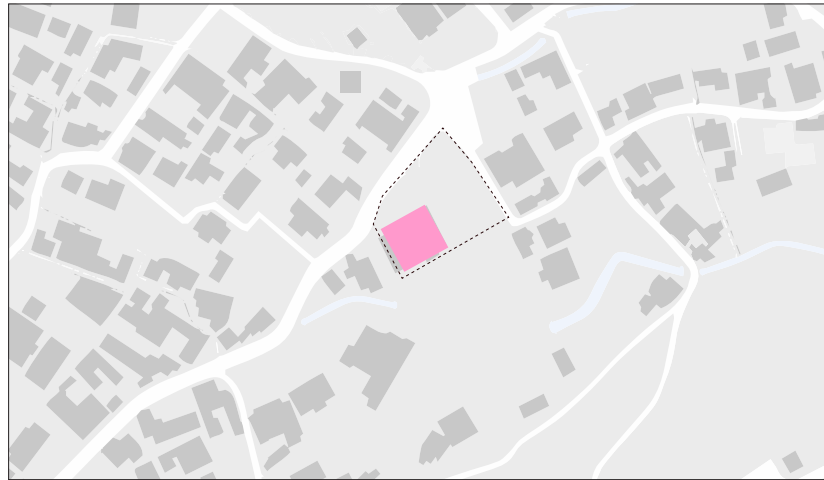
運営：特定非営利活動法人三都の浜

設計：大西麻貴＋百田有希 / o+h

建築 / 延床 / 敷地面積：318.07/997.12/302.1

建蔽率（許容）：31.9（70）

プログラム：交流拠点施設



参考文献：大西麻貴＋百田有希 (2017) 『小豆島「はまひるがお坂手」』，新建築編集部，『新建築 2 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.156-163.

## 05 ひばりテラス 118

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：東京都西東京市ひばりが丘 3-4-47

改修 / 新築：改修

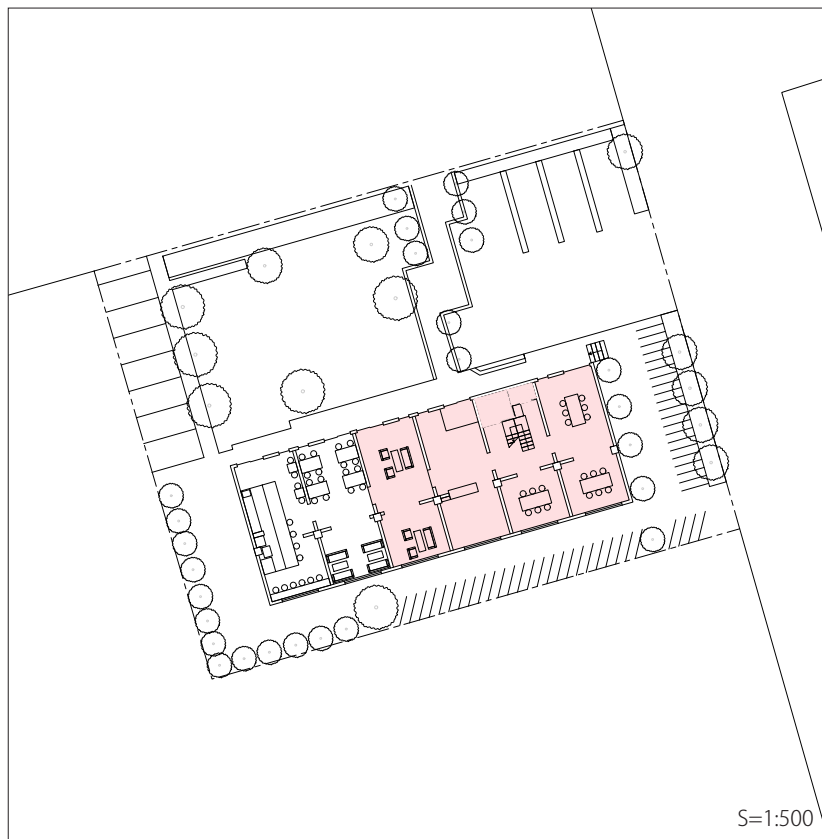
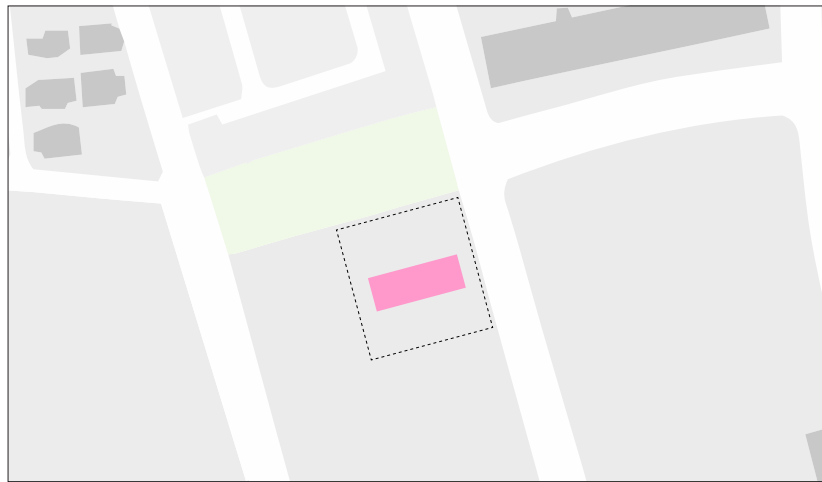
運営：一般社団法人まちにわ ひばりが丘

設計：杉山恒産・アーキテクチャラボ

建築 / 延床 / 敷地面積：227.06/1001.39/351.81

建蔽率（許容）：22.68（60）

プログラム：コミュニティ拠点



参考文献：杉山恒産・アーキテクチャラボ (2015) 『ひばりテラス 118』, 新建築編集部, 『新建築 2月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 176-181.

## 06 知立の寺子屋

地域：都心郊外商業地域

用途地域：近隣商業地域

住所：愛知県知立市西町西 4

改修 / 新築：新築

運営：富士機械製造

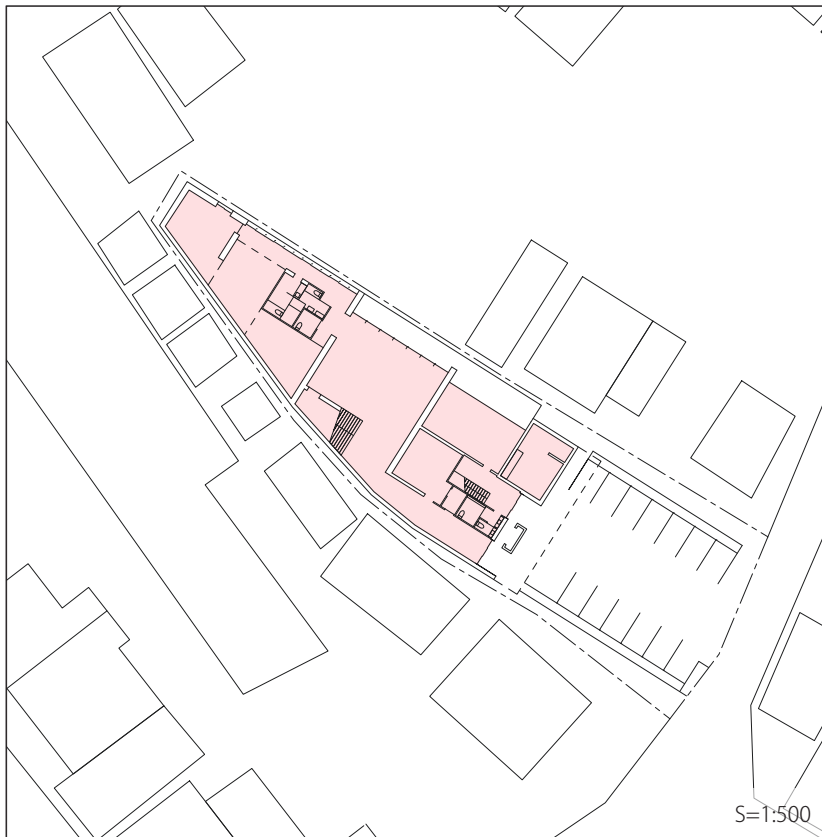
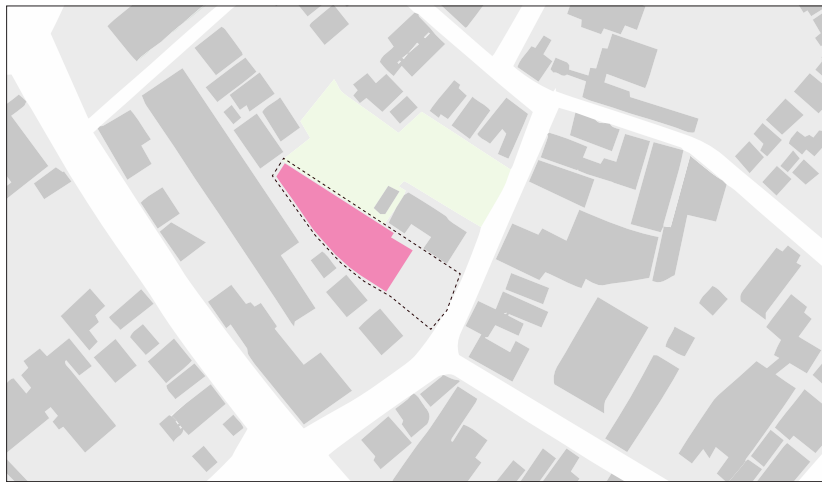
設計：原田真宏＋原田麻魚

／ MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO

建築 / 延床 / 敷地面積：536.8/744.7/997.76

建蔽率（許容）：58.8(60)

プログラム：地域コミュニティセンター



参考文献：原田真宏＋原田麻魚（2016）『知立の寺子屋』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 64-73.

## 07 Good Job ! Center KASHIBA

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種住居専用地域

住所：奈良県香芝市下田西 2-8-1

改修 / 新築：新築

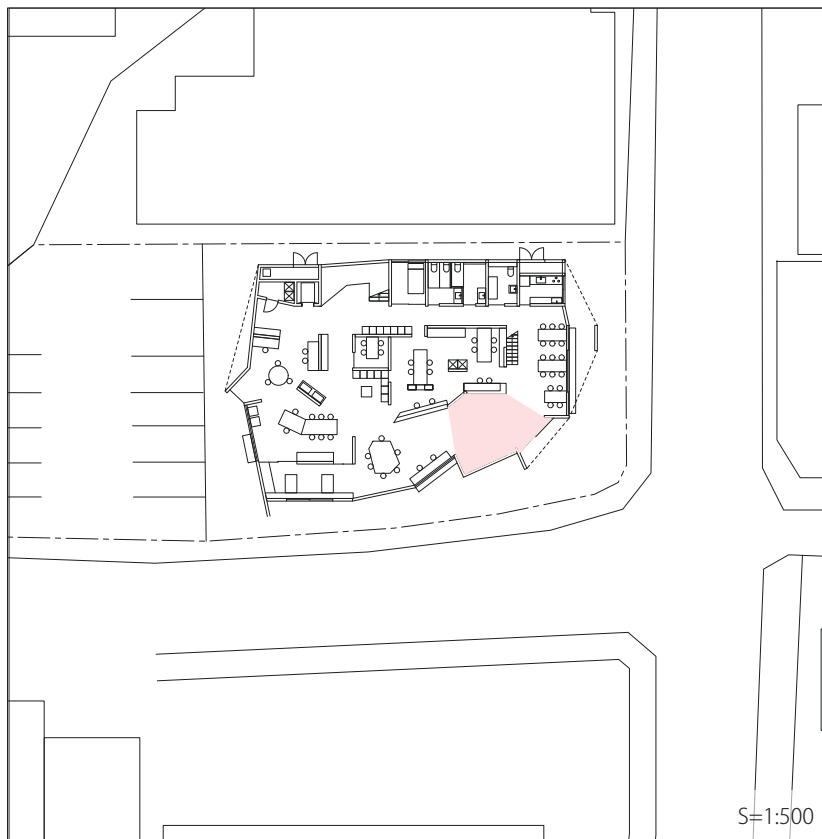
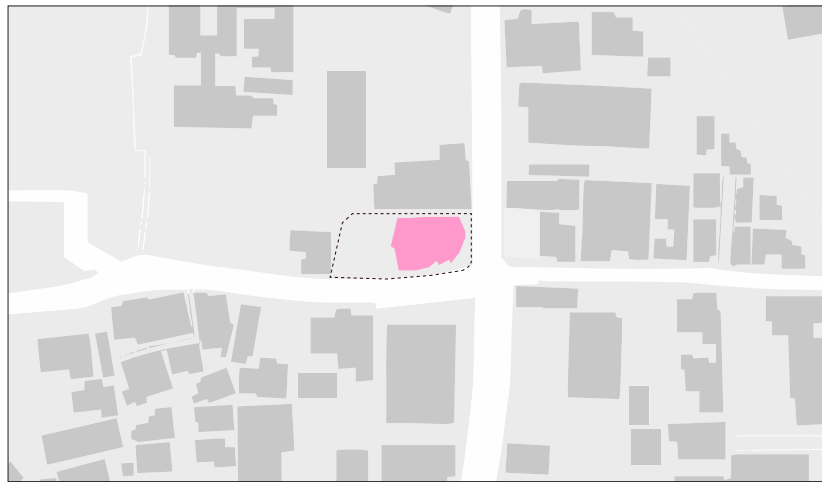
運営：たんぽぽの会

設計：大西麻貴＋百田有希／o+h

建築 / 延床 / 敷地面積：220.33/220.33/484.22

建蔽率（許容）：45.5（60）

プログラム：交流拠点施設



参考文献：大西麻貴＋百田有希（2016）『Good Job ! Center KASHIBA』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 74-83.

## 08 南相馬 みんなの遊び場

地域：過疎地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：鹿島区鹿島字広町 13 番地

改修 / 新築：新築

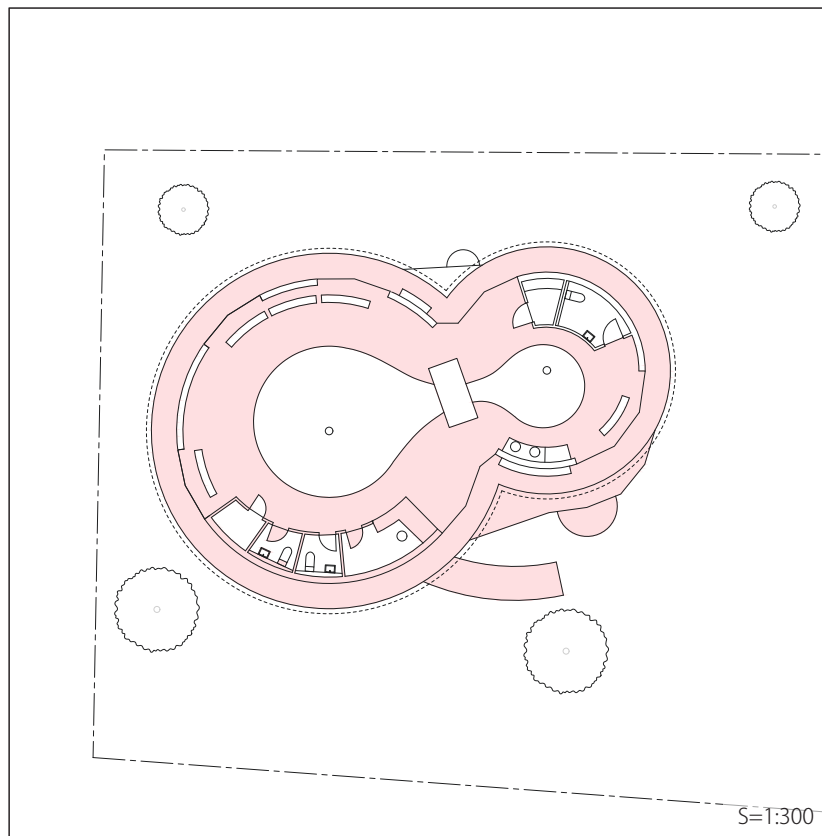
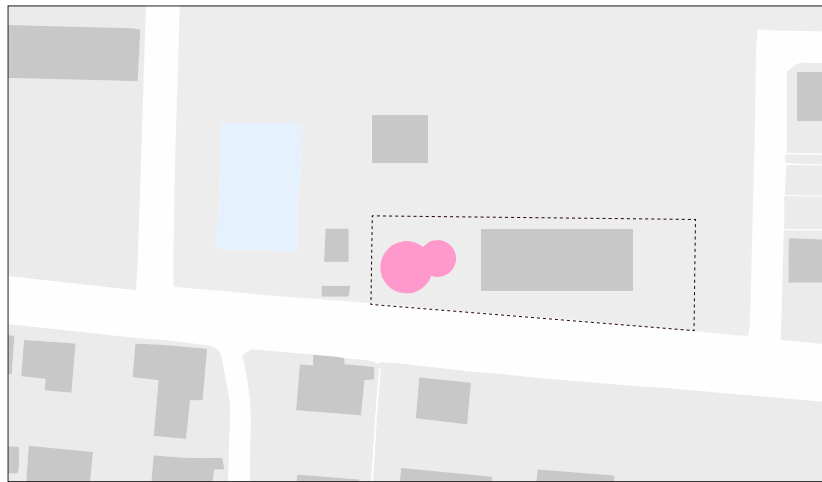
運営：T ポイントジャパン

設計：伊藤豊雄

建築 / 延床 / 敷地面積：171.37/153.34/697.82

建蔽率（許容）：24.56（60）

プログラム：子どもの遊び場



参考文献：伊藤豊雄建築設計事務所（2016）『南相馬 みんなの遊び場』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 84-89.



### 09 鹿手袋の蔵

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種住居専用地域

住所：埼玉県さいたま市南区鹿手袋 6-6-5

改修 / 新築：改修

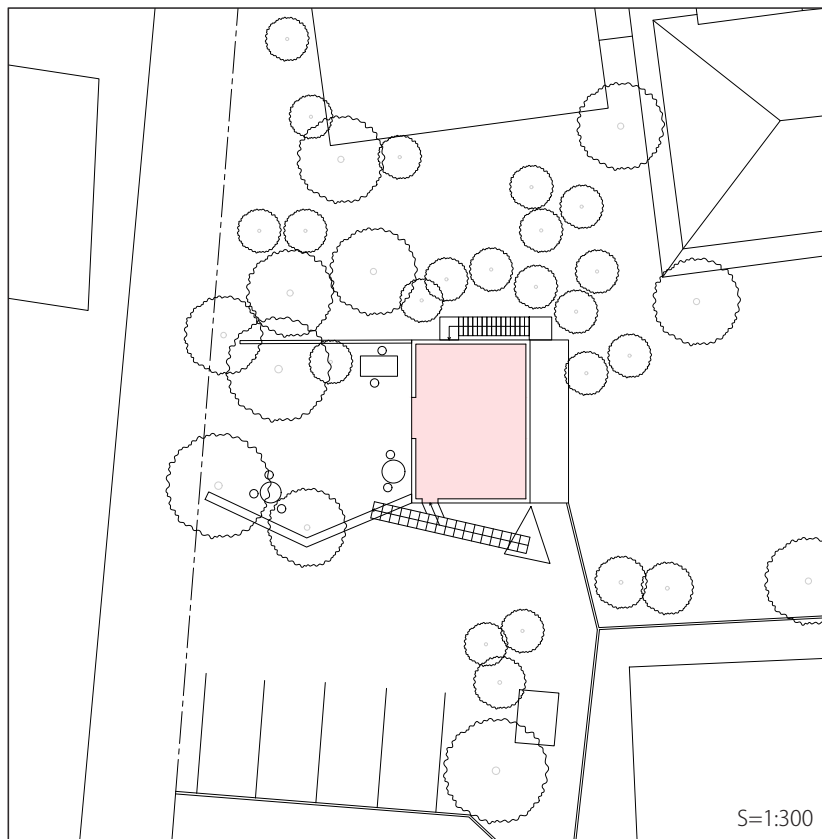
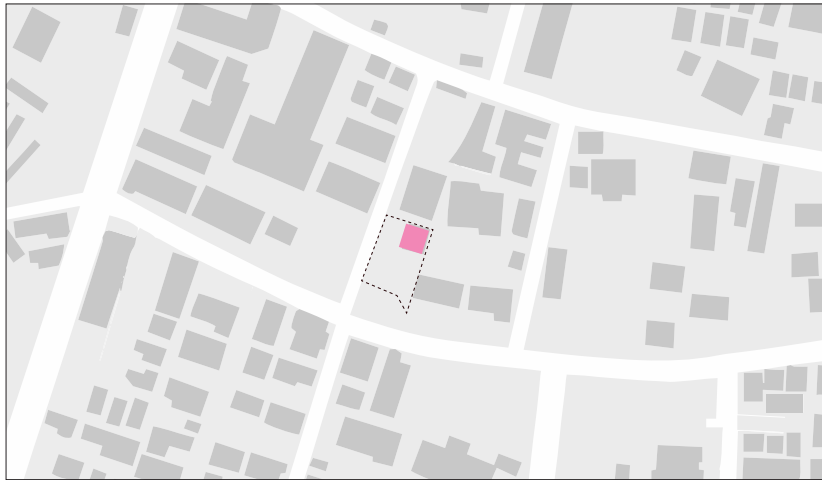
運営：個人

設計：藤野高志／生物建築舎

建築 / 延床 / 敷地面積：48.44/68.91/160.19

建蔽率（許容）：30.23（60）

プログラム：ギャラリー / 飲食店



参考文献：藤野高志／生物建築舎（2016）『鹿手袋の蔵』、新建築編集部、『新建築 9月号』、株式会社新建築社、第一版、大日本印刷株式会社、pp. 106-113.

## 10 小豆島 撰果場ギャラリー

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

住所：香川県小豆郡小豆島町池田 2676

改修 / 新築：改修

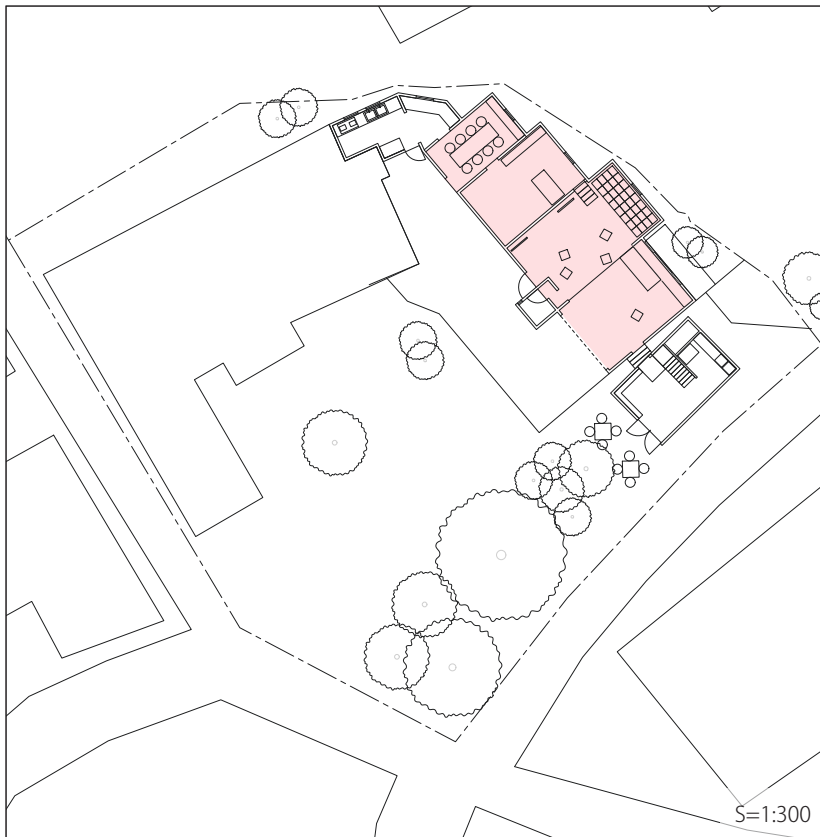
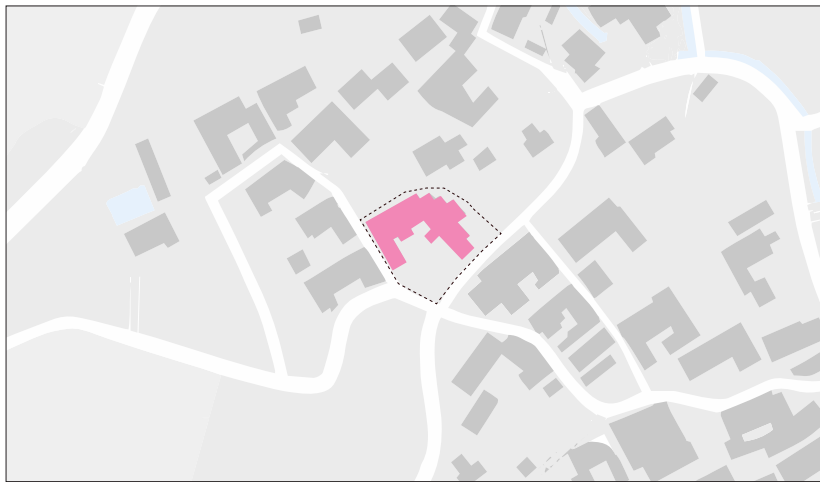
運営：個人

設計：関谷昌人建築設計アトリエ

建築 / 延床 / 敷地面積：163.33/150.56/540.39

建蔽率（許容）：30.16

プログラム：ギャラリー / 飲食店



参考文献：関谷昌人建築設計アトリエ (2016) 『小豆島 撰果場ギャラリー』，新建築編集部，『新建築 7 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 76-83.

## 11 CASACO

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種住居専用地域

住所：神奈川県横浜市西区東ヶ丘 23-1

改修 / 新築：改修

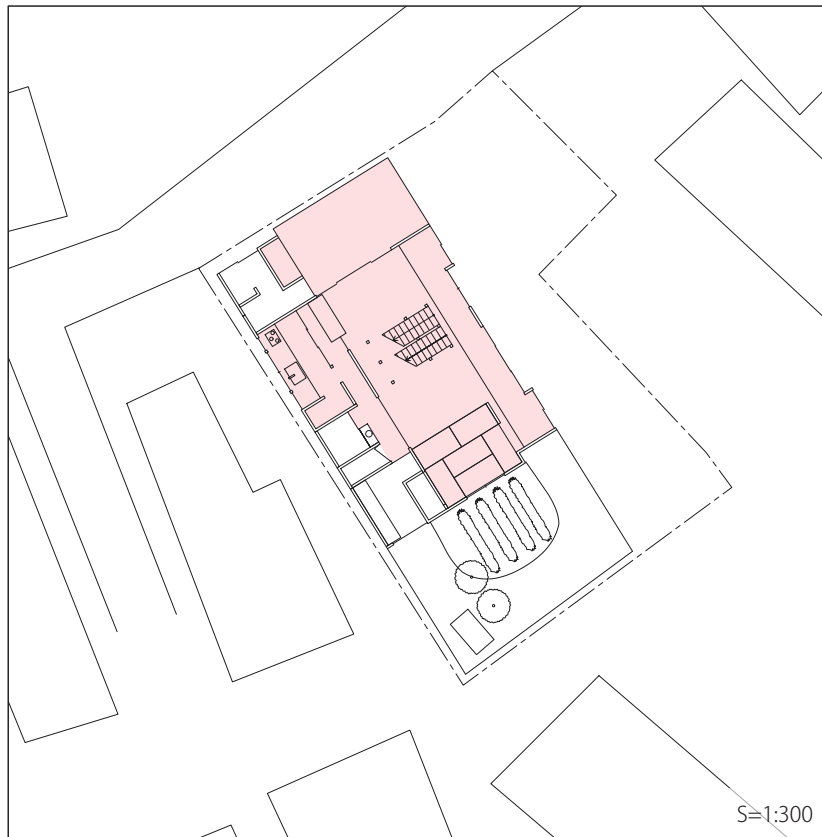
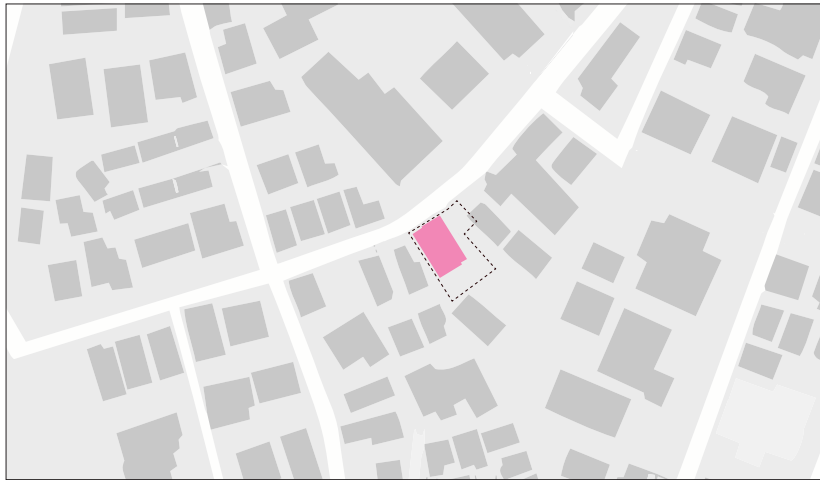
運営：カサコプロジェクト実行委員会

設計：tomito architecture

建築 / 延床 / 敷地面積：97.98/157.73/165

建蔽率（許容）：59（60）

プログラム：シェアスペース



参考文献：tomito architecture (2016) 『CASACO』，新建築編集部，『新建築 7 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 90-97.

## 12 フクマスベース／福増幼稚園新館

地域：過疎地域

用途地域：市街化調整区域

住所：千葉県市原市福増690

改修／新築：改修

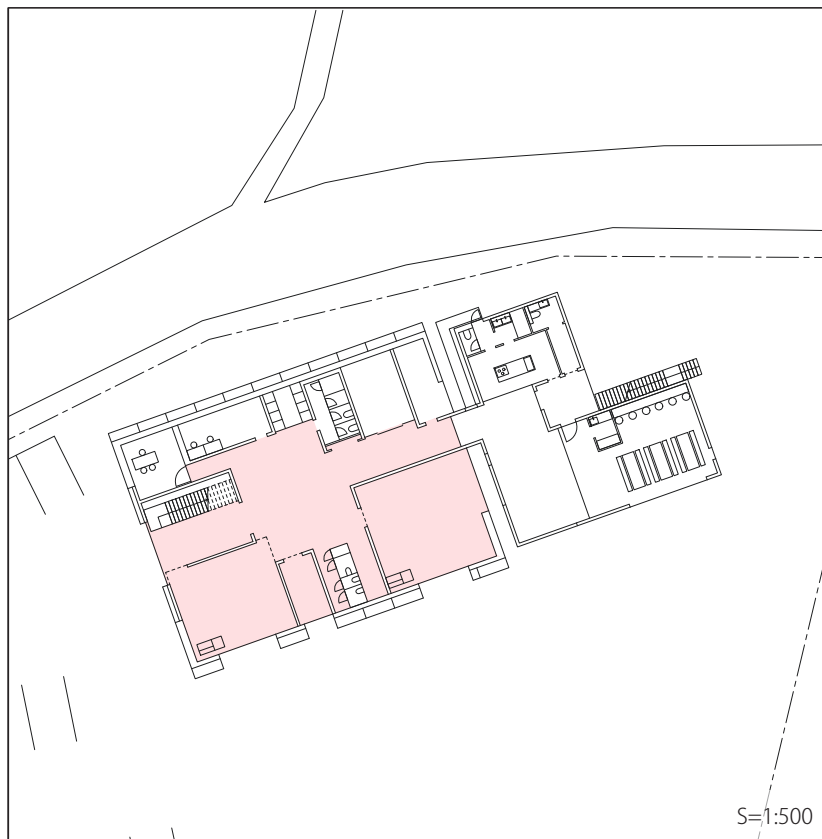
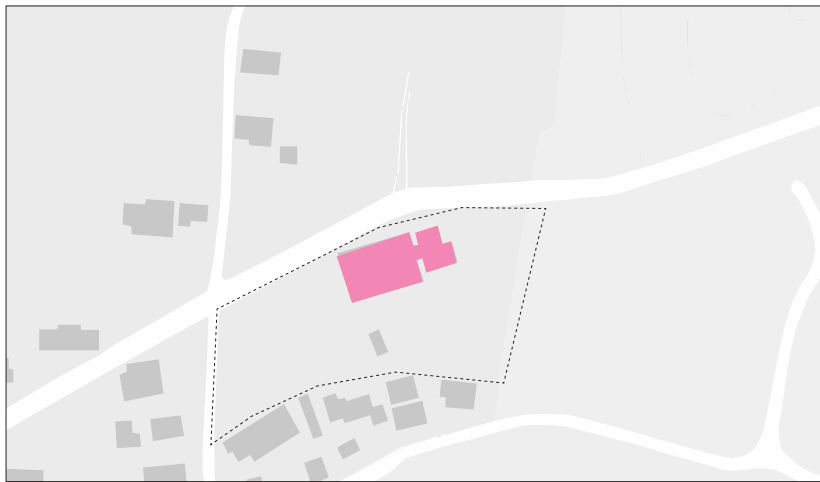
運営：学校法人 三和学園福増幼稚園

設計：吉村靖孝建築設計事務所

建築／延床／敷地面積：512.42/684.81/3361.51

建蔽率（許容）：15.23（90）

プログラム：幼稚園／公共施設



参考文献：吉村靖孝建築設計事務所（2016）『フクマスベース』，新建築編集部，『新建築 5 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 62-71.

### 13 おしか番屋

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

住所：宮城県石巻市鮎川浜南 66-1

改修 / 新築：新築

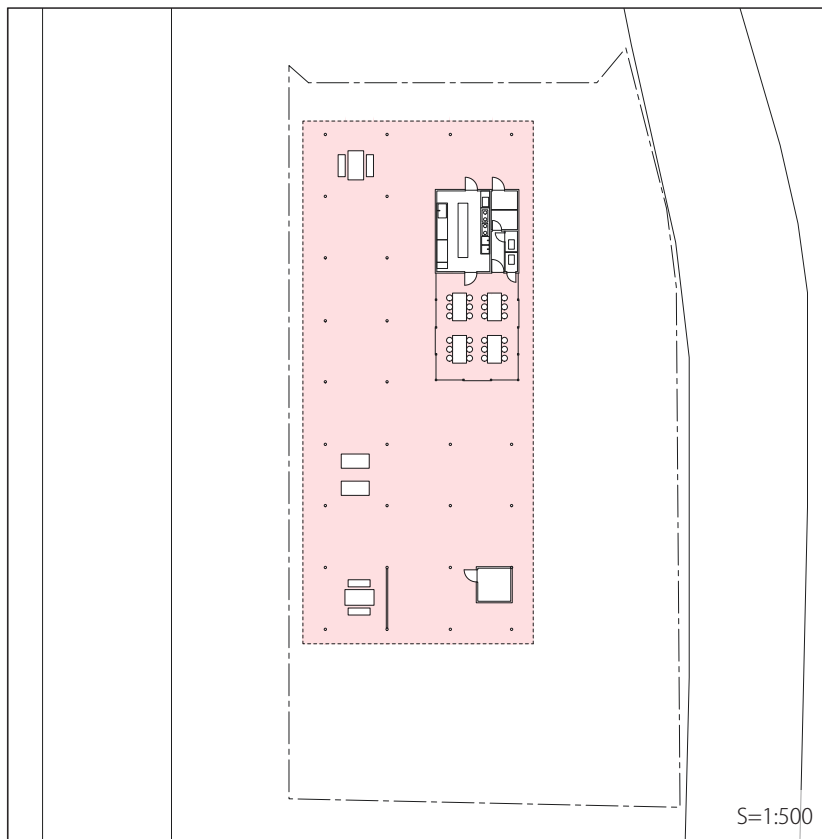
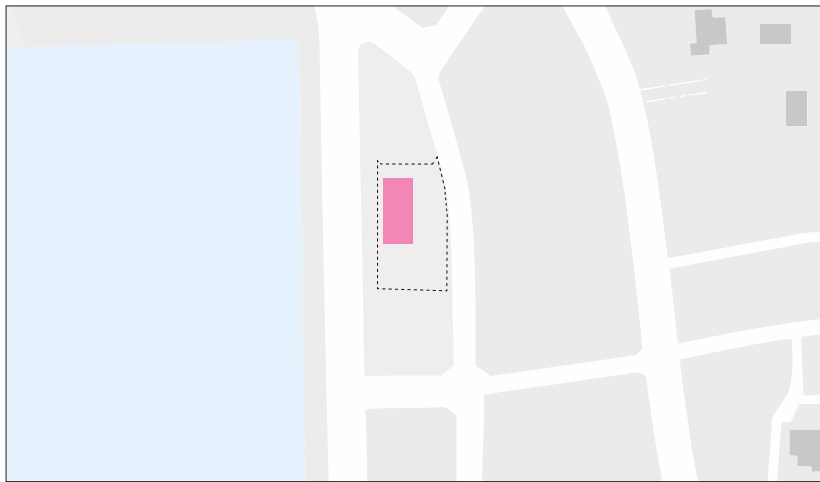
運営：牡鹿漁業協同組合

設計：萬代基建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：394.68/230.43/1298.31

建蔽率（許容）：30.39

プログラム：作業場 / 休憩所



参考文献：萬代基建築設計事務所 (2016)『おしか番屋』, 新建築編集部, 『新建築 4月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 72-79.

#### 14 ユウトヴィレッジ南長崎

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

改修 / 新築：改修

住所：東京都豊島区南長崎 2-22-16

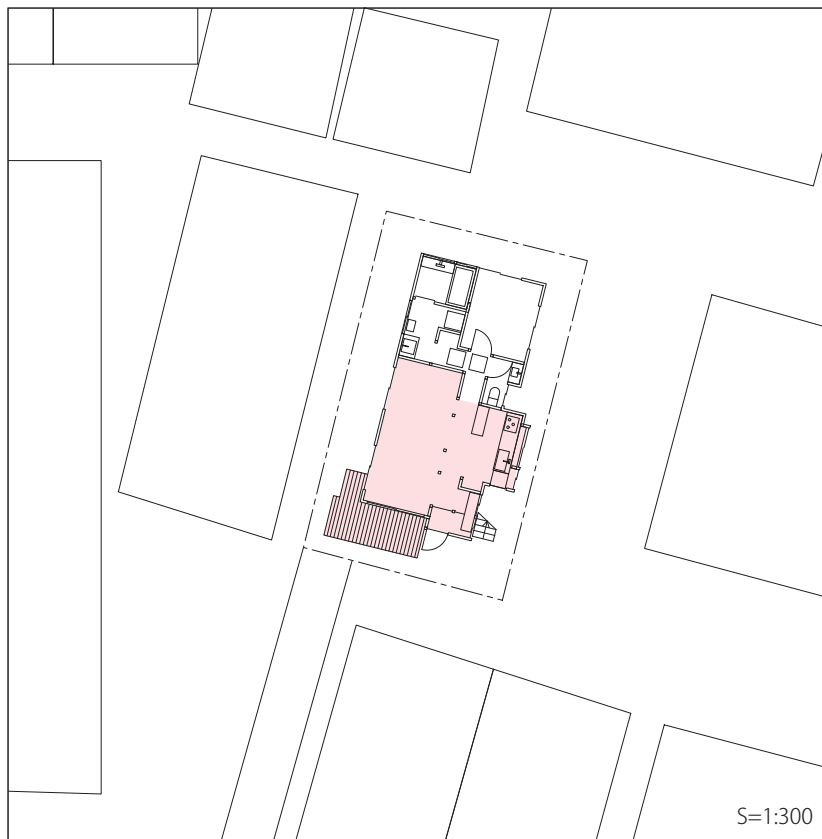
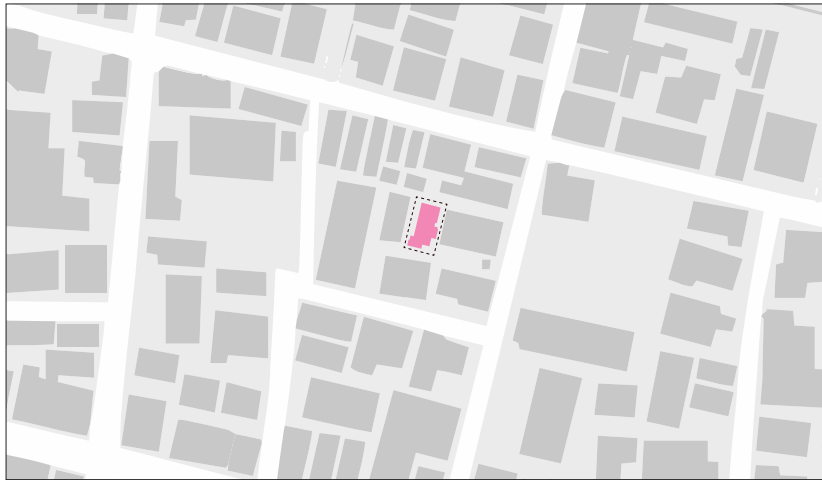
運営：個人

設計：YTT

建築 / 延床 / 敷地面積：53.06/91.29/108.25

建蔽率：49.01

プログラム：シェアハウス



参考文献：YTT (2016) 『ユウトヴィレッジ南長崎』，新建築編集部，『新建築 2 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 84-89.



15 HAGISO / hanare (丸越荘)

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種住居地域

住所：東京都台東区谷中 3-10-25

改修 / 新築：改修

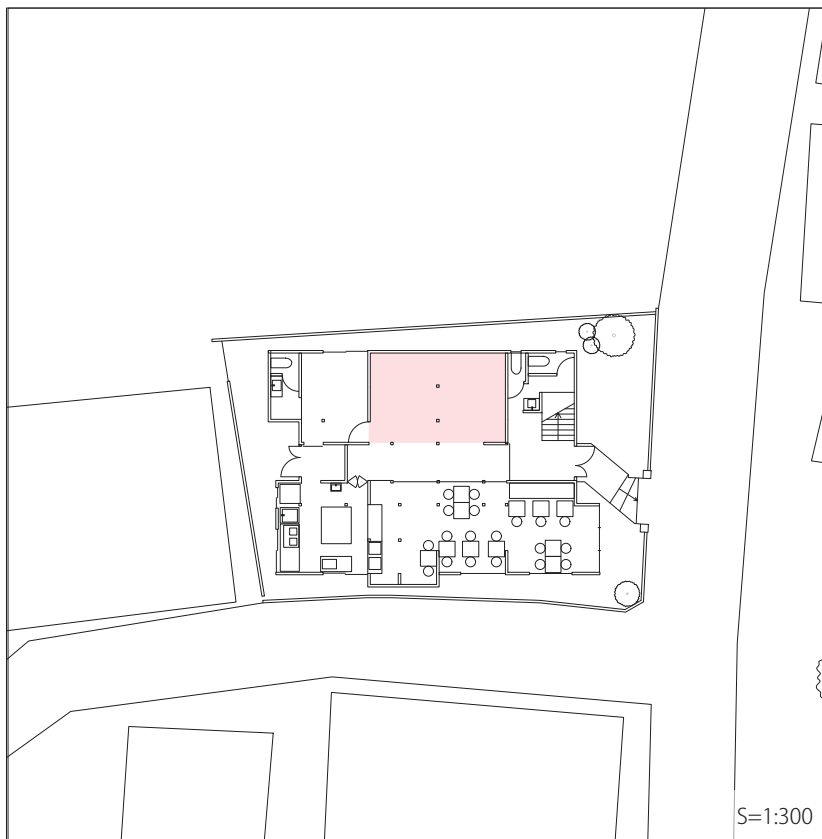
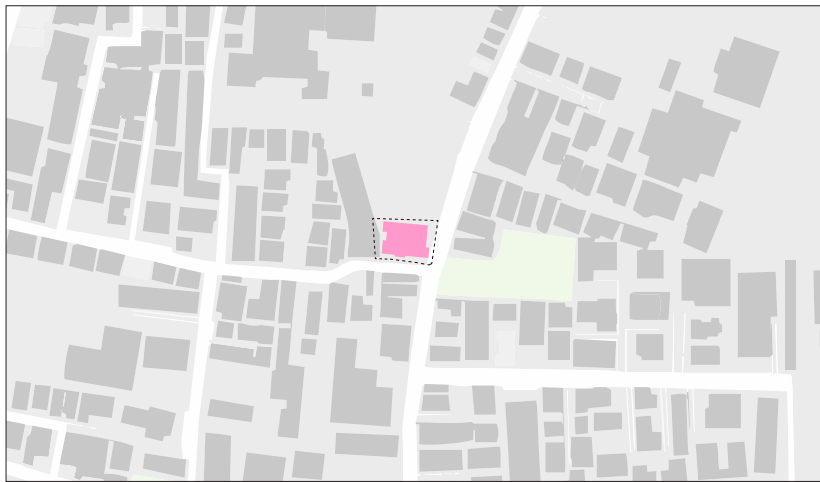
運営：個人

設計：宮崎晃吉 / HAGI STUDIO

建築 / 延床 / 敷地面積：106.39/187.52/177.35

建蔽率（許容）：59.98 (60)

プログラム：飲食 / ギャラリー



参考文献：宮崎晃吉 (2016) 『HAGISO / hanare (丸越荘)』, 新建築編集部, 『新建築 1 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 114-121.

## 16 十日町産業文化発信館 いこて

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

住所：新潟県十日町市本町 5-39-6

改修 / 新築：新築

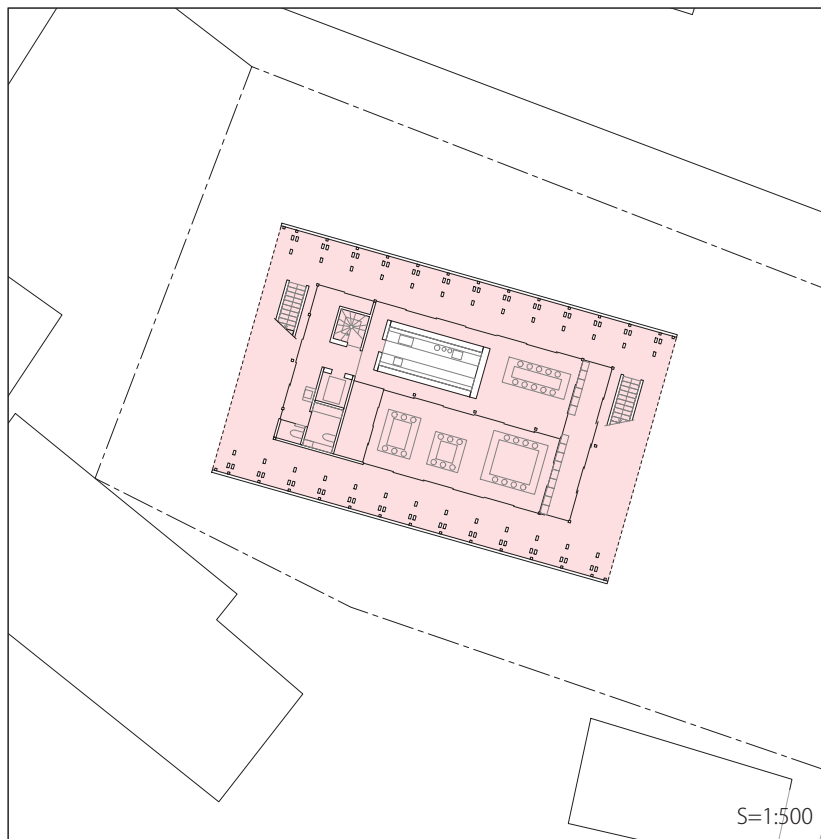
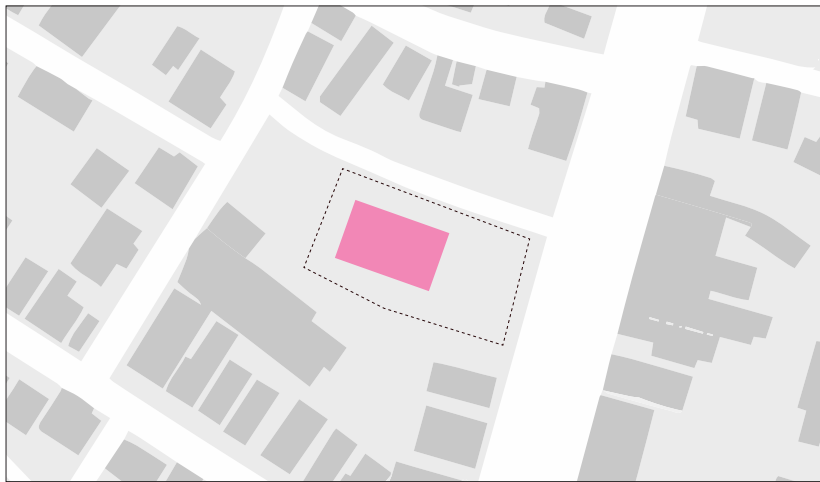
運営：株式会社フラワーホーム

設計：手塚貴晴+手塚由比／手塚建築研究所

建築 / 延床 / 敷地面積：311.9/489.25/1382.37

建蔽率（許容）：22.69（80）

プログラム：集会所 / 喫茶店



参考文献：手塚貴晴+手塚由比（2015）『十日町産業文化発信館 いこて』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 130-137.

### 17 相馬こどものみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：福島県相馬市北飯淵 1-15-1

改修 / 新築：新築

運営：相馬市保険福祉部

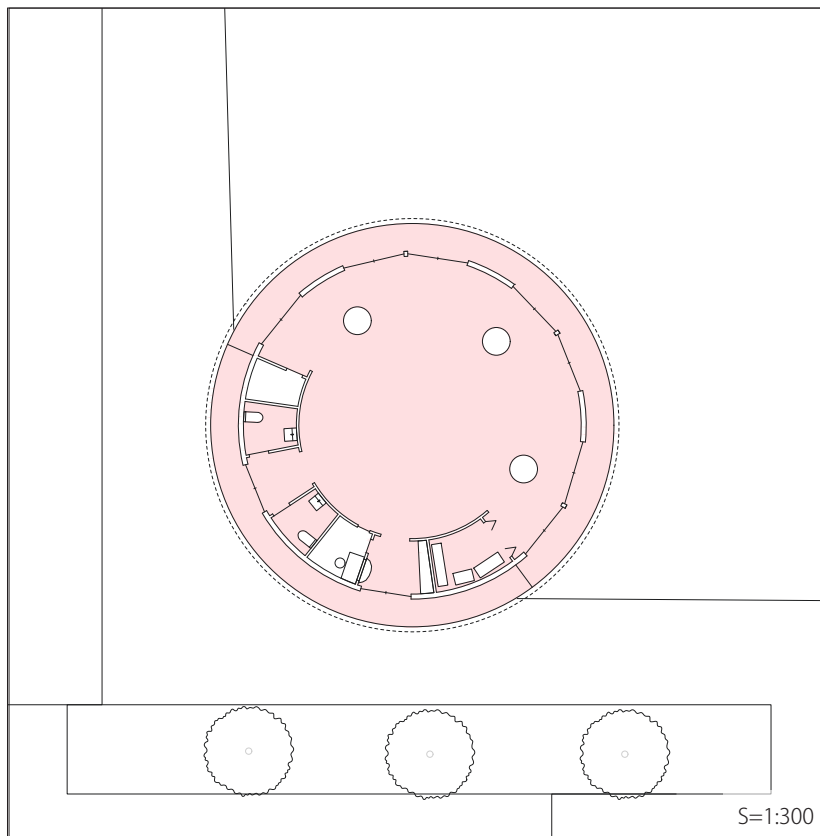
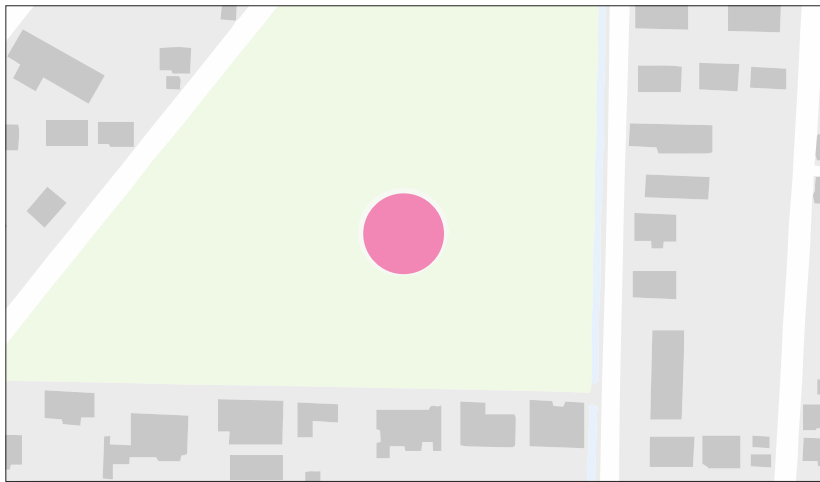
設計：伊東豊雄建築設計事務所

＋クライン ダイサム

建築 / 延床 / 敷地面積：176.63/152.87/19807.8

建蔽率（許容）：0.89

プログラム：休憩所



参考文献：伊東豊雄建築設計事務所＋クラインダイサム (2015)『相馬こどものみんなの家』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.138-143.

### 18 新得町都市農村交流施設 カリンパニ

地域：過疎地域

用途地域：地域地区 法 22 条区域

住所：北海道上川郡新得町字新得 9-1

改修 / 新築：新築

運営：十勝ソーシャルファーム

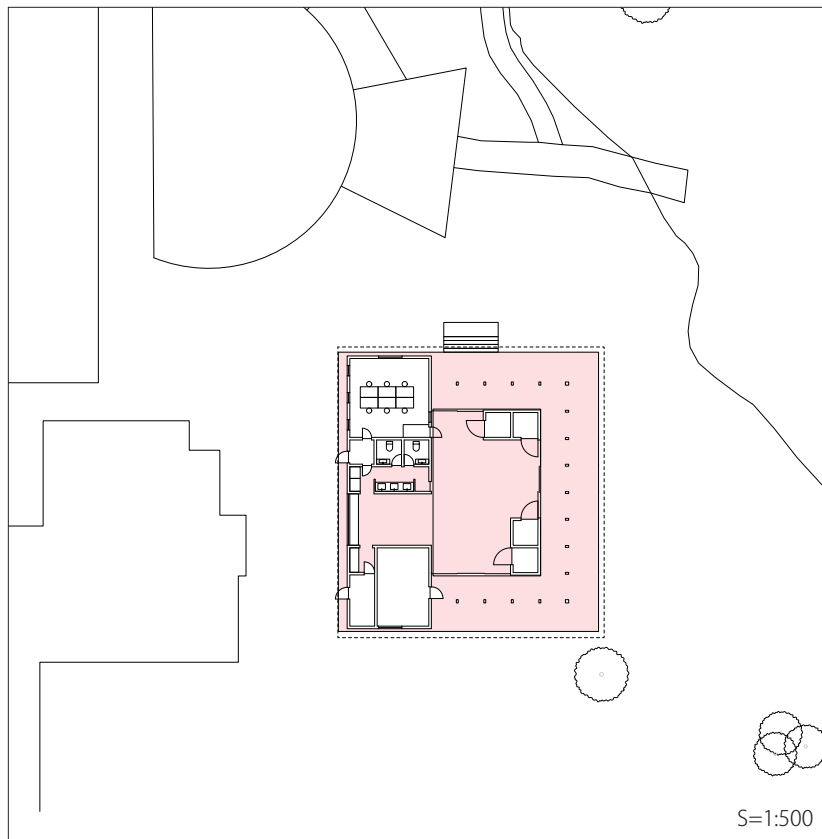
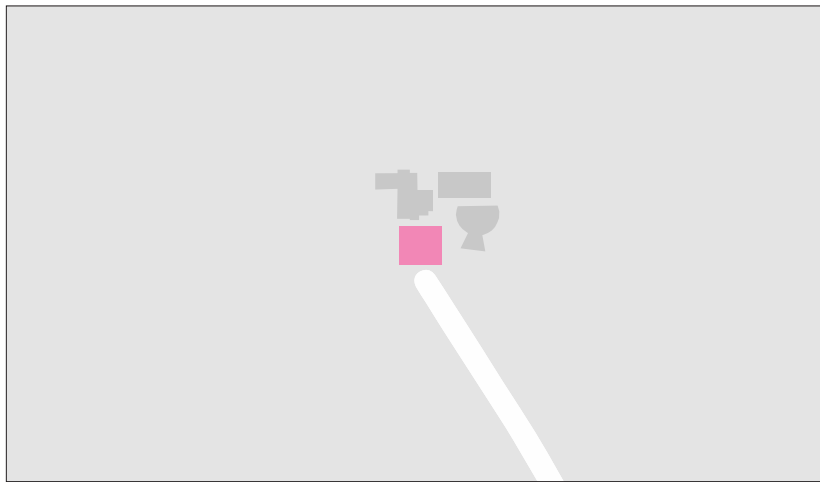
ツーリズム研究会

設計：川上洋志

建築 / 延床 / 敷地面積：254/178.8

建蔽率（許容）：

プログラム：集会所



参考文献：川上洋志 (2015) 『新得町都市農村交流施設 カリンパニ』, 新建築編集部, 『新建築 10 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.118-125.

## 19 あわくら温泉元湯

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：改修

住所：岡山県英田郡西栗倉村 2050

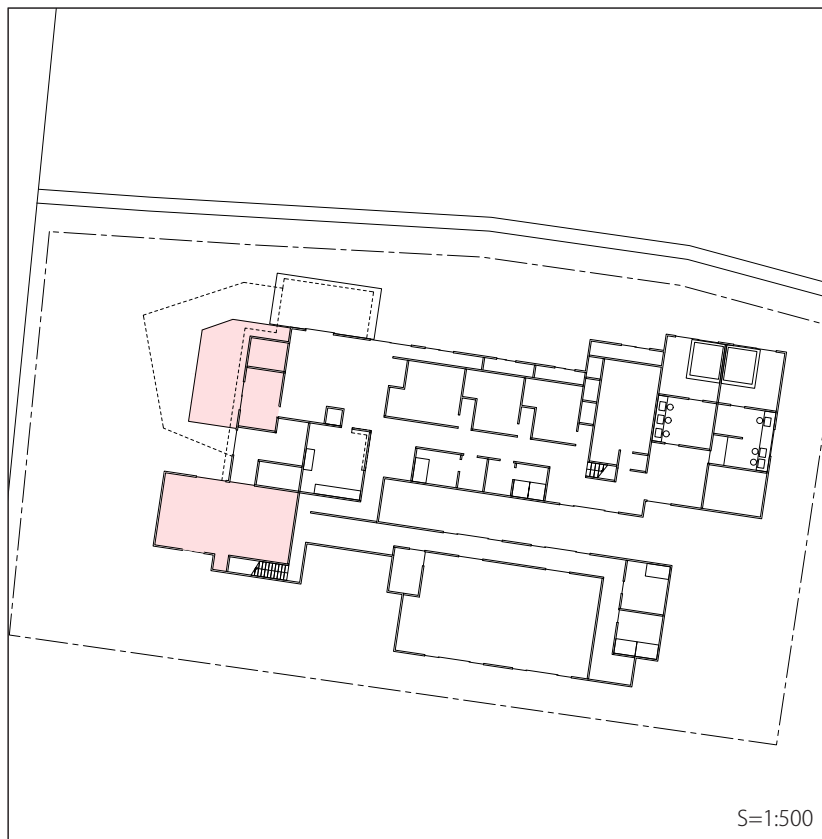
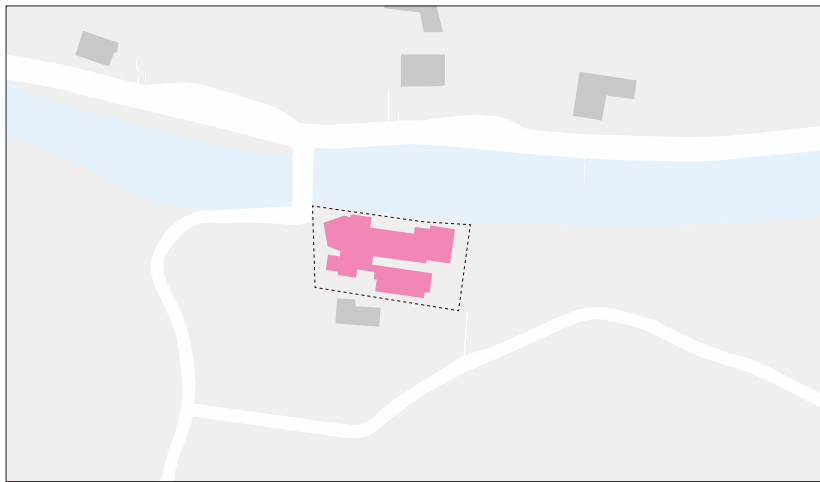
運営：エネルギー会社「村楽エナジー」

設計：安部良

建築 / 延床 / 敷地面積：420.49/440.49/1159.335

建蔽率：52

プログラム：温泉カフェゲストハウス旅館



参考文献：安部良（2015）『あわくら温泉元湯』，新建築編集部，『新建築 10 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 104-111.

## 20 川の上 百俵館

地域：過疎地域

用途地域：地域地区

区域区分のない都市計画地域内

住所：宮城県石巻市小船越字山畑 343 - 1

改修 / 新築：改修

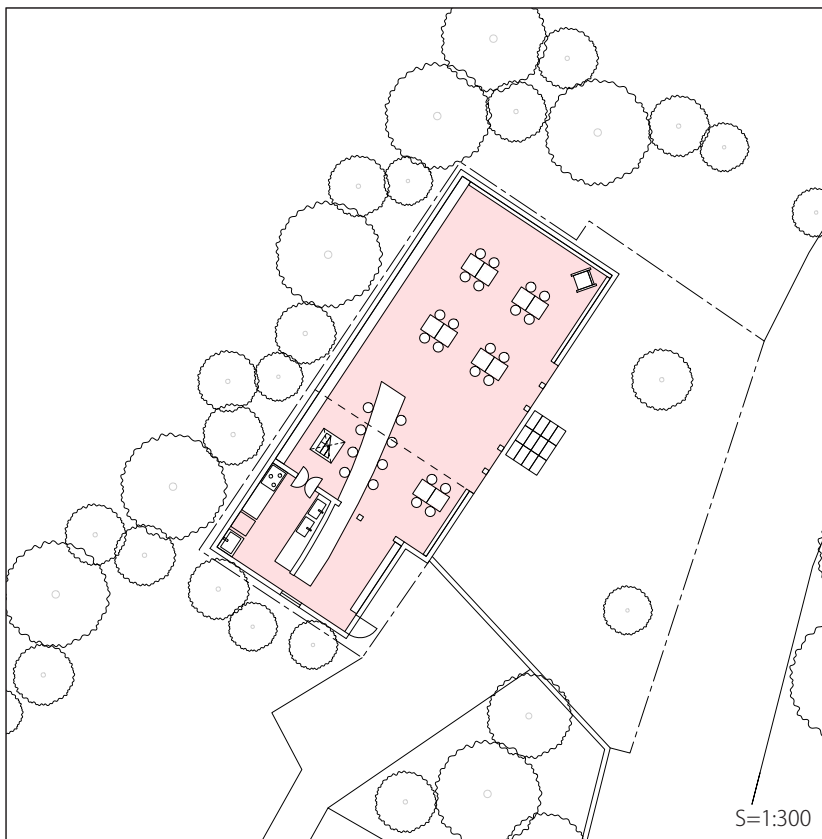
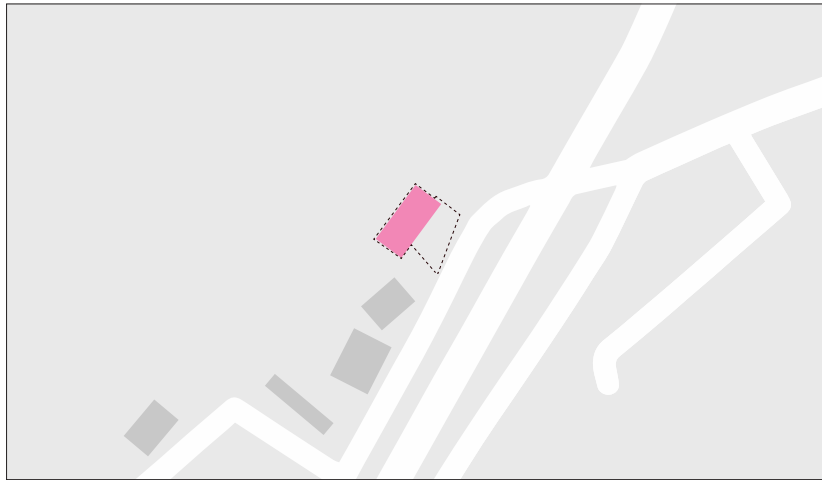
運営：石巻・川の上プロジェクト

設計：EDO

建築 / 延床 / 敷地面積：95.23/95.23/363.76

建蔽率（許容）：26.18（60）

プログラム：図書館・交流施設



参考文献：EDO (2015) 『川の上 百俵館』，新建築編集部，『新建築 9 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 186-193.

## 21 Atelier ju-tou + TC ビル

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：茨城県取手市井野1丁目7-10

改修 / 新築：改修

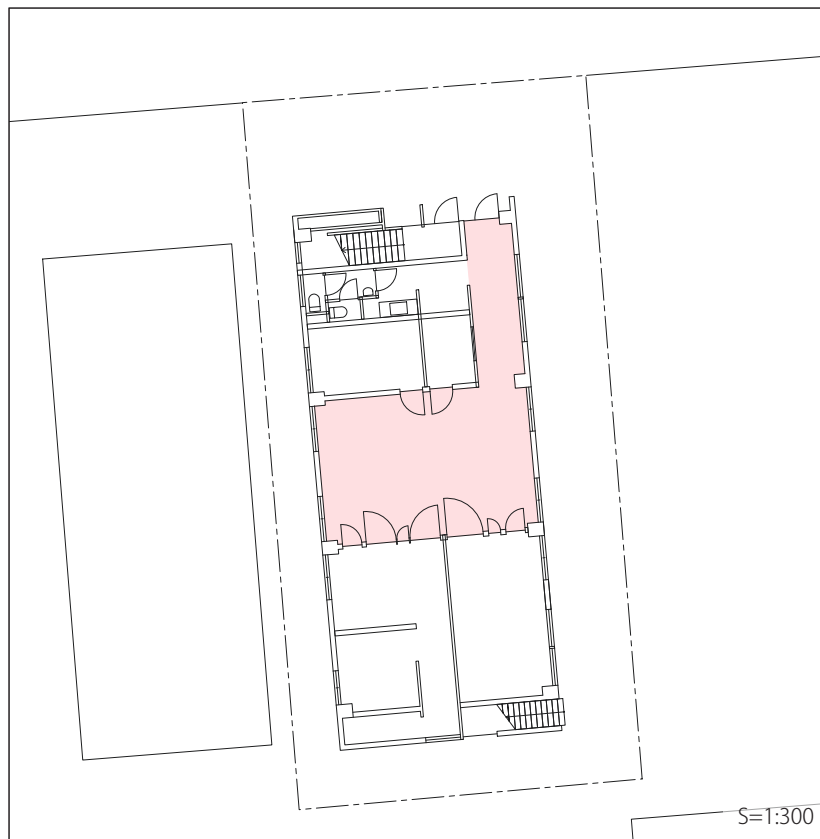
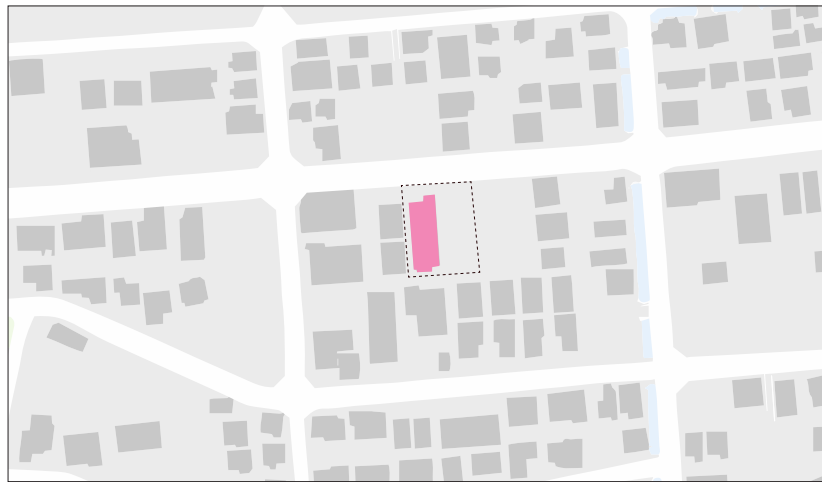
運営：OpenA + 取手アートプロジェクト  
+ ARCO

設計：青木公隆 / ARCO- 斎藤隆太郎 / DOG

建築 / 延床 / 敷地面積：172.12/157.7

建蔽率（許容）：

プログラム：事務所



参考文献：青木公 - 斎藤隆太郎 (2015)『Atelier ju-tou + TC ビル』, 新建築編集部,『新建築 8月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 142-147.



## 22 猪苗代のギャラリー

地域：郊外住宅地域

用途地域：商業地域

住所：福島県耶麻郡猪苗代町字新町

改修 / 新築：改修

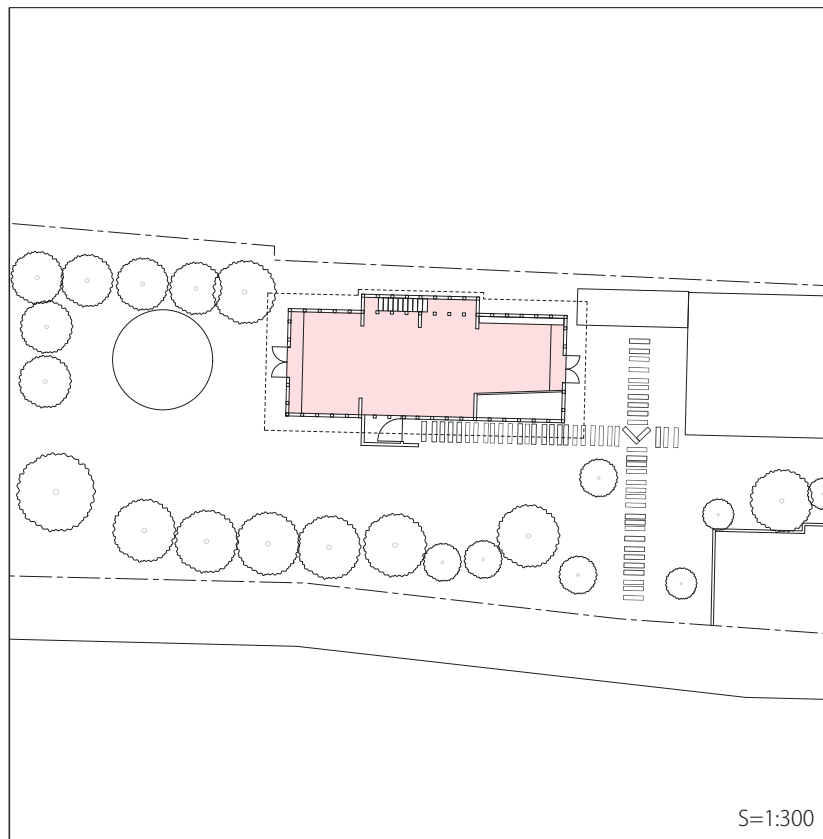
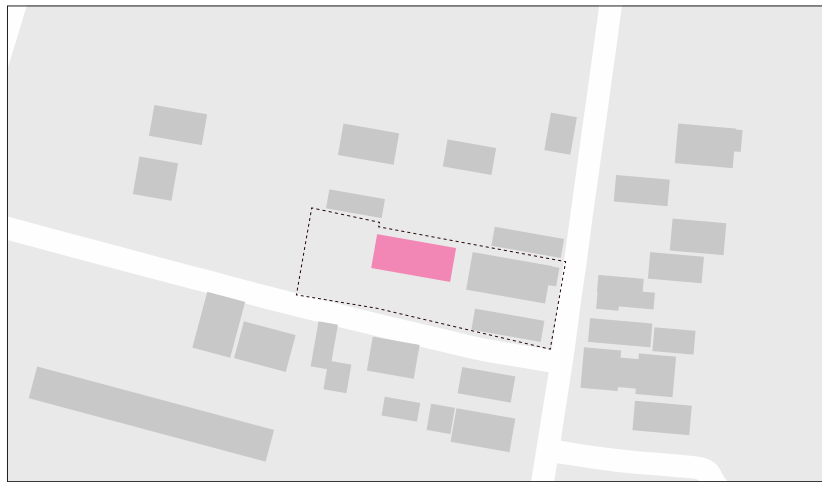
運営：猪苗代ロータリークラブ

設計：柴崎恭秀

建築 / 延床 / 敷地面積：151.43/218.22/1457.59

建蔽率（許容）：25.8（80）

プログラム：ギャラリー



参考文献：柴崎恭秀 (2015) 『猪苗代のギャラリー』，新建築編集部，『新建築 7 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.112-121.

### 23 長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種住居地域

住所：富山県高岡市和田1 6

改修 / 新築：改修

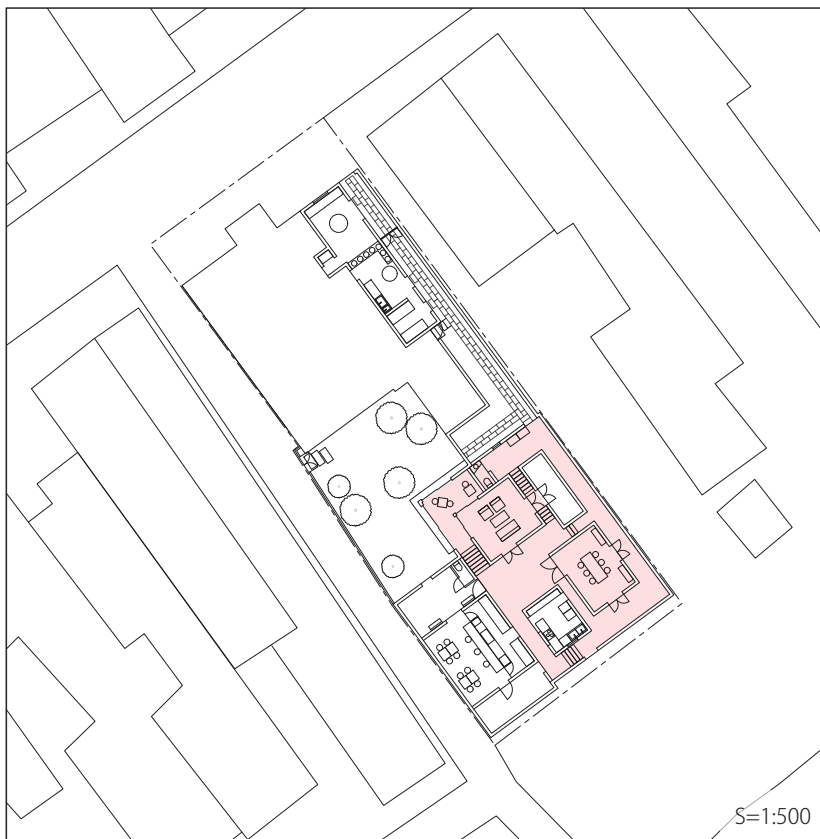
運営：個人

設計：PLANET Creations 関谷昌人

建築 / 延床 / 敷地面積：334.08/334.08/606

建蔽率（許容）：55.12

プログラム：カフェ・多目的ホール



参考文献：関谷昌人（2015）『長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ』，新建築編集部，『新建築 3 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.112-118.

## 24 りくカフェ本設

地域：過疎地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：岩手県陸前高田市高田町鳴石 22-9

改修 / 新築：新築

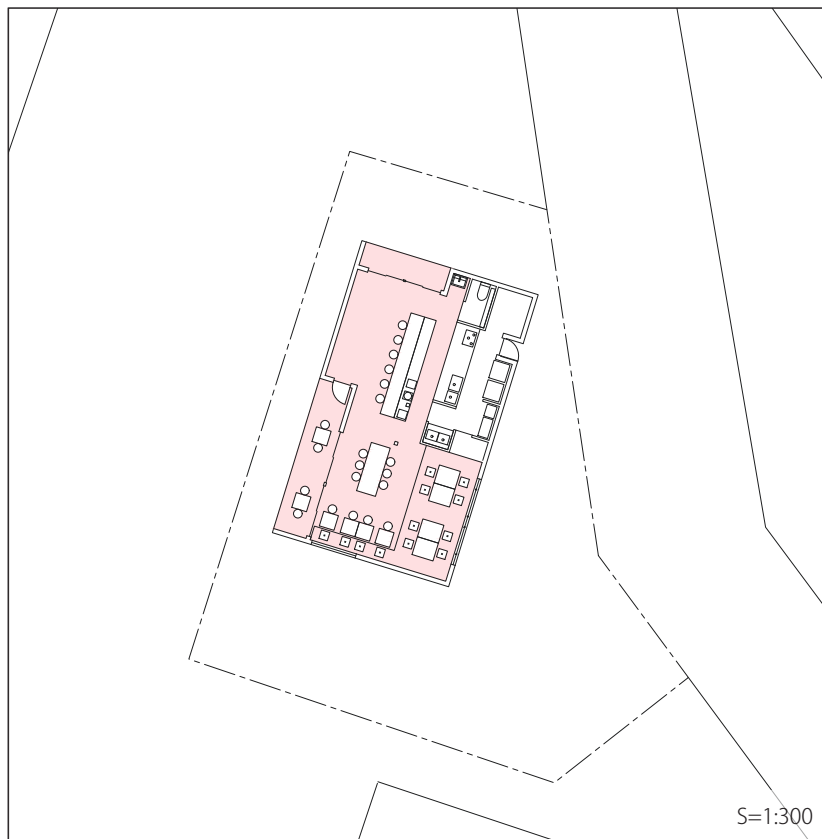
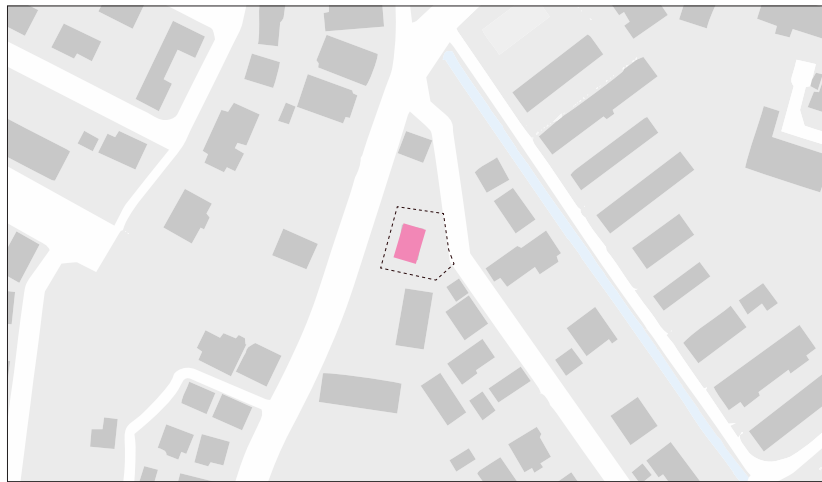
運営：NPO 法人りくカフェ

設計：成瀬・猪熊建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：83.46/70.87/239.95

建蔽率（許容）：34.78（60）

プログラム：カフェ



参考文献：成瀬・猪熊建築設計事務所 (2014)『りくカフェ本設』, 新建築編集部,『新建築 11 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 144-151.

## 25 宮戸島月浜のみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：市街化調整区域

住所：宮城県東松島市宮戸字村 77

改修 / 新築：新築

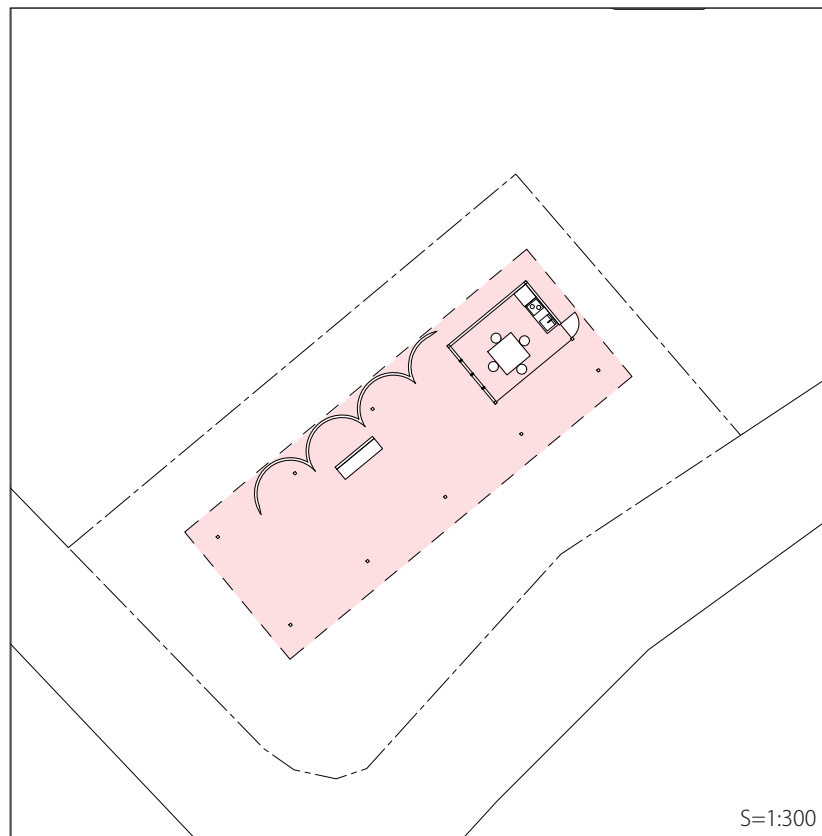
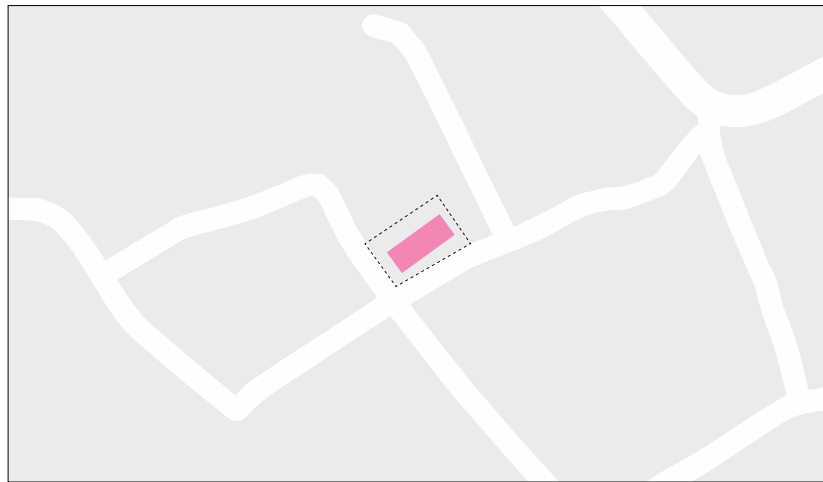
運営：月浜海苔組合

設計：SANAA

建築 / 延床 / 敷地面積：72/72/232

建蔽率（許容）：31.03

プログラム：交流・活動センター



参考文献：SANAA (2014) 『宮戸島月浜のみんなの家』，新建築編集部，『新建築 10 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.142-145.

## 26 K-port + 磯谷水産港町一丁目店

地域：過疎地域

用途地域：準工業地域

住所：宮城県気仙沼市港町 1-3

改修 / 新築：新築

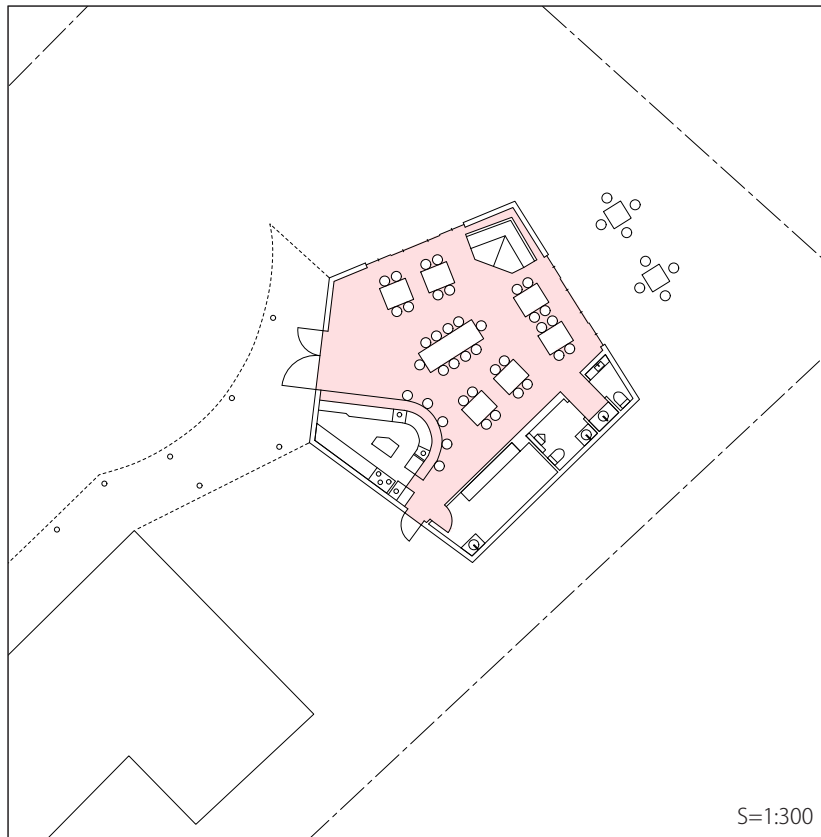
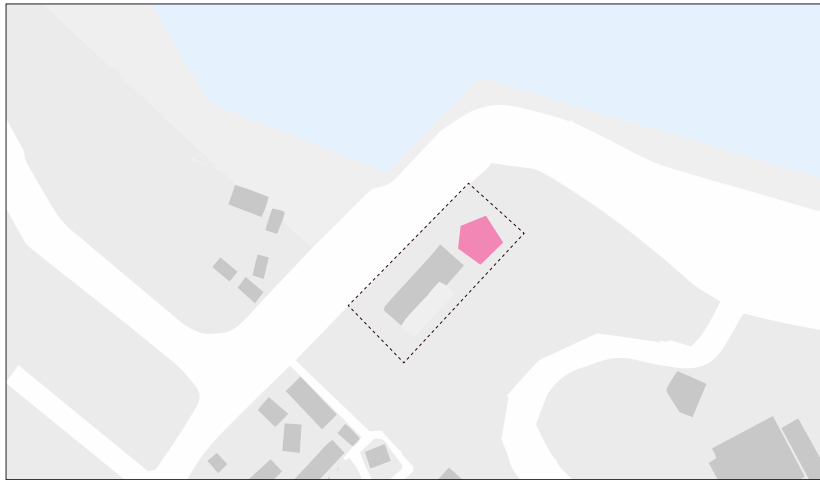
運営：個人

設計：伊藤豊雄建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：125.55/125.55/626.9

建蔽率（許容）：20.03（60）

プログラム：カフェ



参考文献：伊藤豊雄建築設計事務所（2014）『K-port + 磯谷水産港町一丁目店』，新建築編集部，『新建築 10 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 176-183.

## 27 はじまりの美術館

地域：過疎地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：福島県耶麻郡猪苗代町 新町4 8 7 5

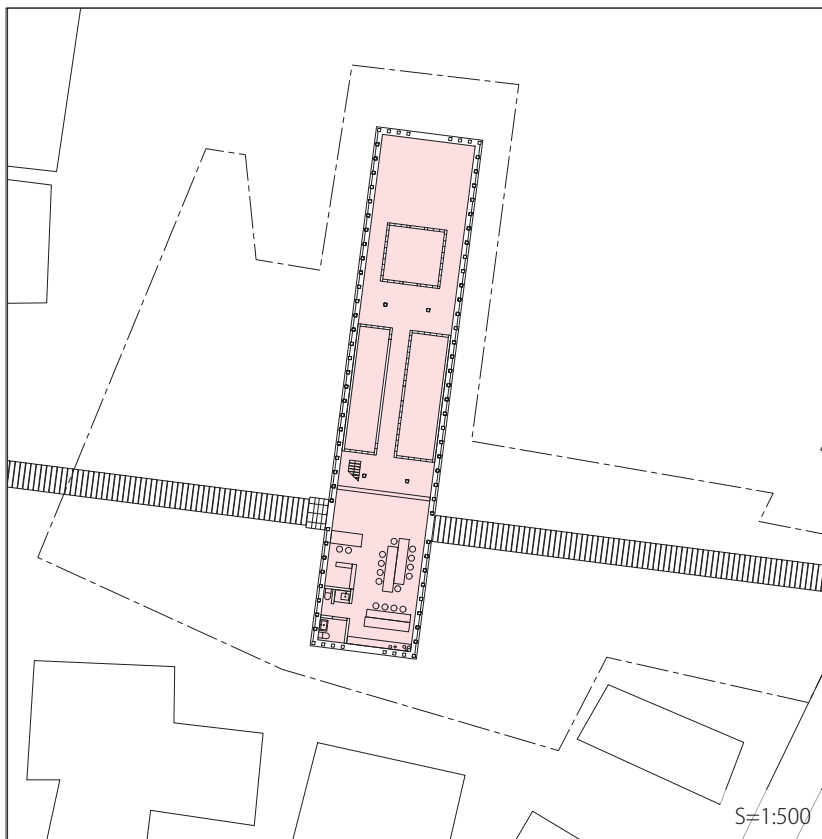
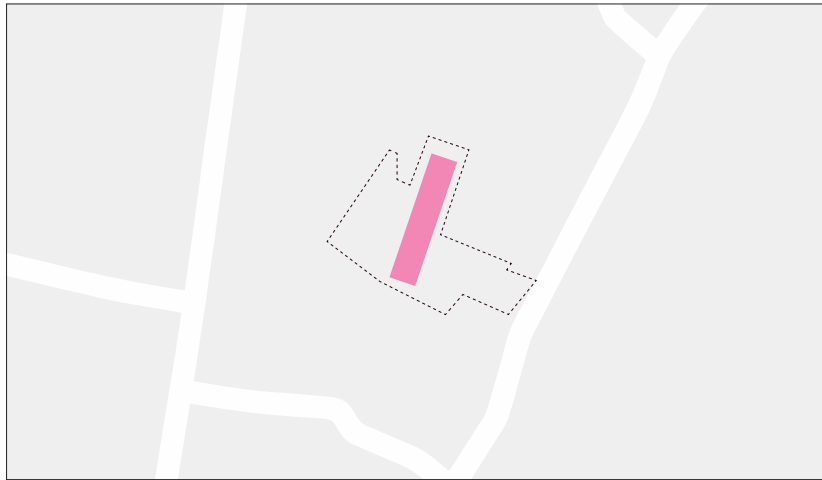
運営：社会福祉法人安積愛育園

設計：竹原儀二 / 無有建築工房

建築 / 延床 / 敷地面積：235.66/284.01/1217.14

建蔽率：19.4 (80)

プログラム：美術館



参考文献：竹原儀二 / 無有建築工房 (2014)『はじまりの美術館』, 新建築編集部,『新建築 9 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.68-79. 176-183.

## 28 食堂付きアパート

地域：都心住宅地域

用途地域：近隣商業地域第一種住居地域

改修 / 新築：新築

住所：東京都目黒区目黒本町 5

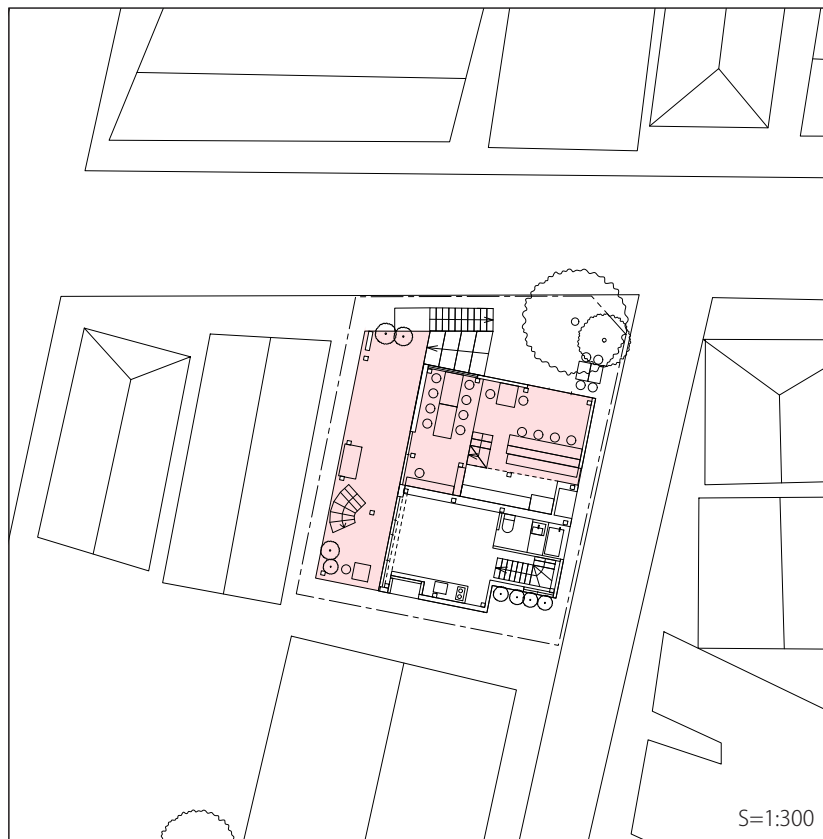
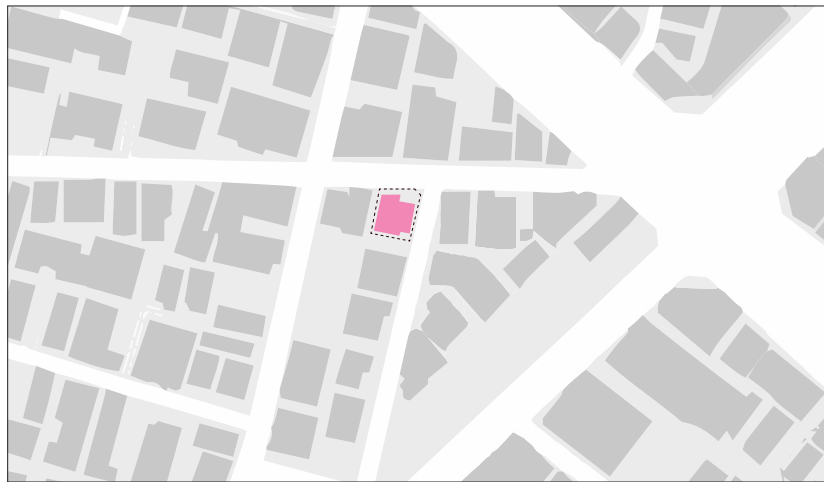
運営：個人

設計：仲建築設計スタジオ

建築 / 延床 / 敷地面積：97.56/261.13/139.89

建蔽率：69.7 (83)

プログラム：食堂



参考文献：仲俊治・宇野悠理 (2014)『食堂付きアパート』, 新建築編集部,『新建築 8月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 128-135.



## 29 えんがわオフィス

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

住所：徳島県名西郡神山町神領字北 88-4

改修 / 新築：改修

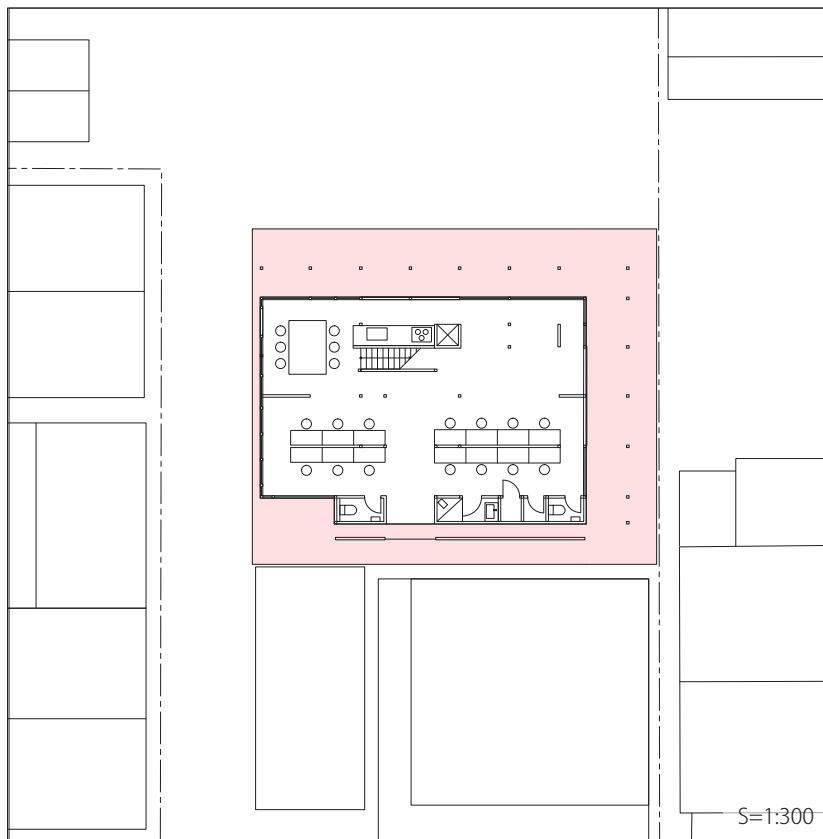
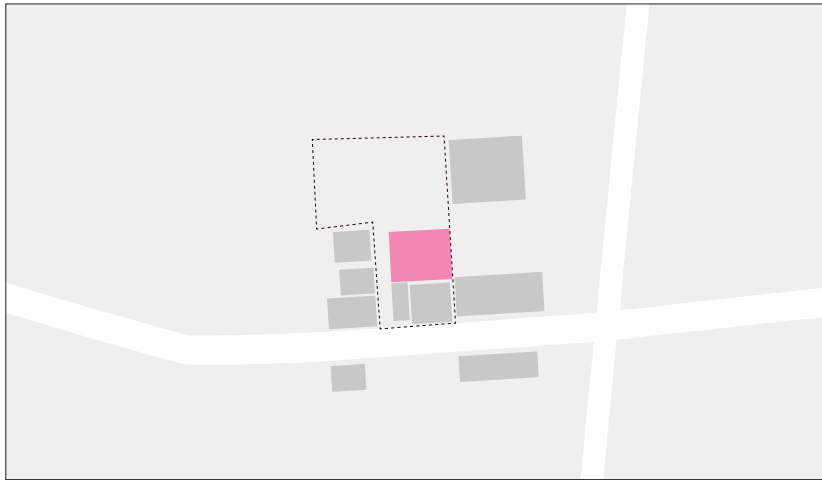
運営：プラットフォーム

設計：伊藤暁+須磨一清+坂東幸輔

建築 / 延床 / 敷地面積：175.2/251.5/1113

建蔽率（許容）：15.7

プログラム：交流・活動センター



参考文献：伊藤暁+須磨一清+坂東幸輔 (2014) 『えんがわオフィス』, 新建築編集部, 『新建築 4 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.120-130.

### 30 e コラボつるがしま

地域：過疎地域

用途地域：市街化地域

改修 / 新築：新築

住所：埼玉県鶴ヶ島市鶴ヶ丘331-1

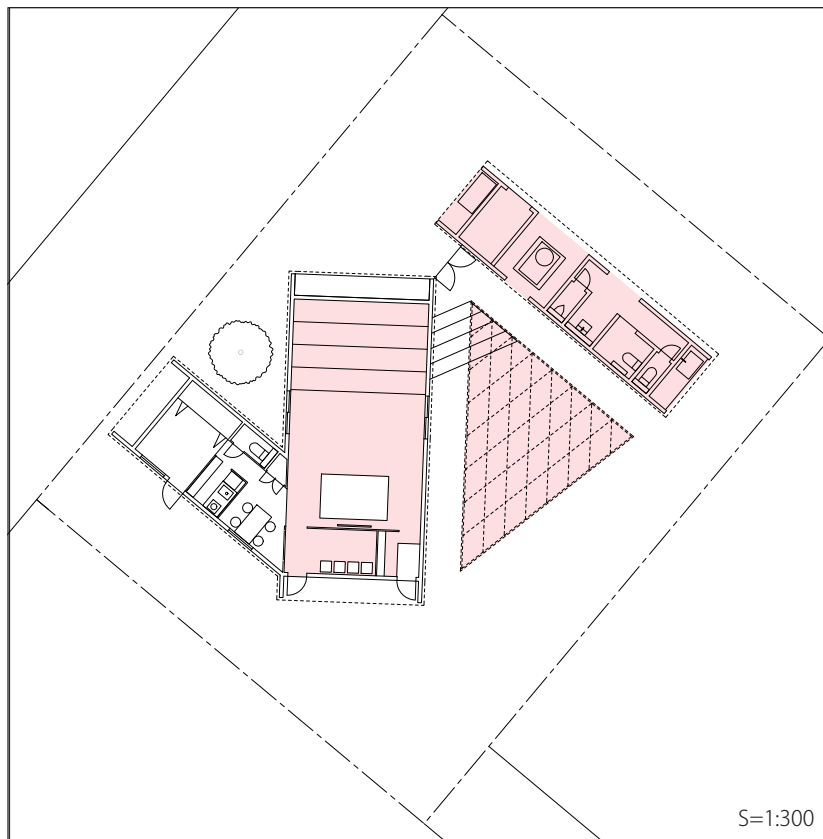
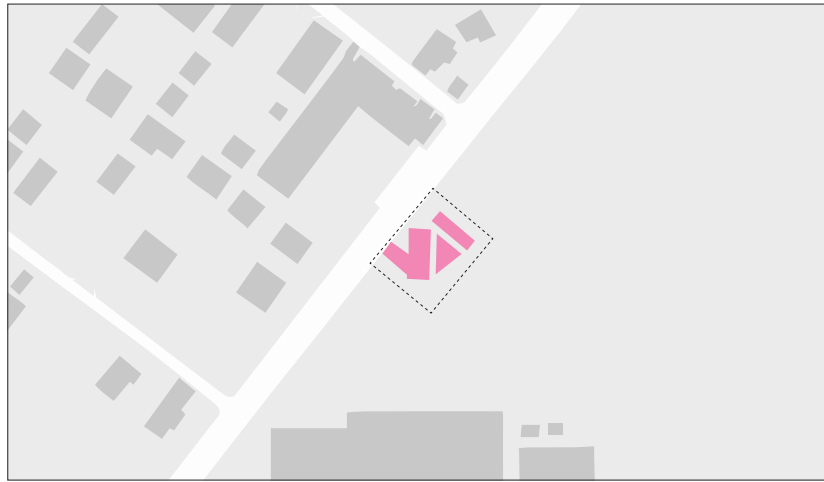
運営：鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会

設計：藤村隆二+工藤和美

建築 / 延床 / 敷地面積：127.82/127.82/499

建蔽率：25.62(60)

プログラム：環境教育施設



参考文献：藤村龍至+工藤和美 (2014) 『e コラボつるがしま』, 新建築編集部, 『新建築 4 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 146-153.

### 31 気仙沼大谷のみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

住所：宮城県気仙沼市本吉町大谷

改修 / 新築：新築

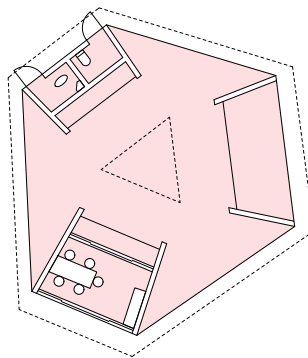
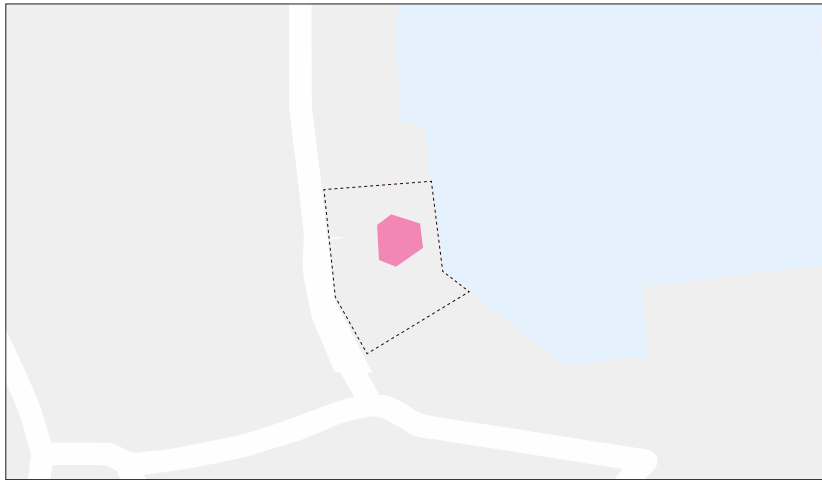
運営：ロレックス？

設計：Yang Zhao 妹島和世（アドバイザー）

建築 / 延床 / 敷地面積：93.45/93.45/419.21

建蔽率（許容）：22.29

プログラム：休憩所



S=1:300

参考文献：Yang Zhao 妹島和世（アドバイザー）(2014)『気仙沼大谷のみんなの家』，新建築編集部，『新建築 3月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.166-173.

### 32 釜石漁師のみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：準工業地域

改修 / 新築：新築

住所：岩手県釜石市新浜町2丁目2

運営：

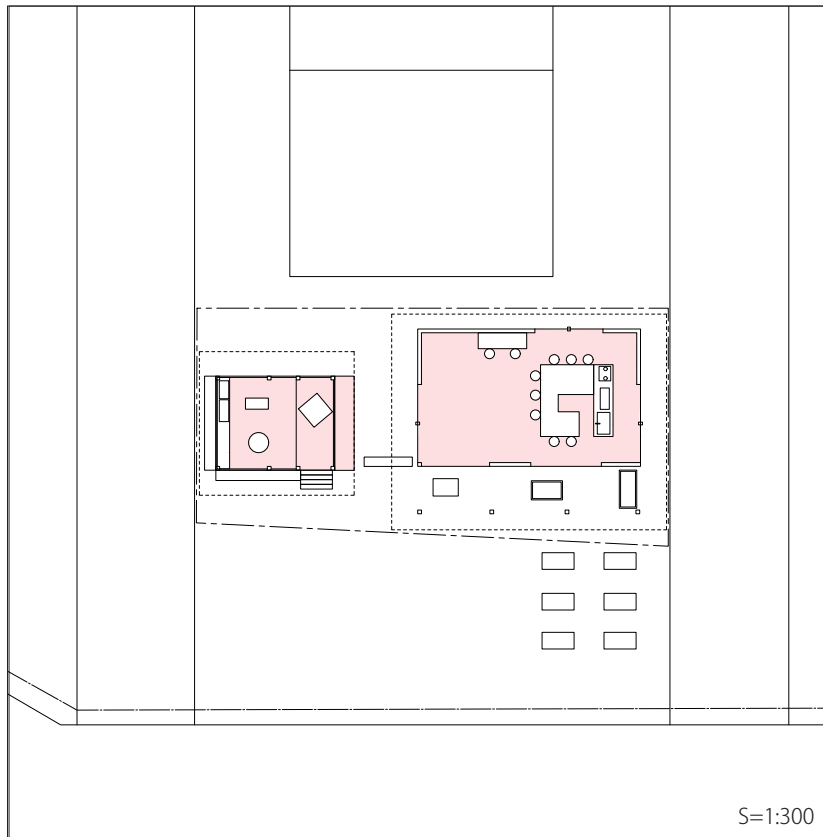
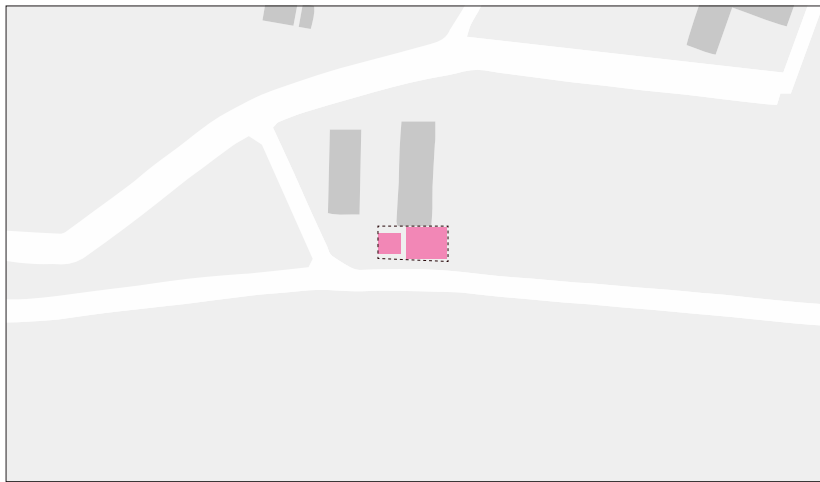
設計：伊東豊雄建築設計事務所

+アトリエ・天工人+ Ma 設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：39.84/32.56/78.33

建蔽率（許容）：50.86（60）

プログラム：集会所



参考文献：伊東豊雄建築設計事務所+アトリエ・天工人+ Ma 設計事務所 (2013)『釜石漁師のみんなの家』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.148-153.

### 33 岩沼「みんなの家」

地域：過疎地域

用途地域：第一種住居地域

改修 / 新築：新築

住所：宮城県岩沼市押分字南谷地 24-1

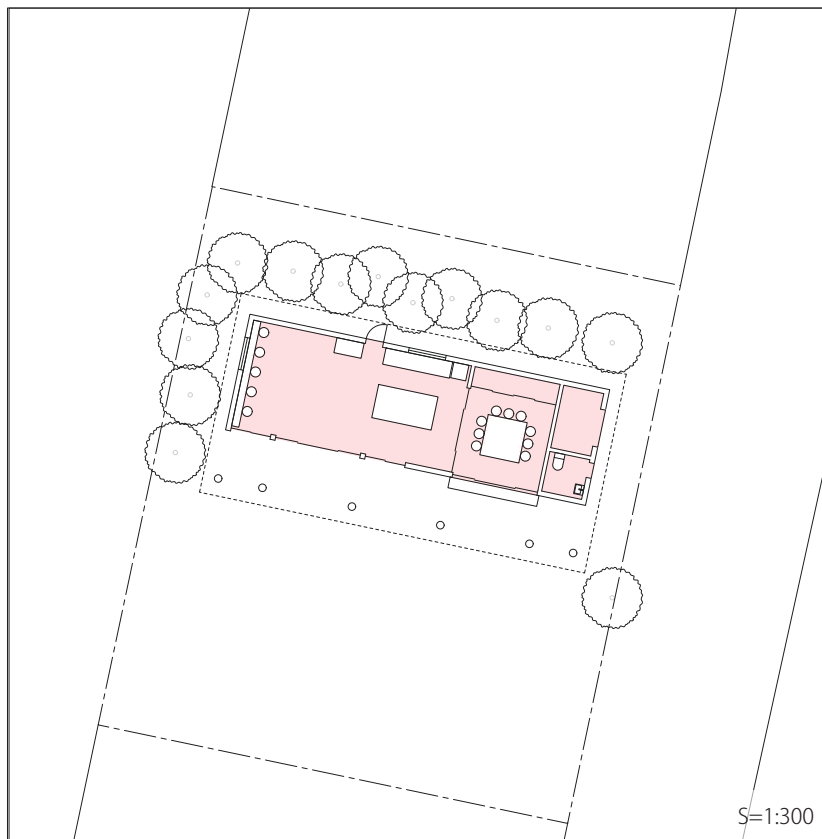
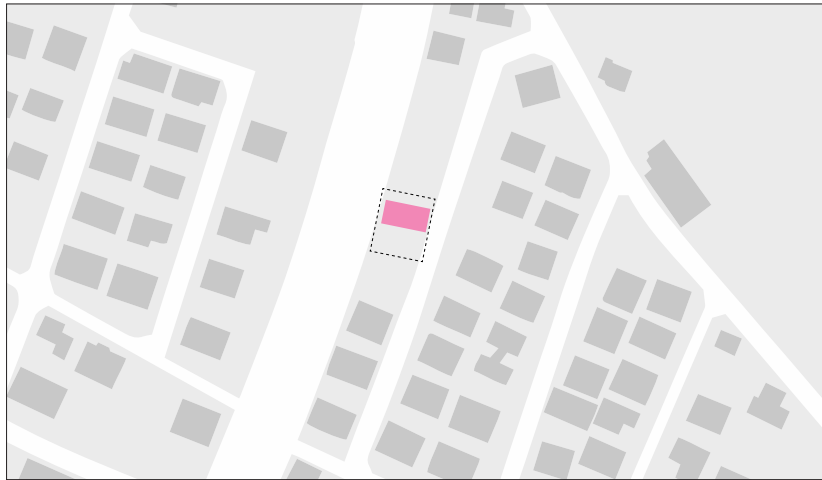
運営：インフォコム株式会社

設計：伊東豊雄建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：93.6/73.44/406.47

建蔽率（許容）：23.03（60）

プログラム：集会所



参考文献：伊東豊雄建築設計事務所（2013）『岩沼「みんなの家」』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.154-159.

### 34 馬木キャンプ

地域：過疎地域

用途地域：区域区分のない都市計画地域内

改修 / 新築：新築

住所：香川県小豆郡 小豆島町馬木甲 9

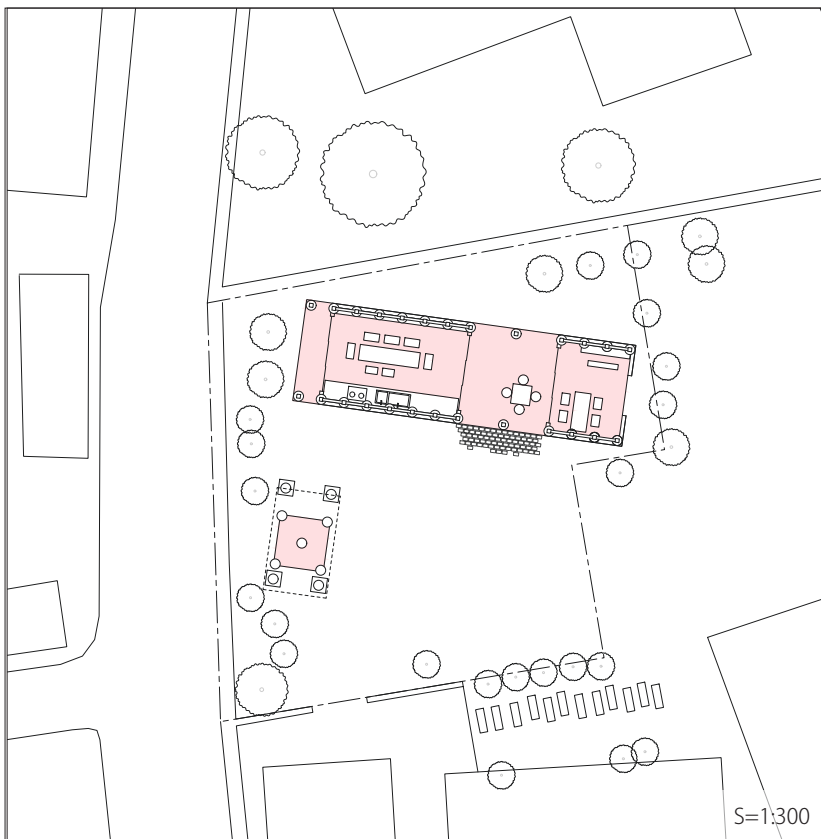
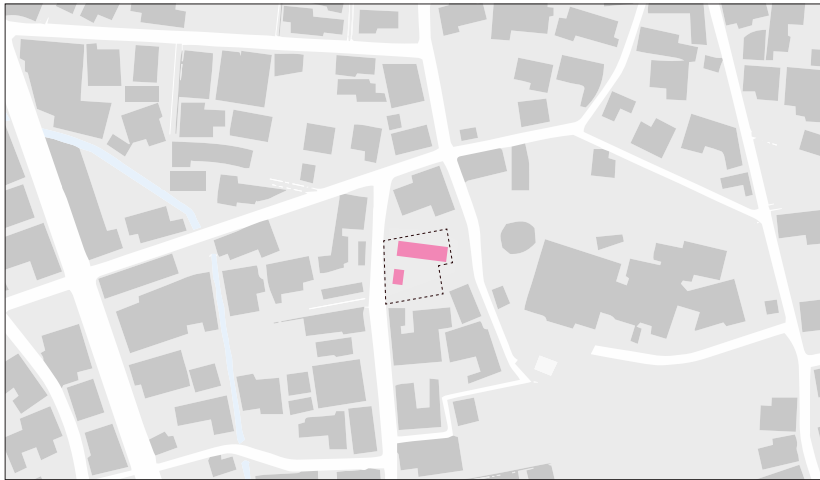
運営：個人

設計：ドットアーキテツ

建築 / 延床 / 敷地面積：59.63/43.07/261.34

建蔽率（許容）：22.82（70）

プログラム：集会所



参考文献：ドットアーキテツ (2013)『馬木キャンプ』, 新建築編集部,『新建築 9月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.132-139.

### 35 沼須人形稽古場 薪水書窓庵

地域：郊外住宅地域

用途地域：地域地区

区域区分のない都市計画地域内

改修 / 新築：改修

住所：群馬県沼田市沼須町 111-4

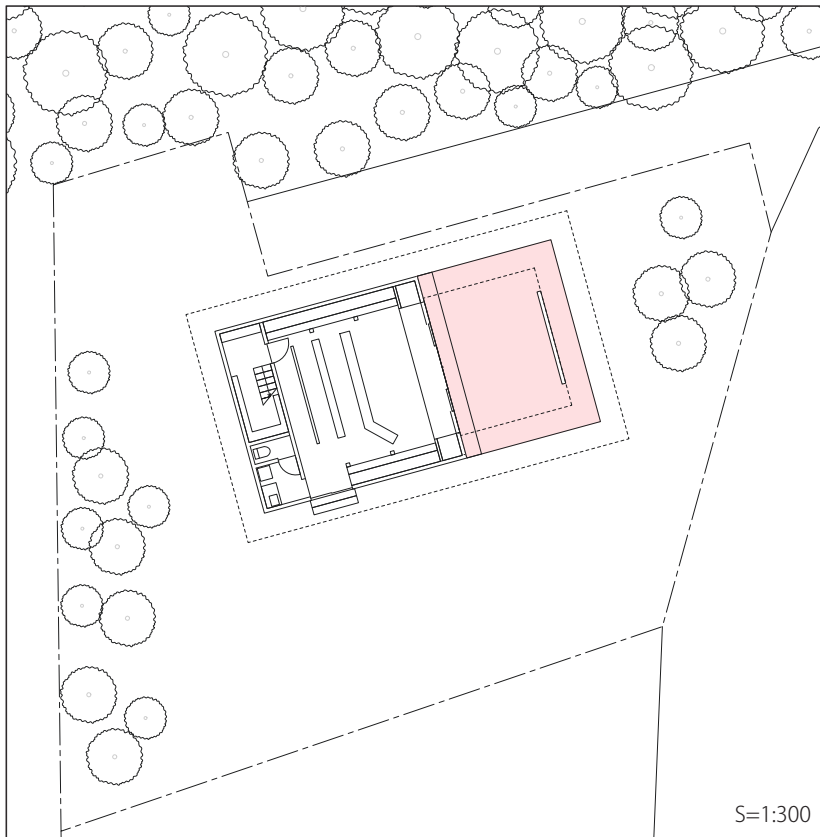
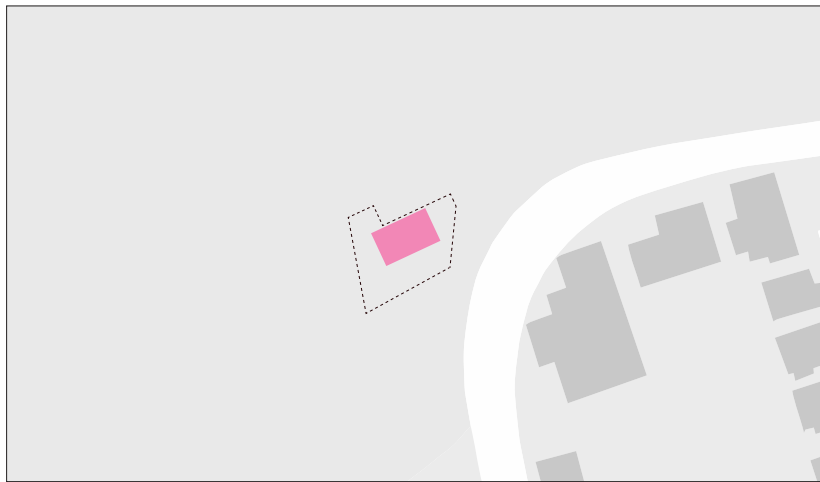
運営：沼須人形芝居あけぼの座

設計：鈴木竜太＋田中匡美／サンゴデザイン

建築 / 延床 / 敷地面積：99.37/134.15/558.94

建蔽率（許容）：17.77（70）

プログラム：劇場



参考文献：鈴木竜太＋田中匡美（2013）『沼須人形稽古場 薪水書窓庵』，新建築編集部，『新建築 3月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.177-182.



### 36 陸前高田のみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：第一種住居地域

改修 / 新築：新築

住所：岩手県陸前高田市高田町大石 31

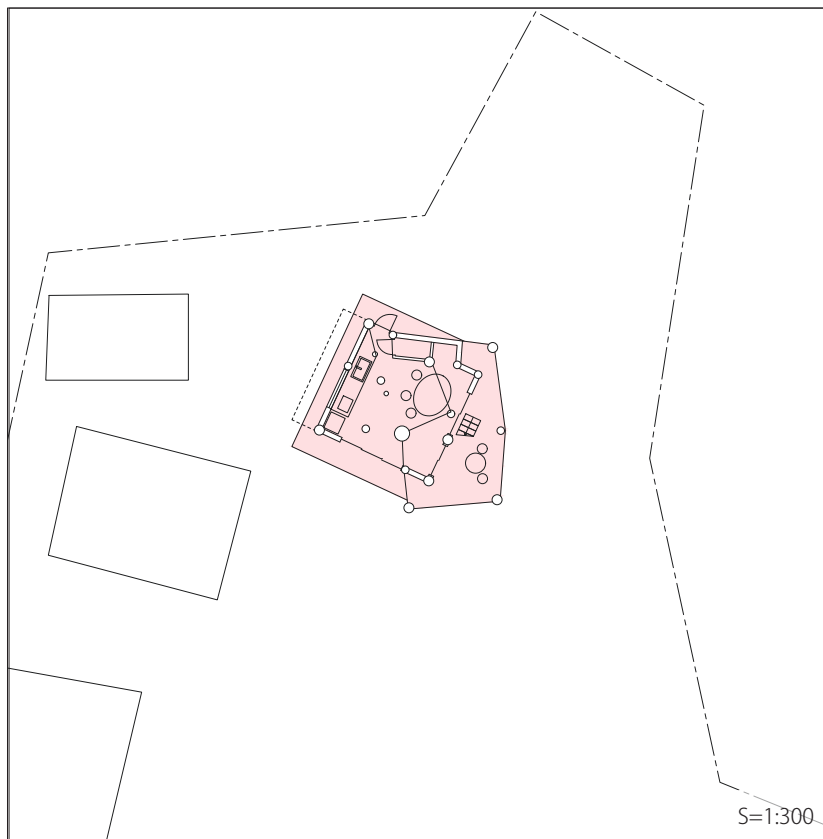
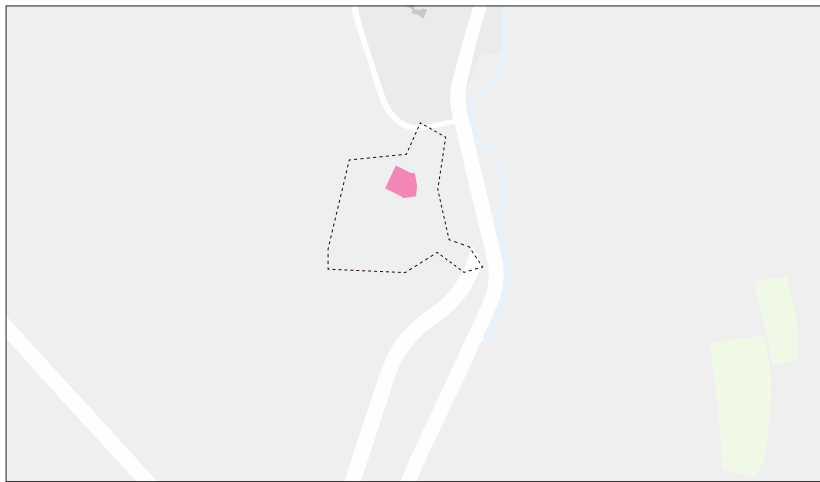
運営：伊藤塾

設計：伊藤豊雄 乾久美子 藤本壮介 平田晃久

建築 / 延床 / 敷地面積：30.18/29.96/901.71

建蔽率：3.34

プログラム：事務所



参考文献：伊藤豊雄、乾久美子、藤本壮介、平田晃久 (2013) 『陸前高田のみんなの家』，新建築編集部，『新建築 3 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.62-71.

### 37 黄金町高架下新スタジオ siteD

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：神奈川県横浜市中区黄金町

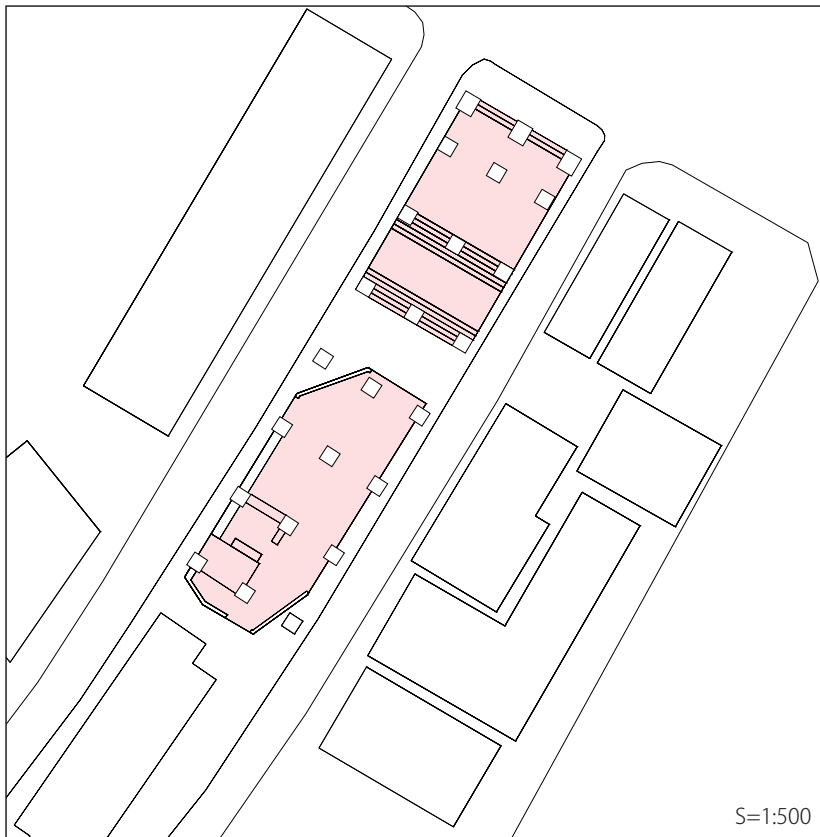
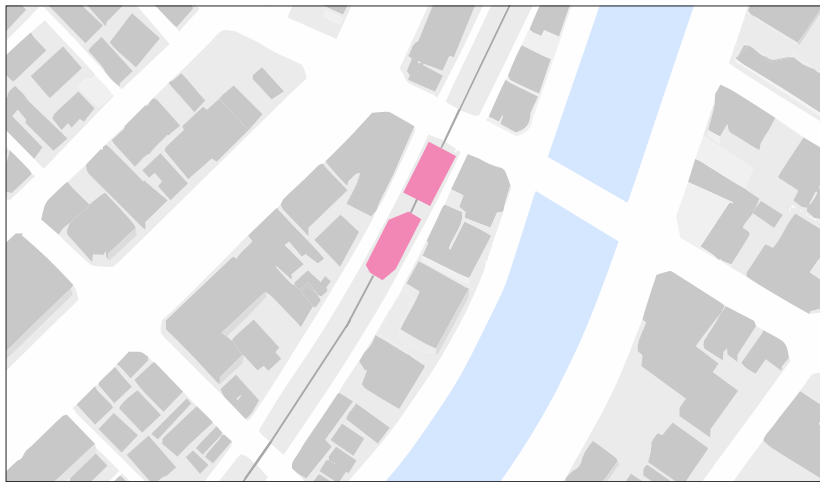
運営：黄金町エリアマネジメントセンター

設計：小泉アトリエ

建築 / 延床 / 敷地面積：149.72/145.66/241.74

建蔽率（許容）：61.9（80）

プログラム：集会場



参考文献：横浜市＋黄金町エリアマネジメントセンター（2012）『京浜急行電鉄黄金町高架下新スタジオ siteD』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.116-121.

### 38 南三陸ベニヤハウス

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：新築

住所：宮城県本吉郡南三陸町歌津杵沢 28-1

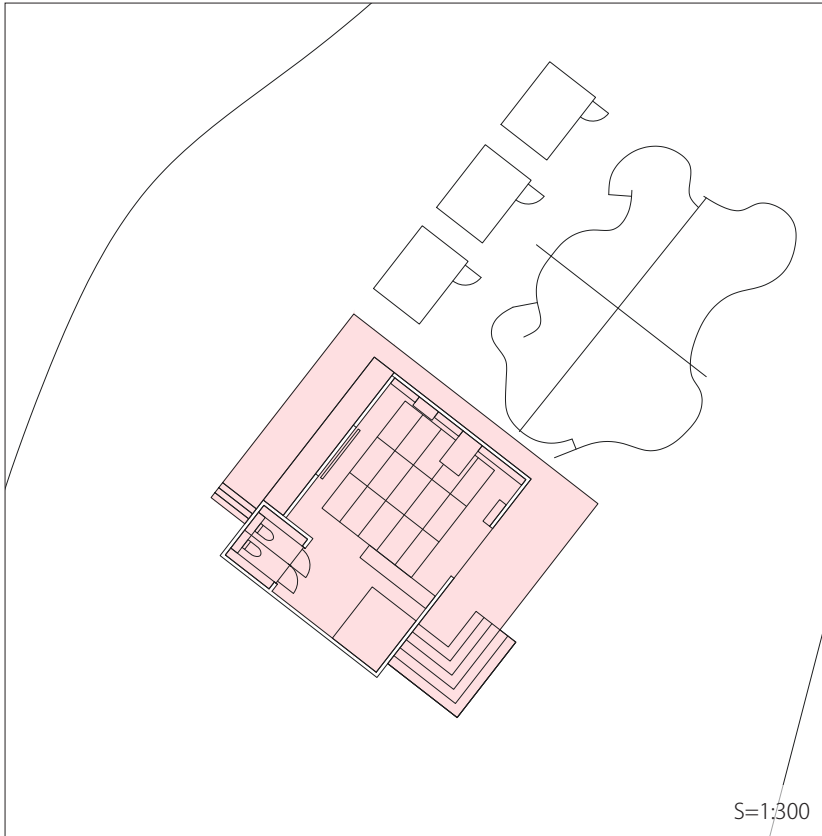
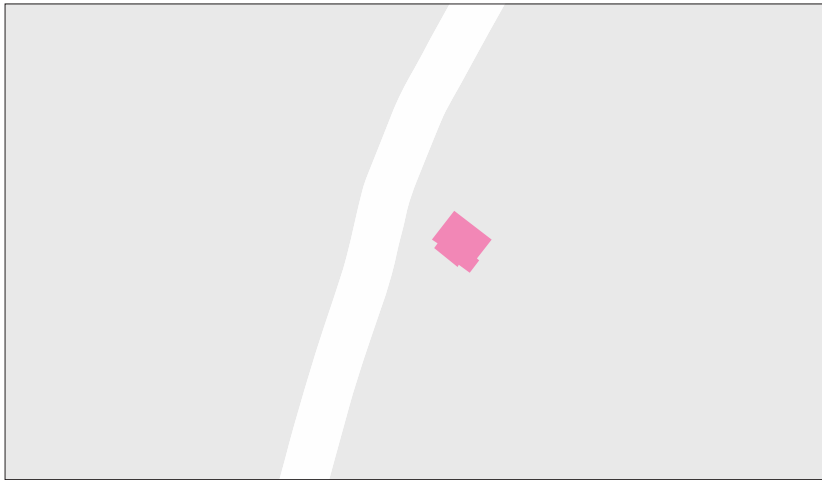
運営：

設計：小林博人＋ SFC DESIGN/BUILD3.11

建築 / 延床 / 敷地面積：67.1/67.1/450

建蔽率（許容）：15

プログラム：共同浴場に付随した地域交流施設



参考文献：小林博人＋ SFC DESIGN/BUILD3.11 (2012)『南三陸ベニヤハウス』，新建築編集部，『新建築 9 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.124-127.

### 39 こころシェルター消防団のいえ

地域：過疎地域

用途地域：第一種住居地域

改修 / 新築：新築

住所：岩手県下閉伊郡山田町大沢第 8 地割 13-1

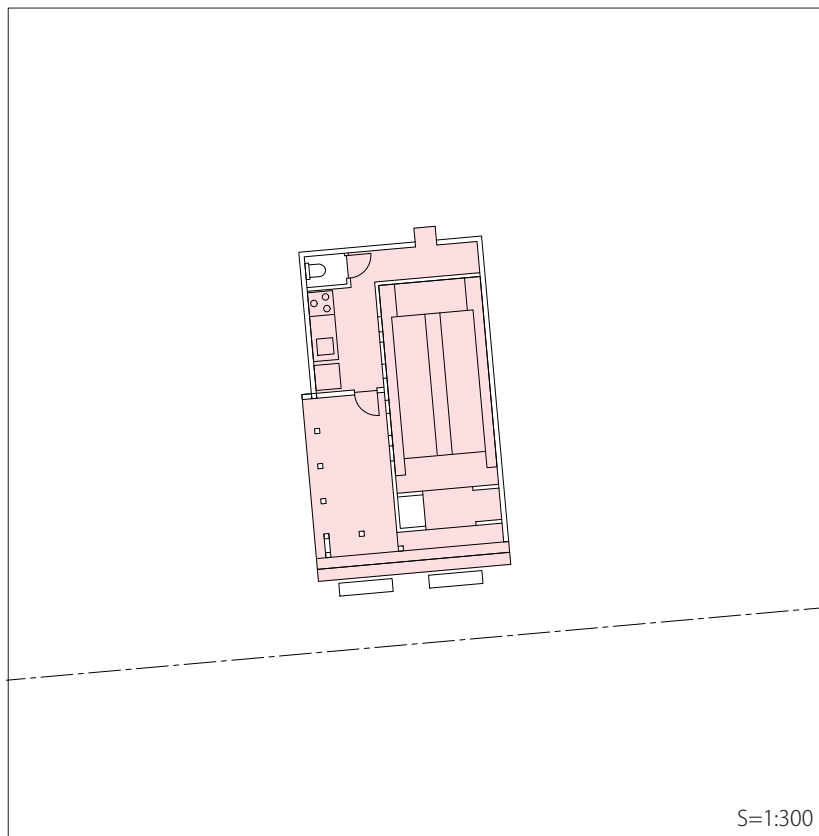
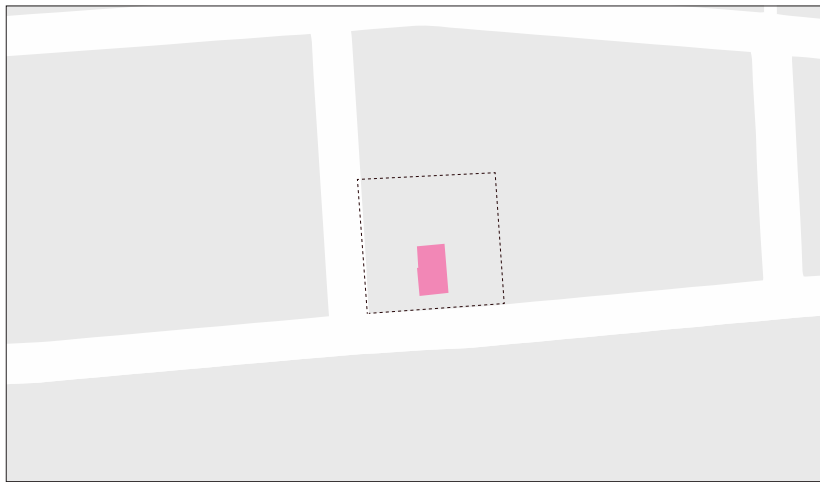
運営：エーディワールド

設計：高崎正治都市建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：33.12/26.5/355.06

建蔽率（許容）：9.33（60）

プログラム：消防屯所



参考文献：高崎正治都市建築設計事務所（2012）『こころシェルター消防団のいえ』，新建築編集部，『新建築 9 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.119-123.

#### 40 釜石市商店街みんなの家・かだって

地域：過疎地域

用途地域：地域地区

改修 / 新築：新築

住所：岩手県 釜石市只越町 1-3-2

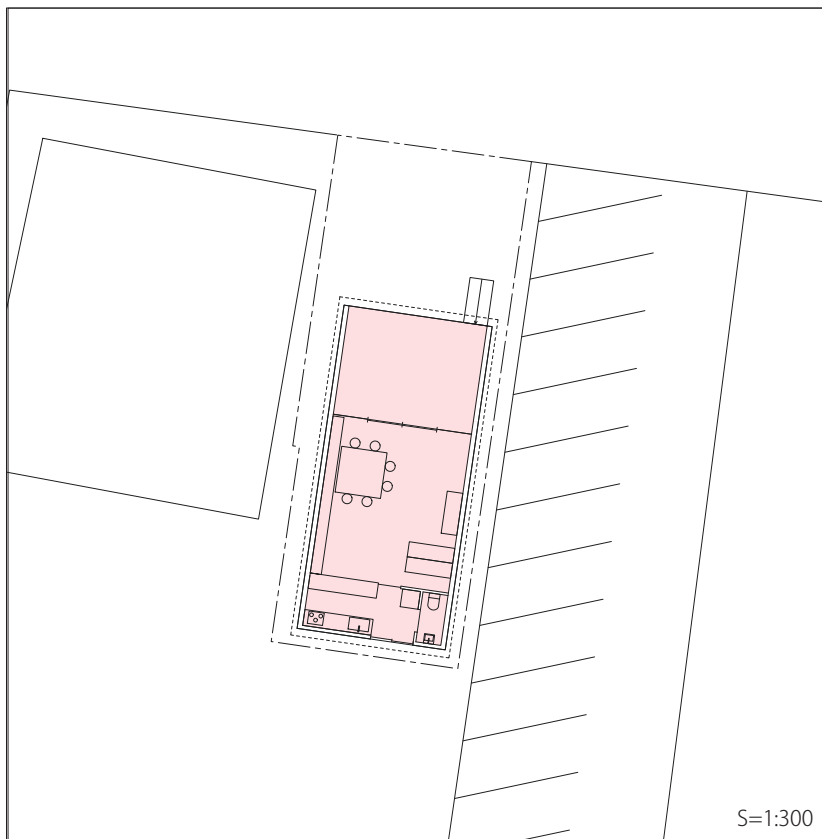
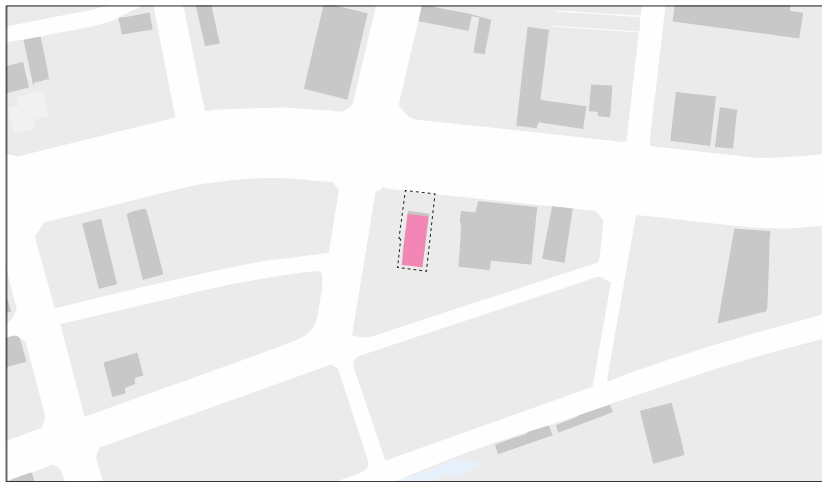
運営：帰心の会

設計：伊藤豊雄建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：73.27/67.55/167.52

建蔽率（許容）：43.74（80）

プログラム：事務所



参考文献：伊藤豊雄建築設計事務所（2012）『釜石市商店街「みんなの家・かだって」』，新建築編集部，『新建築 9月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.138-141.

#### 41 平田のみんなの家

地域：過疎地域

用途地域：公園地域

改修 / 新築：新築

住所：釜石市平田第5仮設団地7号棟

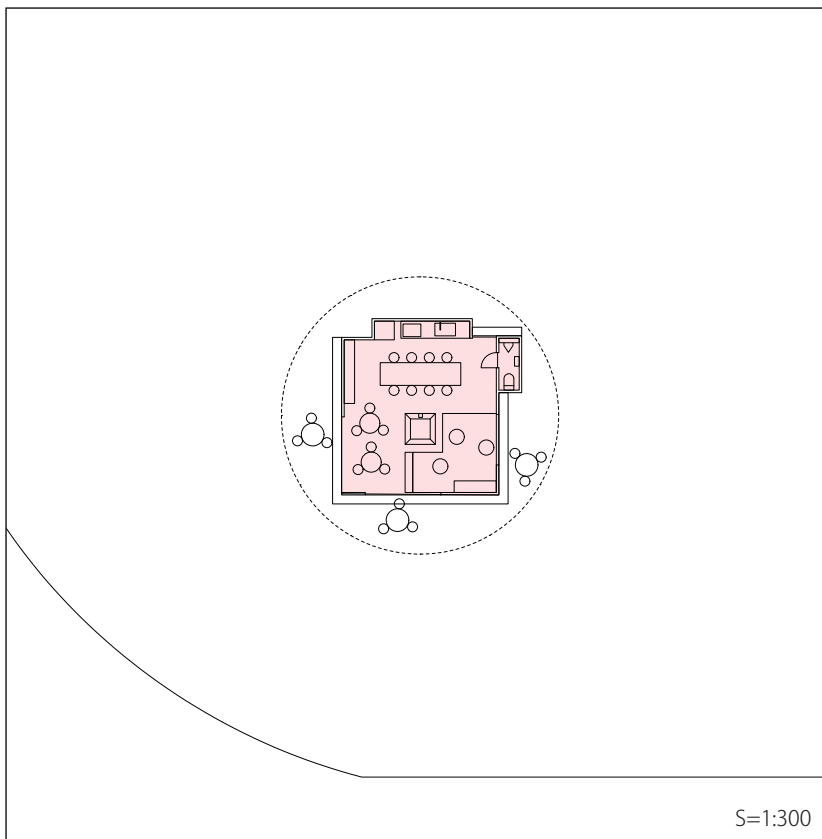
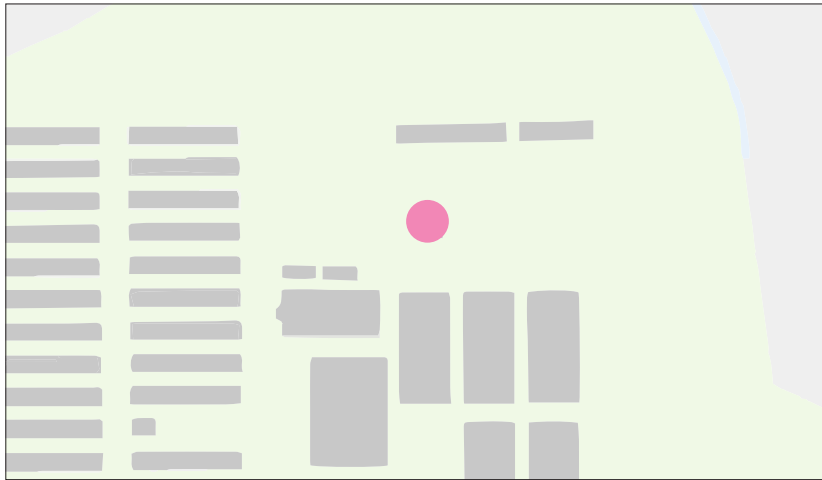
運営：ウエルズ

設計：山本理顕

建築 / 延床 / 敷地面積：63.86/41.96/32193.88

建蔽率：0.2

プログラム：集会所



参考文献：山本理顕 (2012) 『平田のみんなの家』，新建築編集部，『新建築 12 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 132-137.

#### 42 宮古復興支援プロジェクト -ODENSE-

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：新築

住所：岩手県宮古市重茂第 15 地割

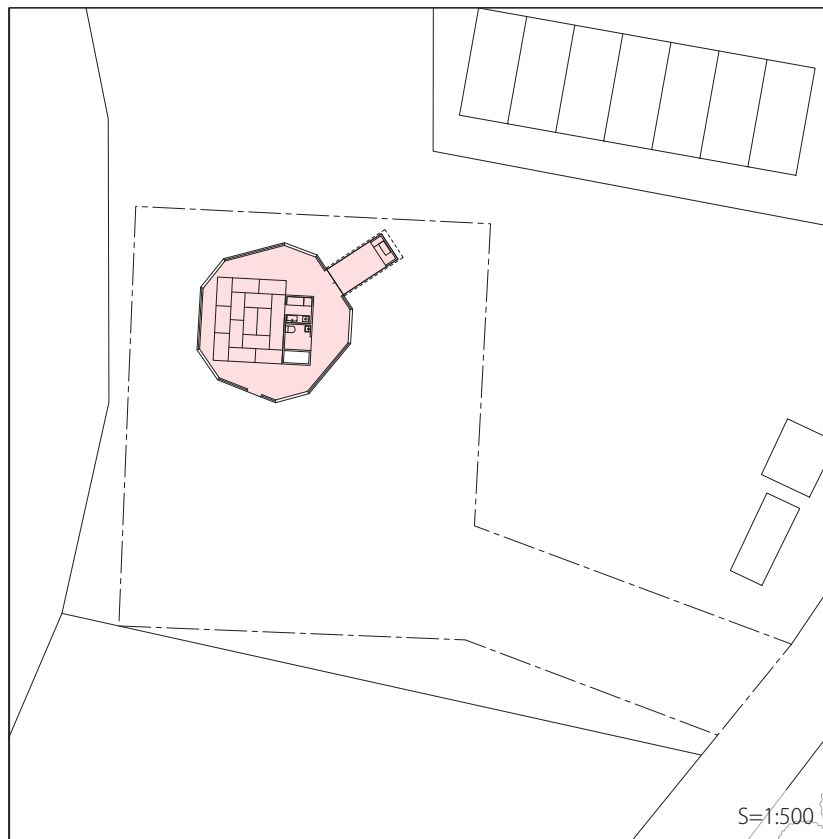
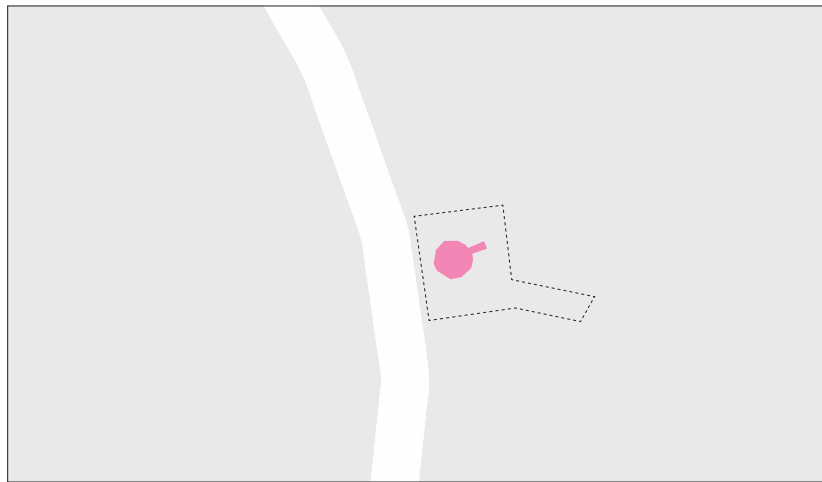
運営：宮古市社会福祉協議会

設計：立命館大学建築計画研究室

建築 / 延床 / 敷地面積：85.76/85.76/927

建蔽率（許容）：9.25

プログラム：集会所



参考文献：立命館大学建築計画研究室（2012）『宮古復興支援プロジェクト -ODENSE-』，新建築編集部，『新建築 9月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.128-130.



### 43 SHARE yaraicho

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

改修 / 新築：新築

住所：東京都新宿区 矢来町 2 9

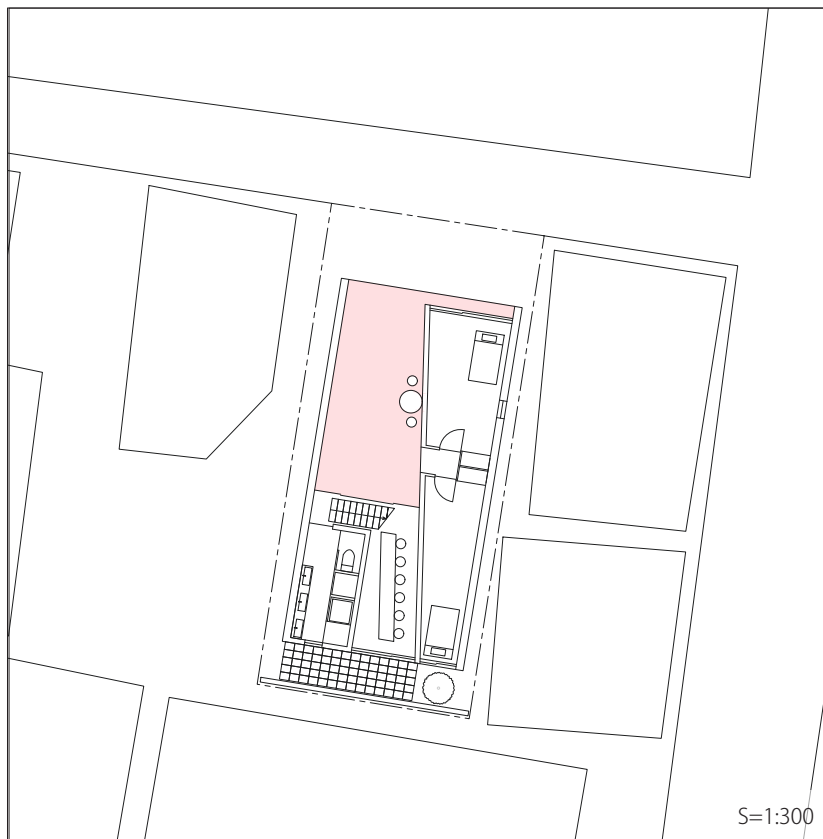
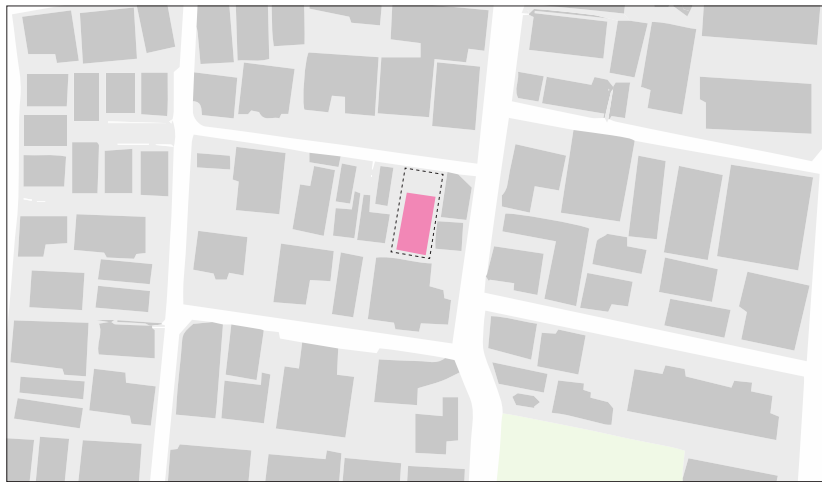
運営：個人

設計：篠原聡子 / 空間研究所内村綾乃 / AStudio

建築 / 延床 / 敷地面積：76.68/184.27/128.6

建蔽率（許容）：59.63（69）

プログラム：専用住居



参考文献：篠原聡子 / 空間研究所＋内村綾乃 / A Studio (2012) 『SHARE yaraicho』, 新建築編集部, 『新建築 8 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 64-71.

#### 44 小野屋漆器店 AOI

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：新築

住所：福島県会津若松市栄町 4-4-3

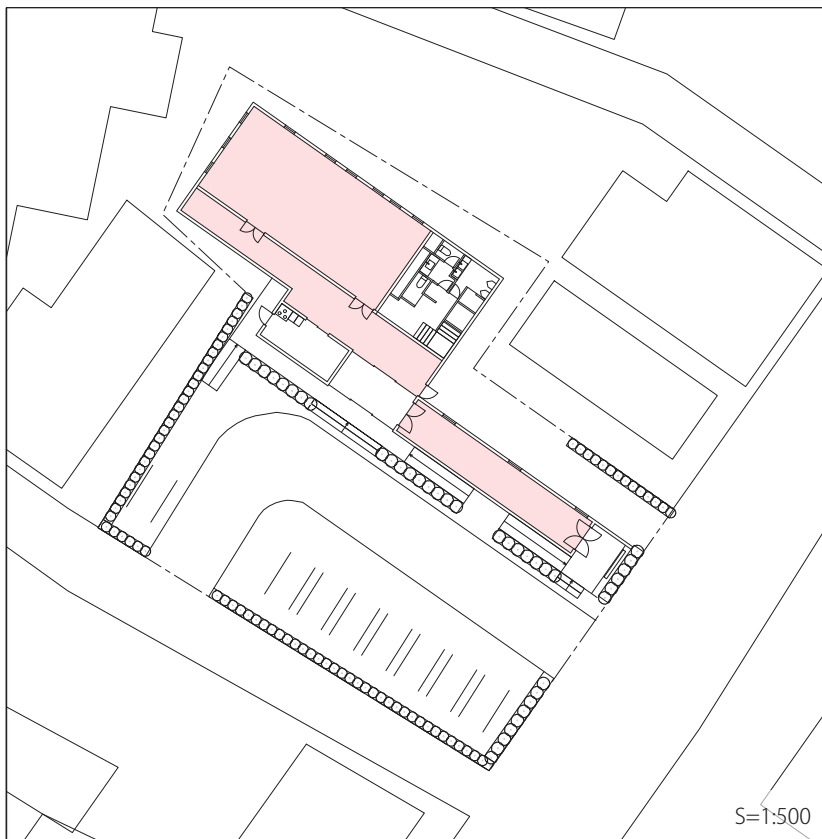
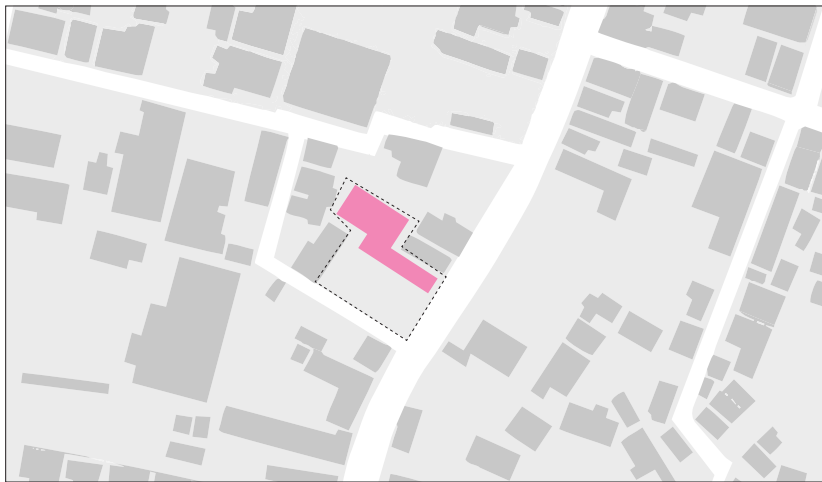
運営：小野屋漆器店

設計：伊坂デザイン工房

建築 / 延床 / 敷地面積：278.24/473.4/911.93

建蔽率：事務所、ホール

プログラム：事務所、ホール



参考文献：伊坂デザイン工房 (2012)『小野屋漆器店 AOI』, 新建築編集部,『新建築 3 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.74-81.

#### 45 くまもとアートポリス「みんなの家」

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：新築

住所：宮城県仙台市宮城野区福田町南 1-7-1

（福田町南 1 丁目公園仮設住宅地内

運営：くまもとアートポリス東北支援

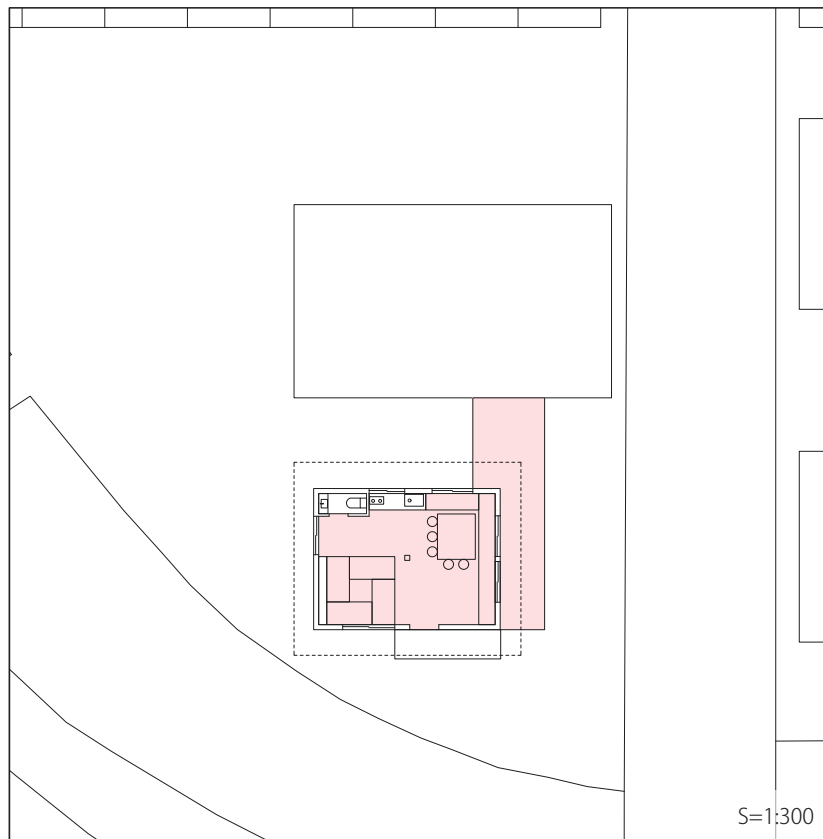
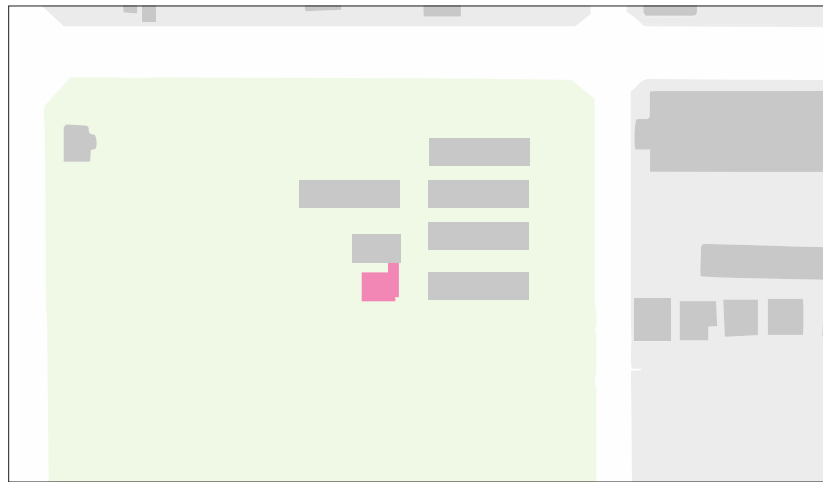
建設推進委員会

設計：くまもとアートポリスコミッション

建築 / 延床 / 敷地面積：58.33/38.88/16094.55

建蔽率（許容）：11.86(60)

プログラム：集会所



参考文献：伊東豊雄 (2011) 『くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」』，新建築編集部，『新建築 12月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.117-121．

#### 46 島キッチン

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修／新築：改修

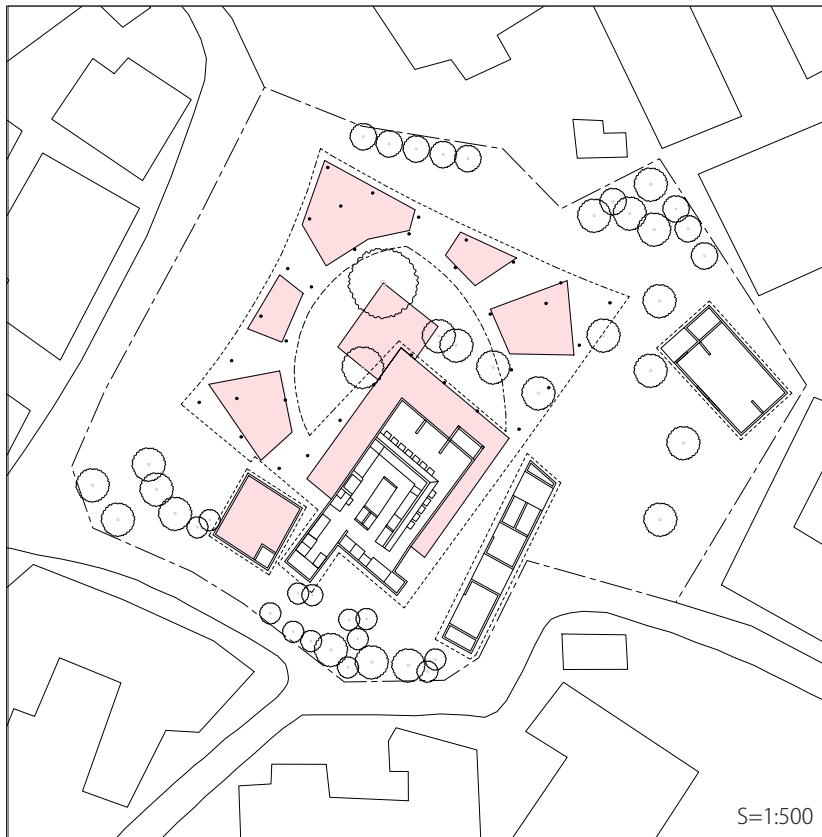
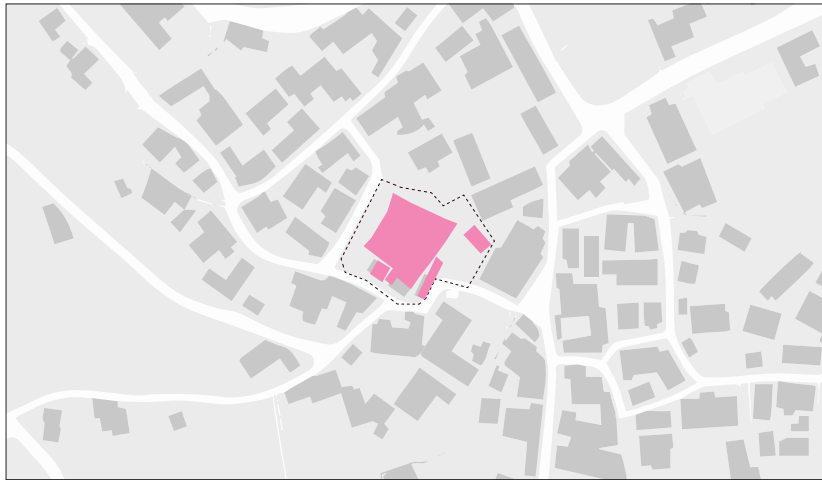
運営：瀬戸内こえびネットワーク

設計：安部良 / ARCHITECTS ATELIER RYO ABE

建築／延床／敷地面積：429/285/1100

建蔽率（許容）：39

プログラム：カフェ・イベントスペース



参考文献：安部良 / ARCHITECTS ATELIER RYO ABE (2011)『島キッチン』，新建築編集部，『新建築 1 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.126-129.

#### 47 清津川プレスセンター「きよつつ」

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：新築

住所：新潟県十日町市芋川乙3 2 6 3

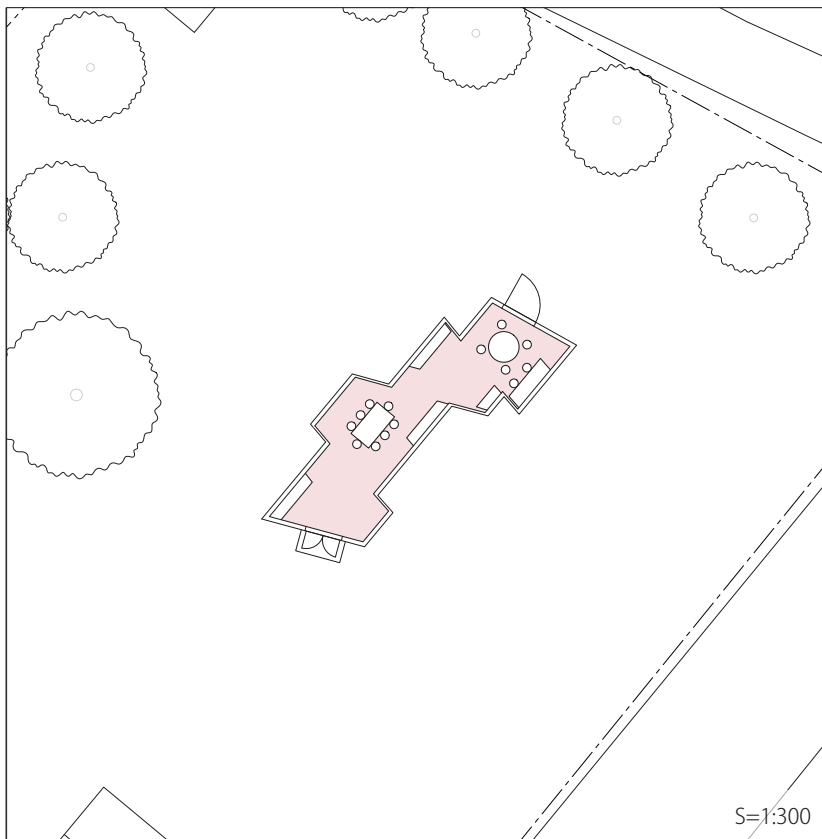
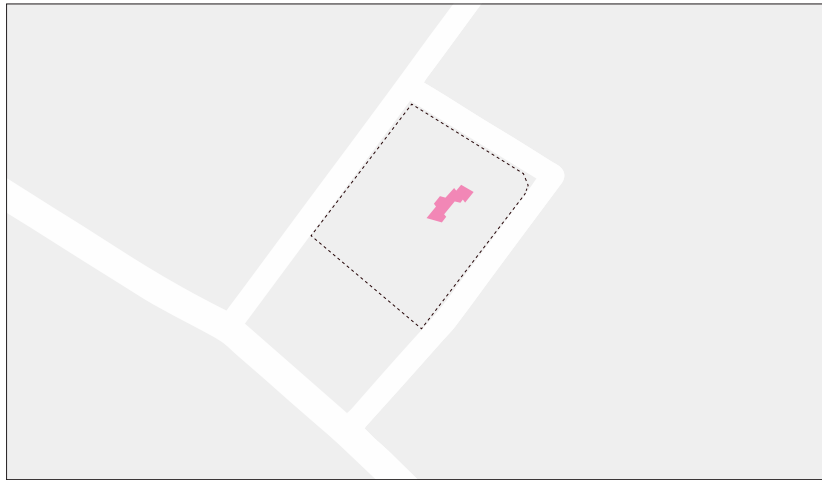
運営：新潟県十日町市芋川区

設計：槻橋修+ティーハウス建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：40.66/40.66/267.91

建蔽率（許容）：15

プログラム：集会所、案内所



参考文献：槻橋修+ティーハウス建築設計事務所（2010）『清津川プレスセンター「きよつつ」』，新建築編集部，『新建築9月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.192-199.

#### 48 するところ

地域：都心郊外商業地域

用途地域：近隣商業地域 準防火地域

改修 / 新築：改修

住所：東京都墨田区石原 1-36-8

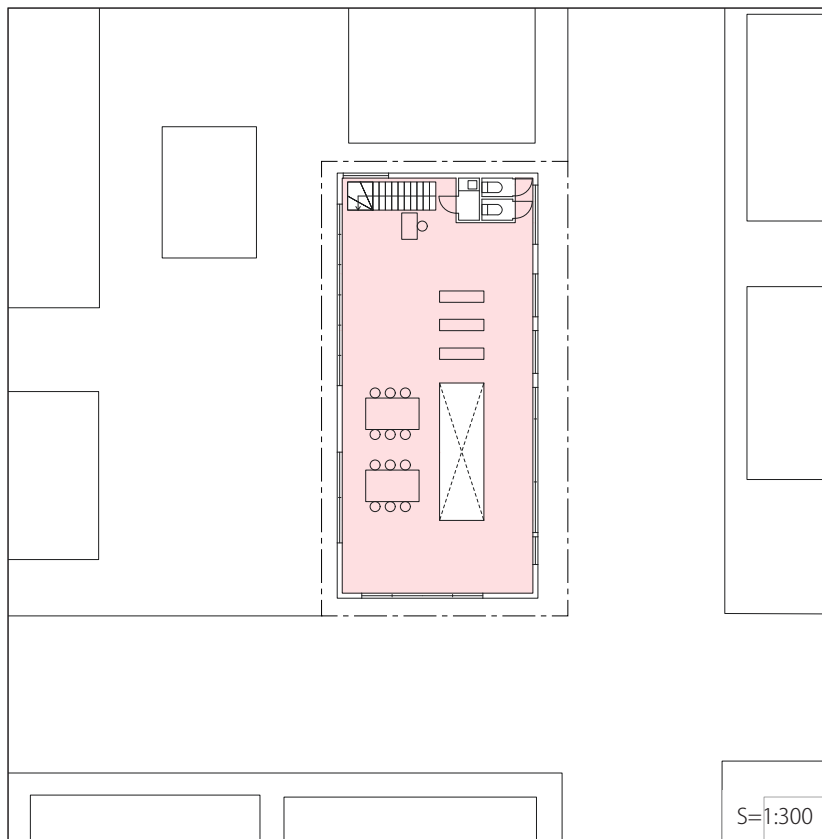
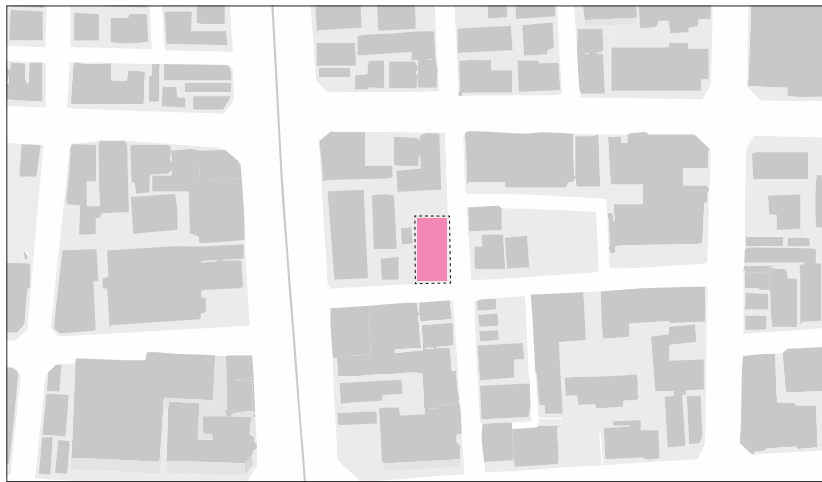
運営：広告製版社

設計：近藤哲雄建築設計事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：122/230.7/127.25

建蔽率（許容）：95.9

プログラム：印刷所、スタジオ



参考文献：近藤哲雄建築設計事務所 (2010)『するところ』, 新建築編集部, 『新建築 3月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.86-92.

#### 49 ヨコハマアパートメント

地域：都心住宅地域

用途地域：第2種中高層住居専用地域

改修 / 新築：新築

住所：神奈川県横浜市西区西戸部町 2-234

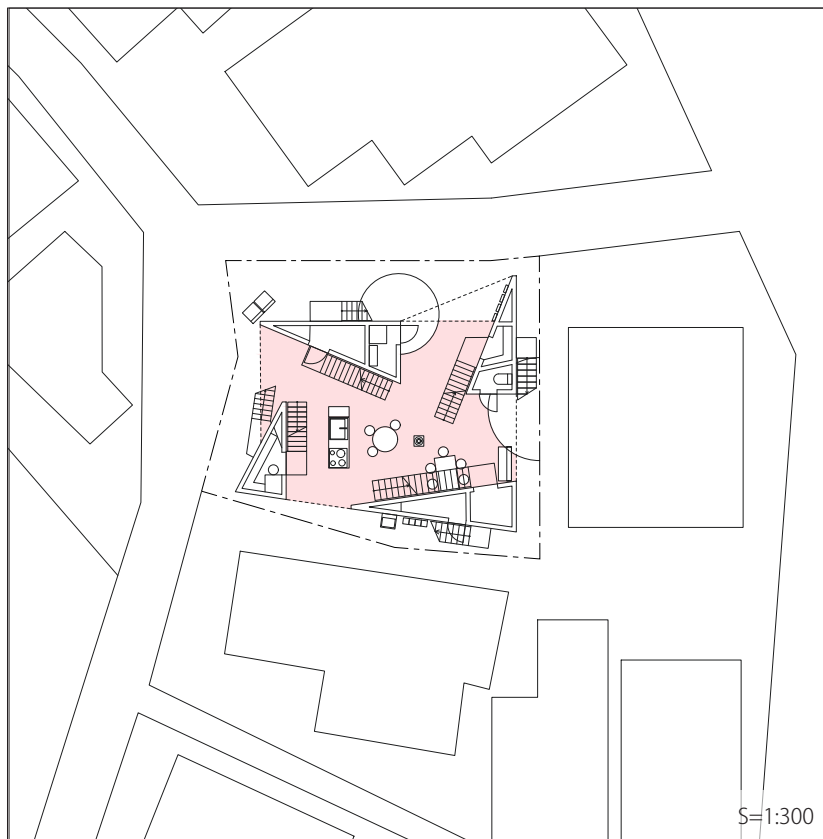
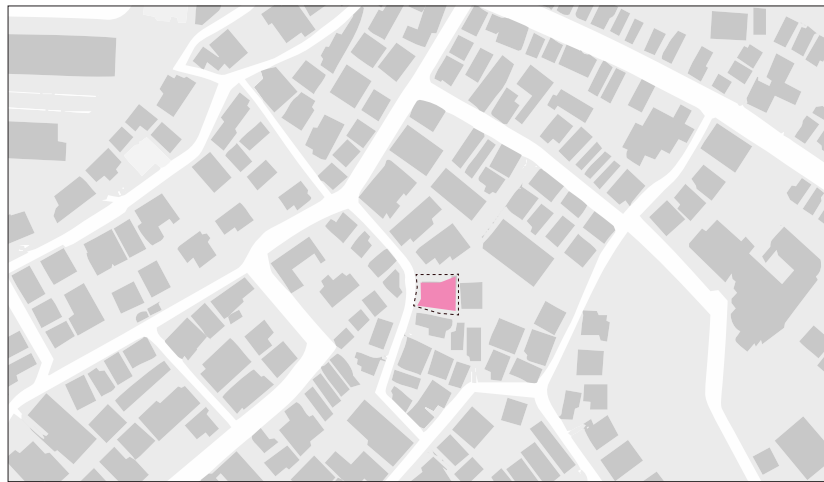
運営：個人

設計：西田司+中川エリカ/オンデザイン

建築 / 延床 / 敷地面積：83.44/152.05/140.61

建蔽率（許容）：59.34（60）

プログラム：スタジオ



参考文献：西田司+中川エリカ (2010) 『ヨコハマアパートメント』, 新建築編集部, 『新建築 2月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 79-91.

## 50 妻有田中文男文庫

地域：過疎地域

用途地域：

改修 / 新築：改修

住所：新潟県十日町市下条 1 丁目 3 2 5

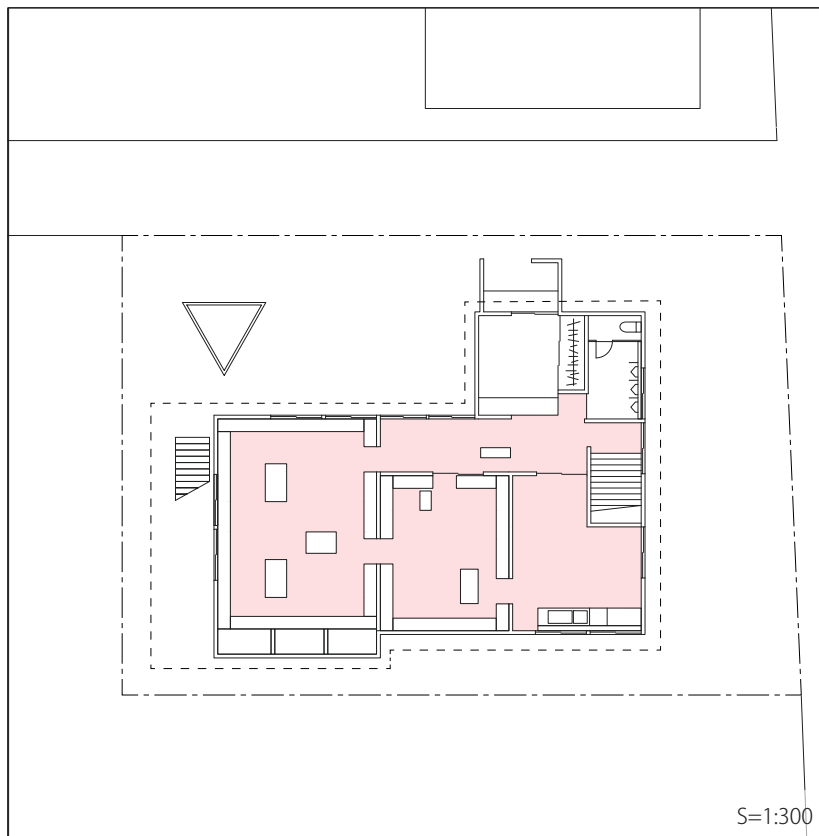
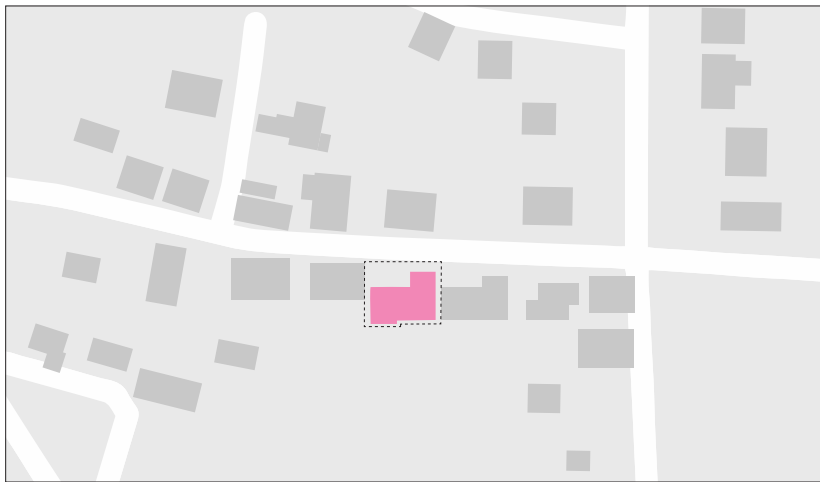
運営：大地の芸術祭事務局

設計：山本想太郎設計アトリエ

建築 / 延床 / 敷地面積：136.45/267.18/302.93

建蔽率：45

プログラム：地域文庫



参考文献：山本想太郎設計アトリエ（2007）『妻有田中文男文庫』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.202-207.



## 51 FLAMME-IGA COMPLEX

地域：都心郊外商業地域

用途地域：準工業地域

改修 / 新築：新築

住所：三重県伊賀市上野茅町2 6 6 8 - 1

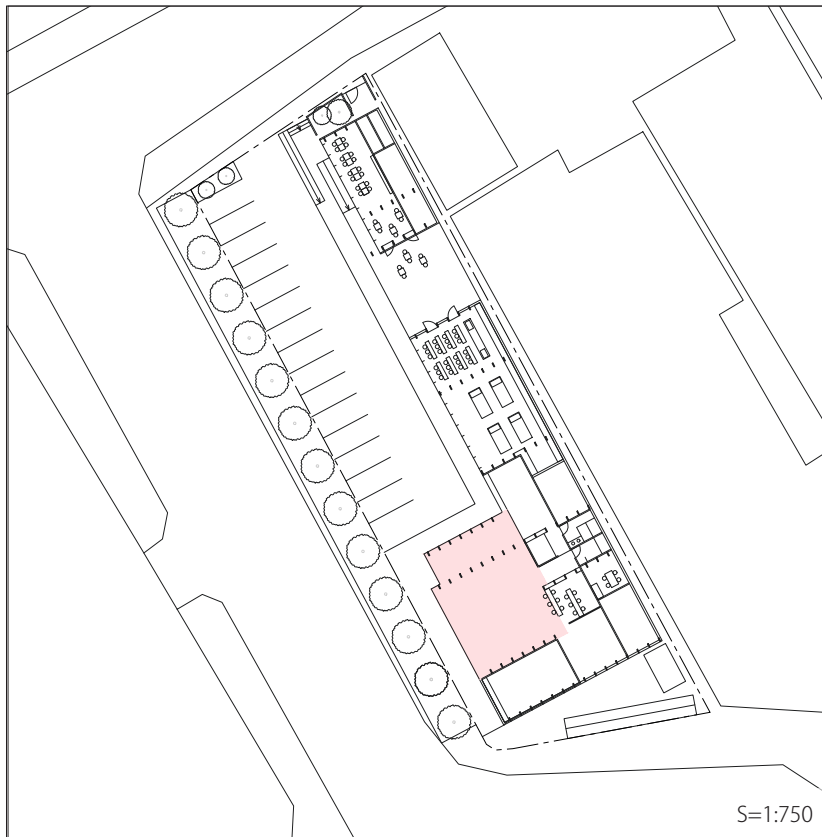
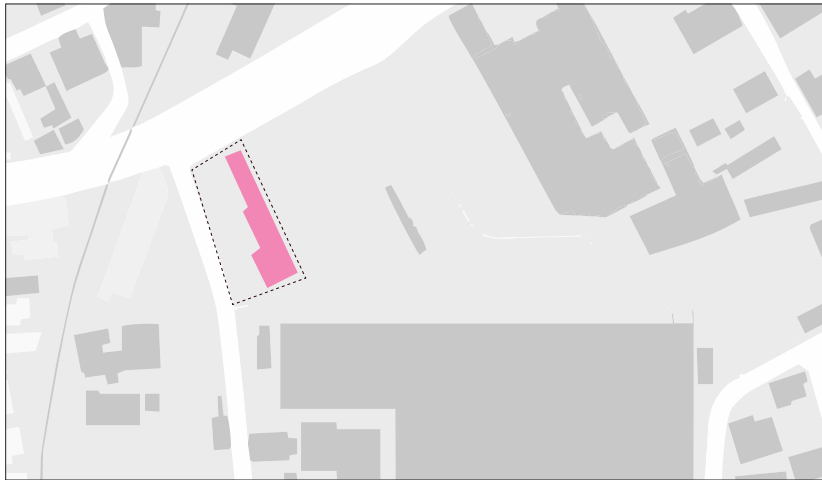
運営：上野ガス

設計：ファイ・フレーム

建築 / 延床 / 敷地面積：670.78/550.44/1416.24

建蔽率：47.37

プログラム：ショールーム



参考文献：ファイ・フレーム (2006)『FLAMME-IGA COMPLEX』, 新建築編集部,『新建築 11 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 202-207.

## 52 よこすか森のアトリエ

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

改修 / 新築：新築

住所：神奈川県横須賀市平作 6-14-17

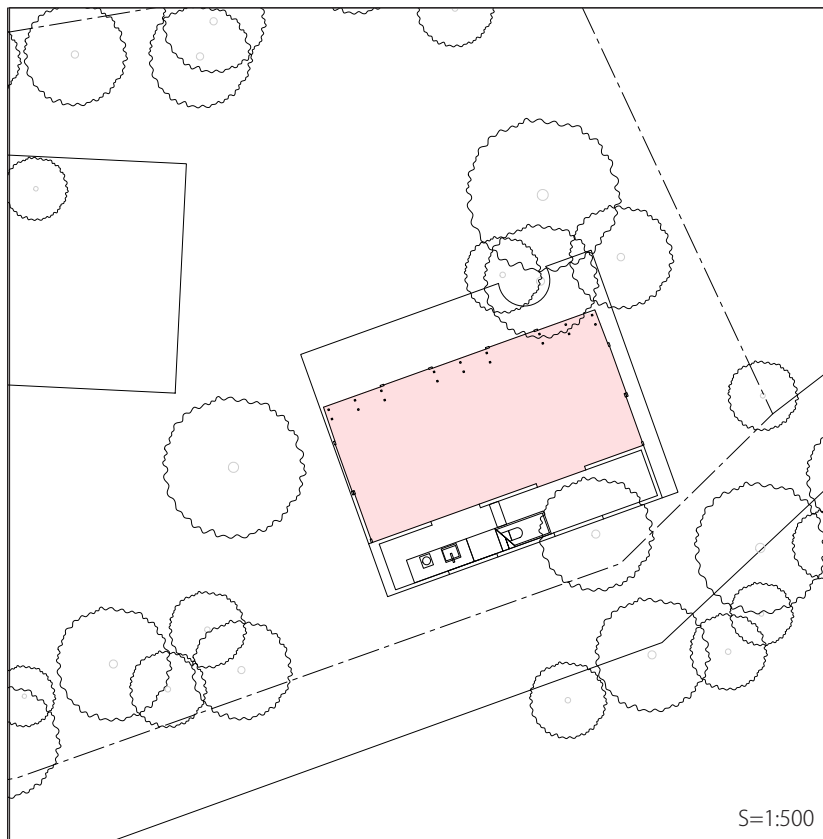
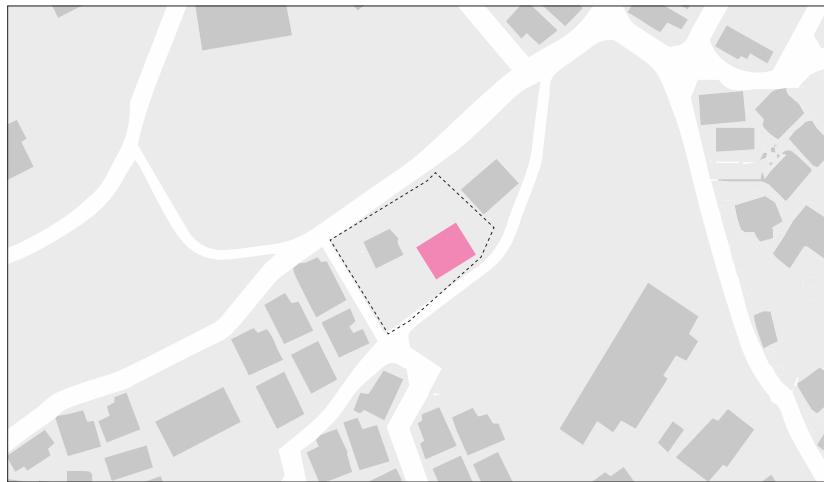
運営：個人

設計：増田実建築研究所

建築 / 延床 / 敷地面積：61.32/61.43/511.2

建蔽率：12(60)

プログラム：アトリエ



参考文献：増田実建築研究所 (2003)『よこすか森のアトリエ』, 新建築編集部,『新建築 5月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.151-155.

### 53 春風館

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種住居地域

改修 / 新築：新築

住所：大阪府堺市陶器北 693-3

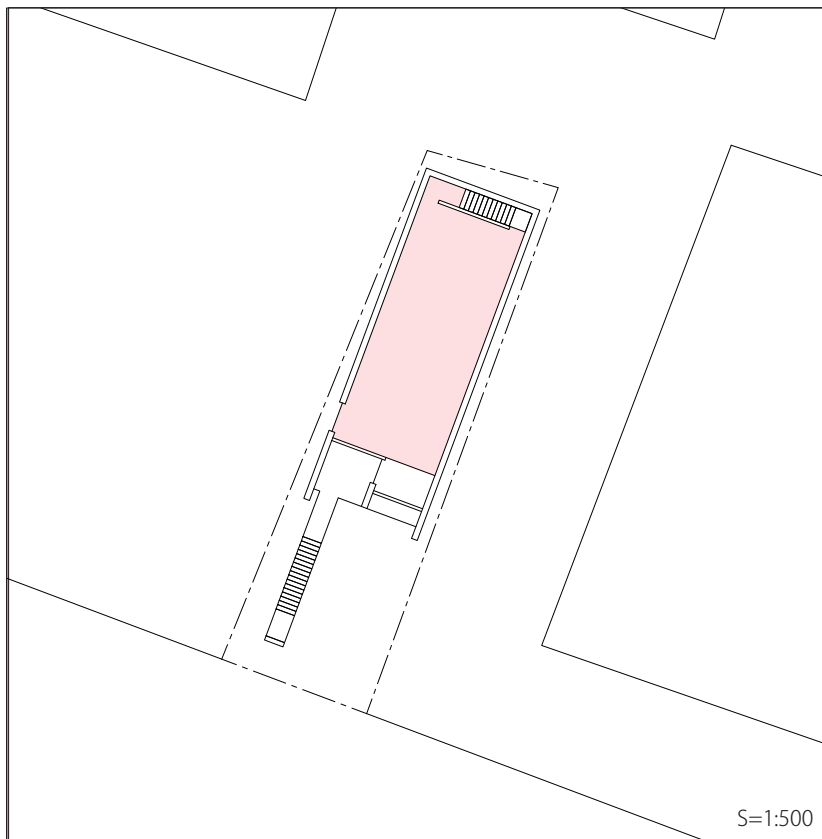
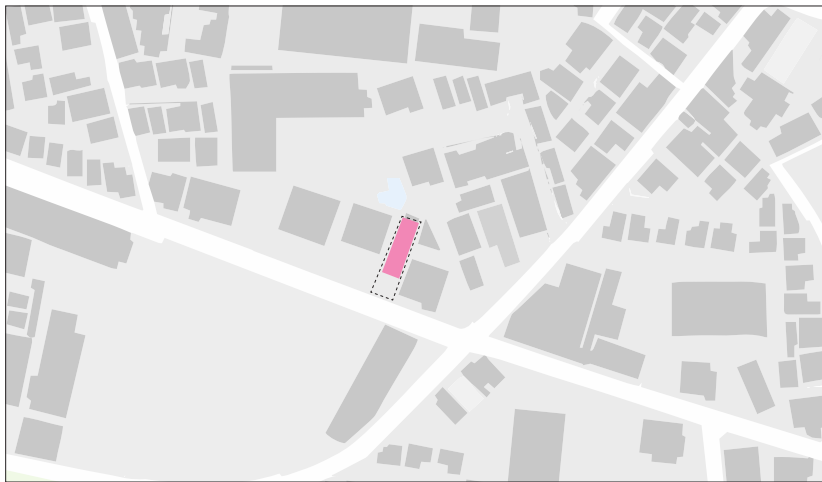
運営：個人

設計：二井清治建築研究所

建築 / 延床 / 敷地面積：109.79/199.78/213.22

建蔽率：51.49(60)

プログラム：ショールーム



参考文献：二井清治建築研究所 (2002) 『春風館』，新建築編集部，『新建築 2 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.186-189.

## 54 牛久のギャラリー

地域：郊外住宅地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：新築

住所：茨城県牛久市南2丁目7-60

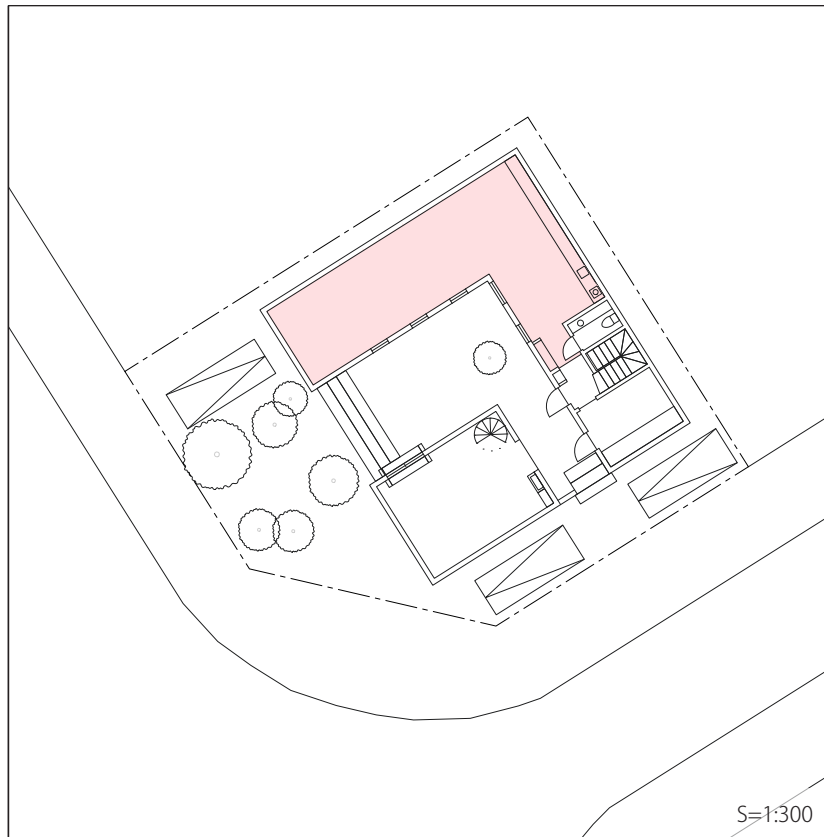
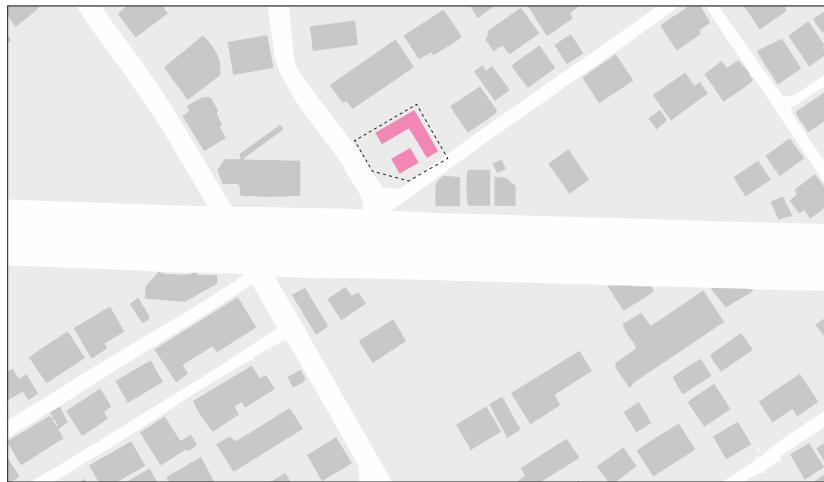
運営：個人

設計：堀部安嗣

建築 / 延床 / 敷地面積：119.23/180.5/284.34

建蔽率：41.9(50)

プログラム：ギャラリー併用住宅



参考文献：堀部安嗣 (2001) 「牛久のギャラリー」，新建築編集部，『新建築 8 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.142-151.

## 55 みんなの家

地域：過疎地域

用途地域：区域外無指定地域

改修 / 新築：新築

住所：鹿児島県牧園町宿窪田 939

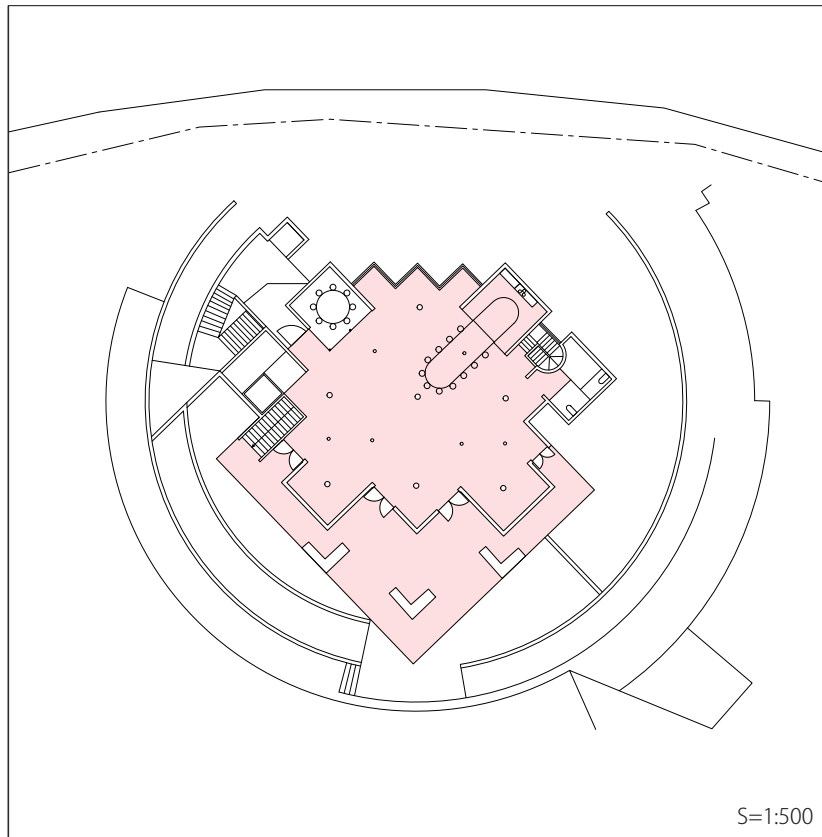
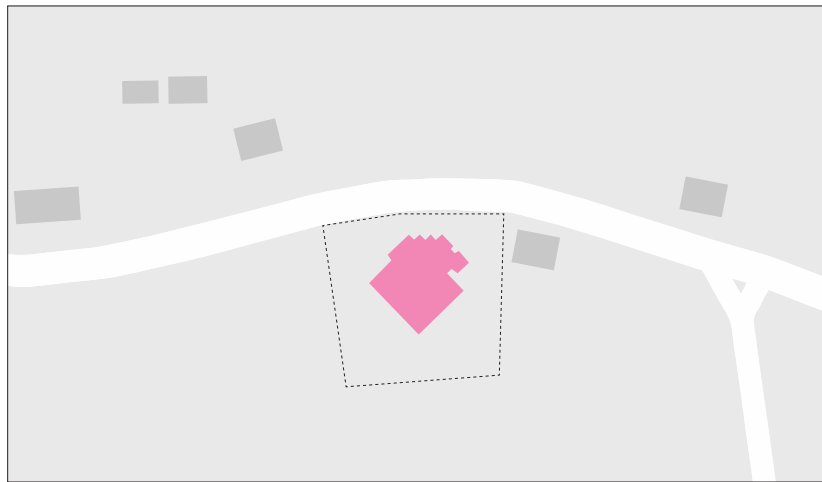
運営：個人

設計：三橋満・LAND 建築事務所

建築 / 延床 / 敷地面積：453.14/494.03/1168.3

建蔽率：38.78(70)

プログラム：集会施設



参考文献：三橋満・LAND 建築事務所 (2001) 『みんなの家』，新建築編集部，『新建築 5 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.124-129.

### 56 旧富士製氷工場コンバージョン

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種住居専用地域

改修 / 新築：改修

住所：山梨県富士吉田市富士見 1 丁目 1-5

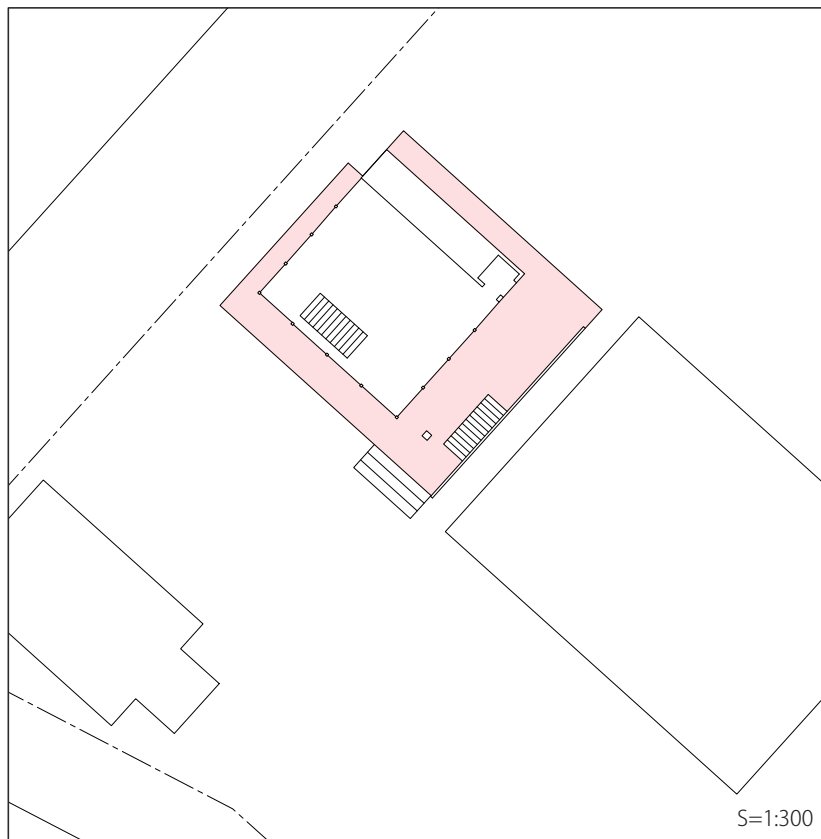
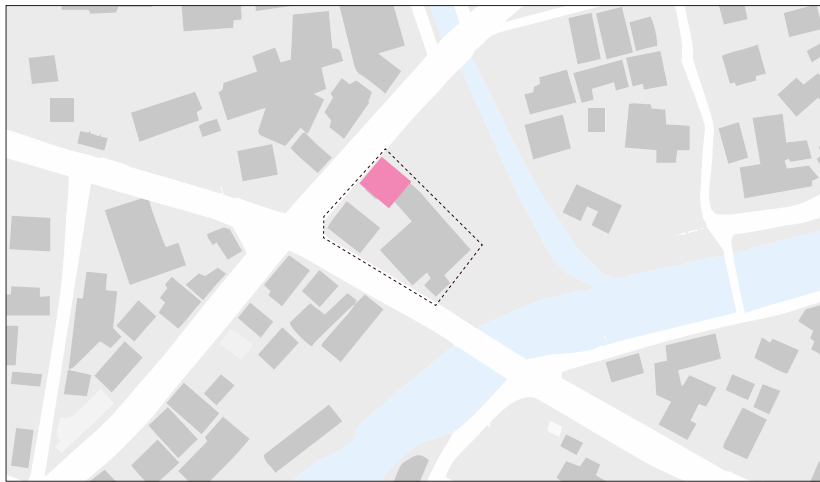
運営：富士吉田みんなの貯金箱財団

設計：東京理科大学坂牛研究室

建築 / 延床 / 敷地面積：92.4/219.4/1539.5

建蔽率（許容）：6

プログラム：コミュニティキッチン



参考文献：東京理科大学坂牛研究室（2016）『旧富士製氷工場コンバージョン』，新建築編集部，『新建築 9 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.122-127.

## 57 酒蔵の文化施設への改修

地域：過疎地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：山梨県西八代郡市川三郷町市川大門 1170

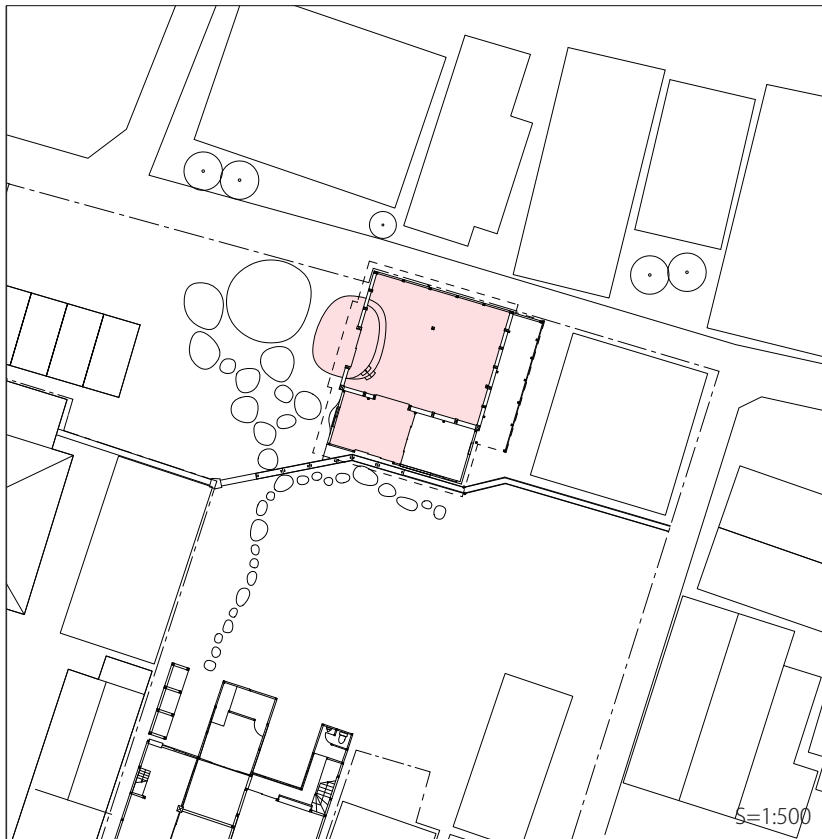
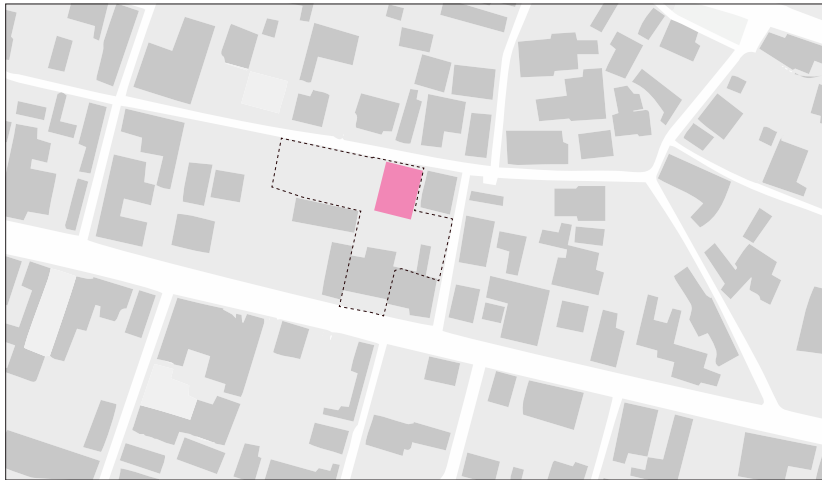
運営：市川マップの会

設計：慶應義塾大学ホルヘアルマザン研究室

建築 / 延床 / 敷地面積：145/145/639

建蔽率：21(80)

プログラム：文化施設



参考文献：慶應義塾大学ホルヘアルマザン研究室(2016)『酒造の文化施設への改修』, トウキョウ建築コレクション 2016 実行委員会, 『トウキョウ建築コレクション』, 株式会社建築資料研究社, 第一版, pp. 304-311.

## 58 シェアフラット馬場川

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：群馬県前橋市千代田町 2-12-1

運営：前橋まちなか居住有限責任事業組合

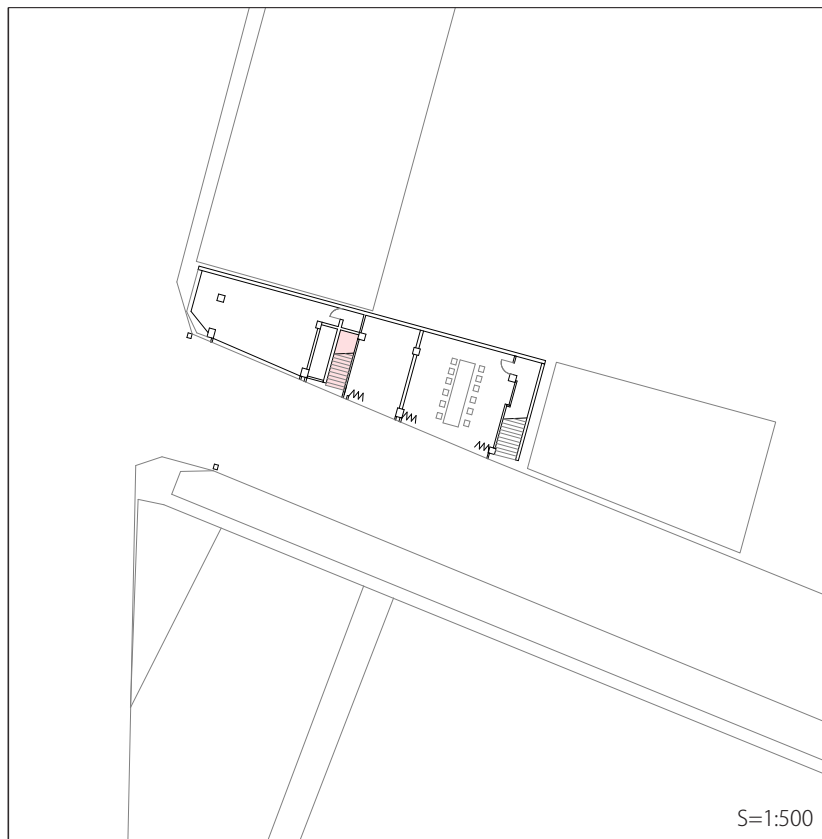
設計：石田敏明建築設計事務所

＋タノデザインラボ

建築 / 延床 / 敷地面積：153.13/443.21/170.37

建蔽率（許容）：89.88（90）

プログラム：寄宿舍・サロン・店舗



参考文献：前橋工科大学石田敏明研究室（2014）『シェアフラット馬場川』，新建築編集部，『新建築 8 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 76-83.



### 59 日ノ出スタジオ

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：神奈川県横浜市中区日ノ出町 2-145

運営：黄金町エリアマネジメントセンター

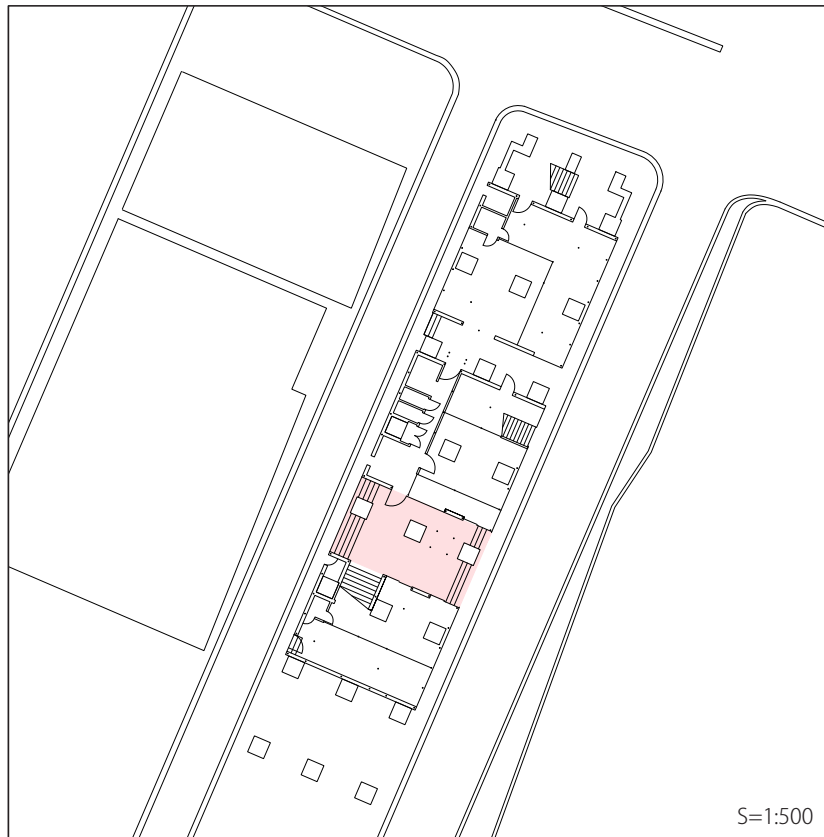
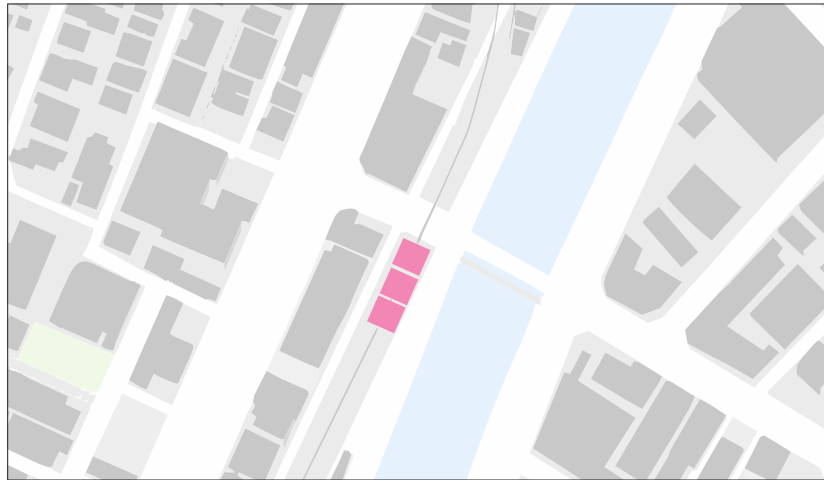
設計：横浜国立大学大学院建築都市スクール

Y-GSA 飯田善彦スタジオ

建築 / 延床 / 敷地面積：225.88/212.07/385.17

建蔽率（許容）：58.644（80）

プログラム：展示場



参考文献：横浜国立大学大学院 Y-GSA 飯田善彦スタジオ (2008)『日ノ出スタジオ』, 新建築編集部,『新建築 11 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 172-175.

## 60 黄金スタジオ

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：神奈川県横浜市中区黄金町 2-7

運営：黄金町エリアマネジメントセンター

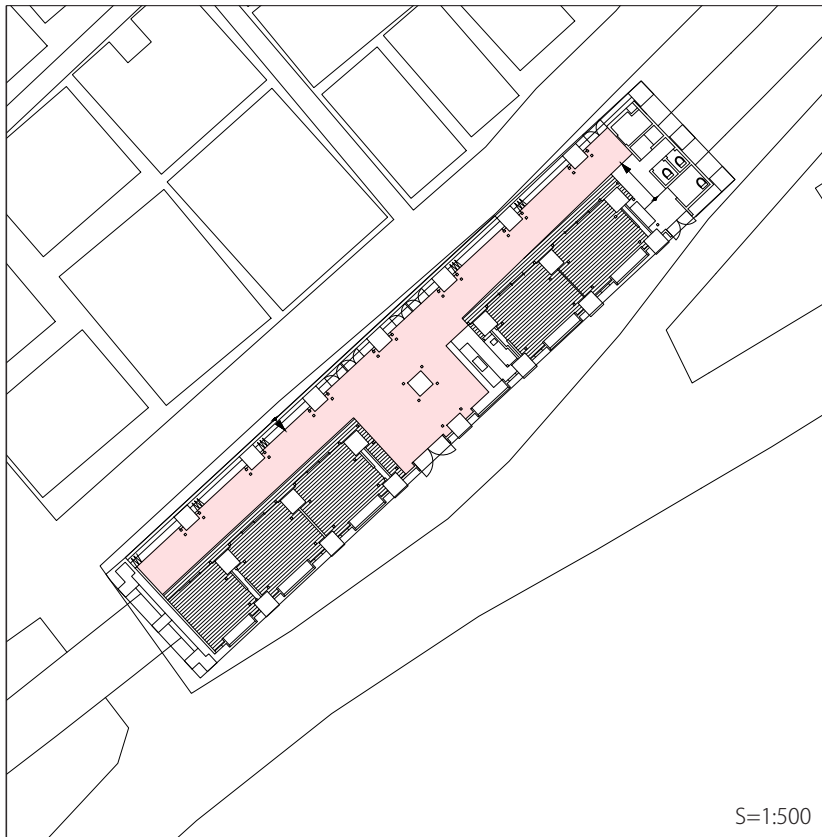
設計：神奈川大学曾我部昌史研究室

＋マチデザイン

建築 / 延床 / 敷地面積：299.87/299.87/425.01

建蔽率（許容）：70.55(80)

プログラム：展示場



参考文献：神奈川大学曾我部昌史研究室＋マチデザイン (2008) 『黄金スタジオ』，新建築編集部，『新建築 11 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 168-171.



## A. シェアフラット馬場川

### A シェアフラット馬場川

地域：都心郊外商業地域

用途地域：商業地域

改修 / 新築：改修

住所：群馬県前橋市千代田町 2-12-1

運営：前橋まちなか居住有限責任事業組合

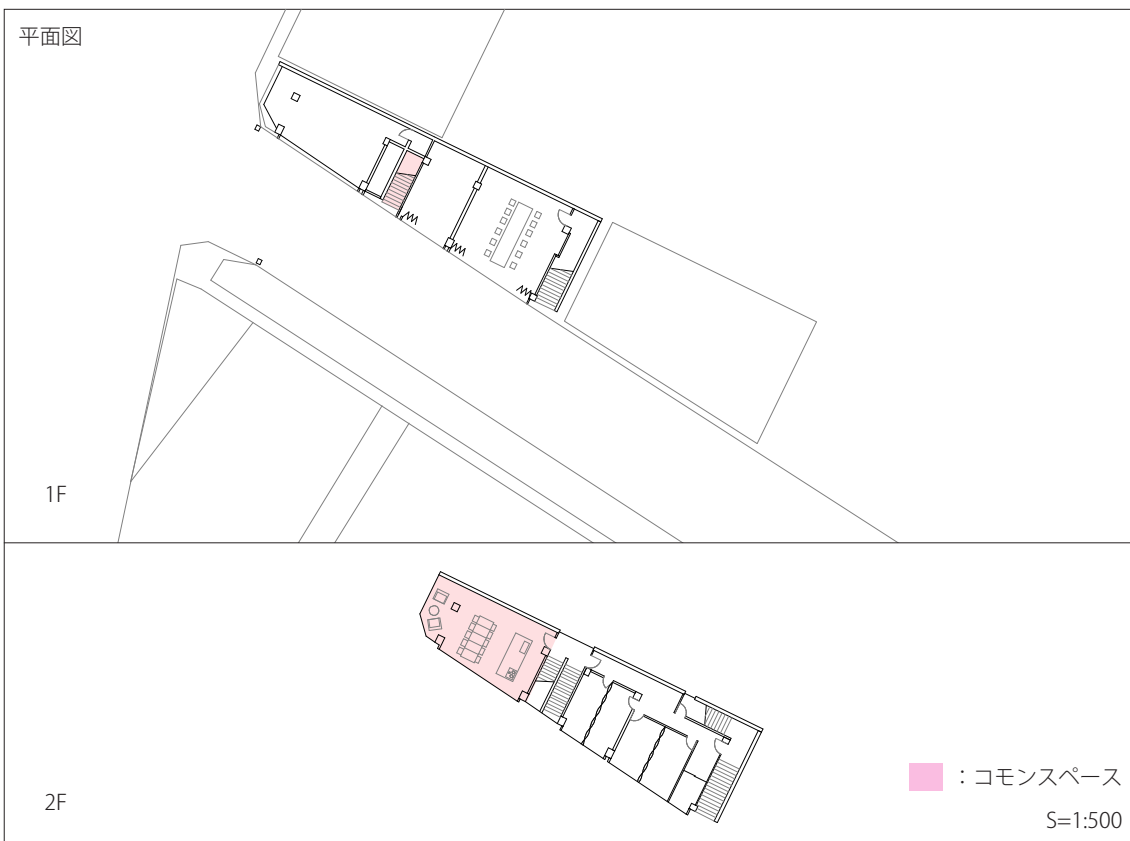
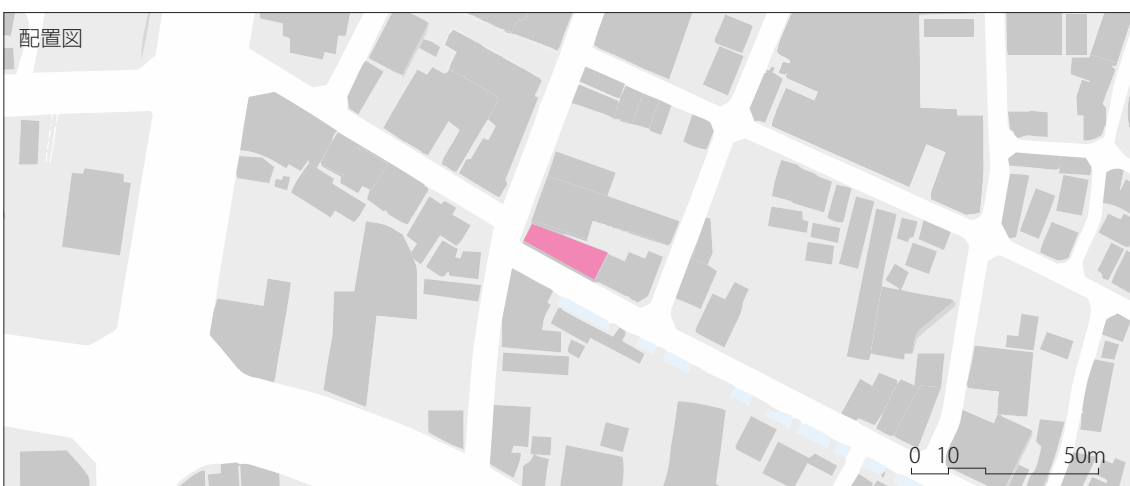
設計：石田敏明建築設計事務所

+タノデザインラボ

建築 / 延床 / 敷地面積：153.13/443.21/170.37

建蔽率（許容）：89.88（90）

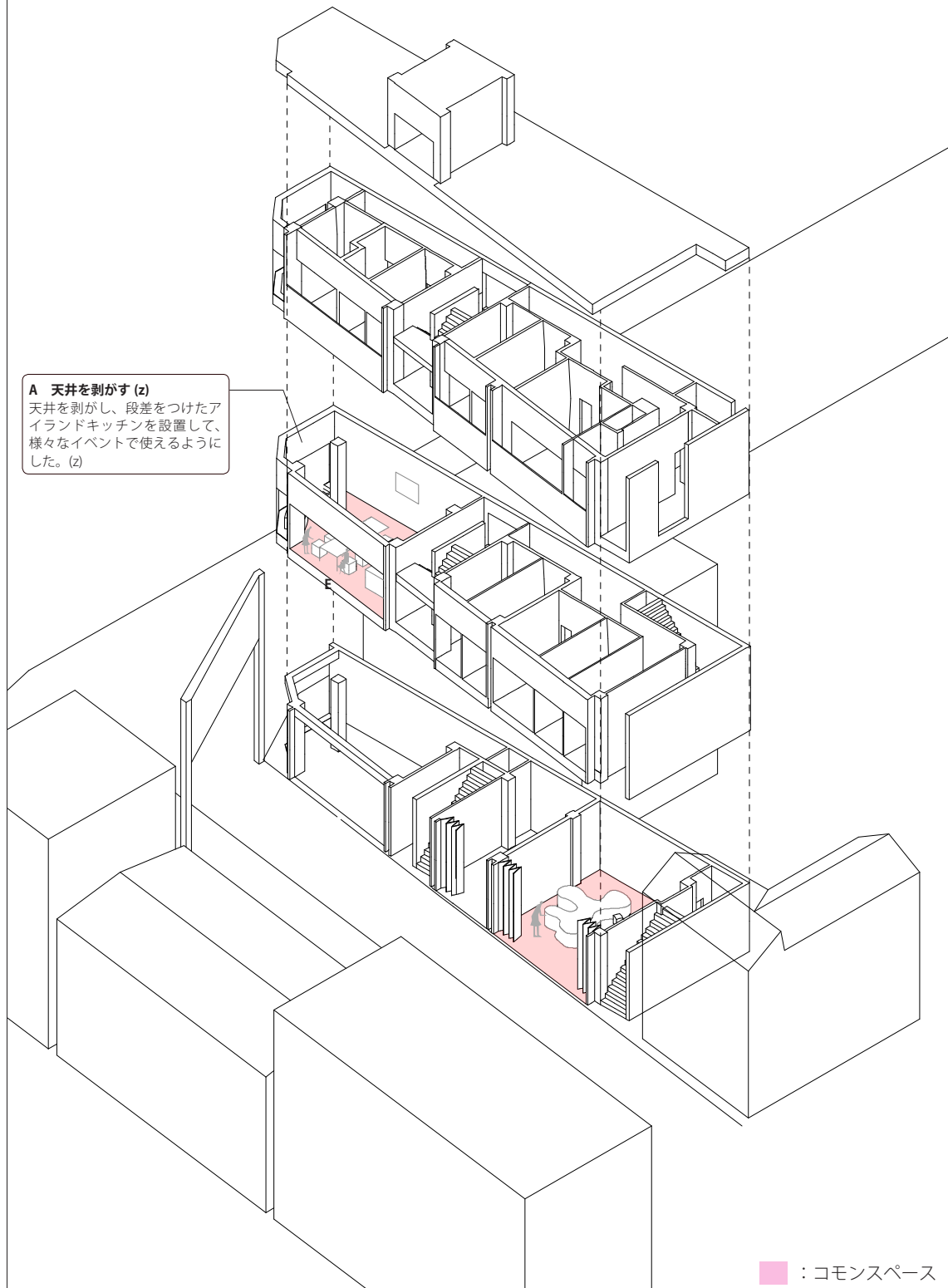
プログラム：寄宿舎・サロン・店舗



写真：著者撮影（2017.11）／参考文献：前橋工科大学石田敏明研究室（2014）『シェアフラット馬場川』，新建築編集部，『新建築 8 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 76-83.

## A. シェアフラット馬場川

### アイソメ図



参考文献：前橋工科大学石田敏明研究室 (2014)『シェアフラット馬場川』，新建築編集部，『新建築 8 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 76-83.

## B. CASACO

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種住居専用地域

住所：神奈川県横浜市西区東ヶ丘 23-1

改修 / 新築：改修

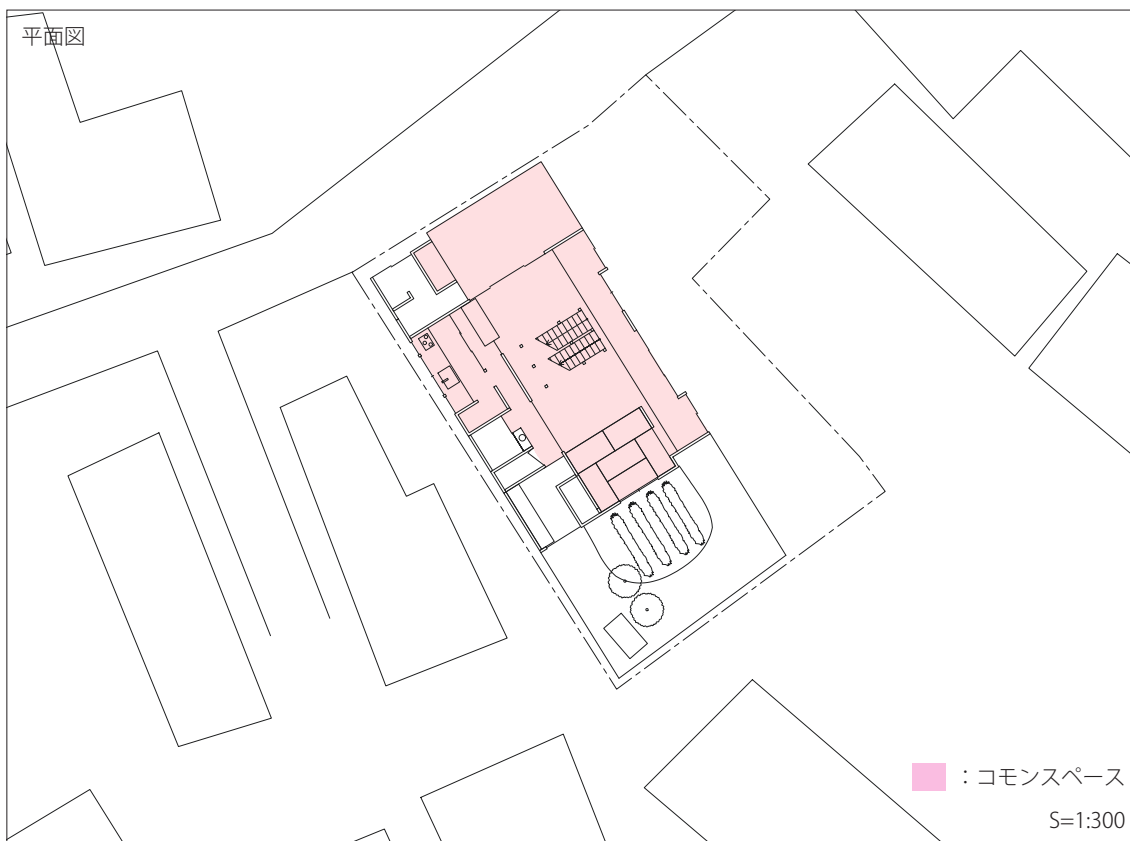
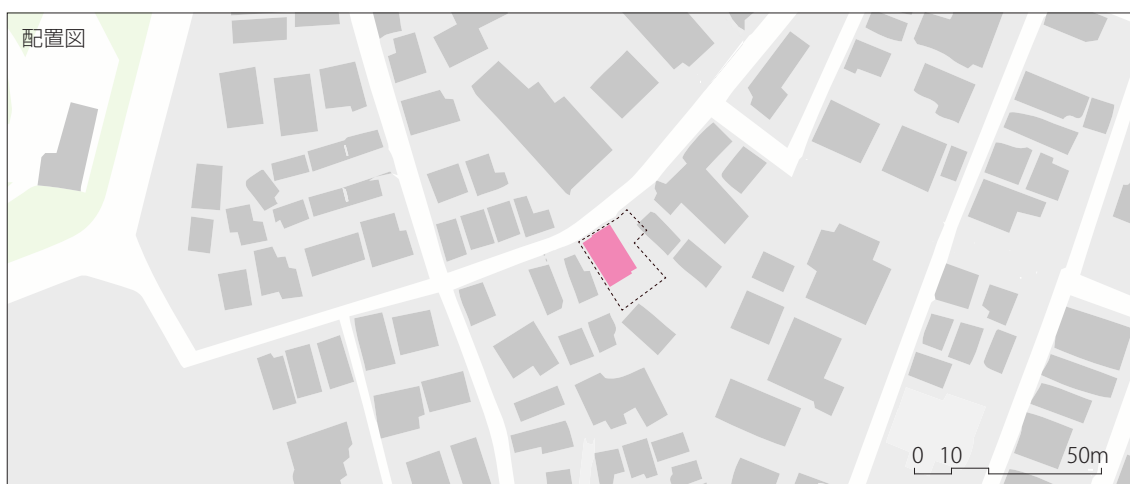
運営：カサコプロジェクト実行委員会

設計：tomito architecture

建築 / 延床 / 敷地面積：97.98/157.73/165

建蔽率（許容）：59（60）

プログラム：シェアスペース



写真：著者撮影（2017.10）／参考文献：tomito architecture（2016）『CASACO』，新建築編集部，『新建築 7 月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp. 90-97.

## B. CASACO

### アイソメ図

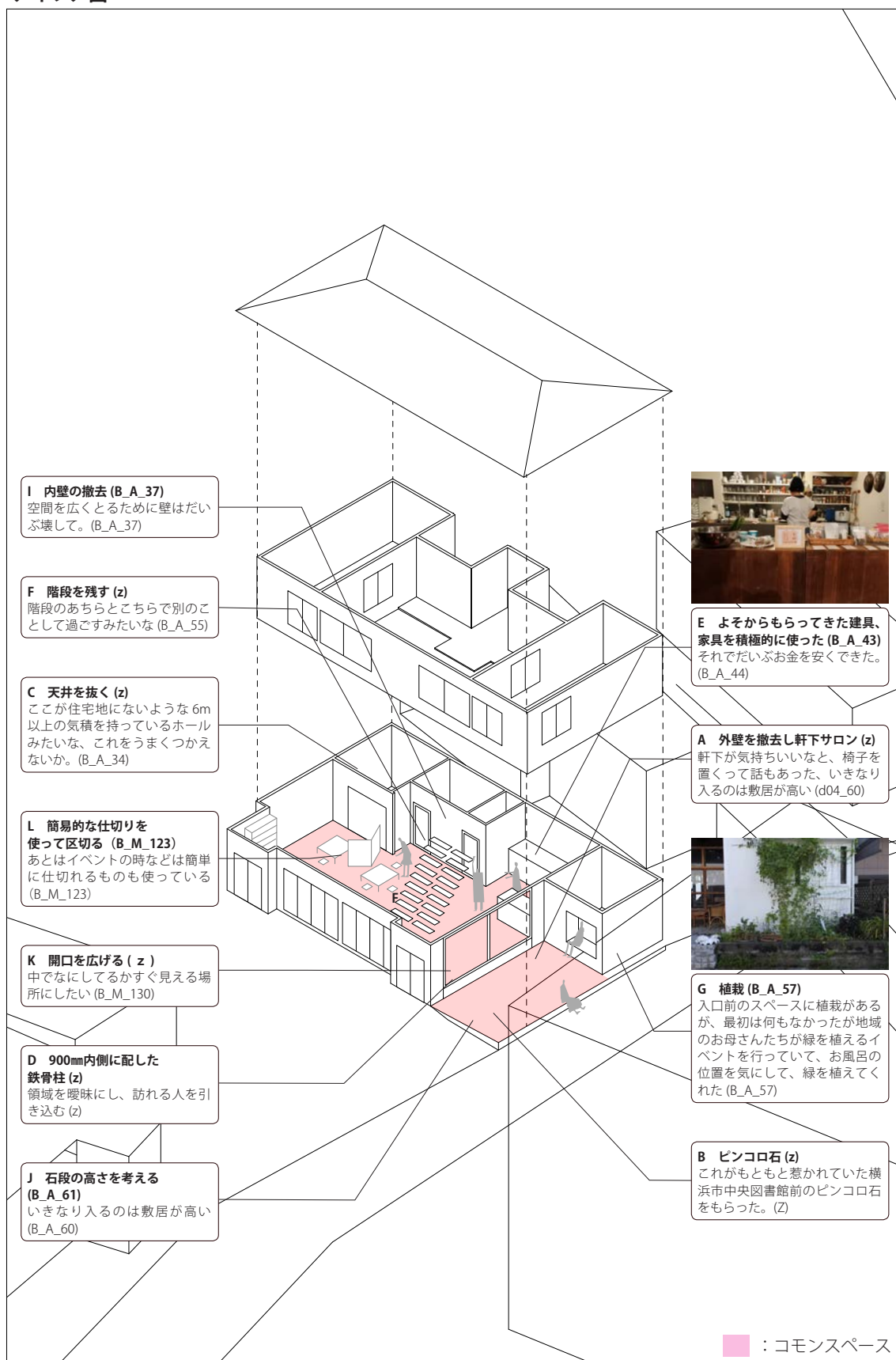


写真: 著者撮影 (2017.10) / 参考文献: tomito architecture (2016) 『CASACO』, 新建築編集部, 『新建築 7月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 90-97.

## C. ユウトヴィレッジ南長崎

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

改修／新築：改修

住所：東京都豊島区南長崎 2-22-16

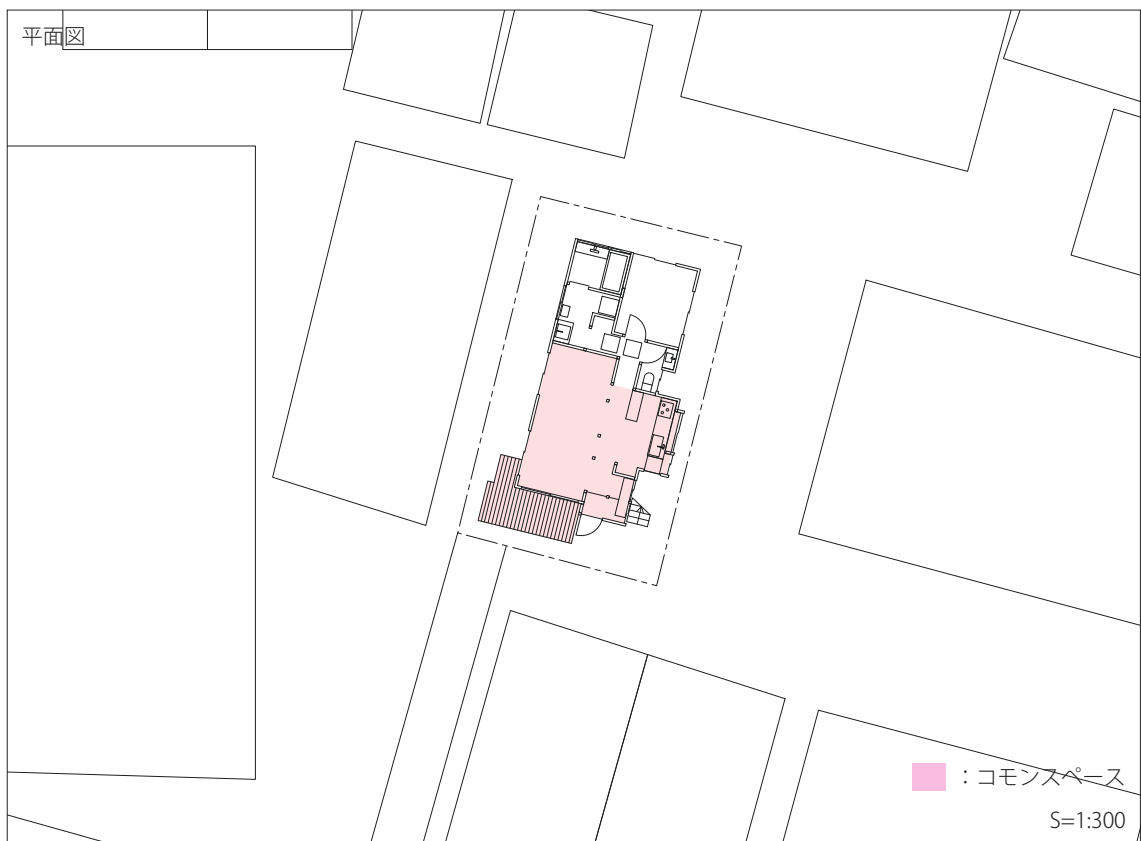
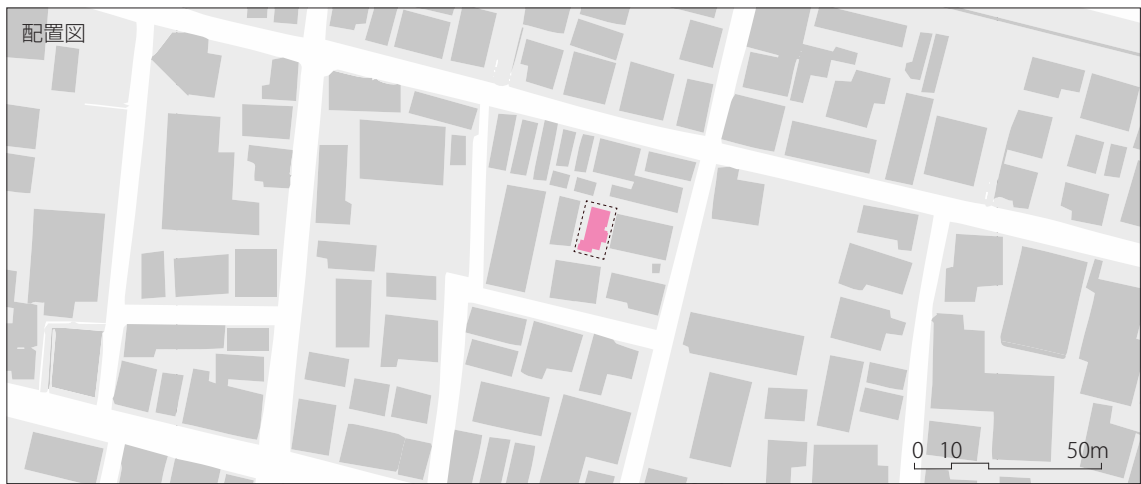
運営：個人

設計：YTT

建築／延床／敷地面積：53.06/91.29/108.25

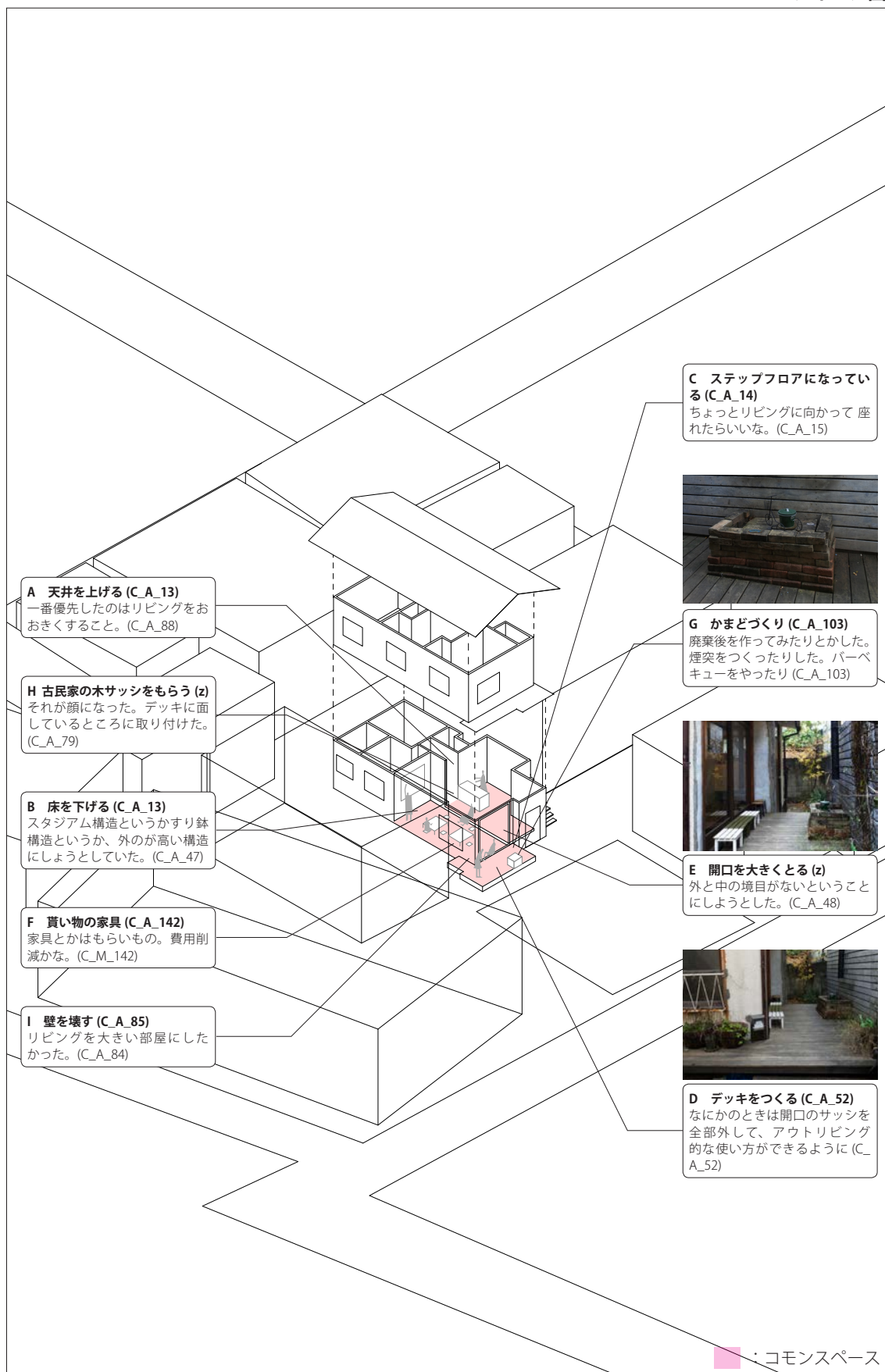
建蔽率：49.01

プログラム：シェアハウス



写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：YTT (2016)『ユウトヴィレッジ南長崎』, 新建築編集部,『新建築 2月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 84-89.





写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：YTT (2016)『ユウトヴィレッジ南長崎』, 新建築編集部, 『新建築 2月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 84-89.

## D. HAGISO

地域：都心住宅地域

用途地域：第一種住居地域

住所：東京都台東区谷中 3-10-25

改修 / 新築：改修

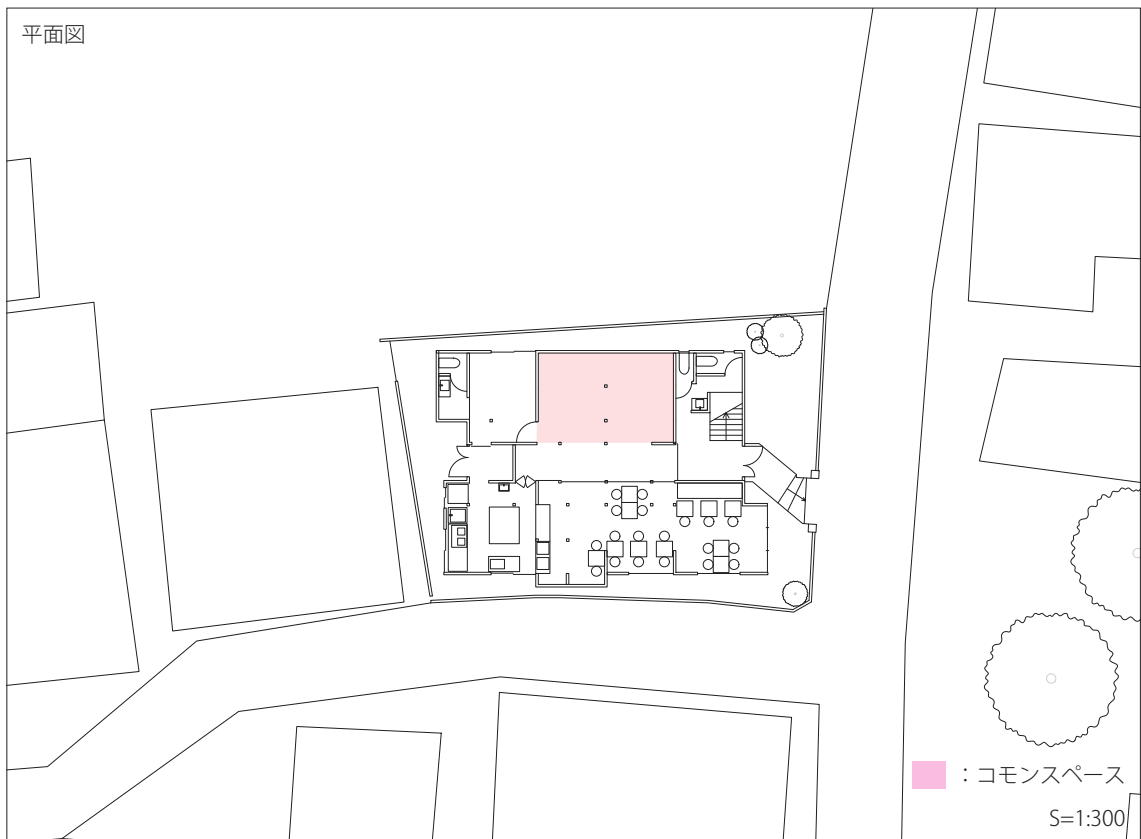
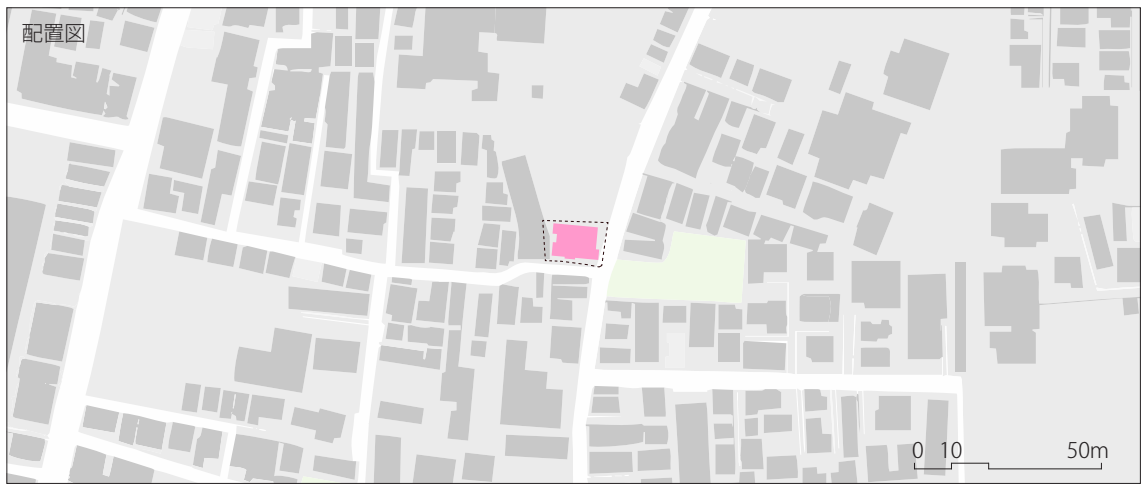
運営：個人

設計：宮崎晃吉 / HAGI STUDIO

建築 / 延床 / 敷地面積：106.39/187.52/177.35

建蔽率（許容）：59.98（60）

プログラム：飲食 / ギャラリー



写真：著者撮影（2017.12）／参考文献：宮崎晃吉／HAGI STUDIO（2016）『HAGISO / hanare（丸越荘）』，新建築編集部，『新建築 1月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.114-121.

## D. HAGISO

### アイソメ図

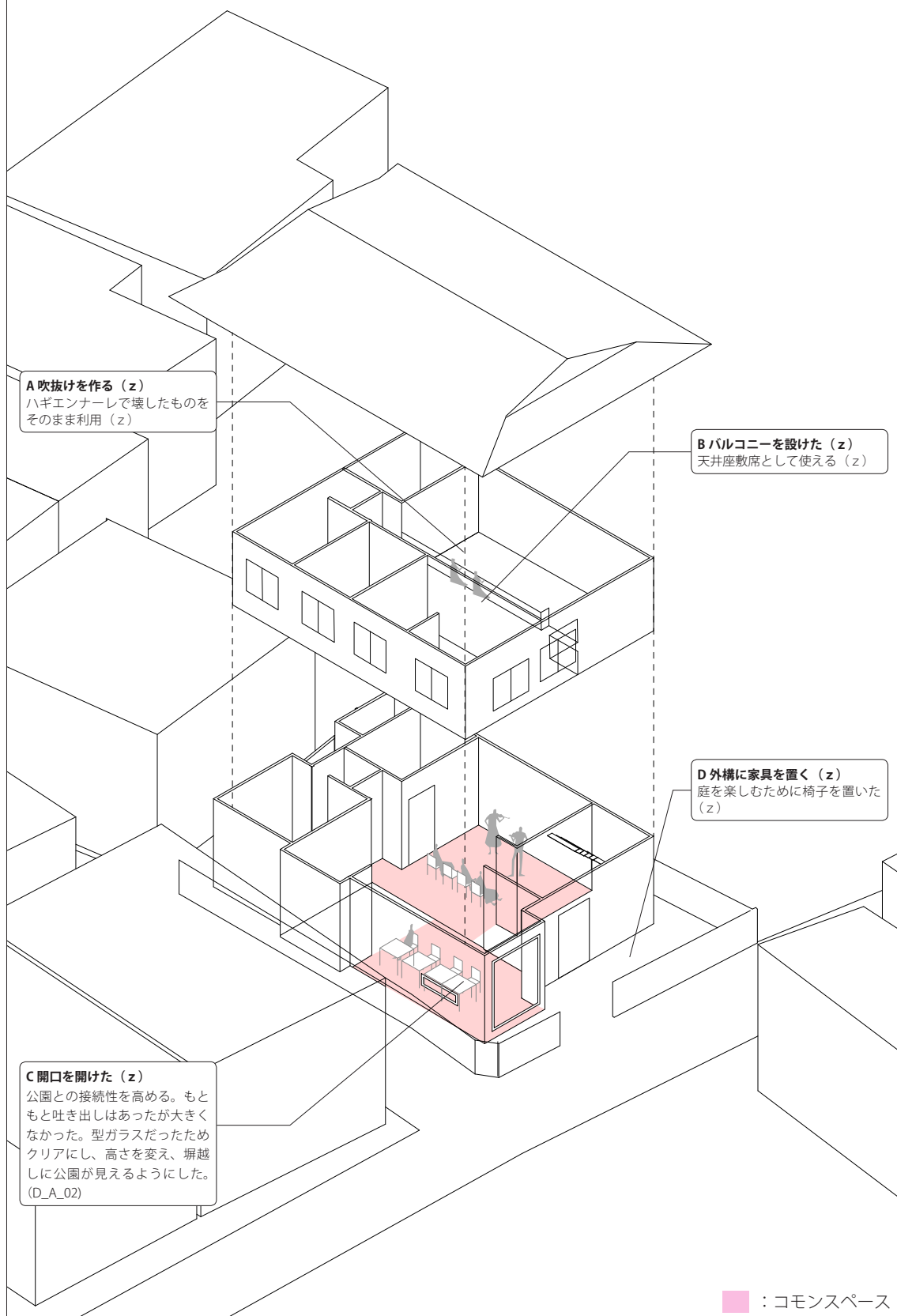


写真: 著者撮影 (2017.12) / 参考文献: 宮崎晃吉 / HAGI STUDIO (2016)『HAGISO / hanare (丸越荘)』, 新建築編集部,『新建築 1月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.114-121.

## E. Atelier ju-tou + TC ビル

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種中高層住居専用地域

住所：茨城県取手市井野1丁目7-10

改修／新築：改修

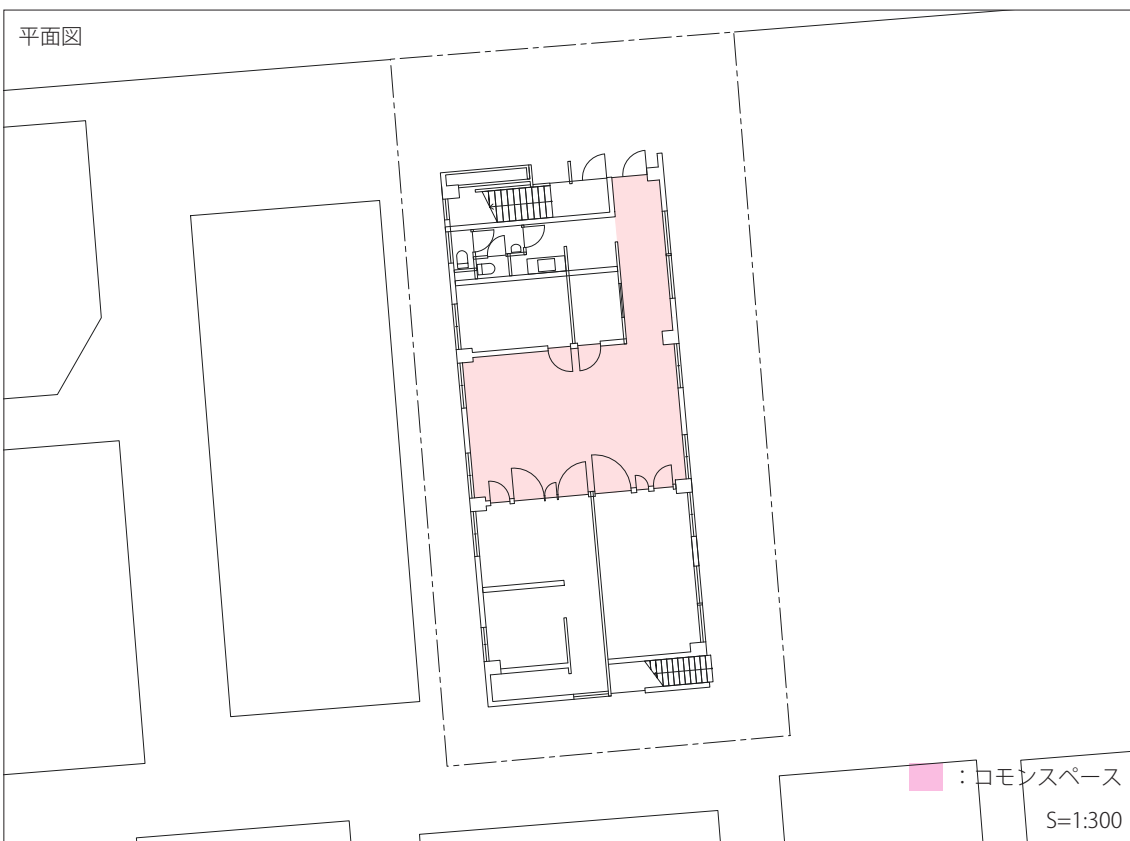
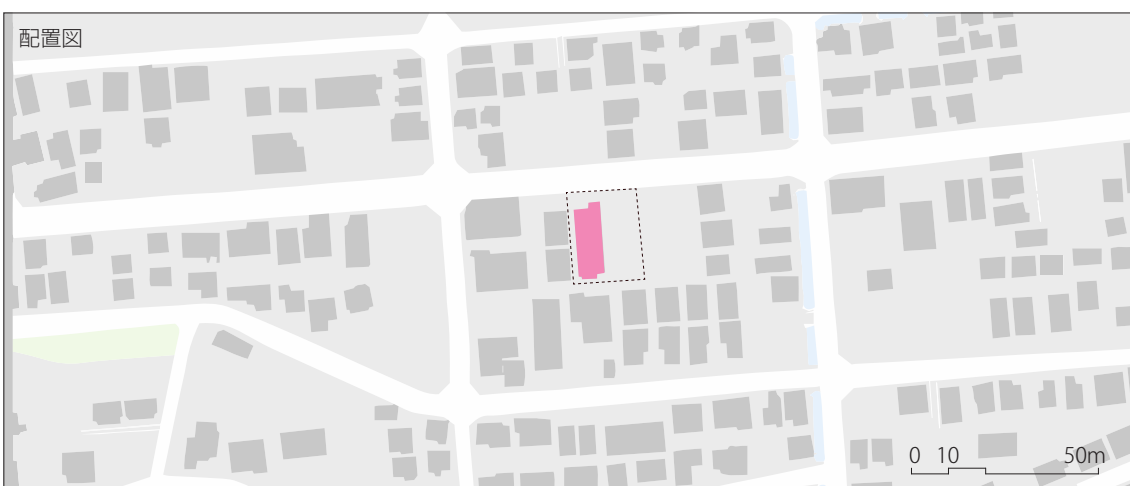
運営：OpenA＋取手アートプロジェクト  
＋ ARCO

設計：青木公隆 / ARCO- 斎藤隆太郎 / DOG

建築／延床／敷地面積：172.12/157.7

建蔽率（許容）：

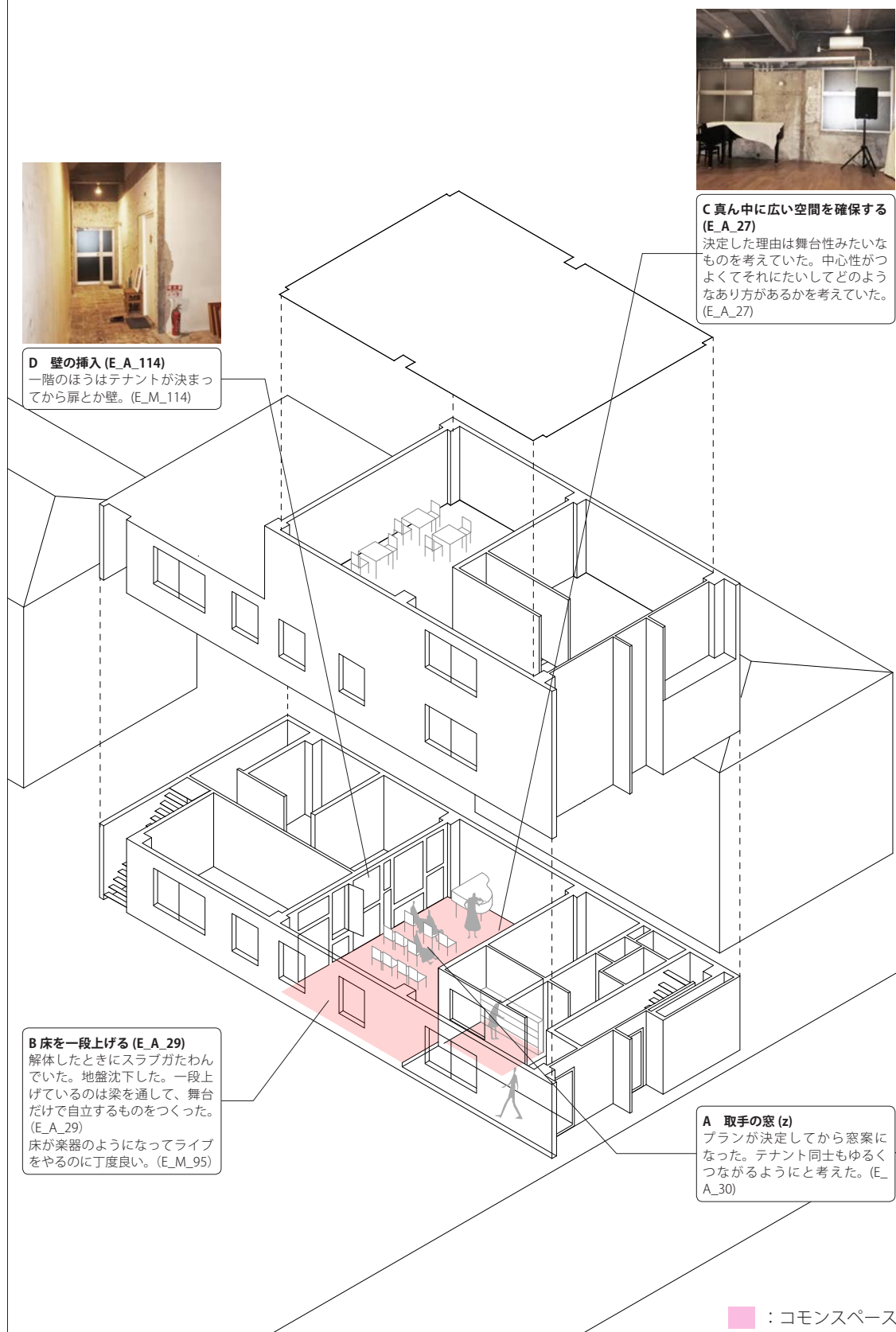
プログラム：事務所



写真：著者撮影（2017.11）／参考文献：青木公隆 / ARCO- 斎藤隆太郎 / DOG（2015）『Atelier ju-tou + TC ビル』、新建築編集部、『新建築 8 月号』、株式会社新建築社、第一版、大日本印刷株式会社、pp. 142-147.

## E. Atelier ju-tou + TC ビル

### アイソメ図



写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：青木公隆 / ARCO- 斎藤隆太郎 / DOG (2015)『Atelier ju-tou + TC ビル』, 新建築編集部, 『新建築 8 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp. 142-147.

## F. 長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ

地域：郊外住宅地域

用途地域：第一種住居地域

住所：富山県高岡市和田1 6

改修 / 新築：改修

運営：個人

設計：PLANET Creations 関谷昌人

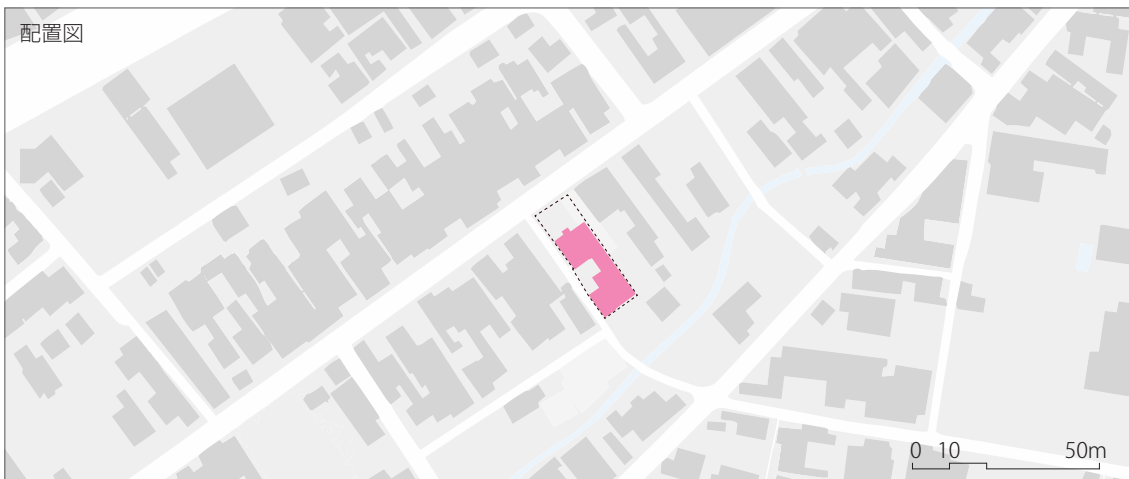
建築 / 延床 / 敷地面積：334.08/334.08/606

建蔽率（許容）：55.12

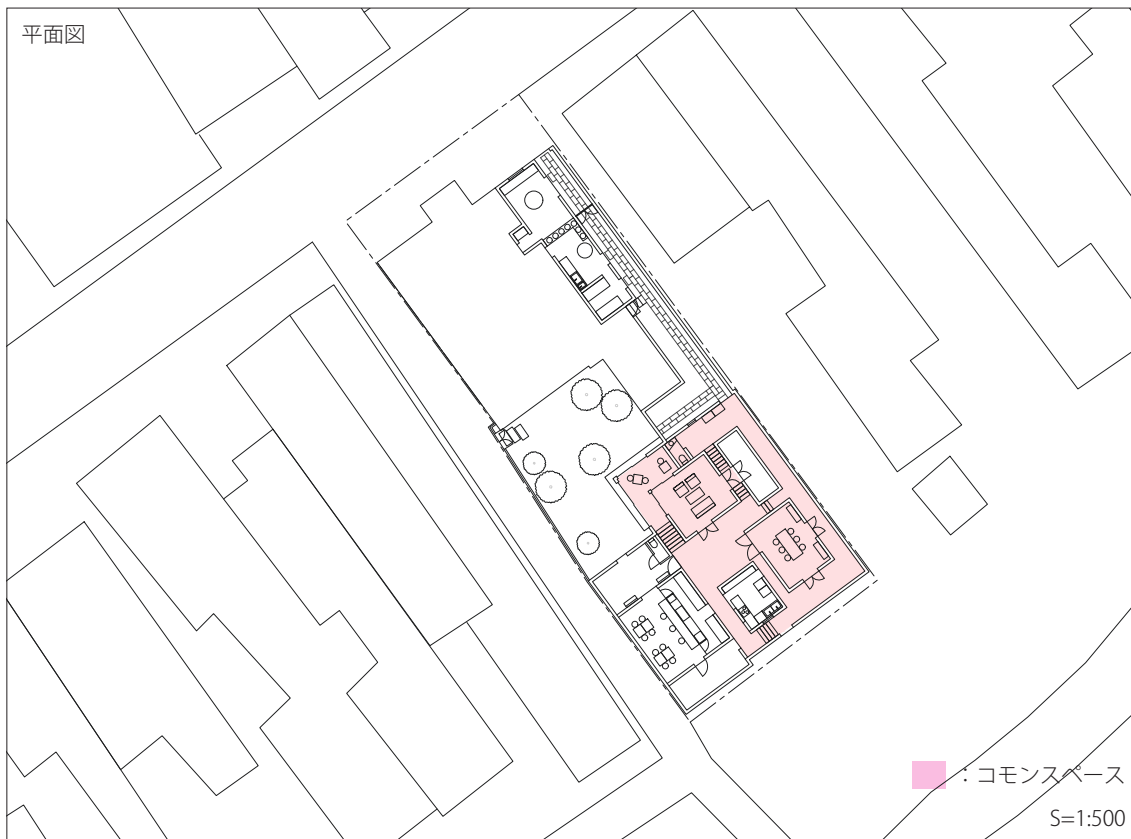
プログラム：カフェ・多目的ホール



配置図



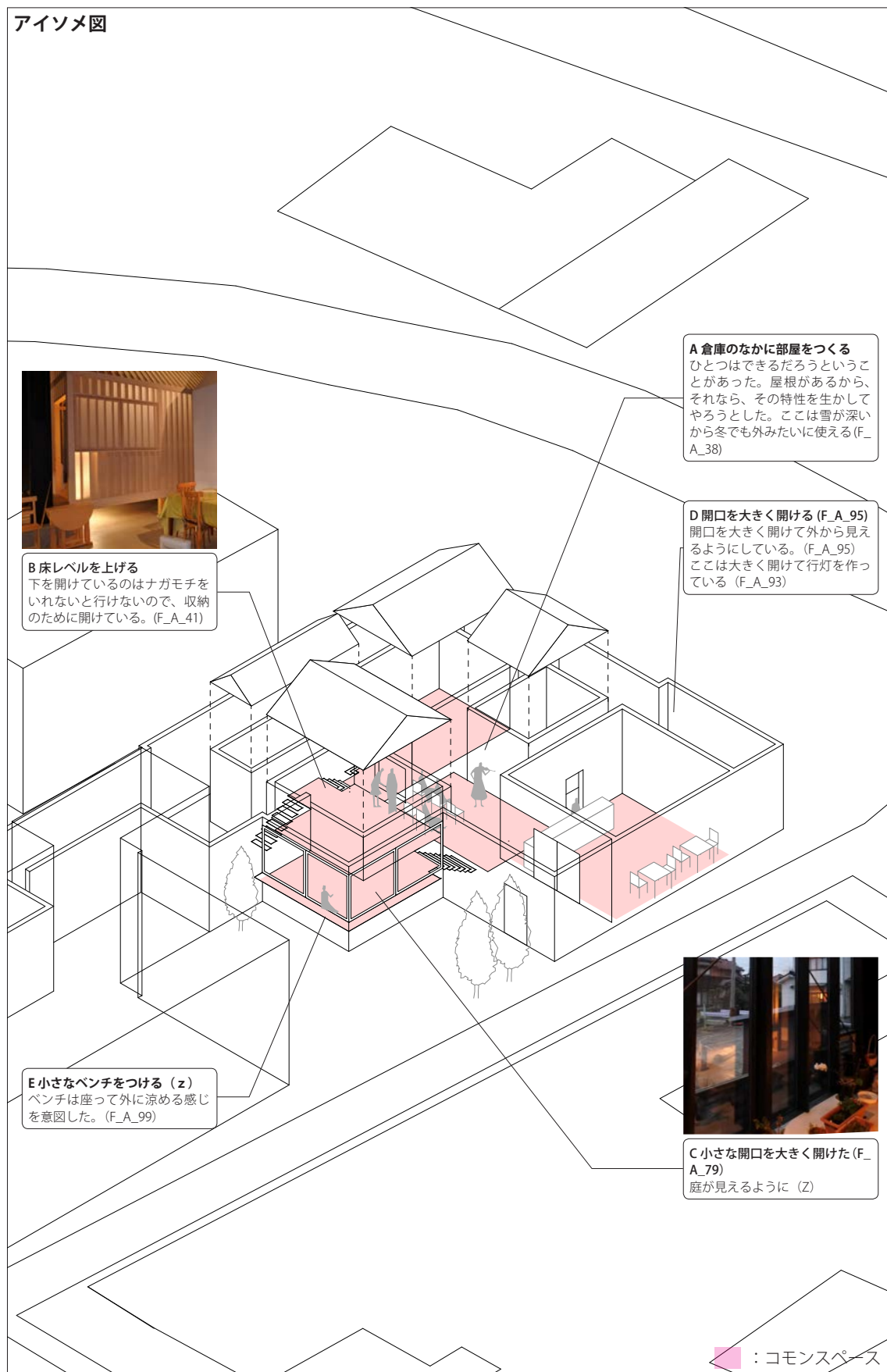
平面図



写真：著者撮影（2017.11）／参考文献：関谷昌人（2015）『長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ』，新建築編集部，『新建築 3月号』，株式会社新建築社，第一版，大日本印刷株式会社，pp.112-118.

## F. 長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ

### アイソメ図



写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：関谷昌人 (2015) 『長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ』, 新建築編集部, 『新建築 3月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.112-118.



## G. あわくら温泉元湯

地域：過疎地域

用途地域：都市計画区域外

改修 / 新築：改修

住所：岡山県英田郡西栗倉村 2050

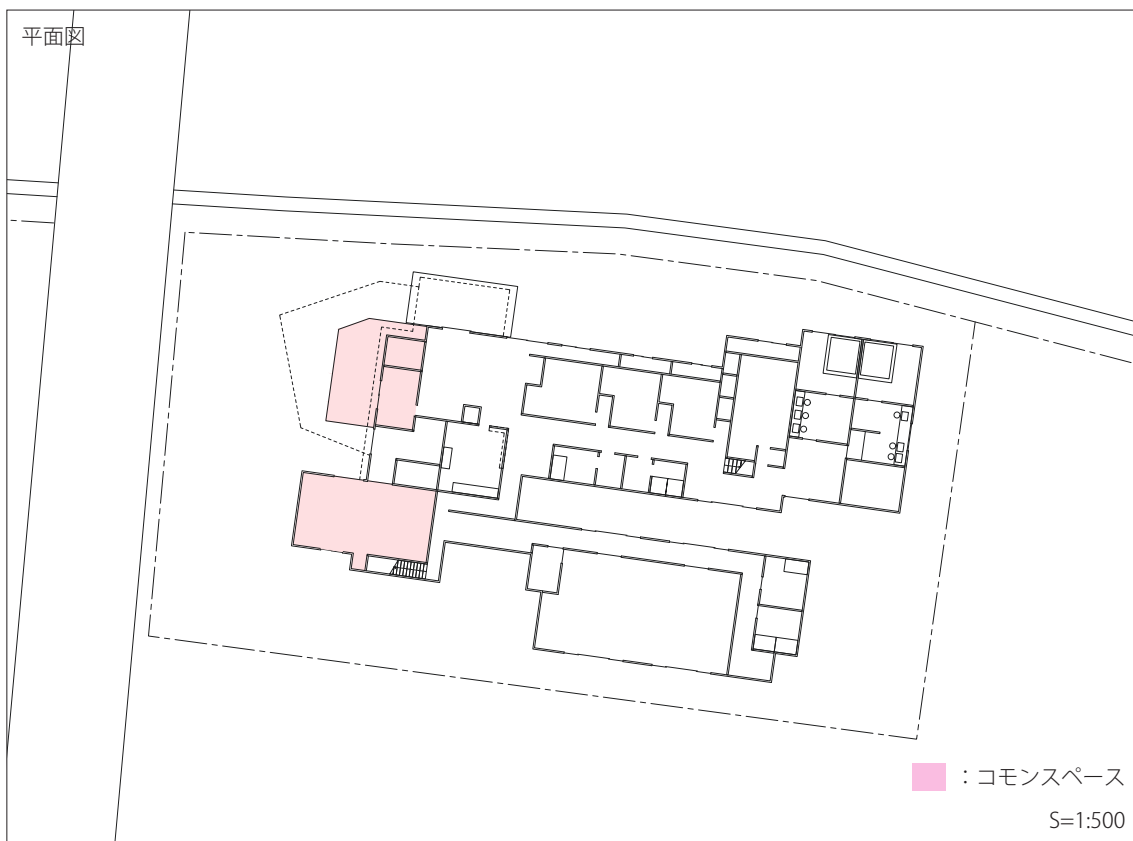
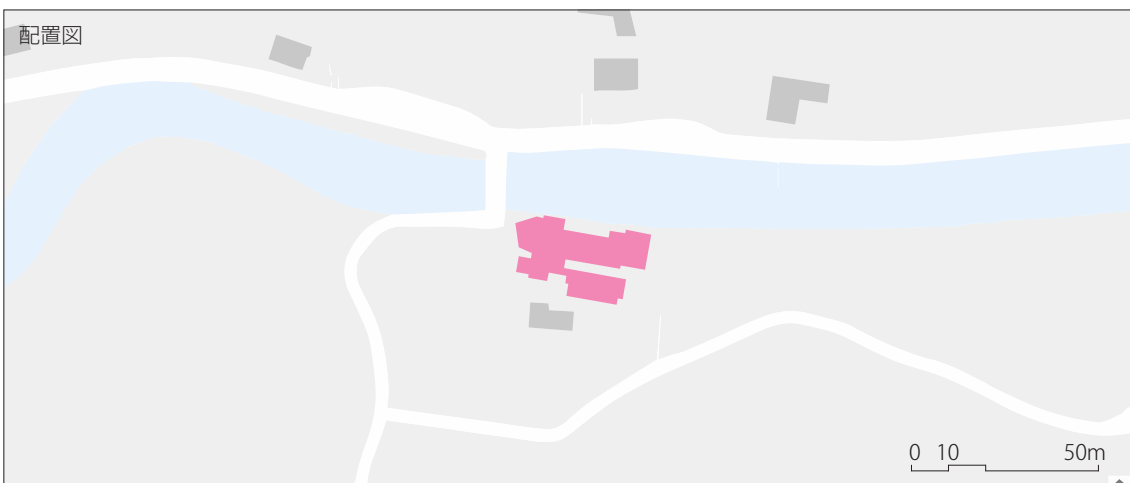
運営：エネルギー会社「村楽エナジー」

設計：安部良

建築 / 延床 / 敷地面積：420.49/440.49/1159.335

建蔽率：52

プログラム：温泉カフェゲストハウス旅館



写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：安部良 / ARCHITECTS ATELIER RYO ABE (2015)『あわくら温泉元湯』, 新建築編集部, 『新建築 10 月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.104-111.



## G. あわくら温泉元湯

### アイソメ図

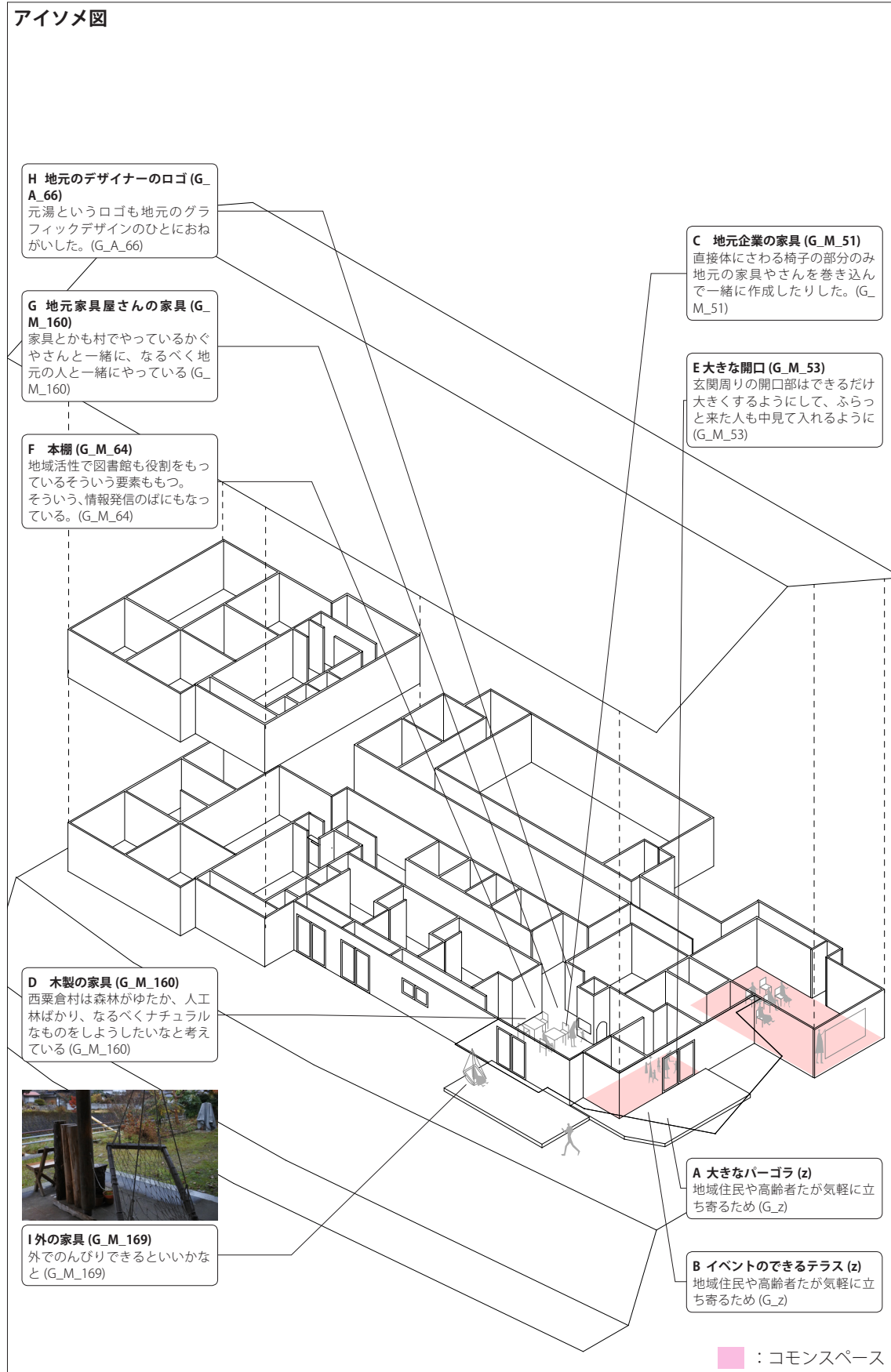


写真: 著者撮影 (2017.11) / 参考文献: 安部良 / ARCHITECTS ATELIER RYO ABE (2015) 『あわくら温泉元湯』, 新建築編集部, 『新建築 10月号』, 株式会社新建築社, 第一版, 大日本印刷株式会社, pp.104-111.

## H. 蔵舞台

### 57 酒蔵の文化施設への改修

地域：過疎地域

用途地域：商業地域

改修／新築：改修

住所：山梨県西八代郡市川三郷町市川大門 1170

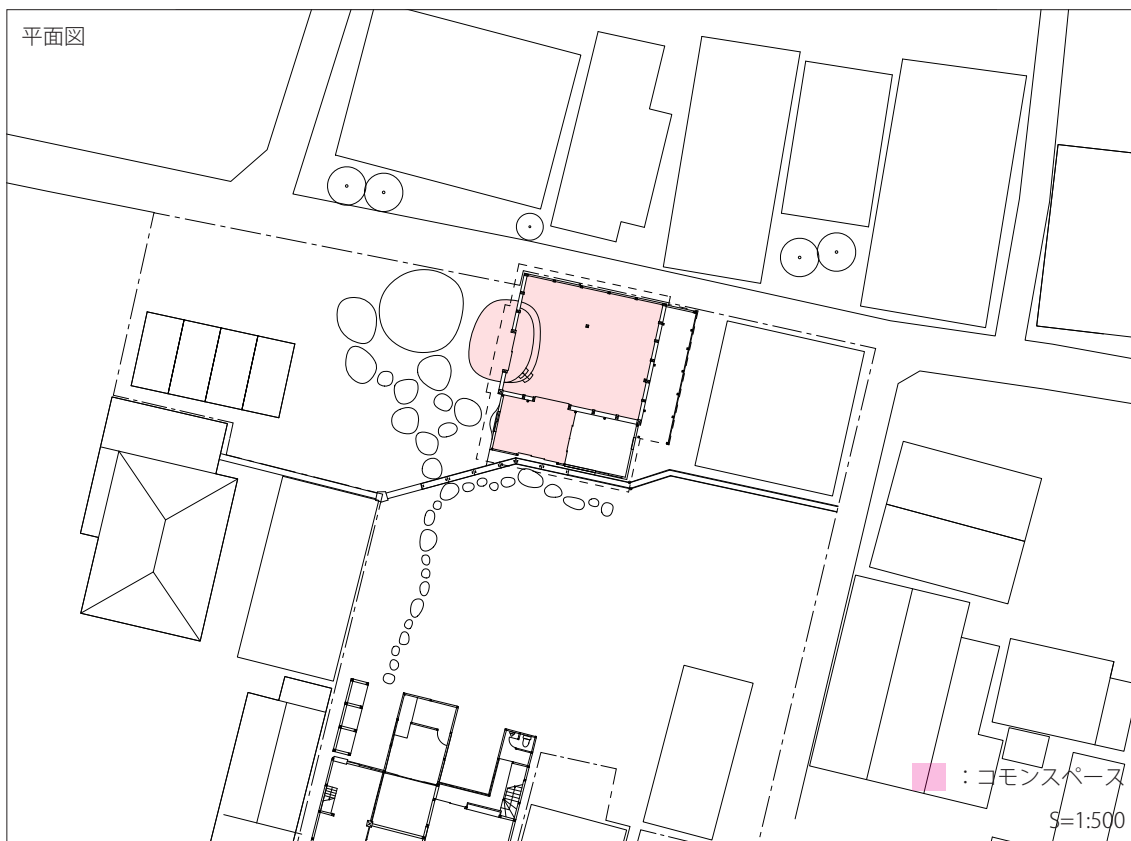
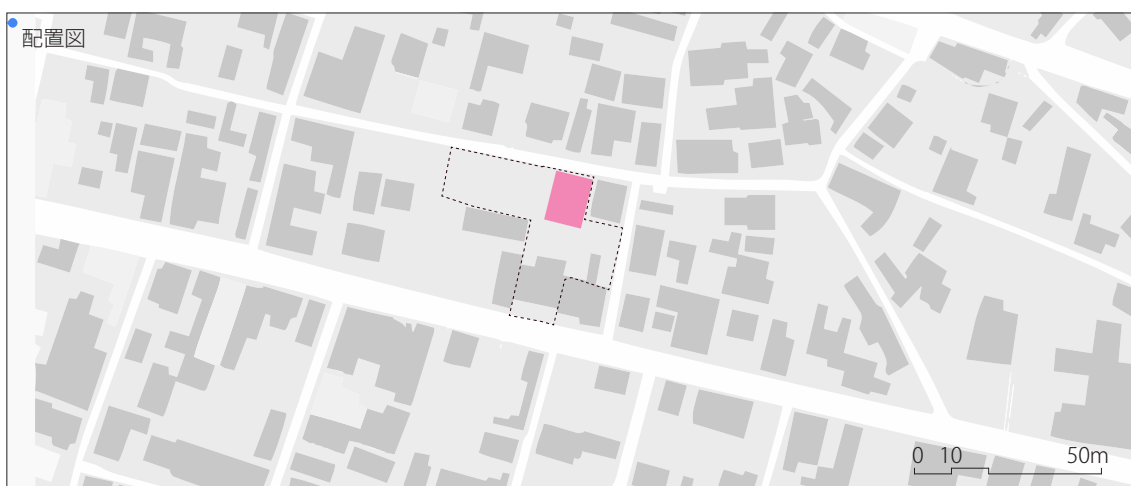
運営：市川マップの会

設計：慶應義塾大学ホルヘアルマザン研究室

建築／延床／敷地面積：145/145/639

建蔽率：21(80)

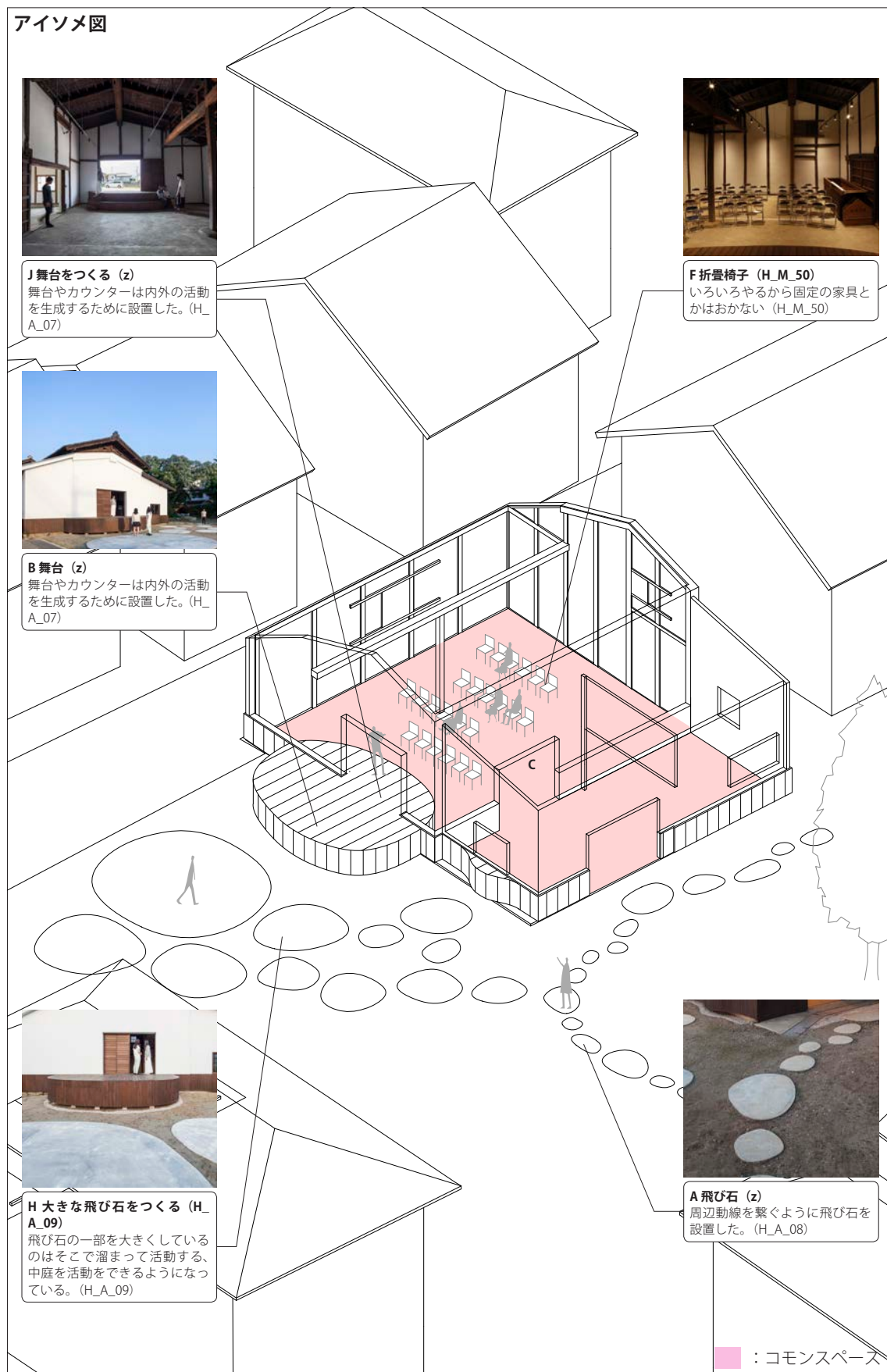
プログラム：文化施設



写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：慶應義塾大学ホルヘアルマザン研究室 (2016)『酒造の文化施設への改修』，トウキョウ建築コレクション 2016 実行委員会，『トウキョウ建築コレクション 2016 Official Book』，株式会社建築資料研究社，第一版，pp. 304-311.

## H. 蔵舞台

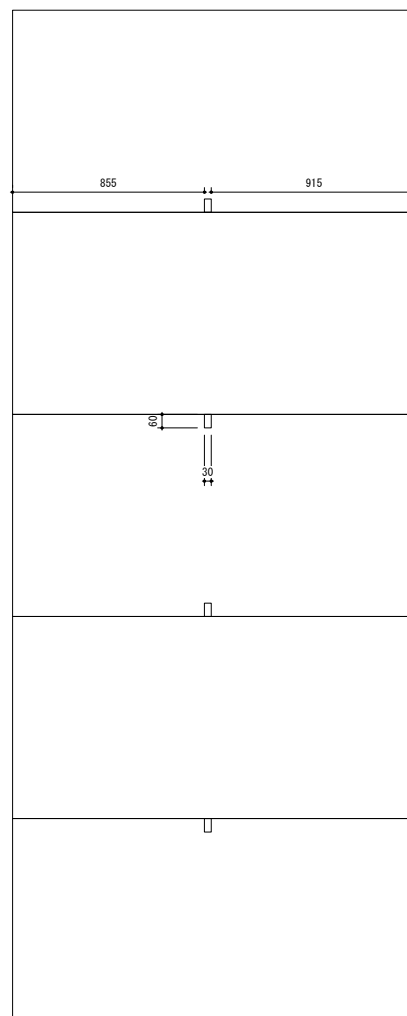
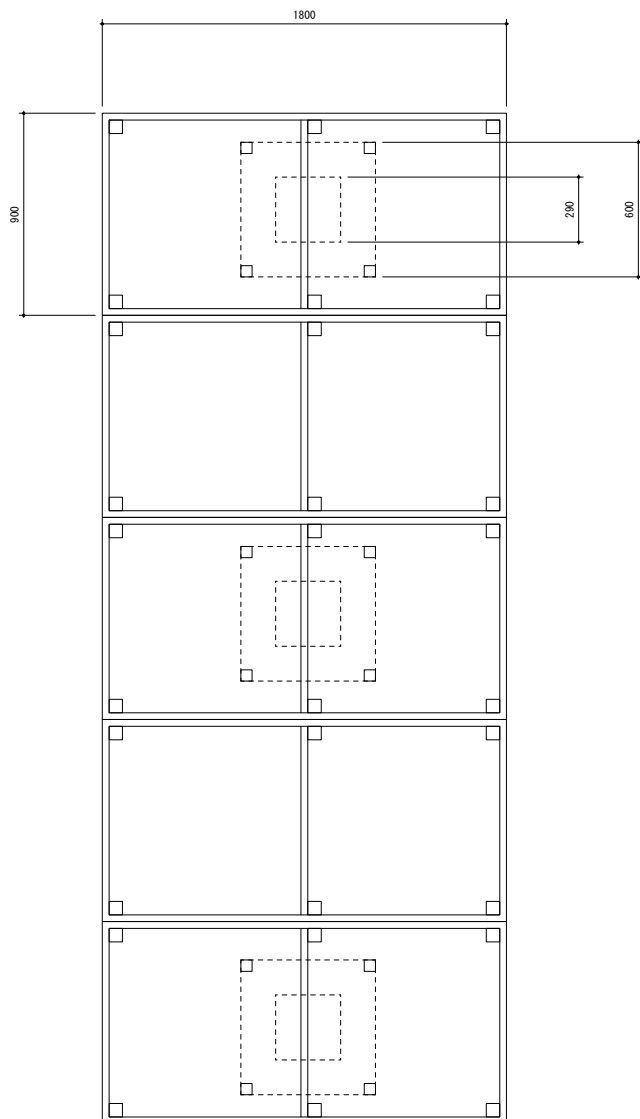
### アイソメ図



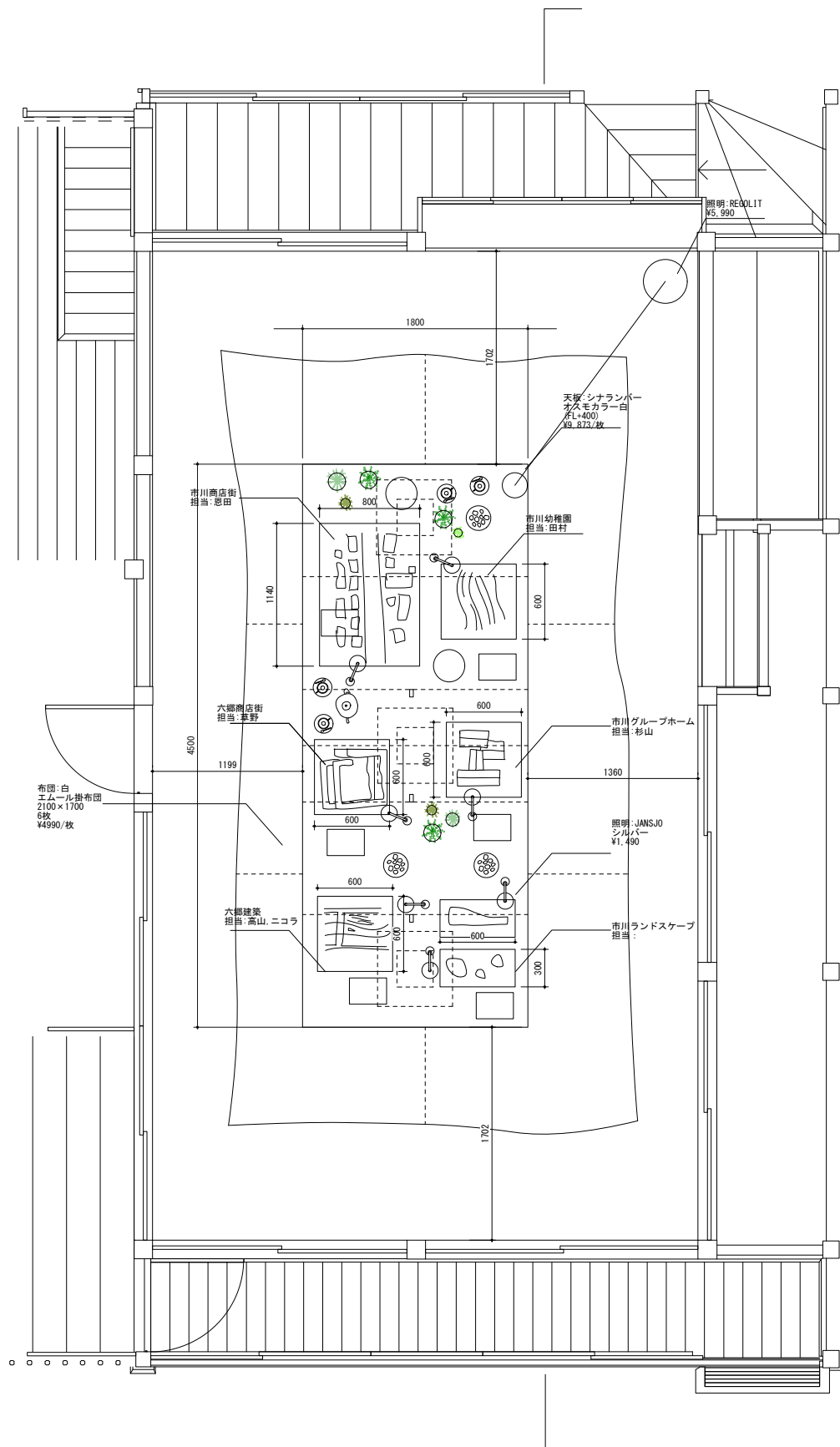
写真：著者撮影 (2017.11) / 参考文献：慶應義塾大学ホルヘアルマザン研究室 (2016)『酒造の文化施設への改修』, トウキョウ建築コレクション 2016 実行委員会, 『トウキョウ建築コレクション 2016 Official Book』, 株式会社建築資料研究社, 第一版, pp. 304-311.

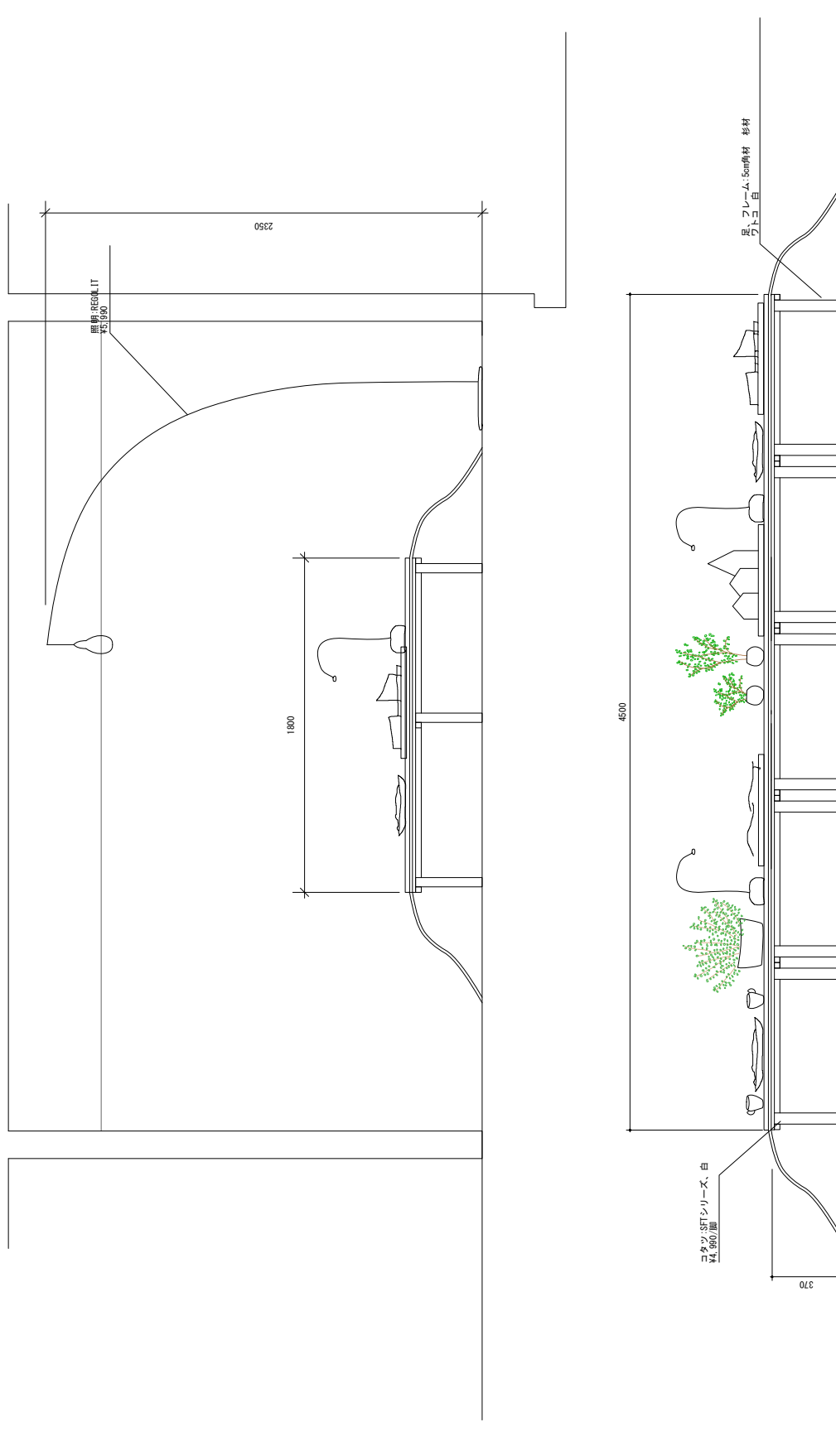
## 第 2 章 展覧会図面





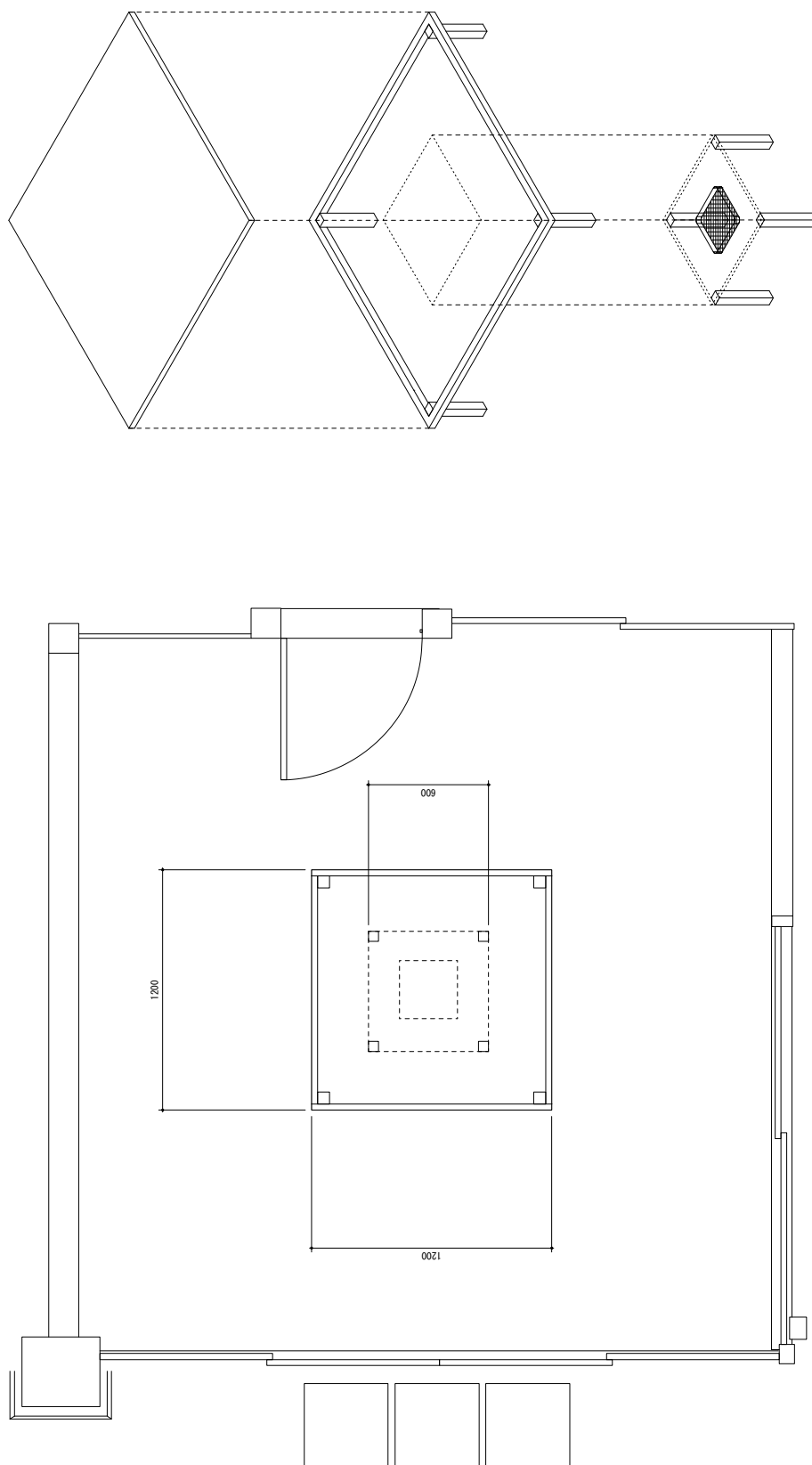
ホルヘ・アルマザン研究室	Re Store展 こたつ(大)	平面図(構造、天板)	Scale	1:30	Date	2013.10.18	02
--------------	------------------	------------	-------	------	------	------------	----





ホルヘ・アルマザン研究室	Re Share展 こたつ(大)	断面図	Scale 1:20	Date 2013. 10. 18	04
--------------	------------------	-----	------------	-------------------	----





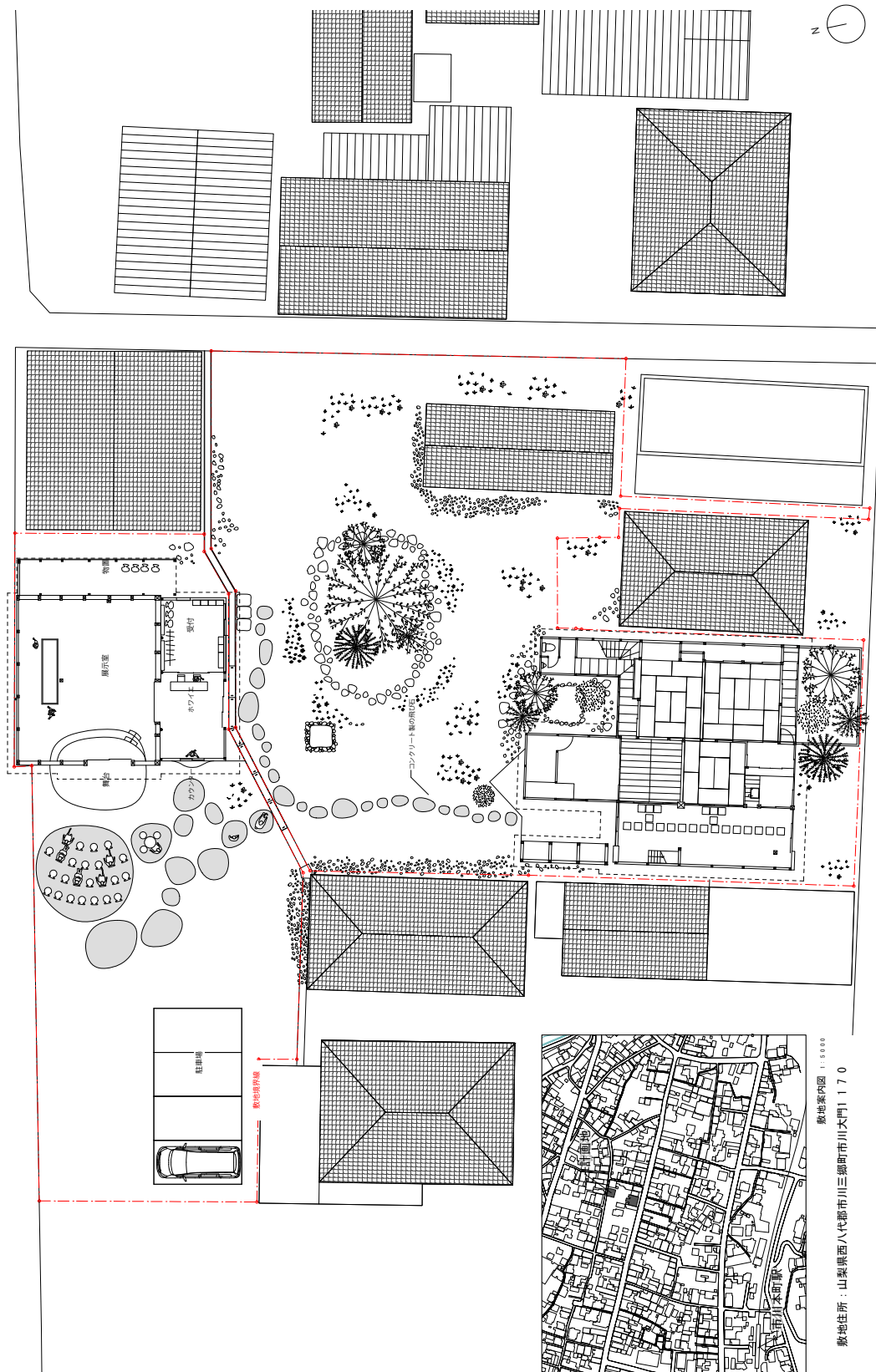
ホレハ・アルマザン研究室	Re Share展 こたつ(小)	アイソメ図 構想図	Scale	1:20	date	2013.10.18	05
--------------	------------------	-----------	-------	------	------	------------	----



## 第 2 章 葺改修図面

図面番号	図面内容	縮尺
00	図面リスト	—
01	仕上げ表	—
02	平面図	1/200
03	立面図	1/50
04	断面図	1/50
05	天井図	1/50
06	A-A'断面図	1/50
07	B-B'断面図	1/50
08	C-C'断面図	1/50
09	D-D'断面図	1/50
10	北側立面図	1/50
11	東側立面図	1/50
12	南側立面図	1/50
13	西側立面図	1/50
14	展示室展開図	1/50
15	下層展開図	1/50
16	保管室展開図	1/50
17	平面図	1/50
18	建具台 舞台	1/20, 1/10, 1/5
19	建具台 カウンター	1/20
20	腰板詳細断面図・立面図	1/5
21	飛び石平面図	1/110
22	飛び石断面図・詳細断面図	1/10, 1/5

■品名	仕様	数量	備考
■天井	ガリバリウム鋼板・小波板（ニスクカラー・PV36Sギングロ）		
■外壁・内壁	左官補修及びモルタル仕上 塗装仕上げ 水性ケンエース（FN-90）		
■腰羽目	化粧サワラ板（H=810mm、W=105mm） 塗装仕上げ		
■見切り	キシラデコール（ウォルナット）※耐久性の理由から、木肌美人→キシラデコールとする		
■床鳴	腰羽目：ガリバリウム鋼板（ニスクカラー・K002 Sブラックパール） 舞台：亜鉛版・塗装仕上（ブラックパール）  コンクリート（白色セメント使用）	15 4 2 1	照明用のレールを設置  品番：シェード REGOLIT / コードセット SEKOND / ランプ LEDARE 同上
■道具	既存建具は修繕して使用 西側の新規開口部2箇所到新設建具を設置		
■特記：照明器具表			
■展示室	スポットライト		
■受電	ペンダントライト		
■管理室	ペンダントライト		



Architect: Keio University Studioblab 慶應義塾大学Niヘルマルマル研究室

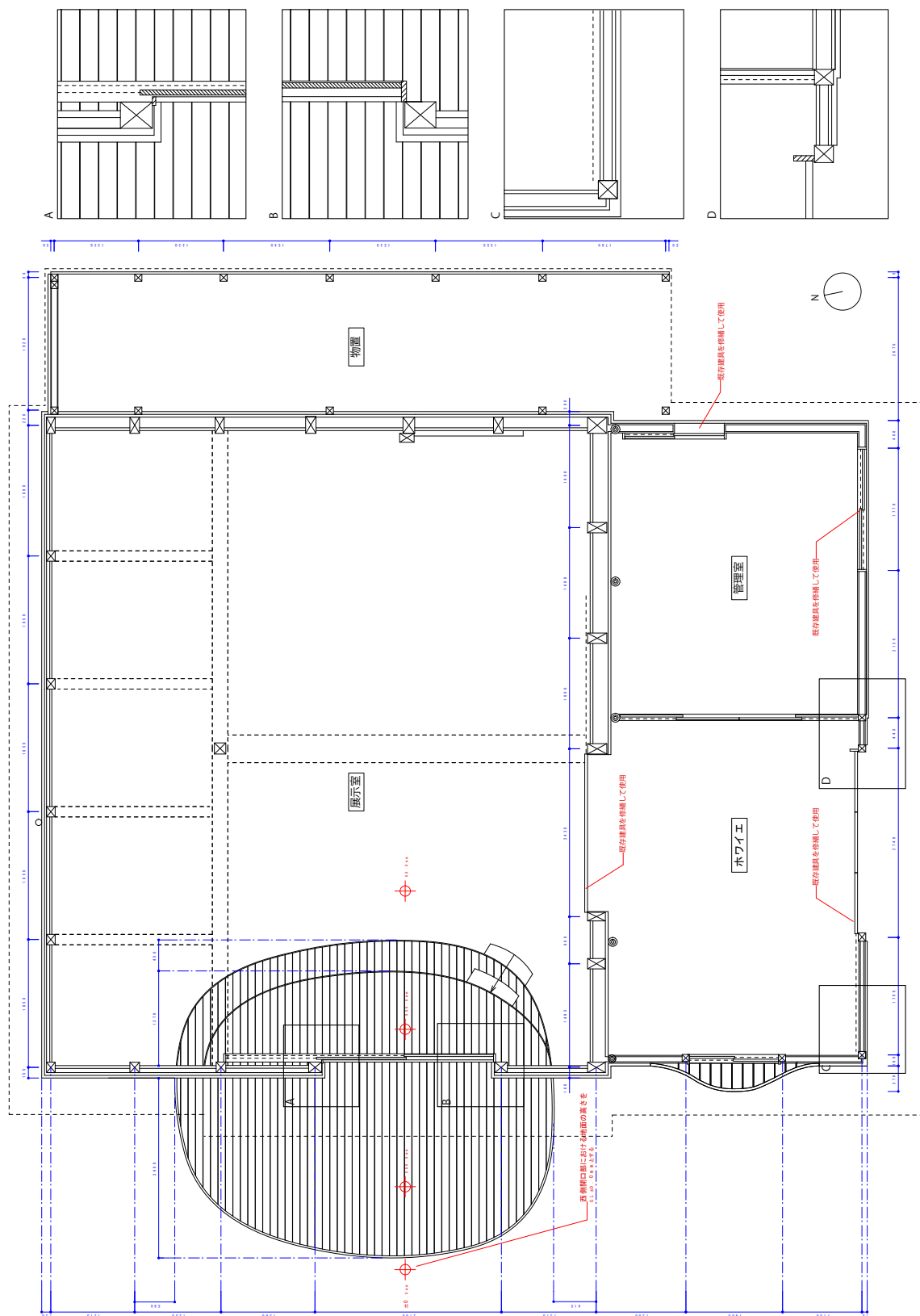
Revision: No. Description Date No. Description Date No. Description Date No. Description Date

Project: 旧二葉園プロジェクト 山梨県市川三郷町

Drawing Title: 敷地図

Document No. 02

Scale: 1/200 @ A3  
Date: 2016.3.1



Document No.

03

Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1

Drawing Title

平面図

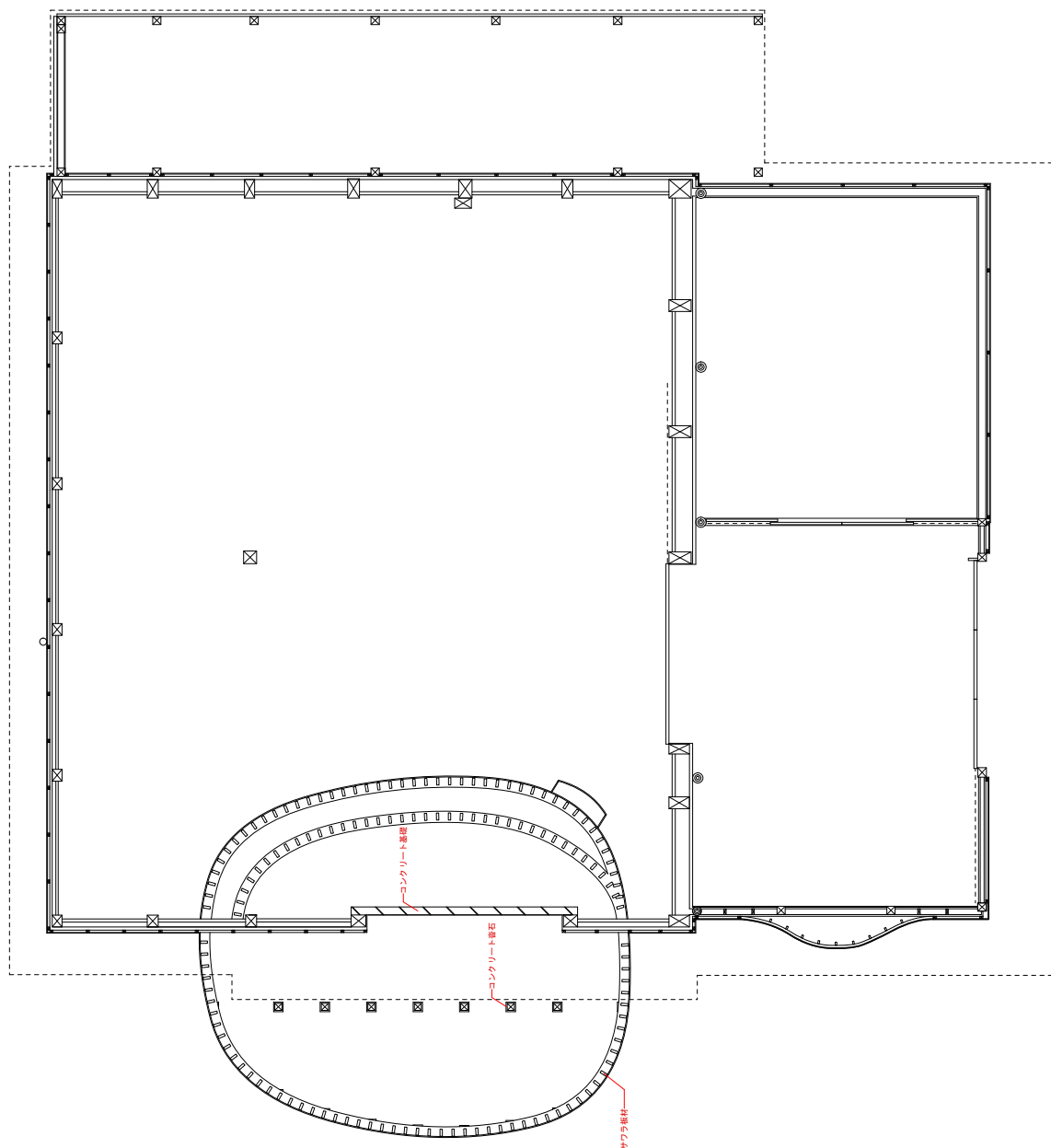
Project

旧二葉屋プロジェクト  
山梨県市川三郷町

Revision

Date	No.	Description

Keio University Studiopl  
慶應義塾大学リサーチセンター研究室



Architect

Keio University Studiopl  
慶應義塾大学ヘルペリアルマサン研究室

Revision

Date	No.	Description

Date	No.	Description

Project

旧二葉閣プロジェクト  
山梨県市川三郷町

Drawing Title

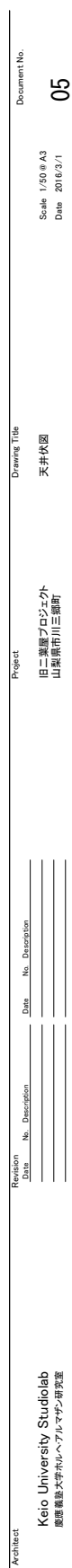
軸組図

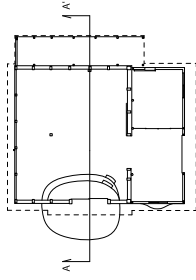
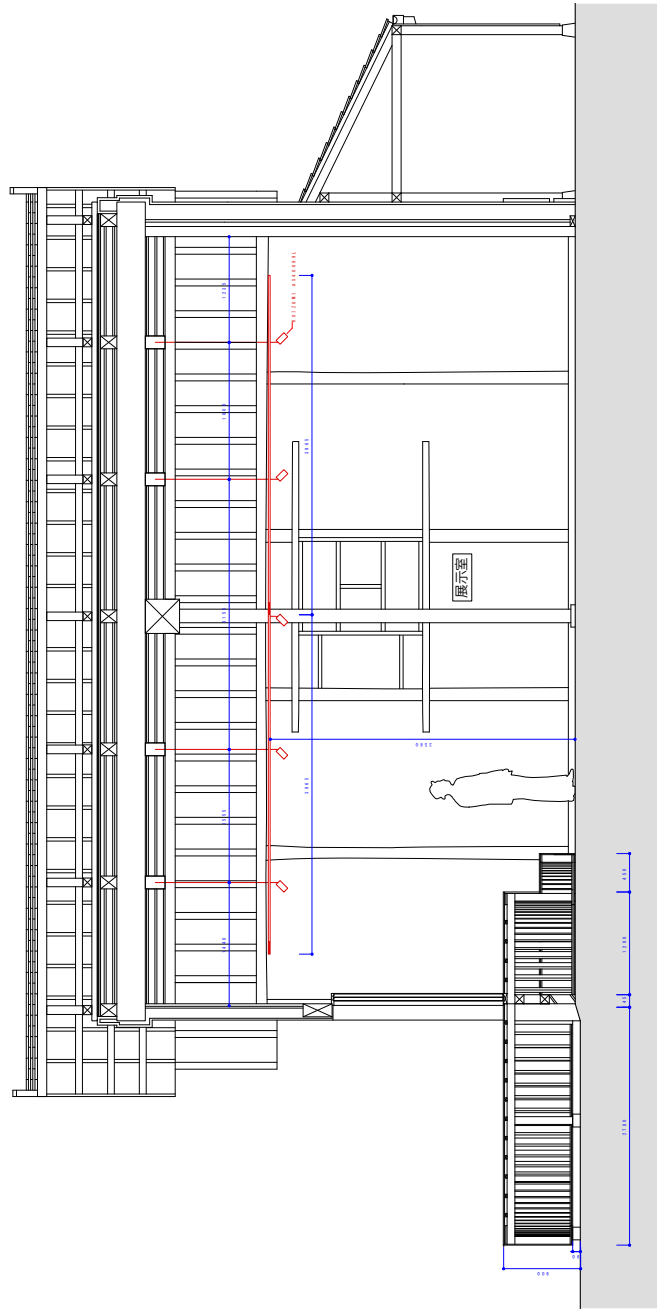
Document No.

Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1

04







Document No.

06

Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1

Drawing Title

A-A断面図

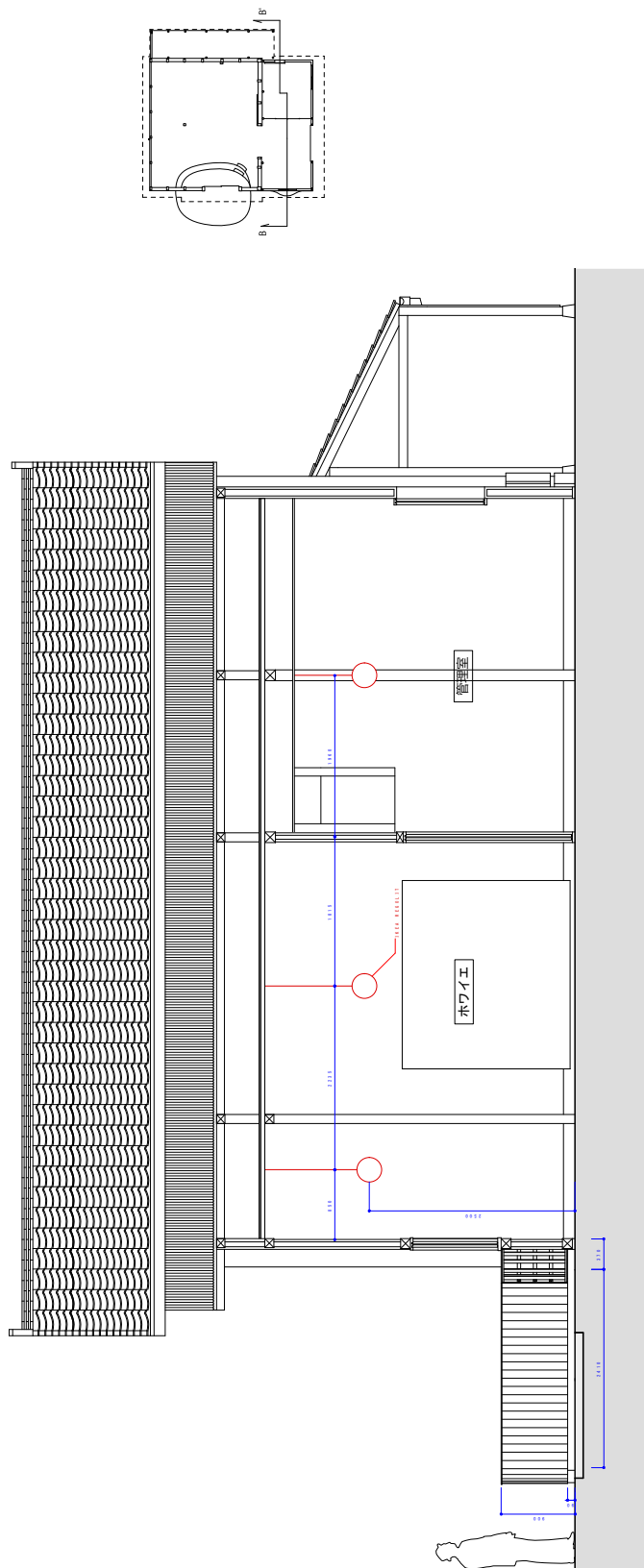
Project

旧二葉閣プロジェクト  
山梨県市川三郷町

Revision  
Date No. Description

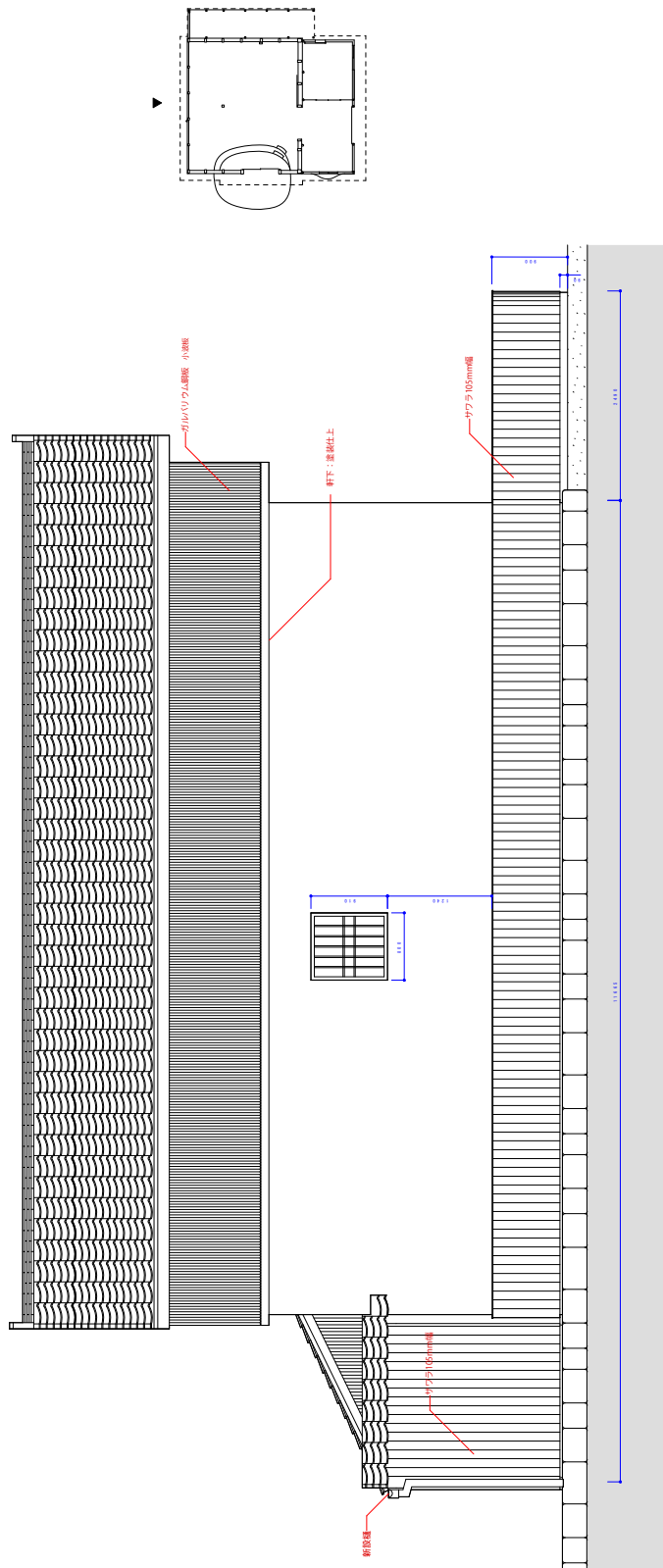

Architect

Keio University Studiolab  
慶應義塾大学リサーチセンター









Revision	No.	Description	Date	No.	Description

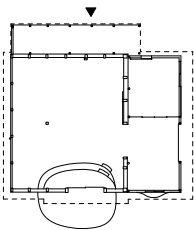
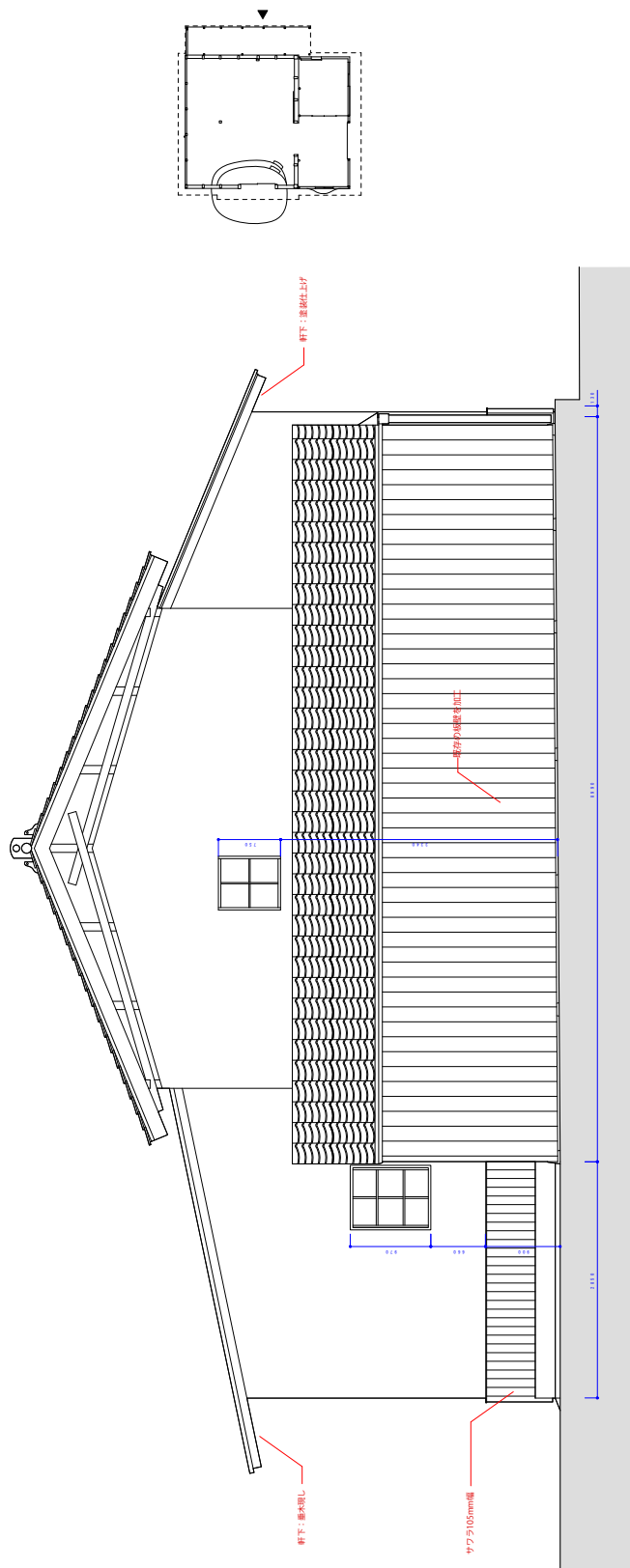
Project 旧二葉屋プロジェクト  
山梨県市川三郷町

Drawing Title 北側立面図

Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1

Document No.

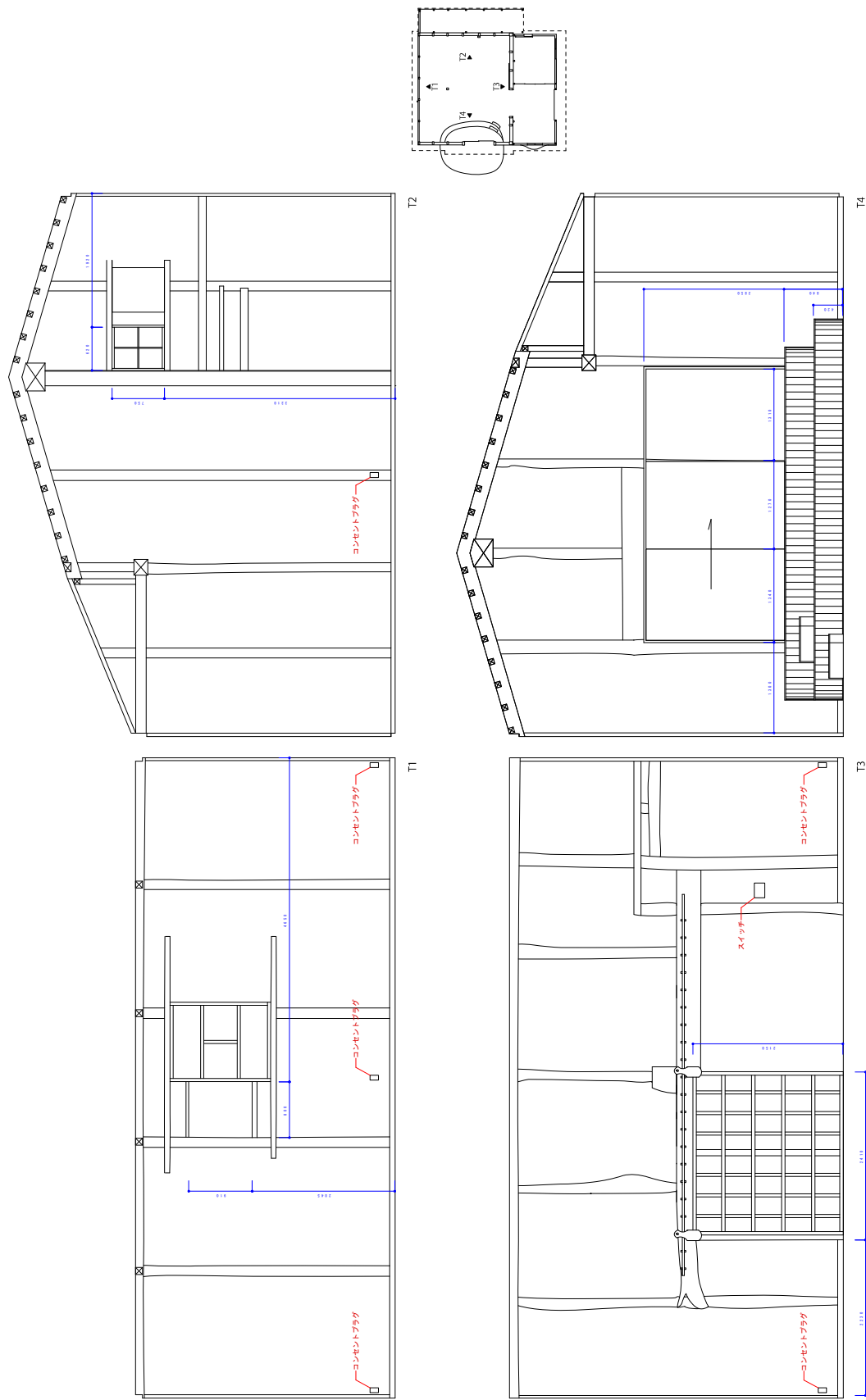
10

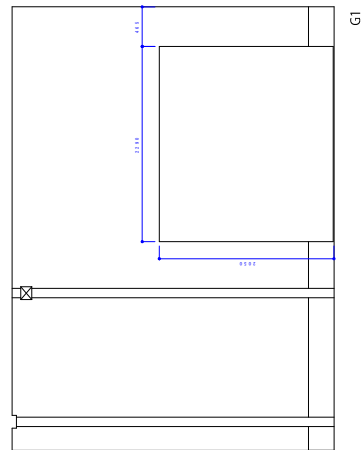




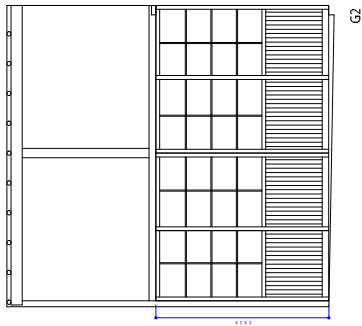




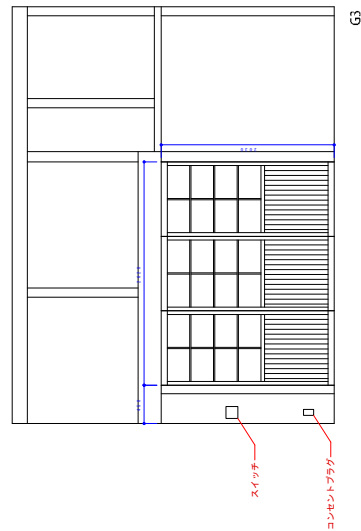
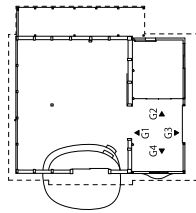




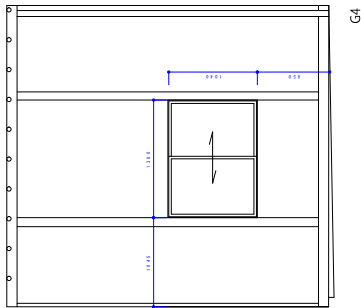
G1



G2



G3



G4

Architect

Keio University Studiob  
慶應義塾大学ヘルペアルマイン研究室

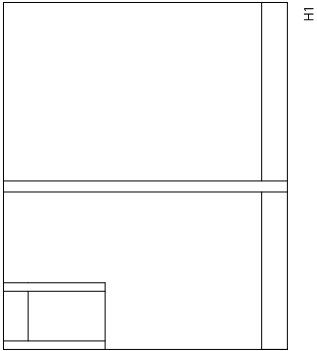
Revision	No.	Description	Date	No.	Description

Project  
旧二葉藤プロジェクト  
山梨県市川三郷町

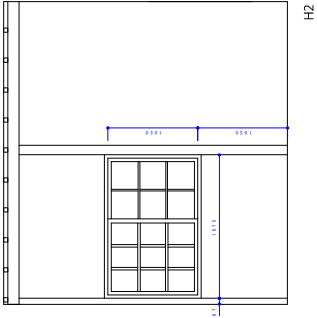
Drawing Title  
下層展開図

Document No.

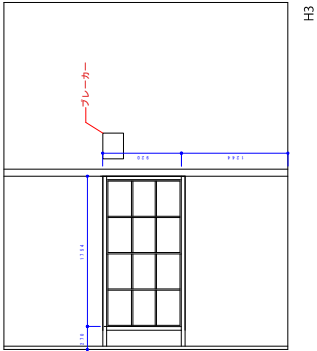
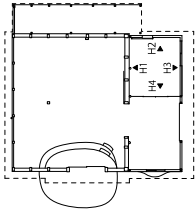
Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1



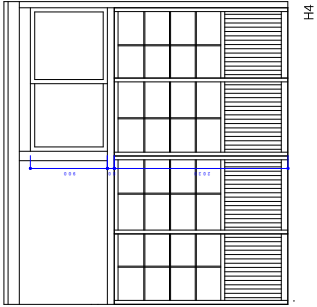
H1



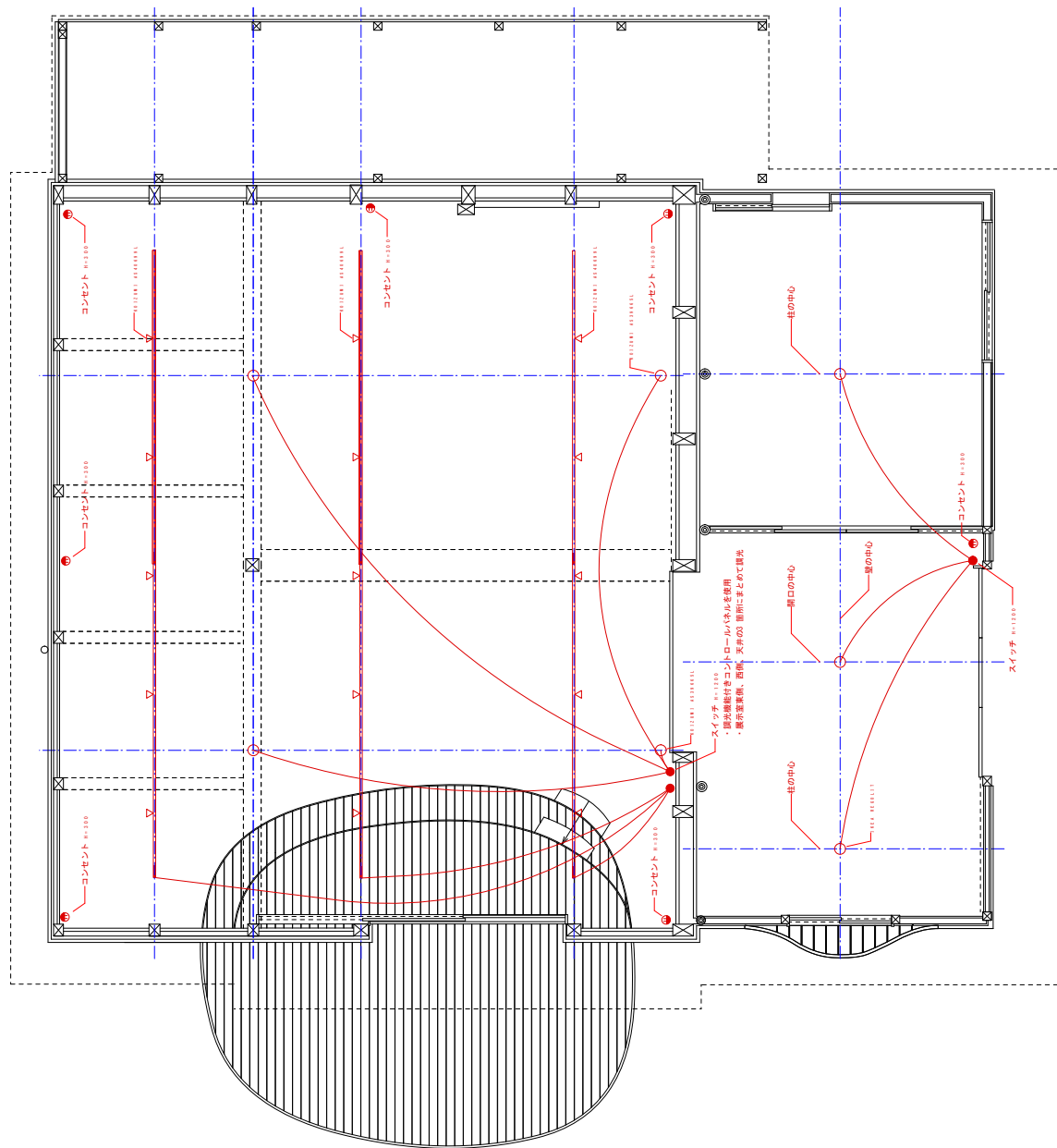
H2



H3



H4



Document No.

Scale 1/50 @ A3  
Date 2016/3/1

17

Drawing Title

配線図

Project

旧二葉館プロジェクト  
山梨県市川三郷町

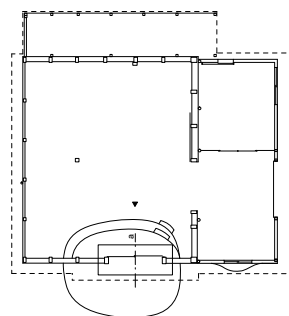
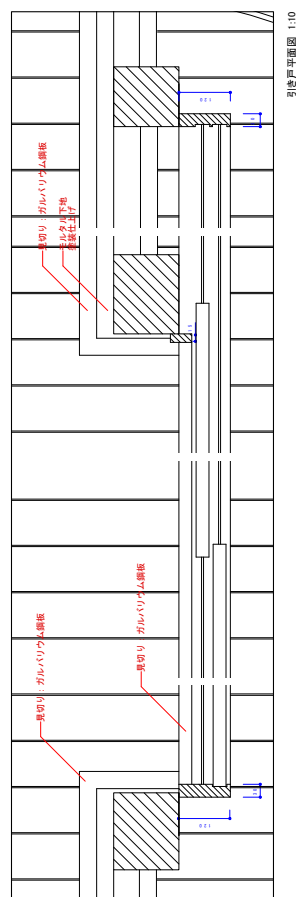
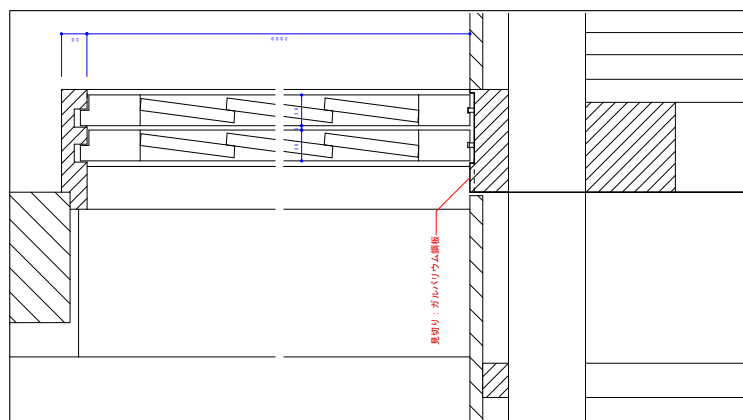
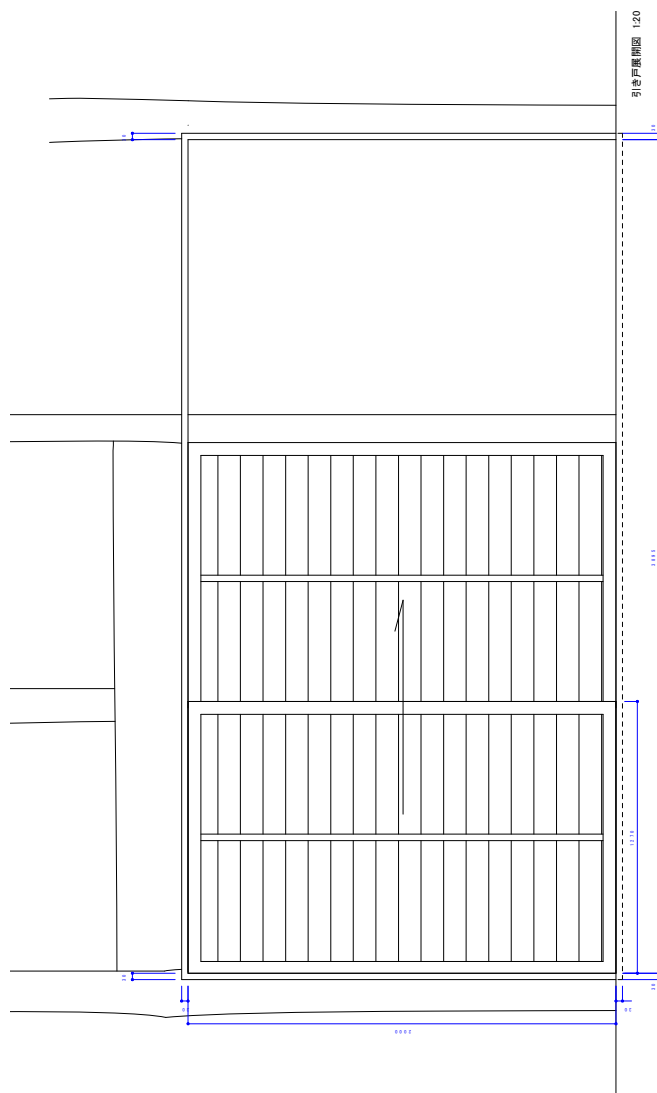
Revision

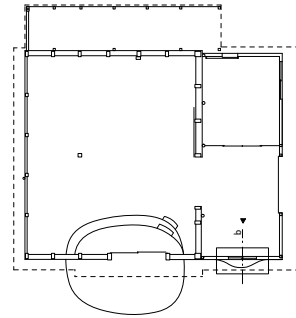
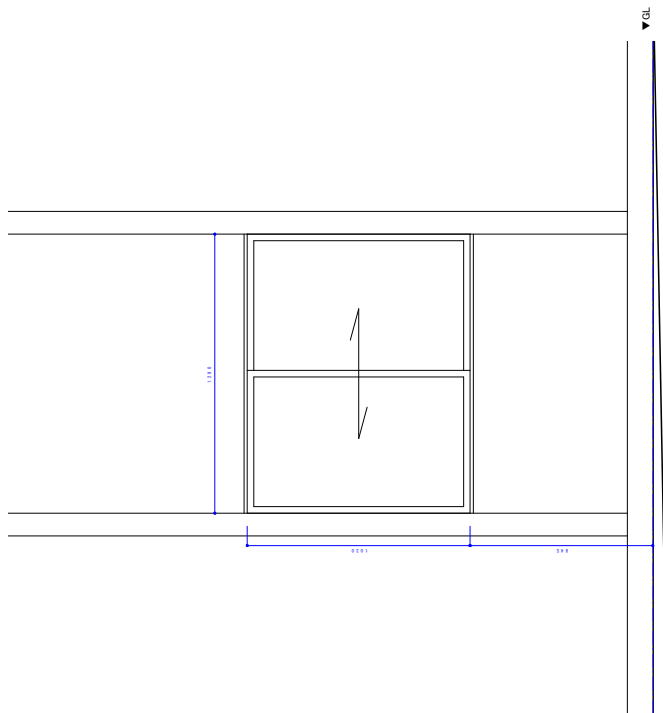
Date No. Description

Date	No.	Description

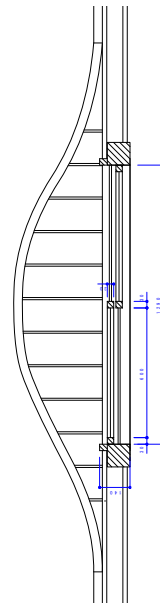
Architect

Keio University Studiopl  
慶應義塾大学ホテル・ヘルスマネジメント研究

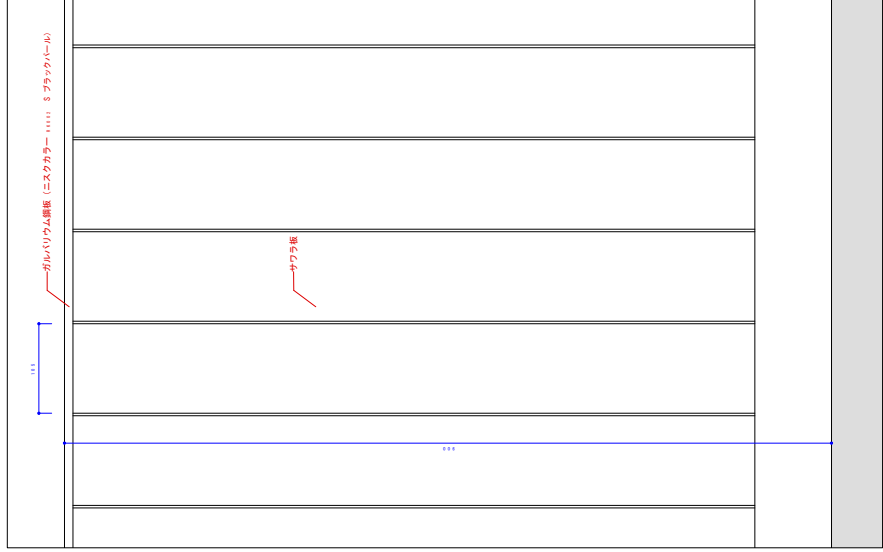
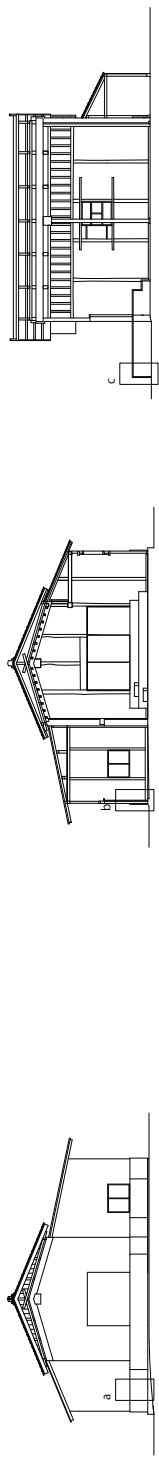




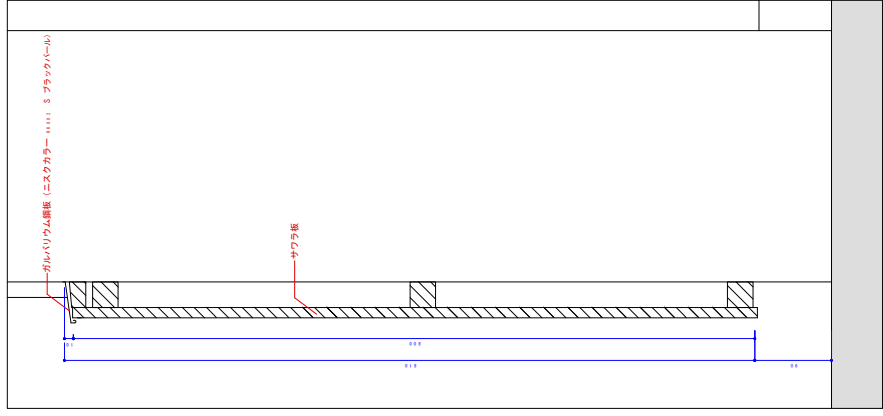
カウンター幅平面図 1:20



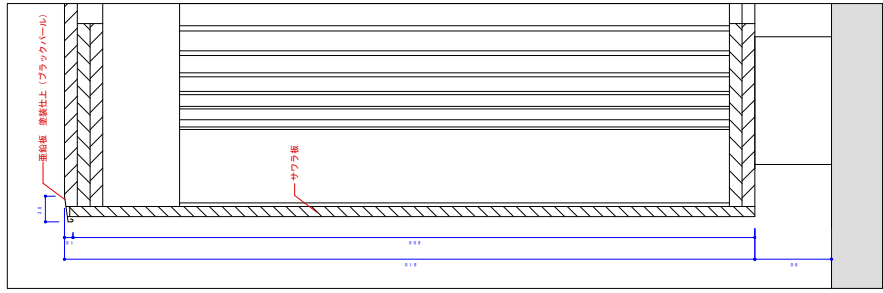
カウンター幅平面図 1:20



A 腰板立面図



B 腰板詳細断面図



C 舞台詳細断面図



